

男女平等に関する市民意識調査 結果報告書（案）

令和7年（2025年）3月

日 進 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査について	1
2	結果の概要	3
3	回答者の属性	7
◆	F1 性別	7
◆	F2 年齢	7
◆	F3 職業形態	7
◆	F3 雇用形態	7
◆	F4 配偶者（パートナー）の有無	8
◆	F5 あなたの1週間の就労時間	8
◆	F5 配偶者（パートナー）の1週間の就労時間	8
◆	F6 家族構成	8
II	調査結果（市民調査）	9
1	結婚、家庭・地域生活に関する意識について	9
【問1】	家庭における役割分担	9
【問2】	結婚、夫婦などに関する考え方について	17
【問3】	生活の優先度について	22
【問4】	男性の家事、子育て等への参加を進めるために重要なこと	24
【問5】	家事・育児・介護にかかわる時間	25
【問6】	地域における男女共同参画の視点からの防災体制の整備	27
2	社会参加・参画について	28
【問7】	女性が就業することについて	28
【問8】	就業する理由	30
【問9】	職場での男女平等について	31
【問10】	働くことができなかった経験の有無	38
【問11】	働けない理由	40
【問12】	育児・介護関連休暇制度の利用状況	42
【問13】	休暇制度を利用しなかった理由	46
3	子どもの教育について	47
【問14】	女の子と男の子の育て方について	47
【問15】	子どもに身につけてほしいと思うこと	49
【問16】	学校教育の場で力を入れるべきこと	52
4	男女平等・人権意識について	53

【問 17】	さまざまな場における男女の地位	53
【問 18】	セクハラやパワハラを受けた経験	62
【問 19】	ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害状況	64
【問 20】	ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談実態	76
【問 21】	誰にも相談しなかった理由	77
【問 22】	ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害に関する相談窓口の認知	78
【問 23】	女性が抱える困難な問題について相談できる窓口の認知	79
【問 24】	貧困やDV等に直面する人が自立するために必要な支援	80
【問 25】	性的マイノリティの人たちにとって生活しやすい社会	81
【問 26】	性的マイノリティの人たちが生活しやすい社会にするために市が取り組むべきこと ..	82
5	男女共同参画等に関する用語について	83
【問 27】	男女共同参画に関する言葉の認知度	83
【問 28】	「性」に関する言葉について	97
6	行政の取り組みについて	98
【問 29】	女性の意見の市政反映について	98
【問 30】	意見が反映されていないと思う理由	100
【問 31】	男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこと	102
Ⅲ	調査結果（こども調査）	103
1	調査結果	103
【問 1】	男子と女子の係の役割について	103
【問 2 - 1】	学校や家での男女の役割について	103
【問 2 - 2】	言われた人について	104
【問 3】	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について	105
【問 4】	男女共同参画に関する言葉の認知度	106
2	回答者の属性	110
◆	性別	110

（資料）アンケート調査票

I 調査の概要

I 調査について

(1) 調査目的

本調査は、男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、第3次日進市男女平等推進プラン中間見直しの基礎資料とする目的で実施しました。

(2) 調査対象及び調査方法

	市民調査	こども調査
調査対象者	市内在住の満18歳以上の男女（令和6（2024）年4月現在） ※無作為抽出	市内の公立学校に通う小学5年生～中学3年生の男女
調査票配布数	男女各1,500人	1,542人
調査期間	令和6年10月24日～令和6年12月18日	令和6年7月1日～令和6年8月22日
調査方法	郵送配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式	WEB回答方式

(3) 回収結果

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
市民調査	3,000	1,332	1,330	44.3%
こども調査	1,542	856	856	55.5%

参考：前回市民調査（令和元年度）有効回収率 43.9%

(4) 報告書の見方

- 本報告書は、設問ごとに「全体（単純集計）及び性別、年齢別」の集計結果を記載しています。また、設問によっては「夫婦の働き方別」とのクロス集計や、令和6（2024）年度に内閣府が実施した調査（全国調査）、令和元年（2019）年度に日進市が実施した調査（前回調査）との比較を行っています。
- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基準とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- 本報告書中の表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- ・ 年齢区分を示す際は、「18～29歳」を18～29歳と表記し、「30～39歳」を30歳代、「40～49歳」を40歳代、「50～59歳」を50歳代、「60～69歳」を60歳代、「70歳以上」を70歳以上としています。
- ・ クロス集計表において、回答がなかった部分は、件数・割合ともに「－」と表記しています。
- ・ クロス集計上、人数が極めて少ないカテゴリー層については、誤差が大きくなると考えられるため、分析から除外している場合があります。
- ・ 比較分析において利用した調査名は次のとおりです。
日進市「男女平等に関する市民意識調査」令和元（2019）年度実施
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」令和6（2024）年度実施

2 結果の概要

1. 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

家庭内における仕事の役割については、「重要事項の方針決定」以外のすべての項目で『主に女性』（「いつも女性が担当」＋「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」）の占める割合が高くなっており、日常生活における家事や育児、介護は女性が中心で、重要事項の決定は男性が中心という、固定的な性別役割分担意識が顕著に現れています。

前回調査と比較すると、すべての項目で「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が増加している一方、『主に女性』が増加している項目はなく、男性の家事への参加が増えてきていることがうかがえるものの、夫婦の働き方で見ると、共働きであっても家事・育児の負担は女性に偏っていることがうかがえます。

結婚・夫婦などの考え方については、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的性別役割分担意識については、『肯定的』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）な割合が 32.7%で、前回調査に比べ 6.5 ポイント減少し、全国調査（33.1%）と同程度の割合となっています。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」「結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」という考え方については、『肯定的』な割合が高くなっています。

また、「夫婦別姓が選択できる方がよい」については、『肯定的』な割合が 55.0%となっており、前回調査に比べて、11.1 ポイント増加しています。性別で見ると、『肯定的』な割合は、女性の方が高くなっているほか、若者ほど男女間の差が大きい傾向がうかがえます。

生活の希望と現実の優先度を比較してみると、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が 17.9%となっているのに対し、現実にはできている人は 5.0%となっており、希望と現実の間に大きなギャップがみられます。また、「「仕事」を優先したい」が 6.7%となっているのに対し、現実では「「仕事」を優先している」が 28.3%となっており、現実には希望と違って仕事を優先している状況もうかがえます。

性別で見ると、男女とも「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」となっています。女性では希望と現実には大きな差は見られないものの、男性では「「仕事」を優先したい」という希望が 10.7%なのに対し、現実では、「「仕事」を優先している」が 40.5%となっています。

男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるために重要と思うことは、全体としては「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」が最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が全体の上位 3 項目となっており、順位に違いはあるものの、性別で見てもこの傾向に大きな差はみられません。また、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」などは、女性が男性を 10 ポイント以上上回っています。

平日に家事・育児・介護にかかわる時間については、性別で見ると、女性で「1 時間以上」が 8 割を超え、男性で「1 時間未満」が 5 割を超えるなど、平日の家事・育児・介護の負担が女性に偏っている現状がうかがえます。

地域における男女共同参画の視点からの防災体制の整備については、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が最も高くなっています。

2. 社会参加・参画について

女性が就業することについては、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」という『職業継続型』が特に男性の増加幅が大きく、50.5%と最も高くなり、今回の調査で初めて50%を超えました。次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」という『中断再就職型』が31.6%となっています。

前回調査と比較すると、『職業継続型』の割合が7.1ポイント増加しています。就業する理由は、男女とも「生計の維持のため」が最も高く、特に男性では理由の約8割を占めており、男性は家庭の大黒柱として家族を経済的に養わなければならないという役割意識があるのではないかと考えられます。

職場における男女平等については、前回調査と比較すると、「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」以外のすべての項目で「はい」と答えた人が減少しており、職場における男女差は以前に比べて少なくなっていることがうかがえます。

働き続けたいけれど、働くことができなかった経験がある人の割合は、女性が30.9%、男性が11.6%となっており、性別で大きな差がみられ、特に30歳代で男女差が最も大きくなっています。また、働けない理由としては、男性は「健康上の問題」「リストラ・定年」が上位2項目となっているのに対し、女性は働けない理由が分散しており、働き続けるためのハードルが多いことがうかがえます。

育児・介護関連休暇制度の利用状況については、前回調査に比べ「育児休業制度」の取得率が12.1%とやや増加したものの、全体的に特に大きな変化はみられませんでした。

育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取得できなかった理由は、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が最も高く、次いで「職場で取得しにくい雰囲気がある」「これまでに同じ職場で取得した例がない」の順となっています。性別でみると、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」「経済的に苦しくなる」などでは男性が高く、「取得後の職場復帰への不安がある」では女性が高くなっています。

3. 子どもの教育について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方については、全体では「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が45.9%と最も高くなっており、前回調査の38.1%から増加しています。

これを性別でみると、男女とも「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が最も高くなっているものの、男性では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」と答えた人が28.6%と、女性の9.4%を大きく上回っており、男性の方がより子育てで「女らしさ」「男らしさ」にとられる傾向が強いことがうかがえます。

「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した方に限定しても、女の子の場合は「優しさ・思いやり」「明るい・素直さ」、男の子の場合は「決断力・行動力」「社会性・積極性」「経済力」を求める傾向があります。このように、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した人でも、男の子、女の子に求めるものに差がみられることから、性別による無意識な思い込み（アンコンシャス・バイアス）が影響を及ぼしている可能性があります。

学校教育の場で力を入れるべきことについては、男女とも「関連授業を充実させる」「生活指導や進路指導で配慮する」「性別による固定的な習慣をなくす」が上位3項目としてあげられています。

4. 男女平等・人権意識について

社会や家庭生活などにおける男女の平等感については、『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は、「社会全体として」（75.8%）が最も高く、次いで「政治の場」（75.1%）、「社会通念やしきたり」（72.9%）、「職場」（54.7%）となっています。

性別でみると、すべての分野で女性は男性に比べて平等感が低く、この傾向は前回調査と変わっていません。年代別でみると、多くの場面で年代が上がるにつれ『男性優遇』と感じる割合が高い傾向にあり、反対に若年層ほど平等感が高くなっている傾向にあります。

前回調査と比べると、「社会全体として」「家庭生活」「学校教育の場」「職場」などでは『男性優遇』意識は減少していますが、それ以外の分野では増加しています。また、全国調査と比べると、「職場」「政治の場」を除く分野で「平等」であるとの認識は低い状況にあり、固定的な役割分担意識やそれに基づく社会慣行は根強く残っているのが現状です。

セクハラやパワハラの経験は、自分だけでなく知り合いを含めると、自分や周りの人の『セクハラの経験』（全体から「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」と「わからない」と「無回答」と答えた人の合計を除いた割合）は女性で 38.2%、男性で 25.2%、自分や周りの人の『パワハラの経験』（全体から「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」と「わからない」と「無回答」と答えた人の合計を除いた割合）は女性で 50.6%、男性で 51.0%となっています。

DV の被害状況については、「命令するような口調でものを言われたりバカにされる」「大声で怒鳴られる」などの精神的な暴力が多くなっており、DVの被害にあった際の相談については、『誰かに相談した』（「全体から「誰にも相談しなかった」と「無回答」と答えた人の合計を除いた割合」）が 47.7%、「誰にも相談しなかった」が 44.4%となっています。また、被害にあっても相談しなかった理由は、「相談するほどのことでもないと思った」が 61.6%と最も高くなっており、自分が受けている行為（暴力）が DV であることを認識していない人が存在する可能性があります。また、DV の相談窓口の認知度は、「警察」が 76.6%と最も高く、次いで「市役所」（39.4%）、「愛知県女性相談支援センター」（23.2%）の順となっており、これらも含めすべての項目で前回調査の認知度を下回りました。

困難な問題を抱える女性に対して市で取り組む必要があるものについては、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」「専門的に支援できる女性（男性）相談員の配置」が上位3項目となっており、相談窓口の充実や一時保護施設の整備を図るなど、支援が必要な市民が安心して生活できるような環境を整備することが求められています。

性的マイノリティ（性的少数者）の人たちにとって生活しづらい社会だと思うかについては、『生活しづらい社会だと思う』（「思う」＋「どちらかといえば思う」）と答えた人は 72.5%となっています。一方で、『生活しづらい社会だと思わない』（「思わない」と「どちらかといえば思わない」）と答えた人は 25.6%となっています。

性的マイノリティ（性的少数者）の人たちが暮らしやすい社会にするために、市で取り組む必要があるものについては、「学校や保育園・幼稚園での教育を充実する」が 45.9%と最も高く、次いで「相談体制を充実する」（43.7%）、「市民に対する啓発を進める」（39.4%）の順となっています。

5. 男女共同参画等に関する用語について

男女共同参画等に関する用語では、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」(81.8%)、「男女雇用機会均等法」(66.8%)、「ジェンダー(社会的性別)」(66.2%)などで「意味・内容を知っている」の割合が高くなっています。一方で、「意味・内容は知っている」の割合が1割以下のものが「日進市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」(2.9%)、「SOGI(ソジ)」(3.2%)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」(4.9%)、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」(8.3%)の、13項目中4項目となっています。

前回調査と比較すると、すべての言葉について「意味・内容を知っている」人の割合は増加しており、男女共同参画に関する言葉への理解が徐々に進んでいると考えられます。特に「ジェンダー(社会的性別)」「LGBT」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の割合は、大幅に増加していることから、関心の高さがうかがえます。

また、性に関する言葉では、「産後うつ」が前回調査の62.7%から11.5ポイント増加して74.2%となっています。

6. 行政の取り組みについて

女性の意見の市政への反映については、女性では『反映されている』(「十分に反映されている」+「ある程度反映されている」)と答えた人は29.3%となっているのに対し、男性では43.8%と、男女間で大きく意識が違っている傾向がみられます。

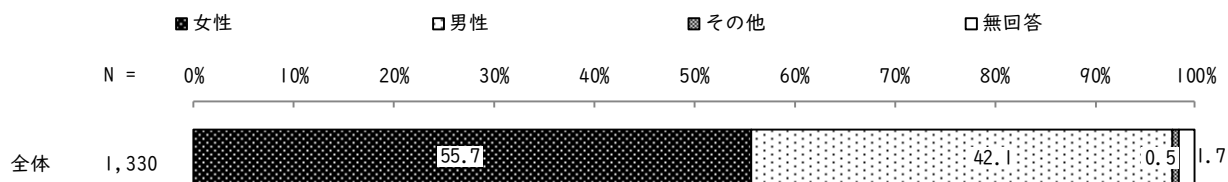
前回調査と比較すると、男性では『反映されていない』(「反映されていない」+「あまり反映されていない」)と答えた人の割合が3.6ポイント減少した一方で、女性では7.8ポイント増加しています。また、その理由としては、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が上位2項目としてあげられています。

男女平等な社会を推進していくために、今後、行政に望むことは、「子育て、介護に関するサービスを充実する」が最も高く、次いで「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」の順となっています。特に女性では「子育て、介護に関するサービスを充実する」に対するニーズが高いことから、男女がともに子育てや介護について関わっていくという意識をもち、社会全体で仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現できるような環境整備を進めていく必要があります。

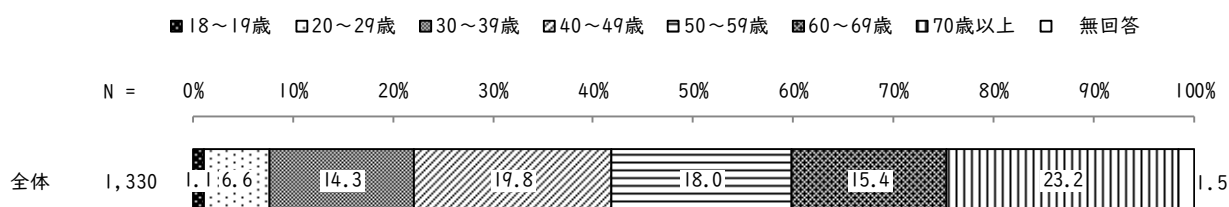
3 回答者の属性

以下の調査結果は、今回の調査票に回答した回答者の「性別」「年齢」「職業・雇用形態」「婚姻状況」「就労時間」「家族構成」などといった回答者の属性を示しています。

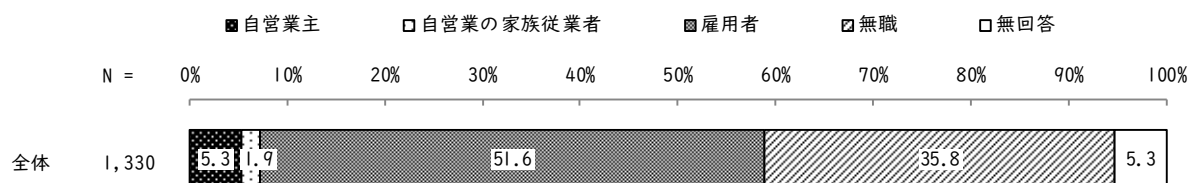
◆ F1 性別



◆ F2 年齢

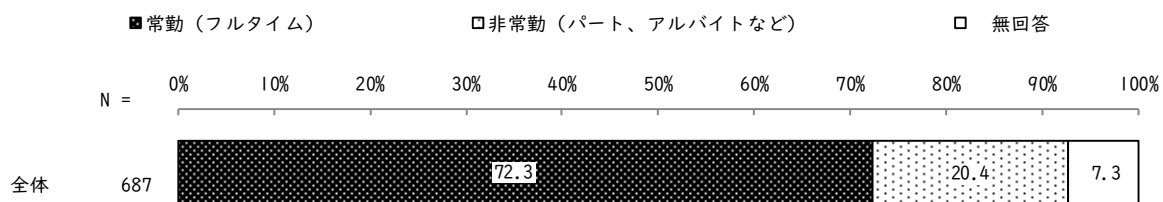


◆ F3 職業形態

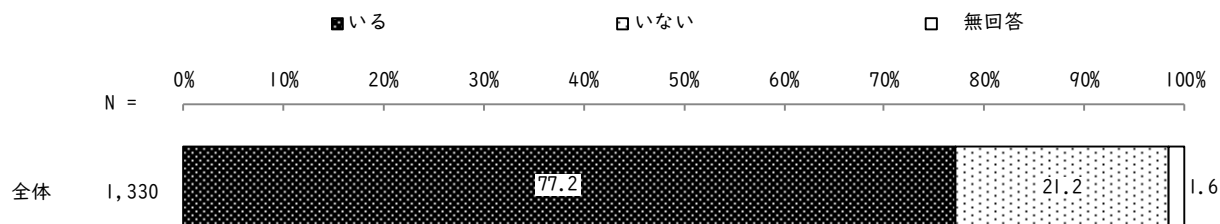


<「雇用者」と答えた方のみ>

◆ F3 雇用形態

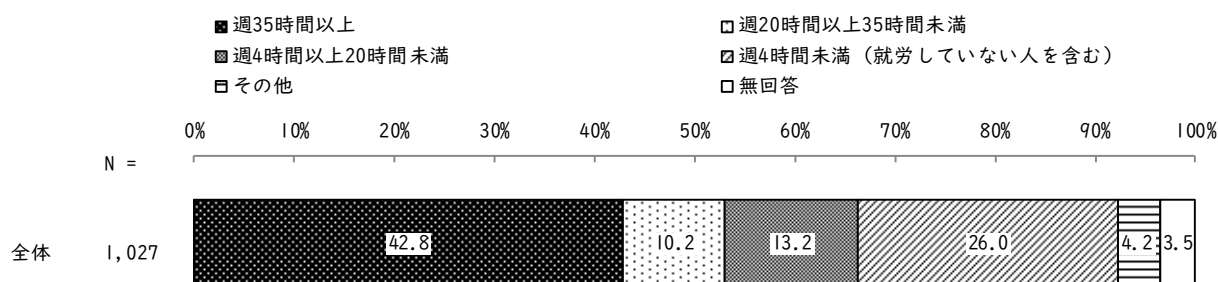


◆ F4 配偶者（パートナー）の有無

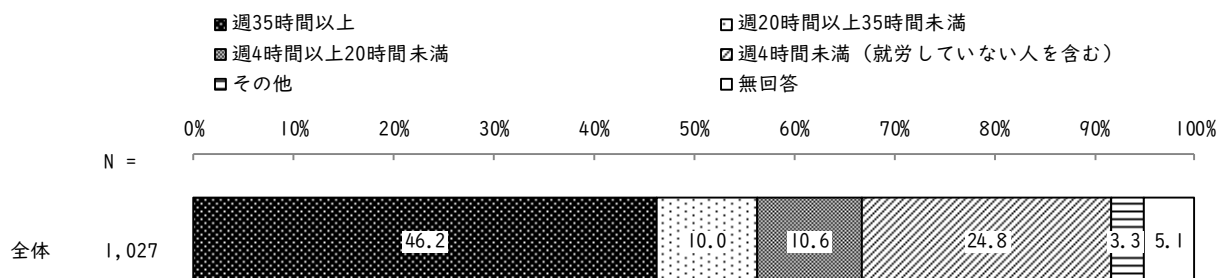


<「配偶者（パートナー）がいる」と答えた方のみ>

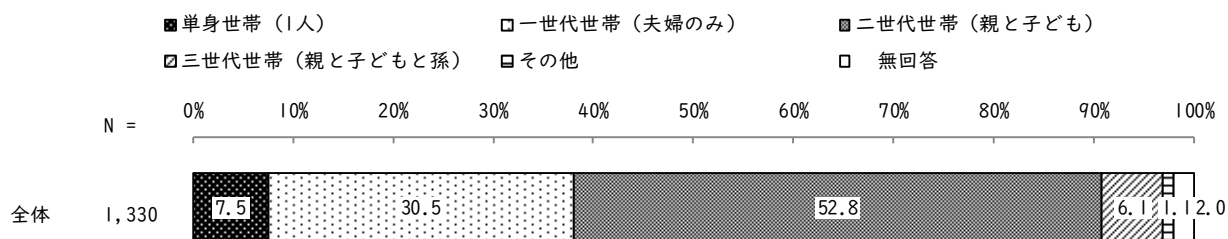
◆ F5 あなたの1週間の就労時間



◆ F5 配偶者（パートナー）の1週間の就労時間



◆ F6 家族構成



Ⅱ 調査結果（市民調査）

Ⅰ 結婚、家庭・地域生活に関する意識について

【問Ⅰ】家庭における役割分担

あなたの家庭では、次にあげる家事は主に女性、男性どちらが分担していますか。

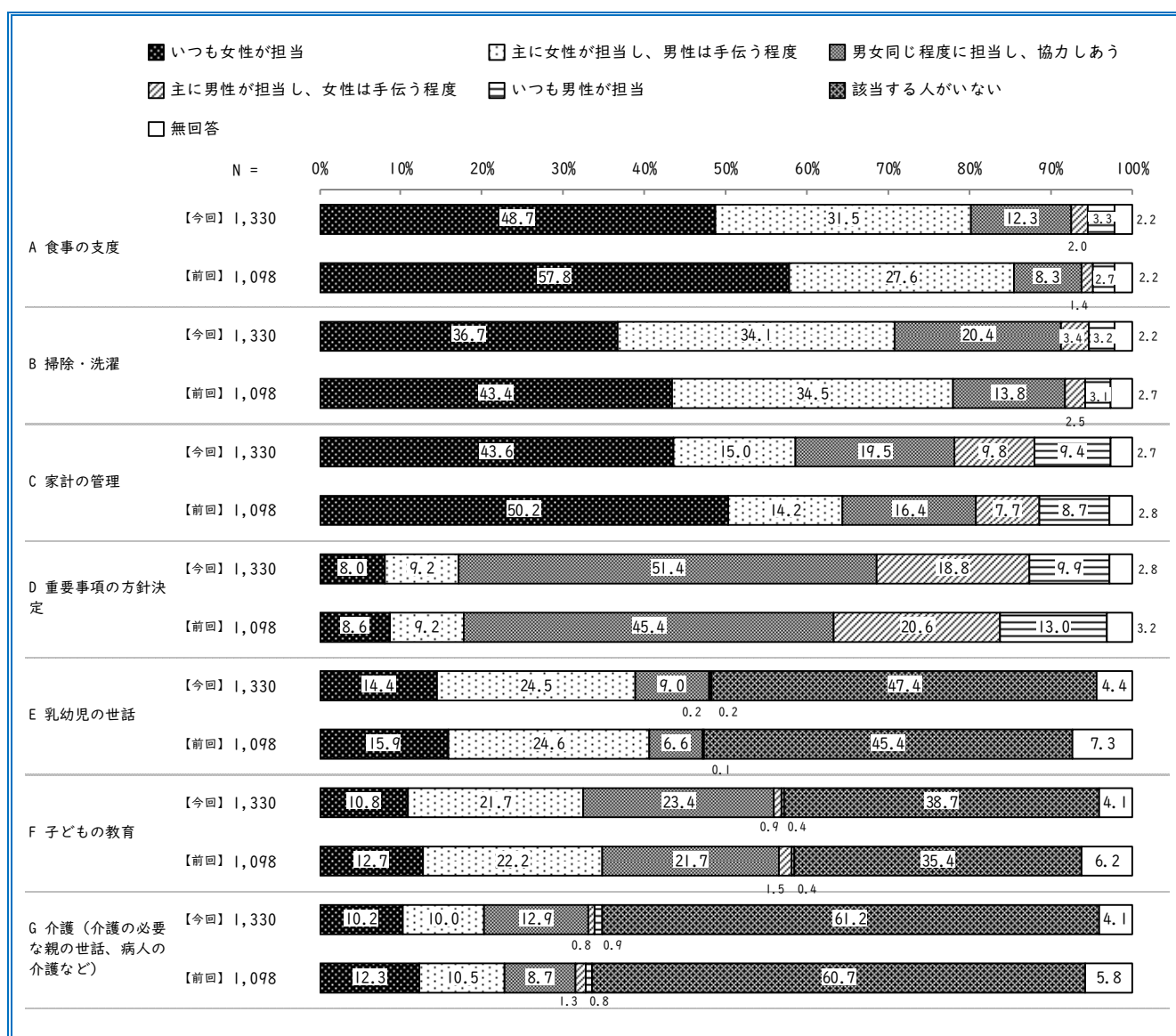
(A～Gの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

家庭における役割分担は『主に女性』の占める割合は減少しているものの、

依然として家事の分担が女性に偏っている傾向がある

前回調査と比較すると、『主に女性』が増加している項目はなく、「食事の支度」「掃除・洗濯」「家計の管理」などは5ポイント以上減少している。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人

『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人

問 1-A 食事の支度

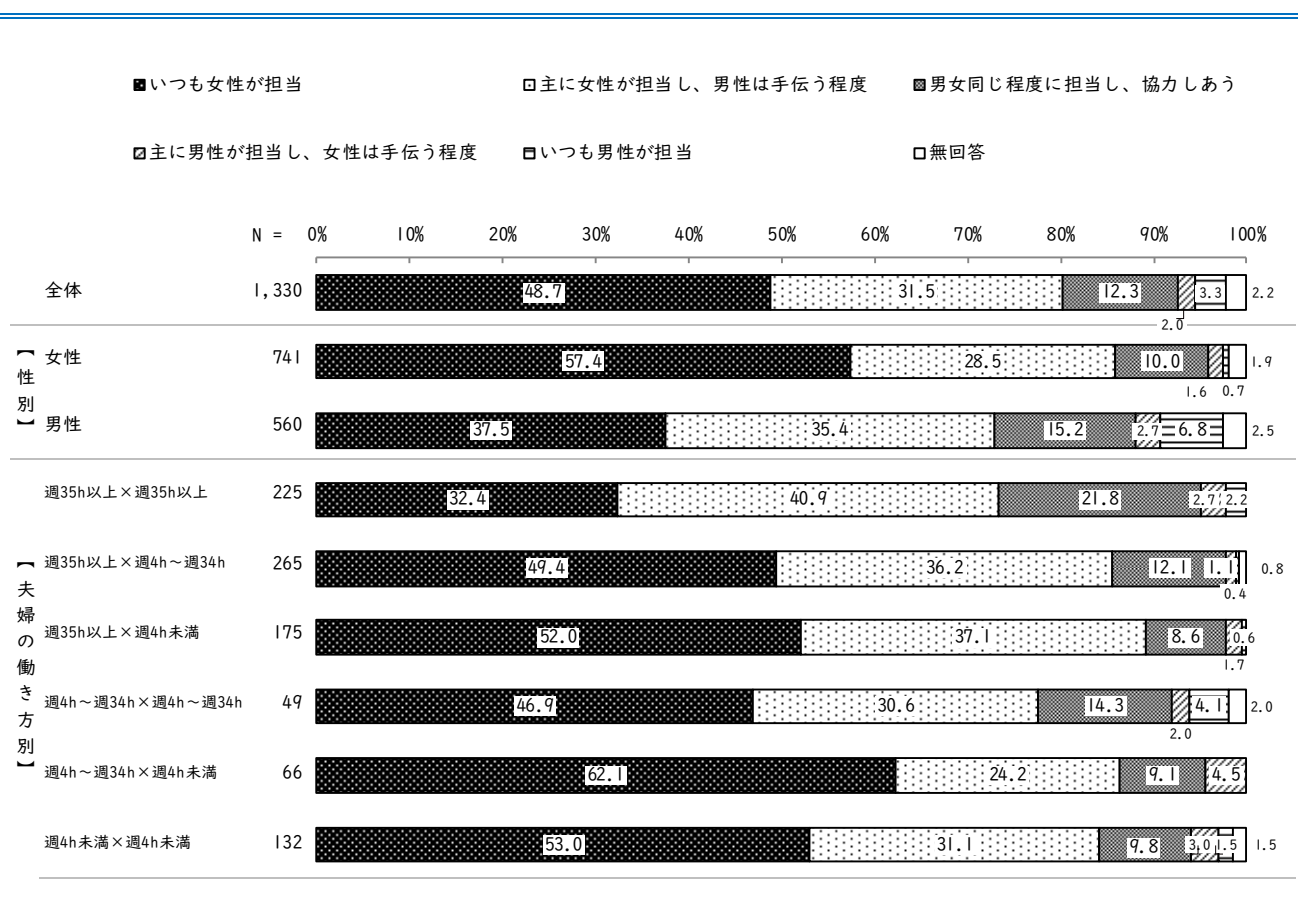
「いつも女性が担当」 全体の約5割

性別で比較すると 女性 57.4% > 男性 37.5% 19.9 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 48.7%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(31.5%)、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(12.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 85.9%、男性で 72.9%となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、夫婦の働き方に関係なく『主に女性』の占める割合が高くなっている。



『主に女性』: 「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』: 「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
グラフ内の「h」は時間を表している

問 1-B 掃除・洗濯

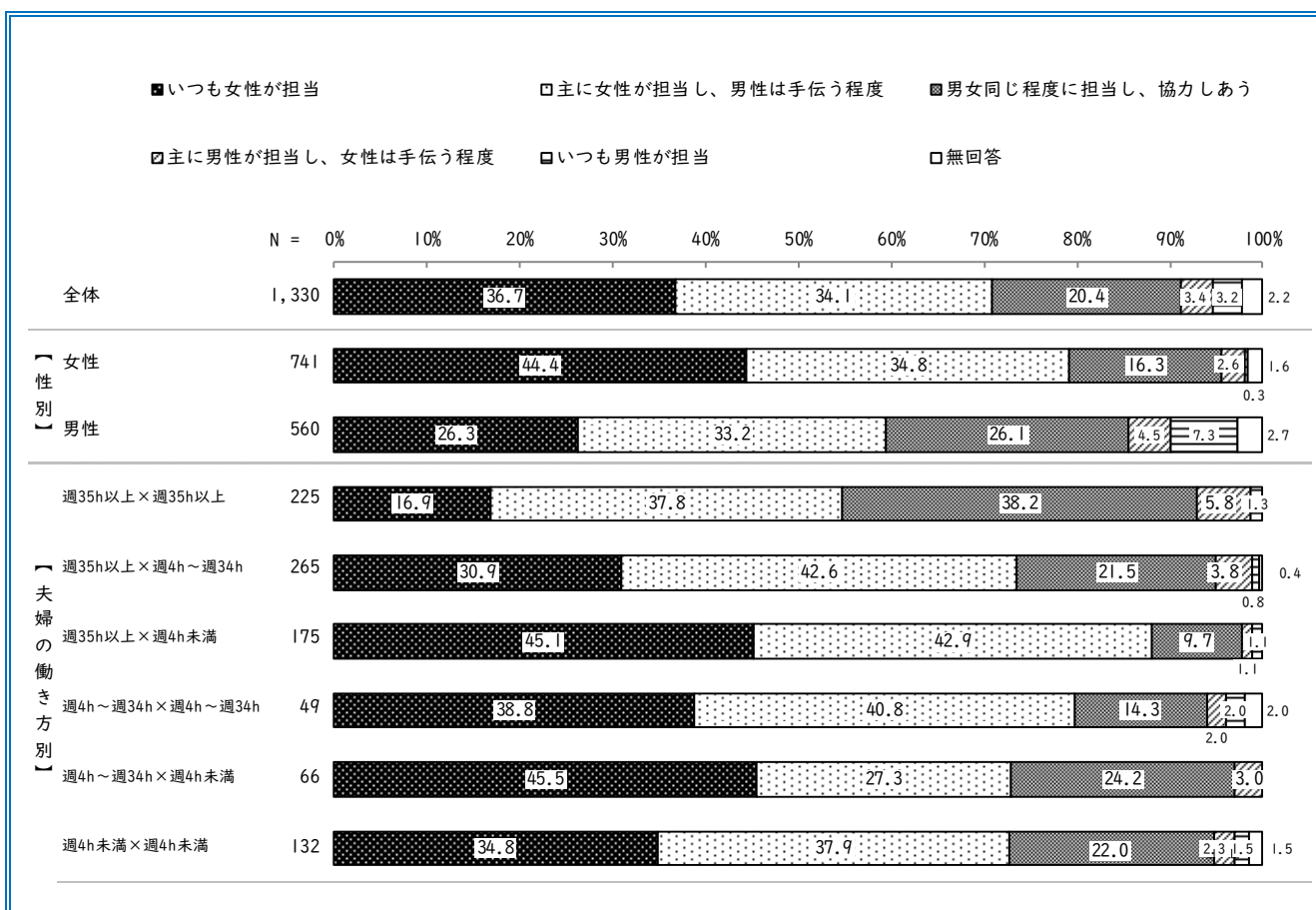
「いつも女性が担当」 全体の約4割

性別で比較すると 女性 44.4%＞男性 26.3% 18.1 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 36.7%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」（34.1%）、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」（20.4%）の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 79.2%、男性で 59.5%となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、夫婦の働き方に関係なく『主に女性』の占める割合が高くなっている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
 『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
 グラフ内の「h」は時間を表している

問Ⅰ-C 家計の管理

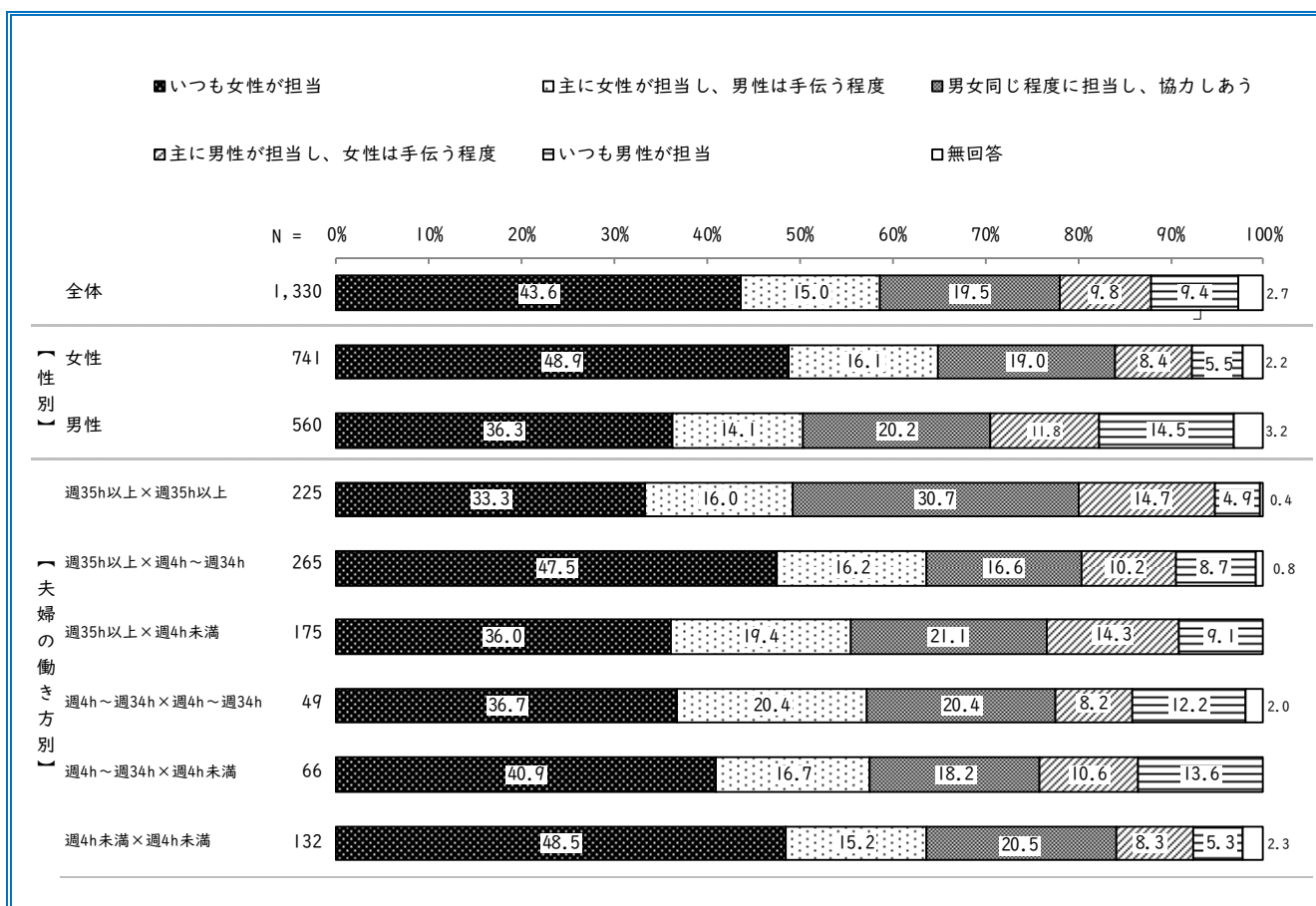
「いつも女性が担当」全体の約4割

性別で比較すると 女性 48.9% > 男性 36.3% 12.6 ポイントの開きあり

全体では、「いつも女性が担当」が 43.6% と最も高く、次いで「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(19.5%)、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(15.0%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 65.0%、男性で 50.4% となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、夫婦の働き方に関係なく『主に女性』の占める割合が高くなっている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
グラフ内の「h」は時間を表している

問Ⅰ-D 重要事項の方針決定

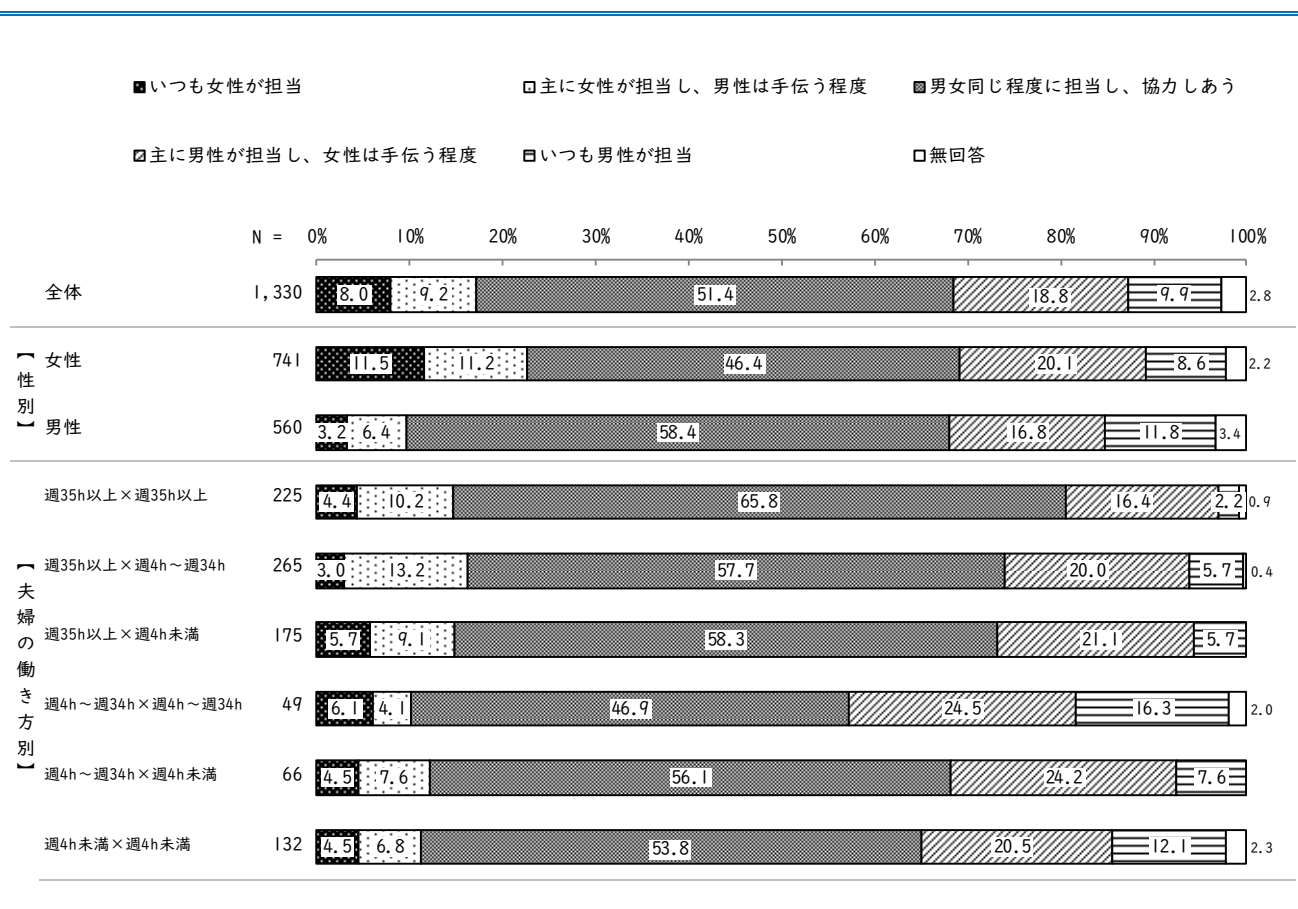
「男女同じ程度に担当し、協力しあう」の割合が最も高い

ただし、性別で比較すると 女性 46.4% < 男性 58.4% 12.0 ポイントの開きあり

全体では、「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が 51.4% と最も高く、次いで「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」（18.8%）、「いつも男性が担当」（9.9%）の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 22.7%、男性で 9.6% となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、「週 35 h 以上×週 35 h 以上の共働き夫婦」では「男女同じ程度に担当し、協力しあう」が 65.8% と高くなっている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
グラフ内の「h」は時間を表している

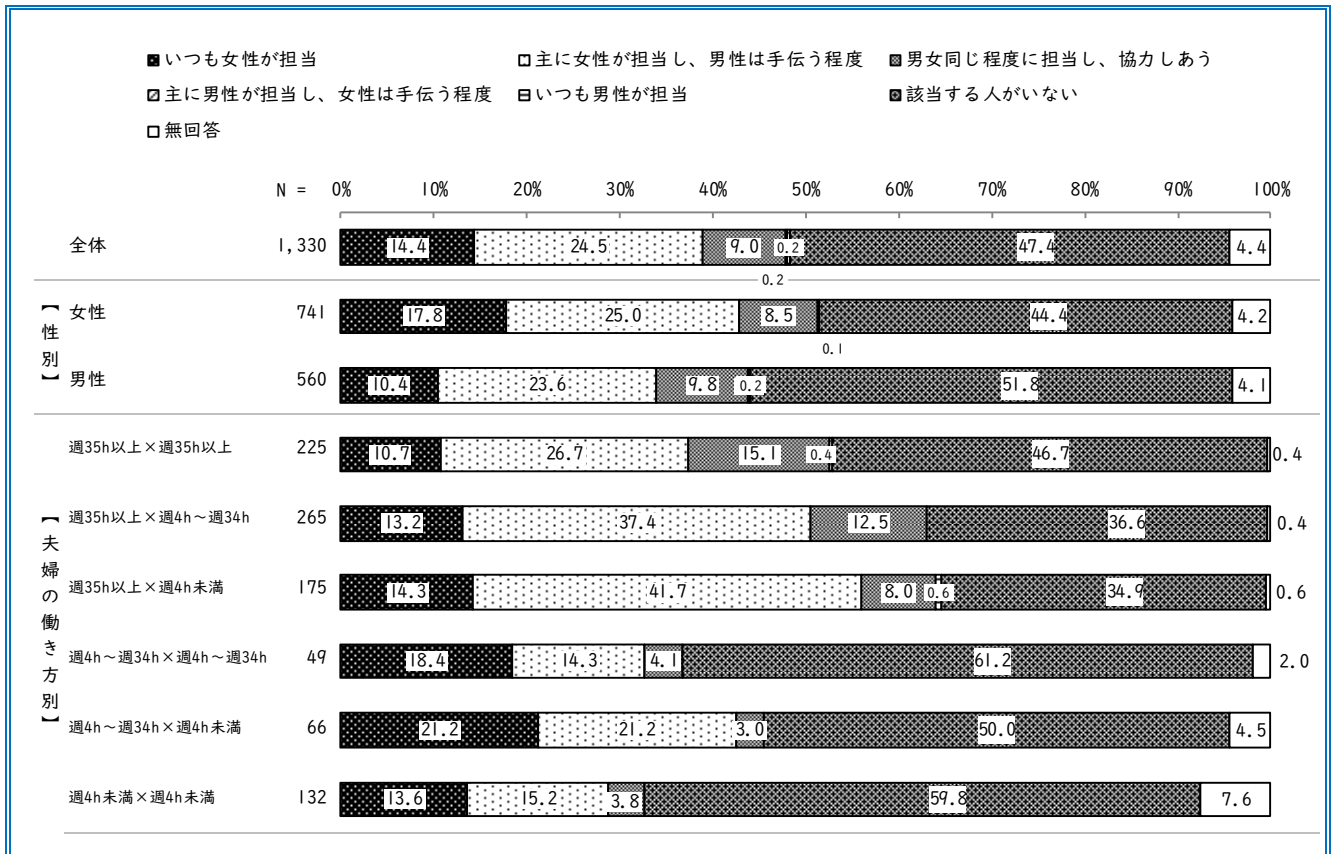
問Ⅰ-E 乳幼児の世話

該当 37.4%の内、『主に女性』が担当 38.9%

全体では、「該当する人がいない」が 47.4%と最も高く、次いで「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」（24.5%）、「いつも女性が担当」（14.4%）の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 42.8%、男性で 34.0%となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、夫婦の働き方に関係なく『主に女性』の占める割合が高くなっている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性を手伝う程度」と答えた人
グラフ内の「h」は時間を表している

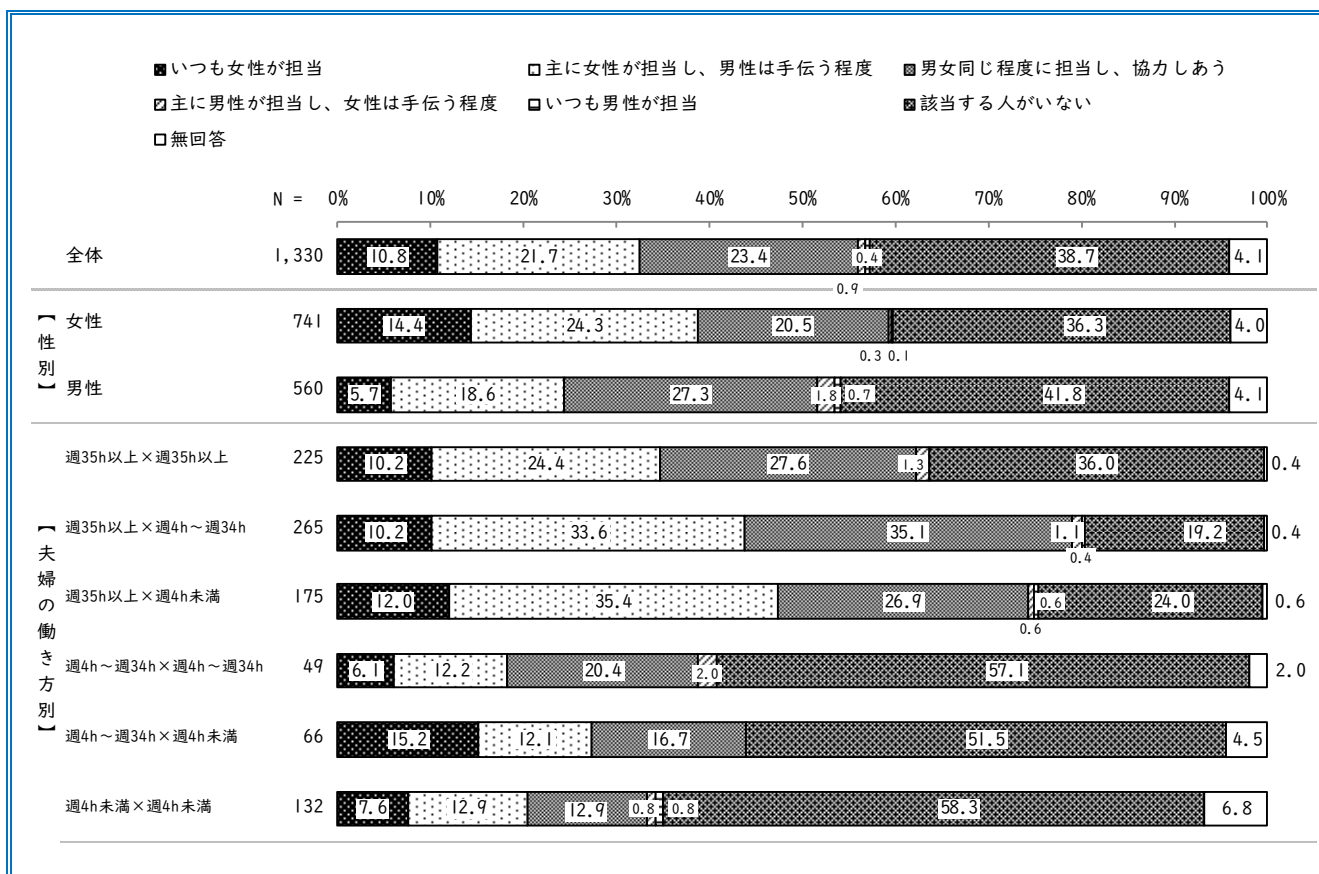
問Ⅰ-F 子どもの教育

該当 61.3%の内、『主に女性』が担当 32.5%

全体では、「該当する人がいない」が 38.7%と最も高く、次いで「男女同じ程度に担当し、協力しあう」(23.4%)、「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」(21.7%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 38.7%、男性で 24.3%となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、夫婦の働き方に関係なく『主に女性』の占める割合が高くなっているものの、「週 4h～週 34h×週 4h～週 34hの共働き」では 18.3%と 2 割を下回っている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
 『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
 グラフ内の「h」は時間を表している

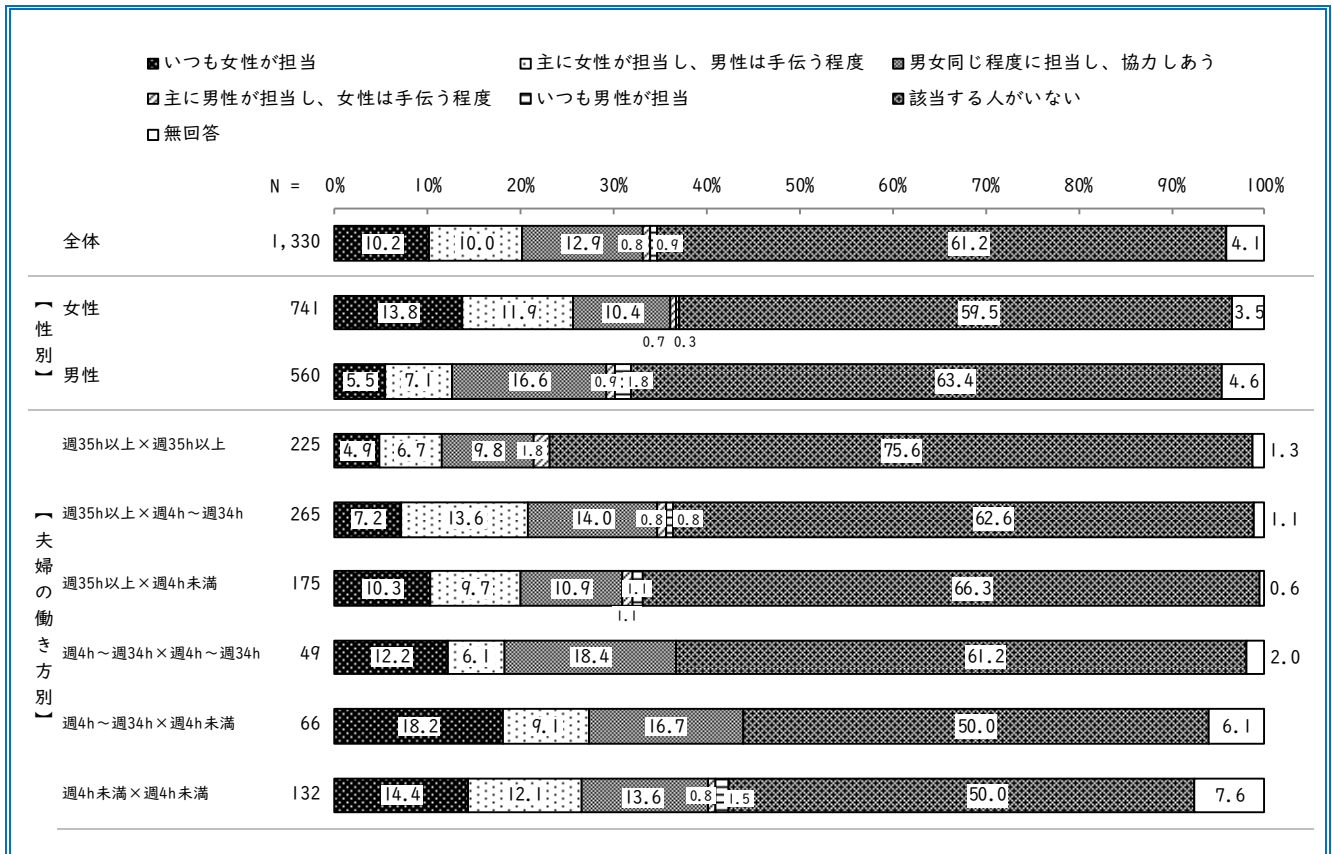
問Ⅰ-G 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）

該当 38.8%の内、『主に女性』が担当 20.2%

全体では、「該当する人がいない」が 61.2%と最も高く、次いで「男女同じ程度に担当し、協力しあう」（12.9%）、「いつも女性が担当」（10.2%）の順となっている。

【性別】で比較すると、『主に女性』が担当している割合は、女性で 25.7%、男性で 12.6%となっている。

【夫婦の働き方別】で比較すると、「週 4h～週 34h×週 4h 未満の共働き」「週 4h 未満×週 4h 未満の共働き」では『主に女性』の占める割合が約 3 割を占めている。



『主に女性』：「いつも女性が担当」・「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」と答えた人
『主に男性』：「いつも男性が担当」・「主に男性が担当し、女性は手伝う程度」と答えた人
グラフ内の「h」は時間を表している

【問2】結婚、夫婦などに関する考え方について

あなたは、次にあげる結婚、夫婦などに関する考え方について、どう思いますか。

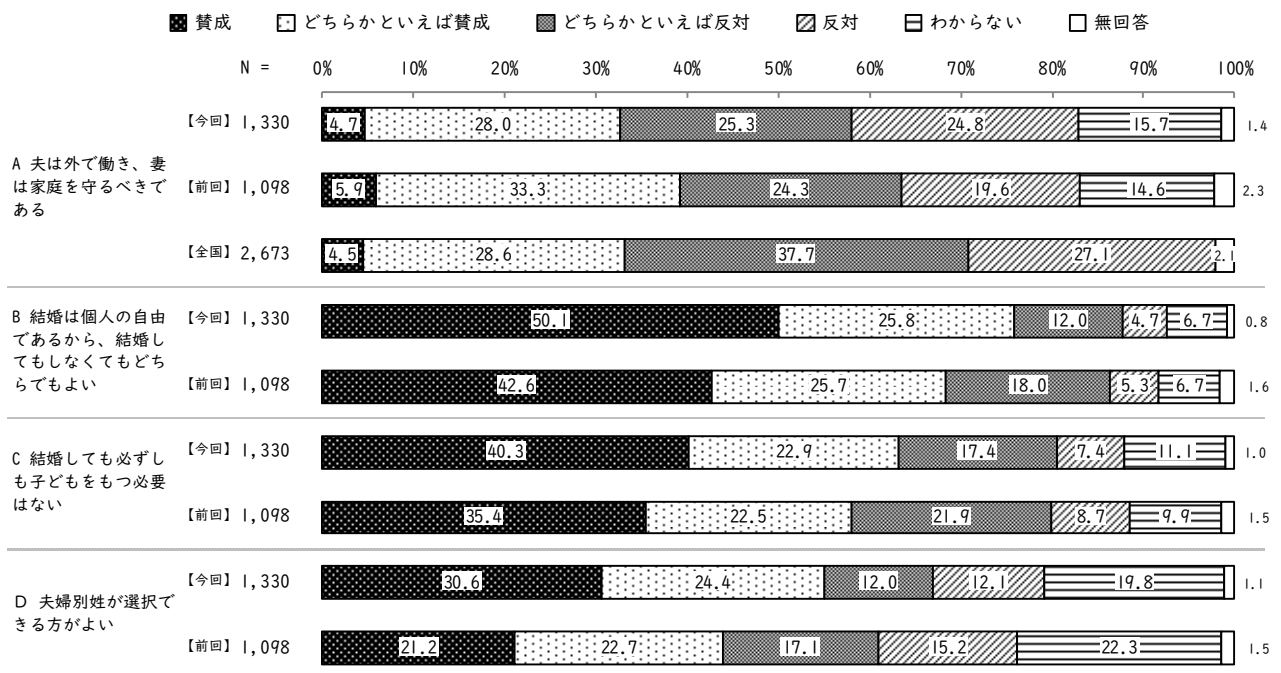
(A～Dの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回・全国調査比較）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は『肯定的』な割合が減少

前回調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」以外の項目で『肯定的』な回答の割合が増加している。

全国調査と比較すると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に『肯定的』意見の割合に違いは見られない。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

問2-A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

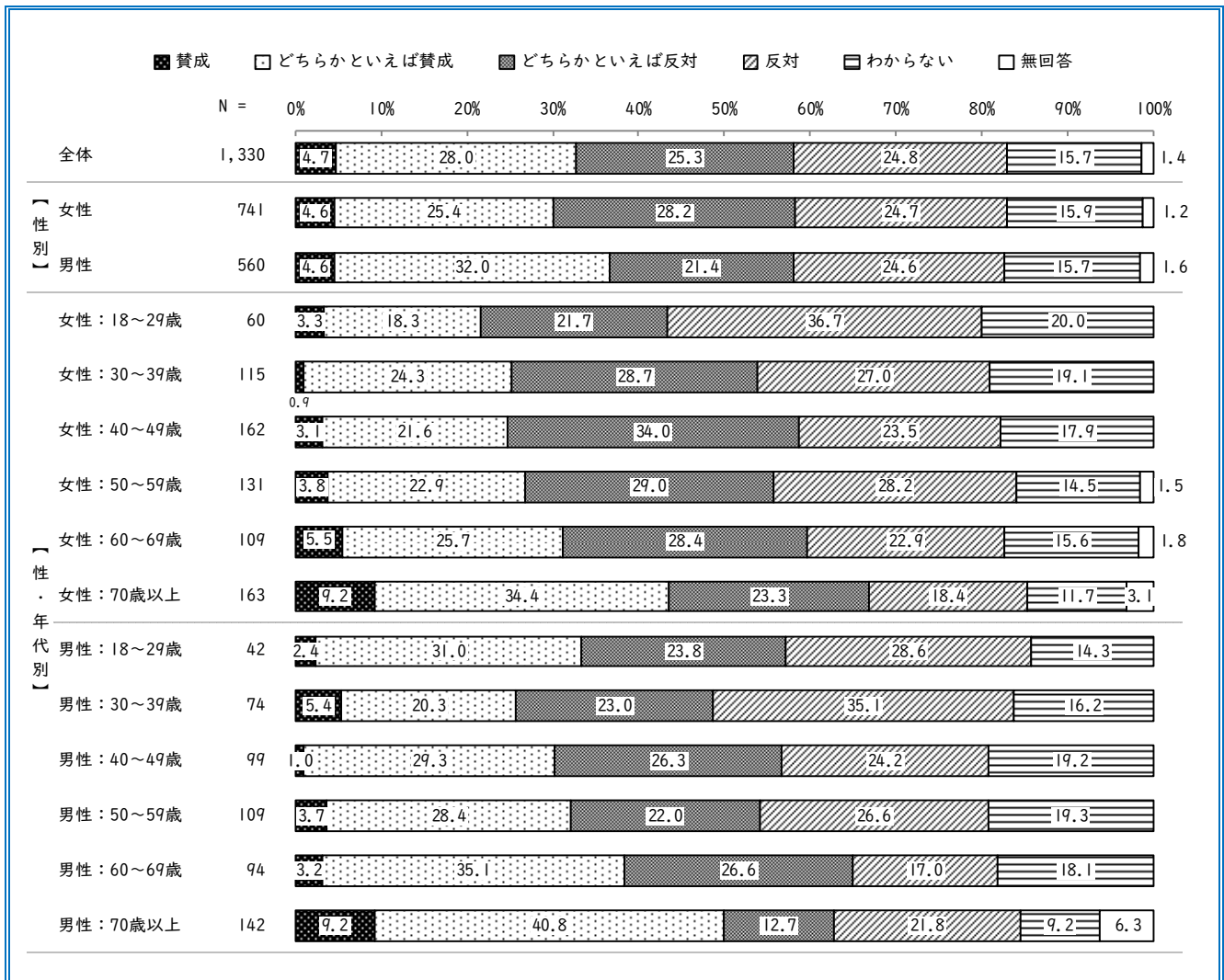
『肯定的』(32.7%) < 『否定的』(50.1%)

女性は『否定的』、男性は『肯定的』、男女とも若いほど『否定的』な意見が多い

全体では、「どちらかといえば賛成」が28.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば反対」(25.3%)、「反対」(24.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性30.0%に対し、男性36.6%、『否定的』な割合は、女性52.9%に対し、男性46.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、男女とも「70歳以上」で『肯定的』な割合が高くなっている。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

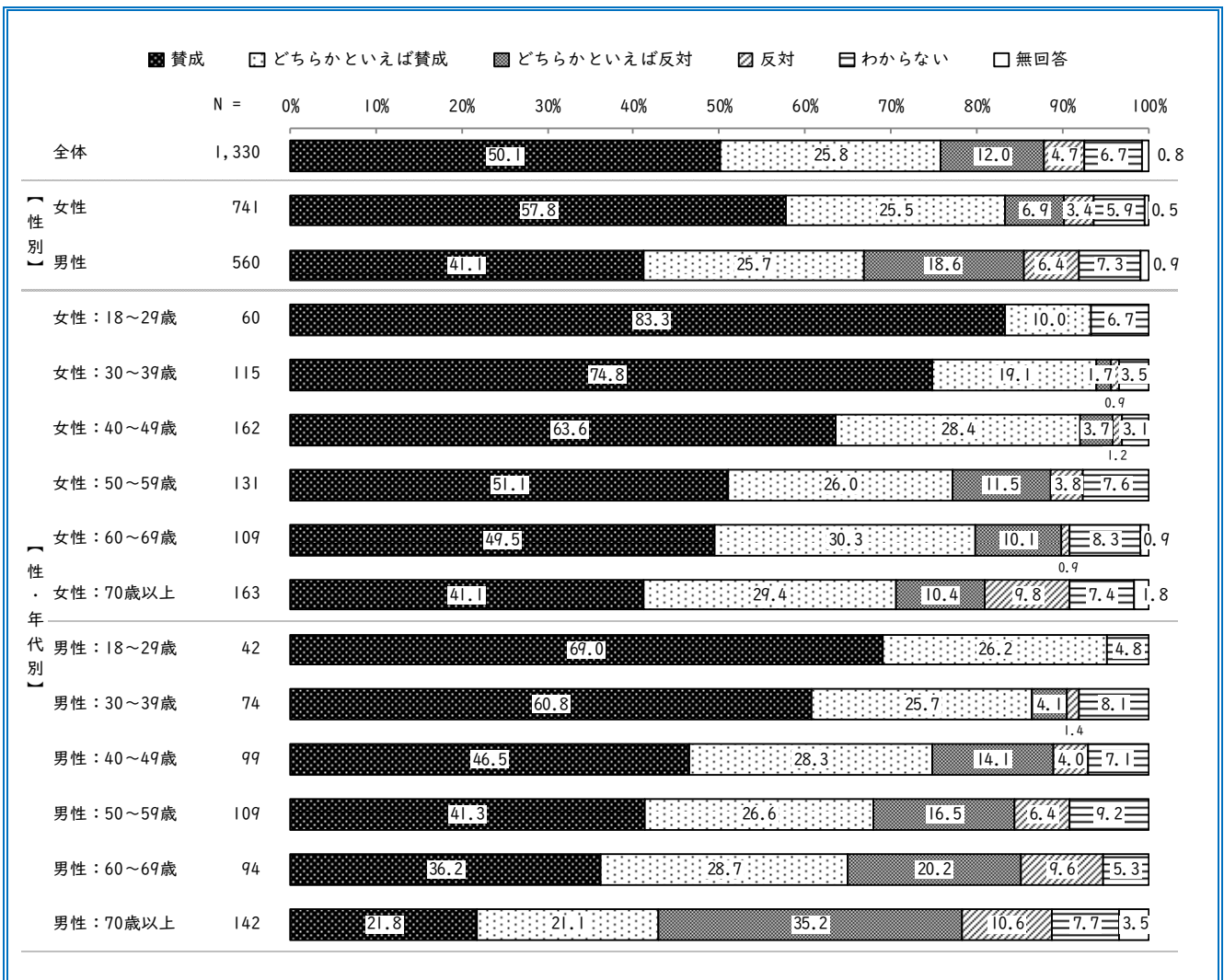
問2-B 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

『肯定的』(75.9%) > 『否定的』(16.7%)
男女ともに年齢層が若いほど『肯定的』な割合が高い

全体では、「賛成」が50.1%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(25.8%)、「どちらかといえば反対」(12.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性で83.3%、男性で66.8%と、男女とも高い。

【性・年代別】で比較すると、男女とも年齢層が若いほど『肯定的』な割合が高くなっている。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

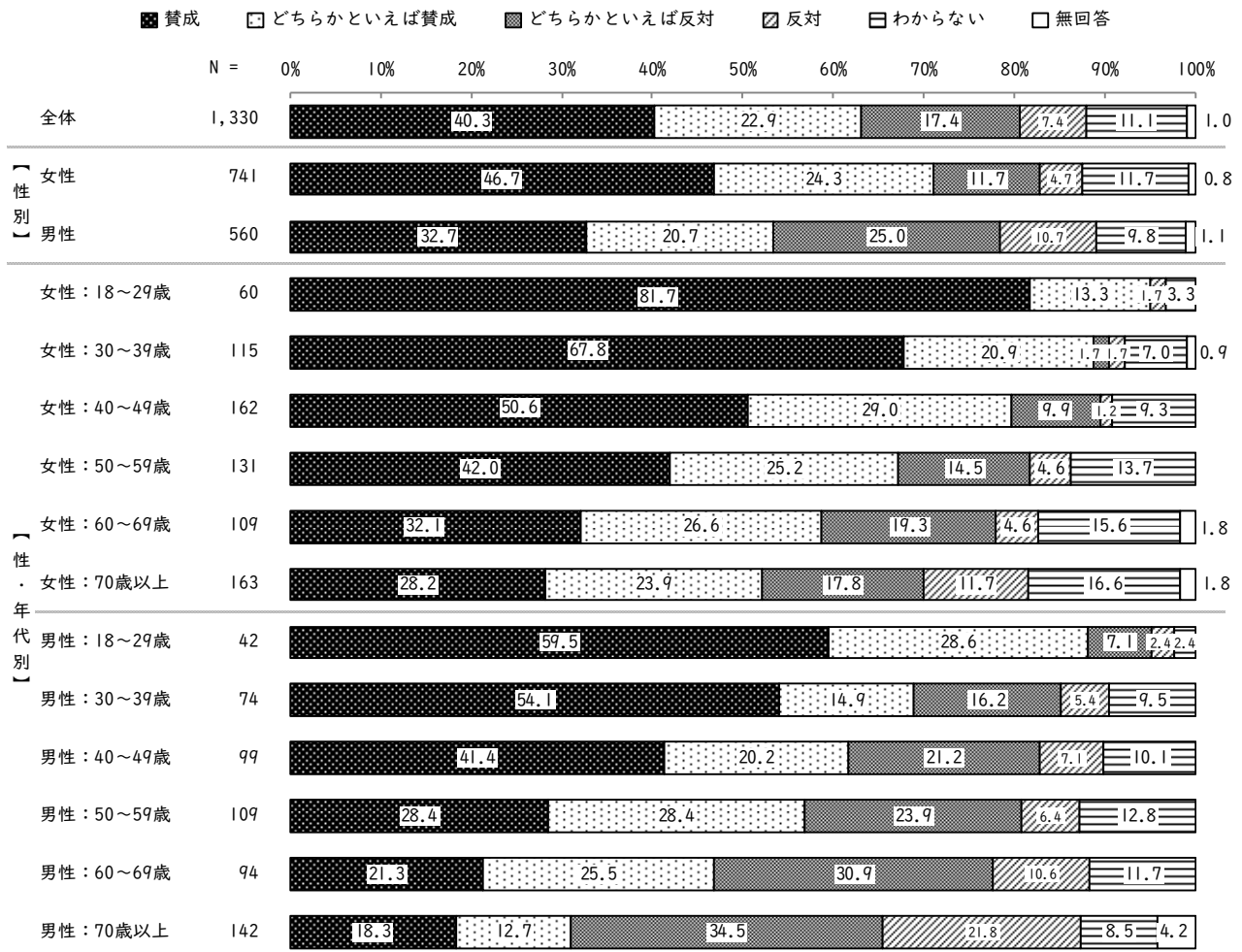
問2-C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

『肯定的』(63.2%) > 『否定的』(24.8%)
女性の方が『肯定的』で、概ね若いほど『肯定的』な割合が高い

全体では、「賛成」が40.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(22.9%)、「どちらかといえば反対」(17.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性が71.0%、男性が53.4%で、男女とも高い。

【性・年代別】で比較すると、男女とも年齢層が若いほど『肯定的』な割合が高くなっている。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

問 2 - D 夫婦別姓が選択できる方がよい

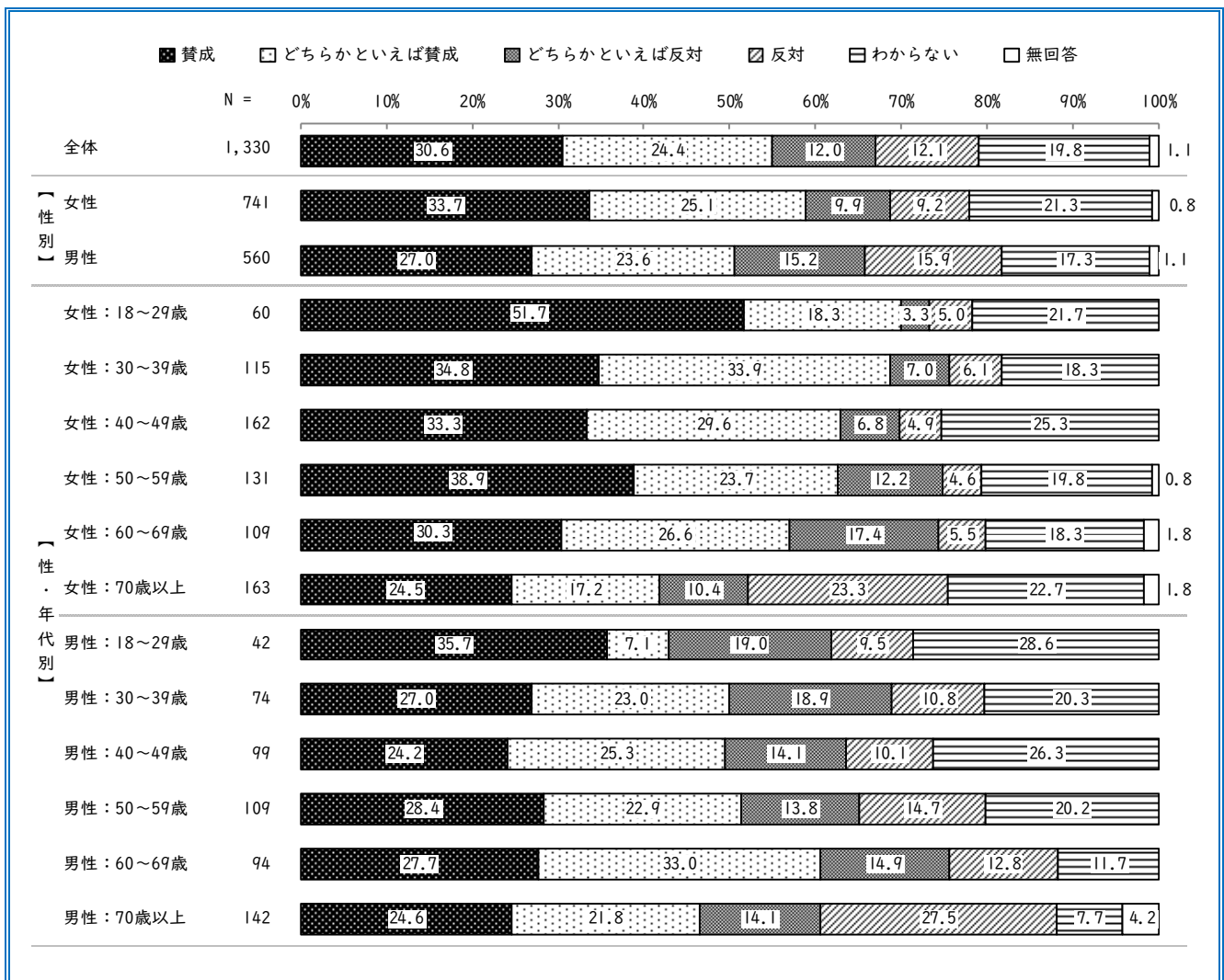
『肯定的』(55.0%) > 『否定的』(24.1%)

女性の方が『肯定的』な割合が高い

全体では、「賛成」が30.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば賛成」(24.4%)、「わからない」(19.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、女性58.8%に対し、男性50.6%。『否定的』な割合は女性19.1%に対し、男性31.1%となっている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「18～60歳代」で『肯定的』な回答がいずれも半数以上となっている。男性は『肯定的』な回答が「60歳代」で6割を占めており、他の年齢層では4～5割台となっている。また、『肯定的』な回答は、年齢が若い人ほど男性に比べ女性の占める割合が高く、男女差が大きくなっている。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

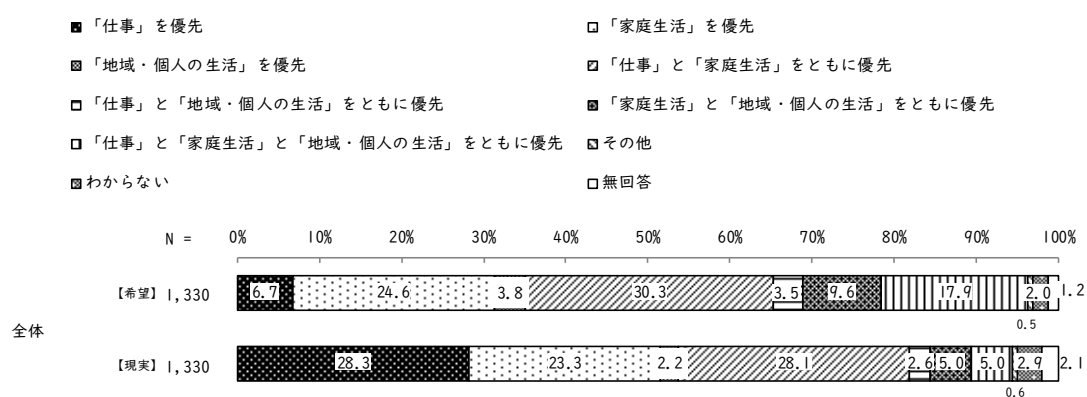
【問3】生活の優先度について

あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。
 (<①希望として><②現実として>について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、希望と現実の比較）

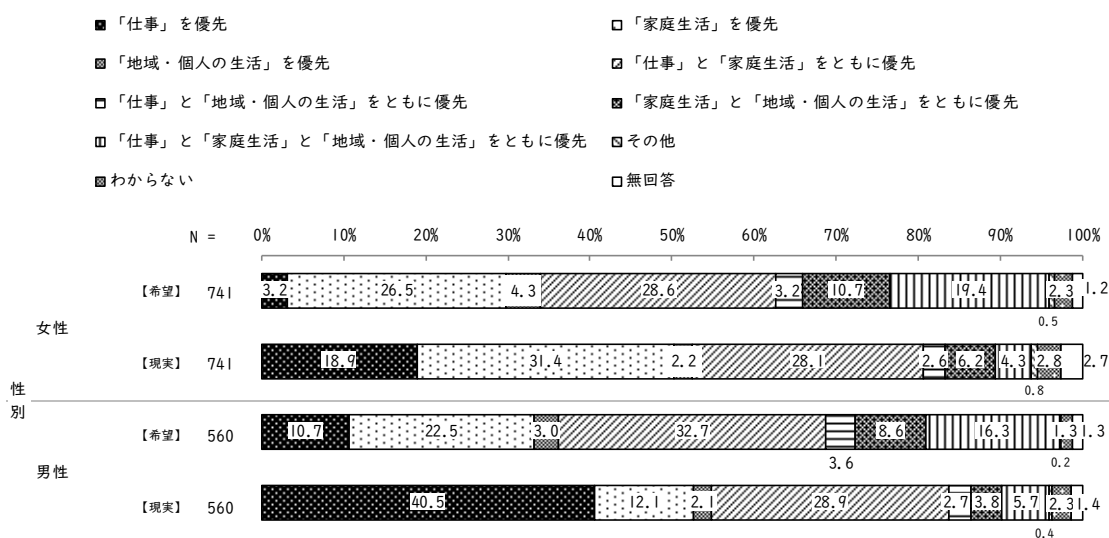
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいという希望を持っていても、
 現実には仕事を優先せざるを得ない状況がうかがえる

生活の希望と現実の優先度を比較してみると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいが17.9%となっているのに対し、現実にはできていない人は5.0%となっており、希望と現実の間に大きなギャップがみられる。また、「仕事を優先したい」が6.7%となっているのに対し、現実では「仕事を優先している」が28.3%となっており、現実には希望と違って仕事を優先している状況もうかがえる。



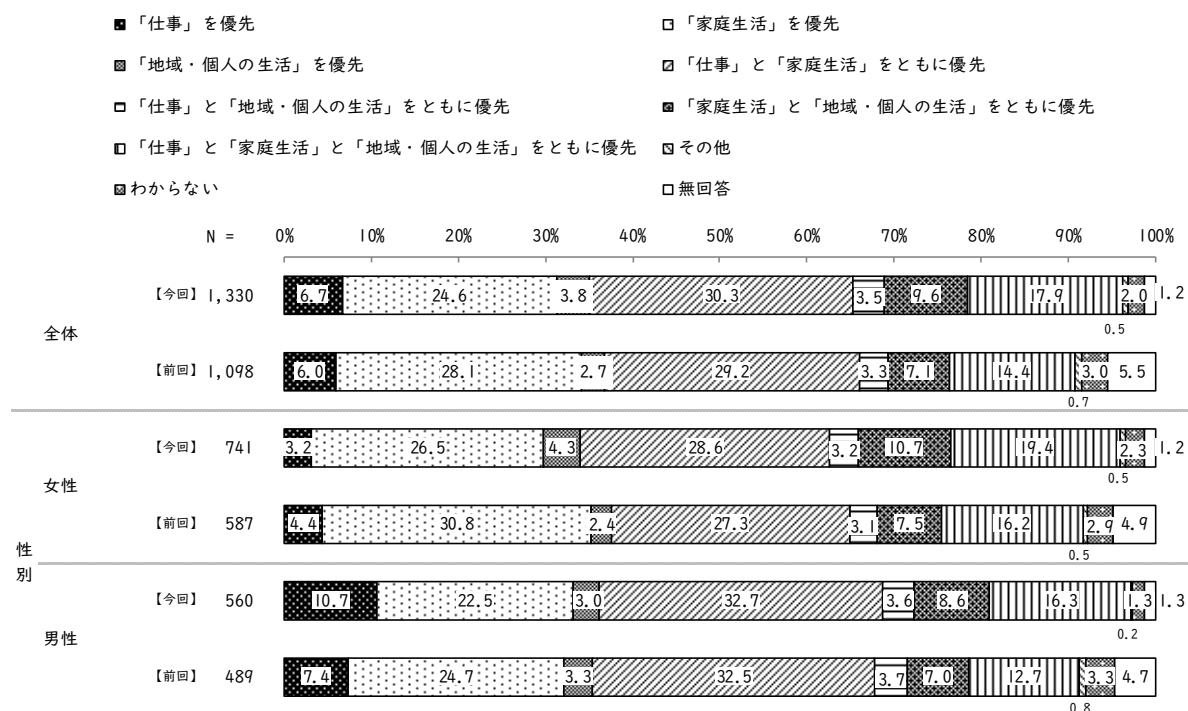
●項目比較（性別）

【性別】で比較すると、男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」となっている。女性では希望と現実には大きな差は見られないものの、男性では「仕事を優先したい」という希望が10.7%なのに対し、現実では「仕事を優先している」が40.5%となっており、特に男性では希望と現実には大きな開きがあることが見られる。



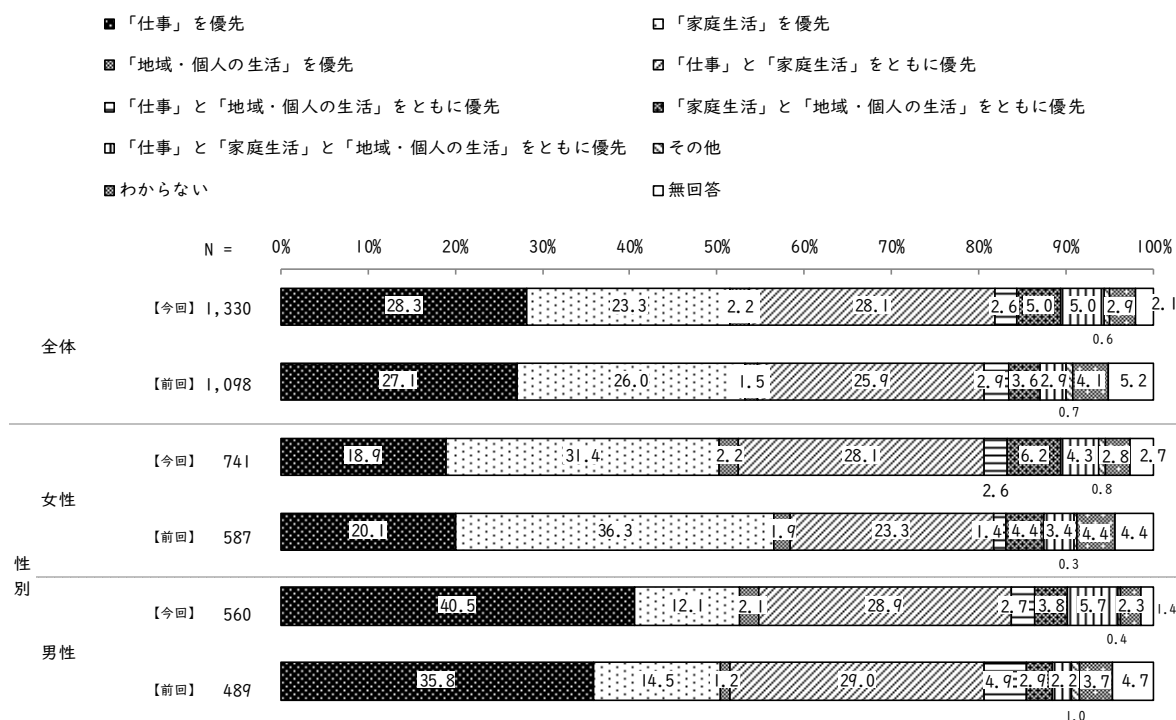
●項目比較（希望 前回調査比較）

前回調査と比較すると、傾向に違いは見られない。



●項目比較（現実 前回調査比較）

前回調査と比較すると、全体的には傾向に変化は見られないものの、男性の「「仕事」を優先」している割合が4.7ポイント増加した。



【問4】男性の家事、子育て等への参加を進めるために重要なこと

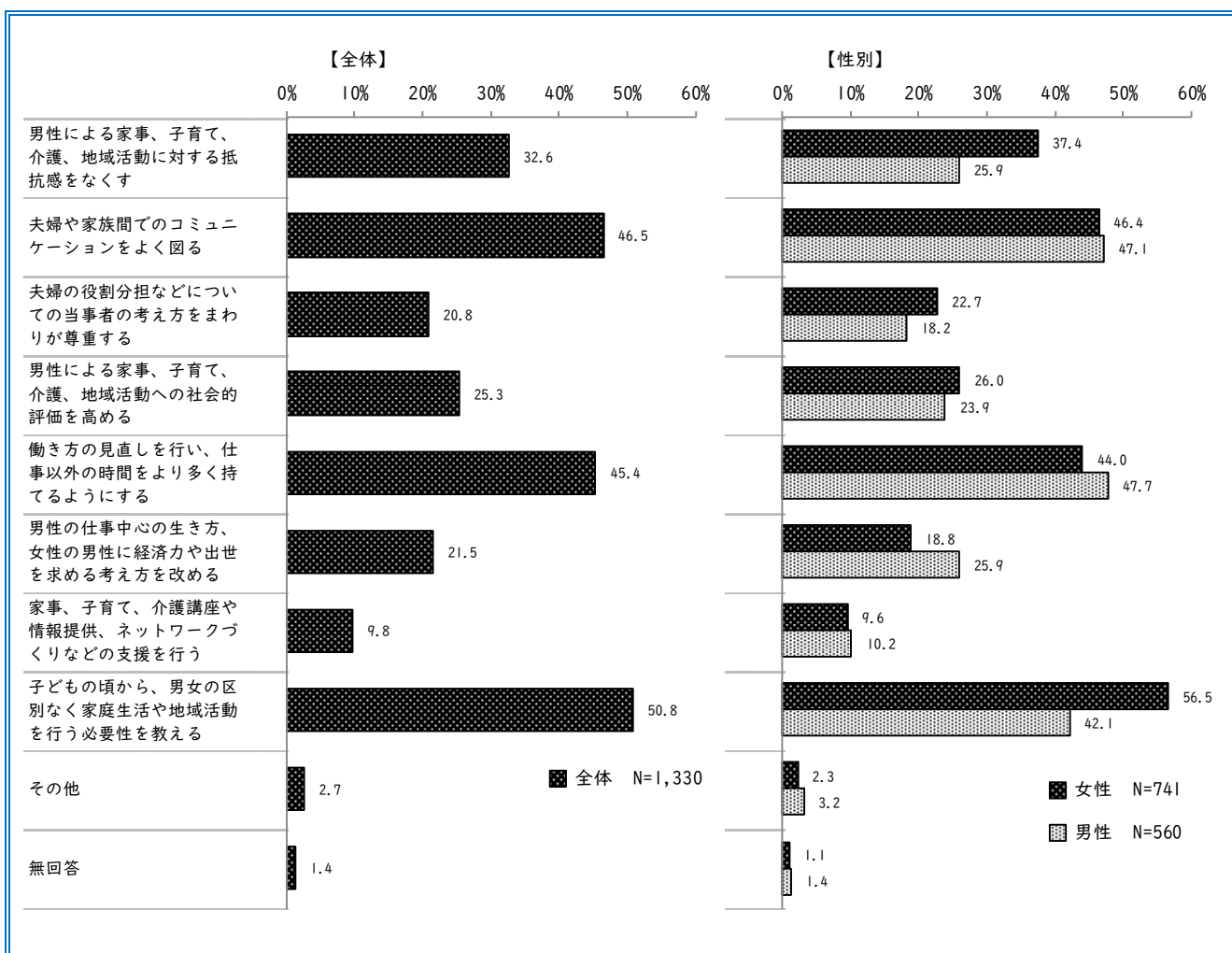
あなたは、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるためには、どのようにしていけばいいと思いますか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別）

女性は「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」、男性は「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が最も高い

全体では、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」が50.8%と最も高く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」（46.5%）、「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」（45.4%）の順となっている。

【性別】で比較すると、男女ともに順位に違いはあるものの、全体の上位3項目が共通している。また、「子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える」「男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす」などは、女性が男性をそれぞれ、14.4ポイント、11.5ポイント上回っている。一方で、「男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める」と答えた人は、男性が女性を7.1ポイント上回っている。



【問5】家事・育児・介護にかかわる時間

あなたが、平日に家事・育児・介護などにかかわる平均的な時間はどのくらいですか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

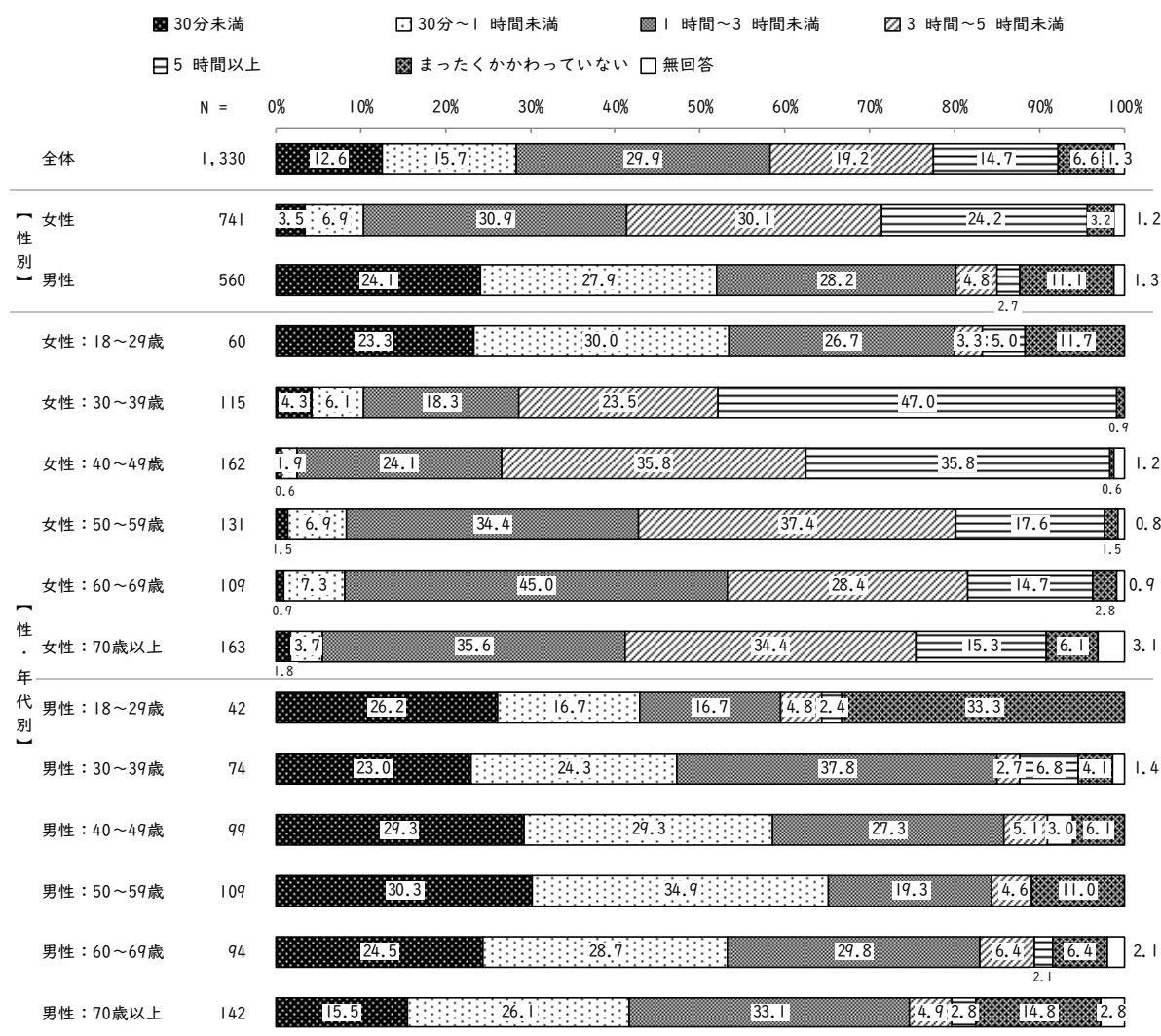
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

平日の家事・育児・介護にかかわる時間は、
女性で「1時間以上」が8割を超え、男性で「1時間未満」が6割を超える

全体では、「1時間～3時間未満」が29.9%と最も高く、次いで「3時間～5時間未満」(19.2%)、「30分～1時間未満」(15.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「1時間～3時間未満」が30.9%と最も高く、次いで「3時間～5時間未満」(30.1%)、「5時間以上」(24.2%)となっている。一方で、男性では「1時間～3時間未満」が28.2%と最も高く、次いで「30分～1時間未満」(27.9%)、「30分未満」(24.1%)となっており、男女間で大きな差がみられる。

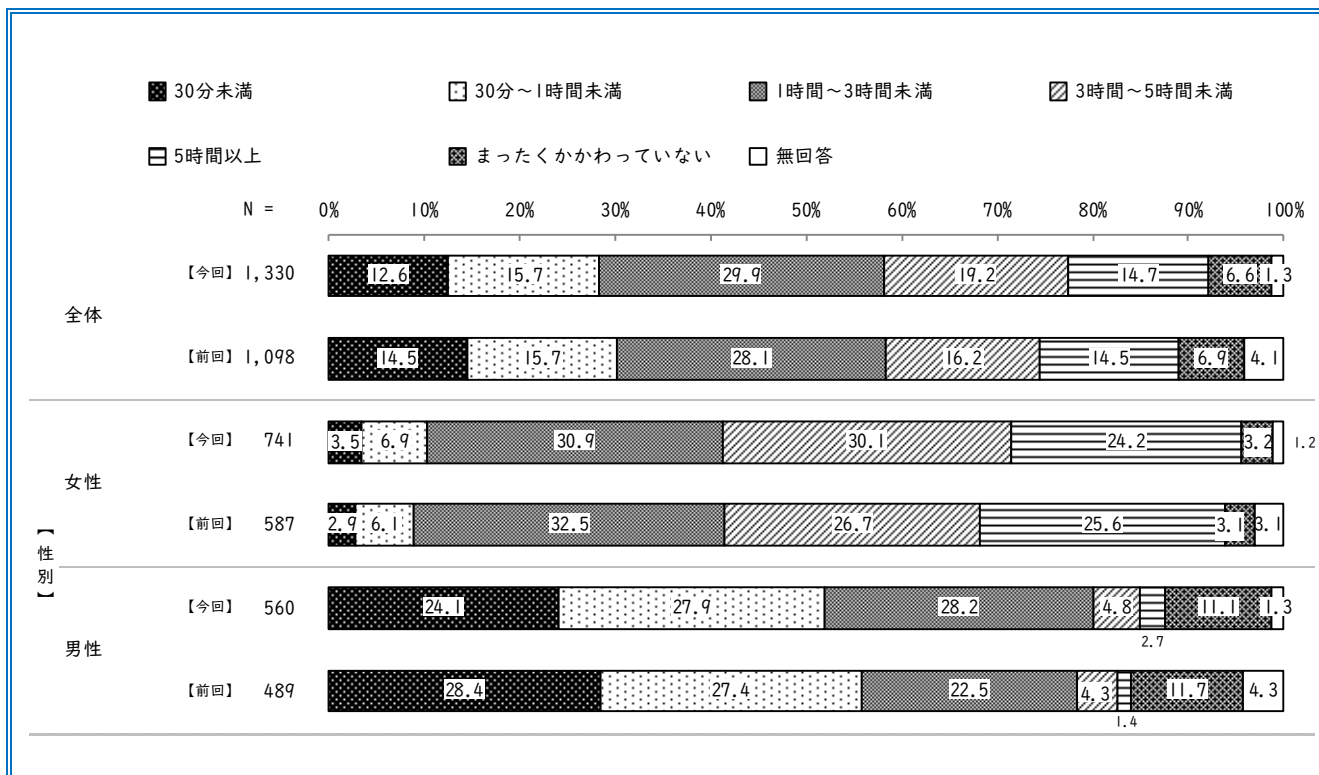
【性・年代別】で比較すると、女性の「30歳代」の約5割は平日5時間以上家事・育児・介護にかかわっている。一方で男性は「1時間未満」と回答した割合が、50歳代で最も高くなっている。



『3時間以上』：「3時間～5時間未満」「5時間以上」と答えた人

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、男性の平日の家事・育児・介護時間が多少増加しているが、前回同様、女性の半数以上で3時間以上、男性の半数以上で1時間未満となっている。



【問6】地域における男女共同参画の視点からの防災体制の整備

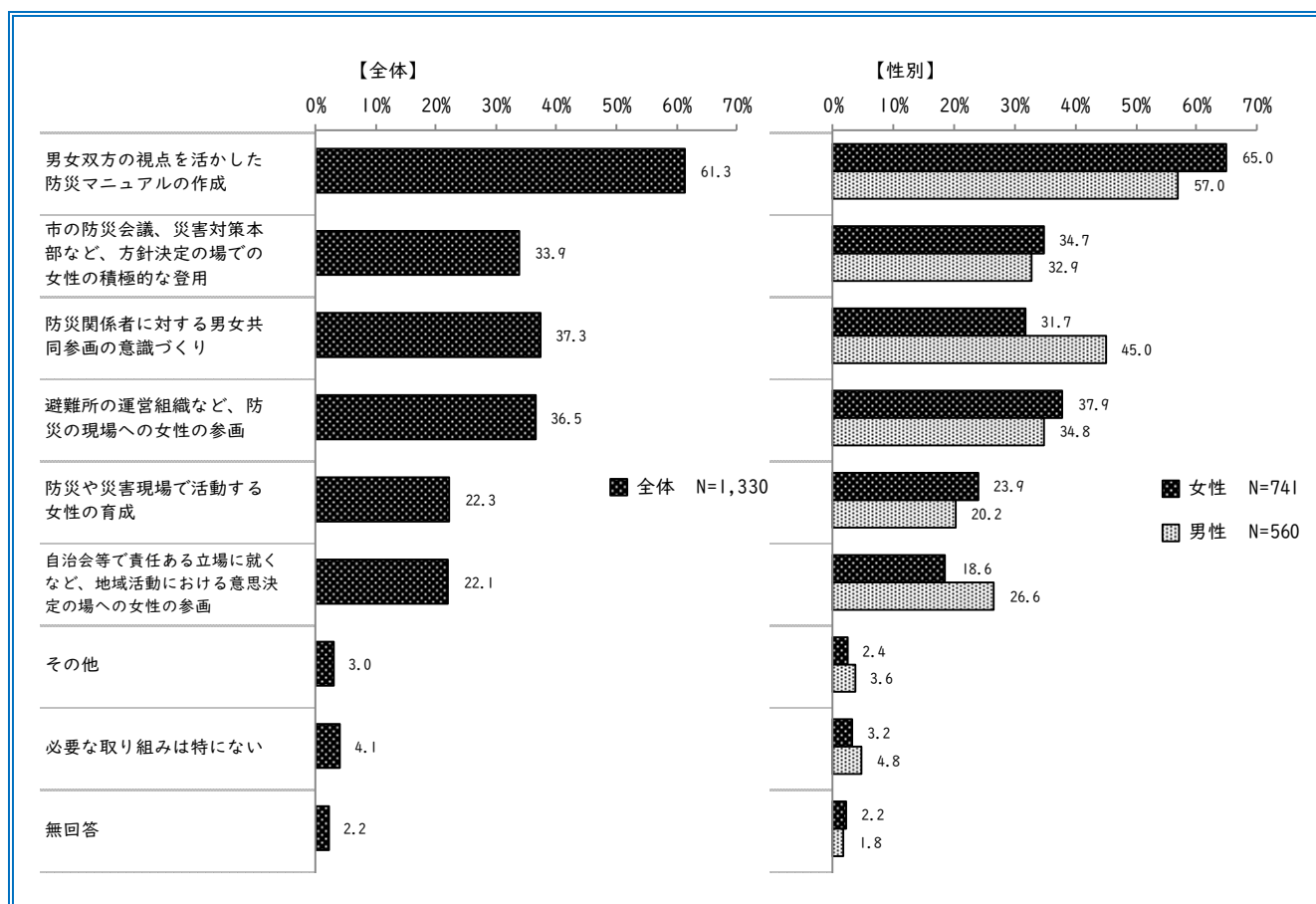
地域において、男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別）

「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」に対するニーズが最も高い

全体では、「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が61.3%と最も高く、次いで「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」(37.3%)、「避難所の運営組織など、防災の現場への女性の参画」(36.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男女ともに「男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成」が最も高くなっており、特に女性が男性を8.0ポイント上回っている。また、「避難所の運営組織など、防災の現場への女性の参画」は、女性が男性を3.1ポイント上回っている。一方で、「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」「自治会等で責任ある立場に就くなど、地域活動における意思決定の場への女性の参画」などは、男性が女性をそれぞれ、13.3ポイント、8.0ポイント上回っており、男性は「意識」、女性は「参加」を重要視している傾向があることがうかがえる。



2 社会参加・参画について

【問7】女性が就業することについて

女性が就業することについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

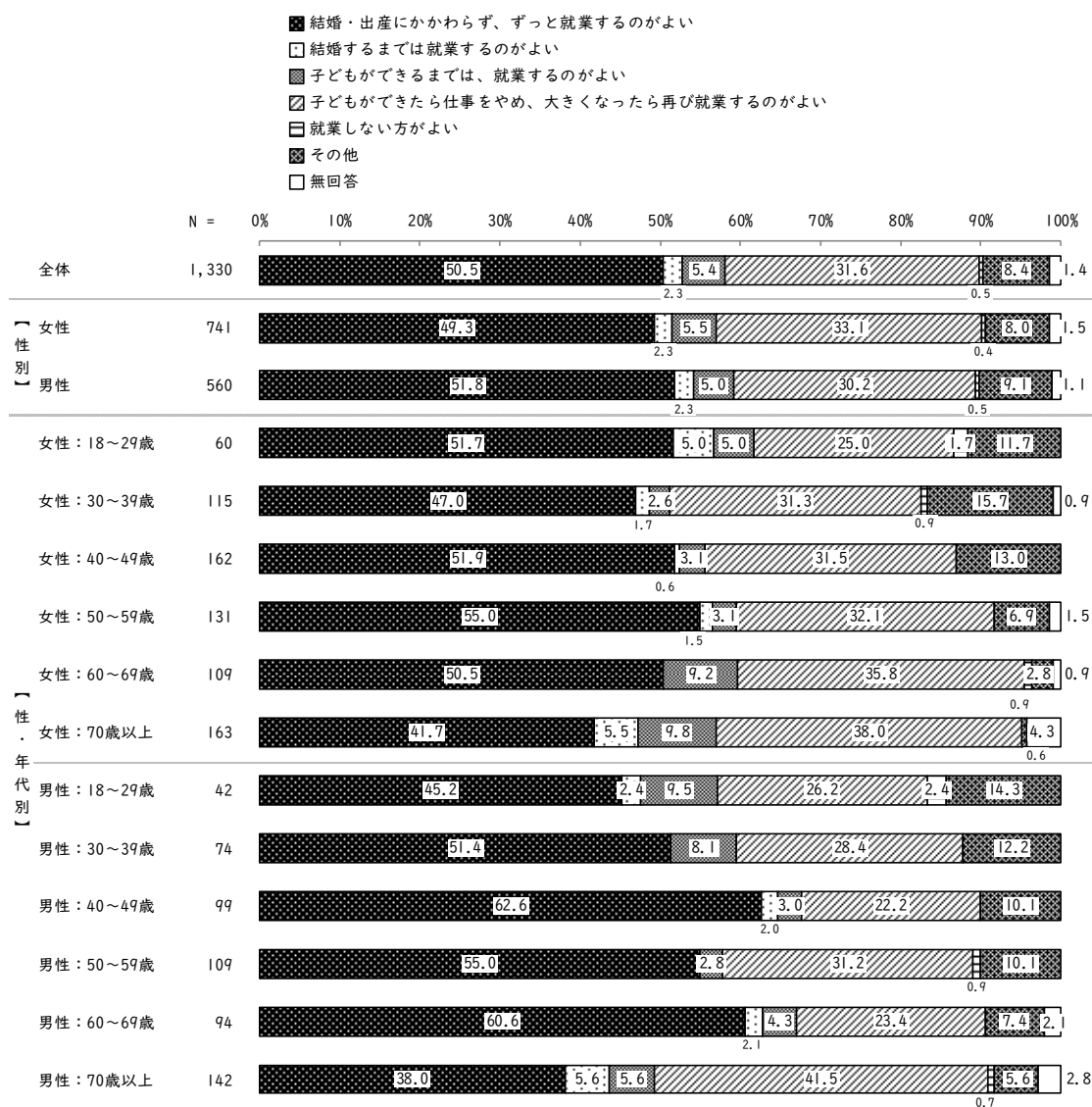
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

男女とも「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が最も高い

全体では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が50.5%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」(31.6%)、「子どもができるまでは、就業するのがよい」(5.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男女ともに「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」が最も高くなっている。

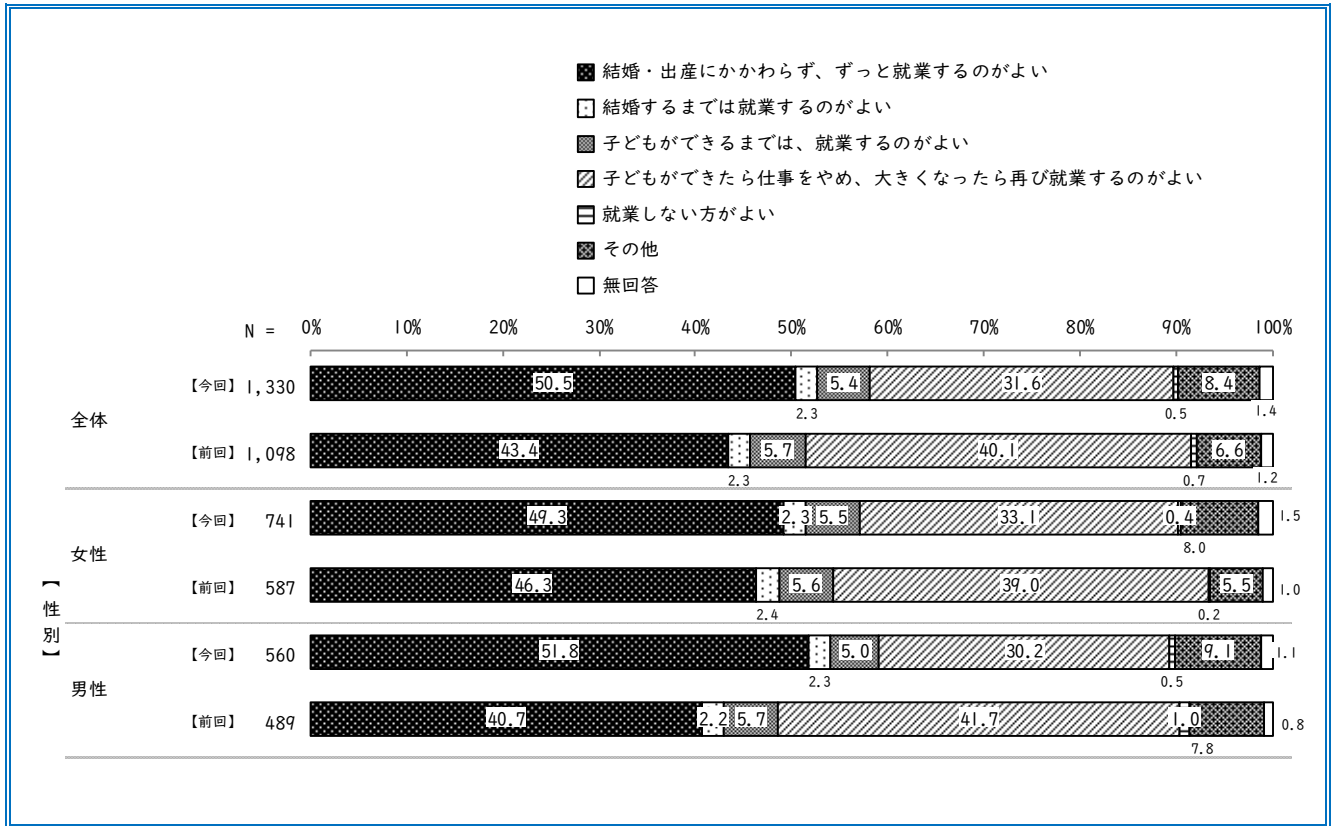
【性・年代別】で比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」と答えた人は「男性の40歳代」「60歳代」で6割を超える。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」の割合が7.1ポイント増加しており、初めて5割を超える結果となった。一方で、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい」の割合が8.5ポイント減少した。

【性別】で比較すると、男性では「結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい」という『職業継続型』が51.8%と前回調査からも11.1ポイントと特に大幅に増加している。



※現在、就業している方

【問8】就業する理由

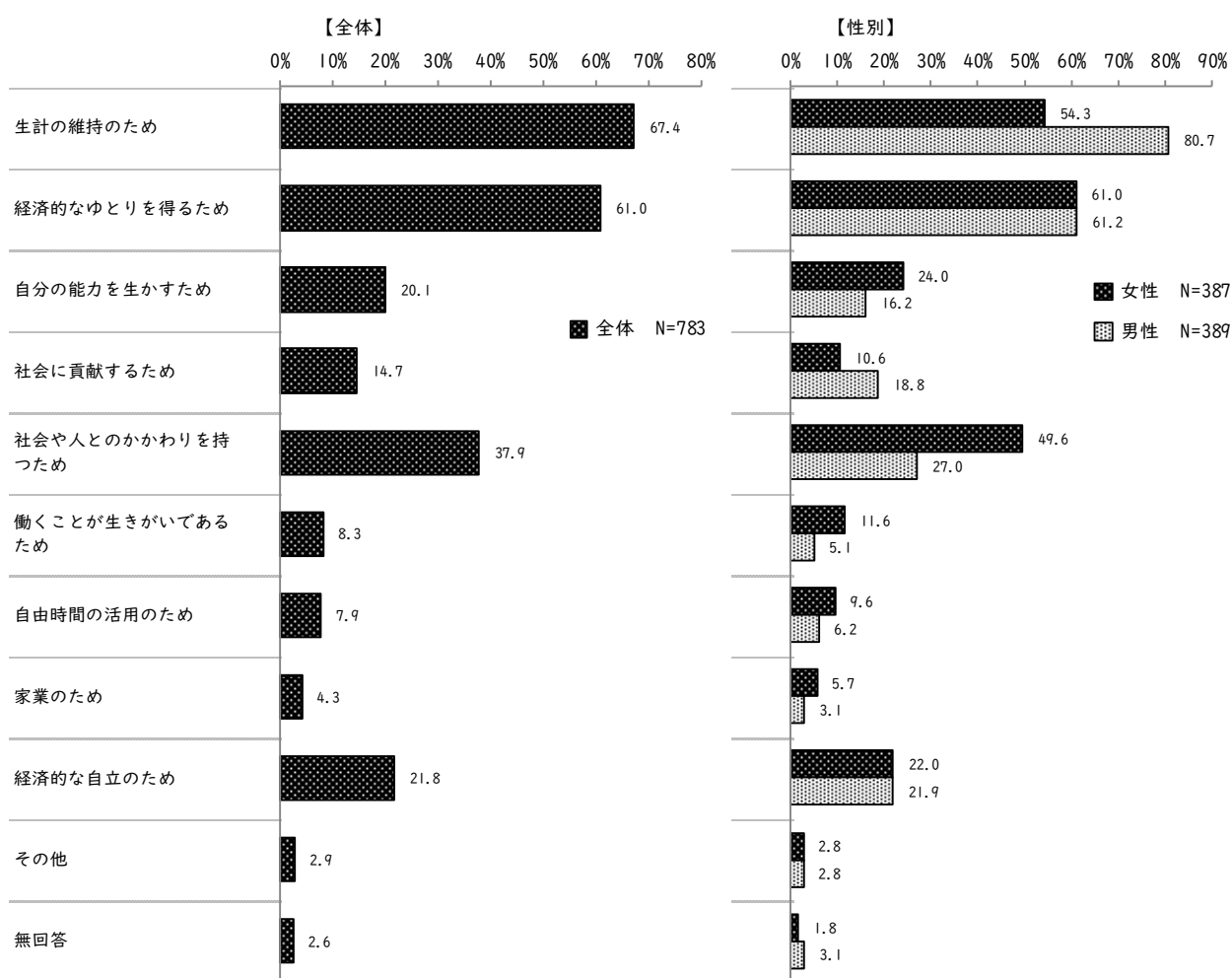
あなたが就業するのは、なぜですか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

●項目比較（主たる理由／全体、性別）

男女とも「生計の維持のため」が最も高いが、特に男性では理由の約8割を占める

全体では、「生計の維持のため」が67.4%と最も高く、次いで「経済的なゆとりを得るため」(61.0%)、「社会や人とのかかわりを持つため」(37.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男女ともに「生計の維持のため」「経済的なゆとりを得るため」が上位2項目としてあげられており、特に男性では女性を26.4ポイント上回っている。一方で、「社会や人とのかかわりを持つため」と答えた人は、女性が男性を22.6ポイント上回っている。



※現在、就業している方

【問9】職場での男女平等について

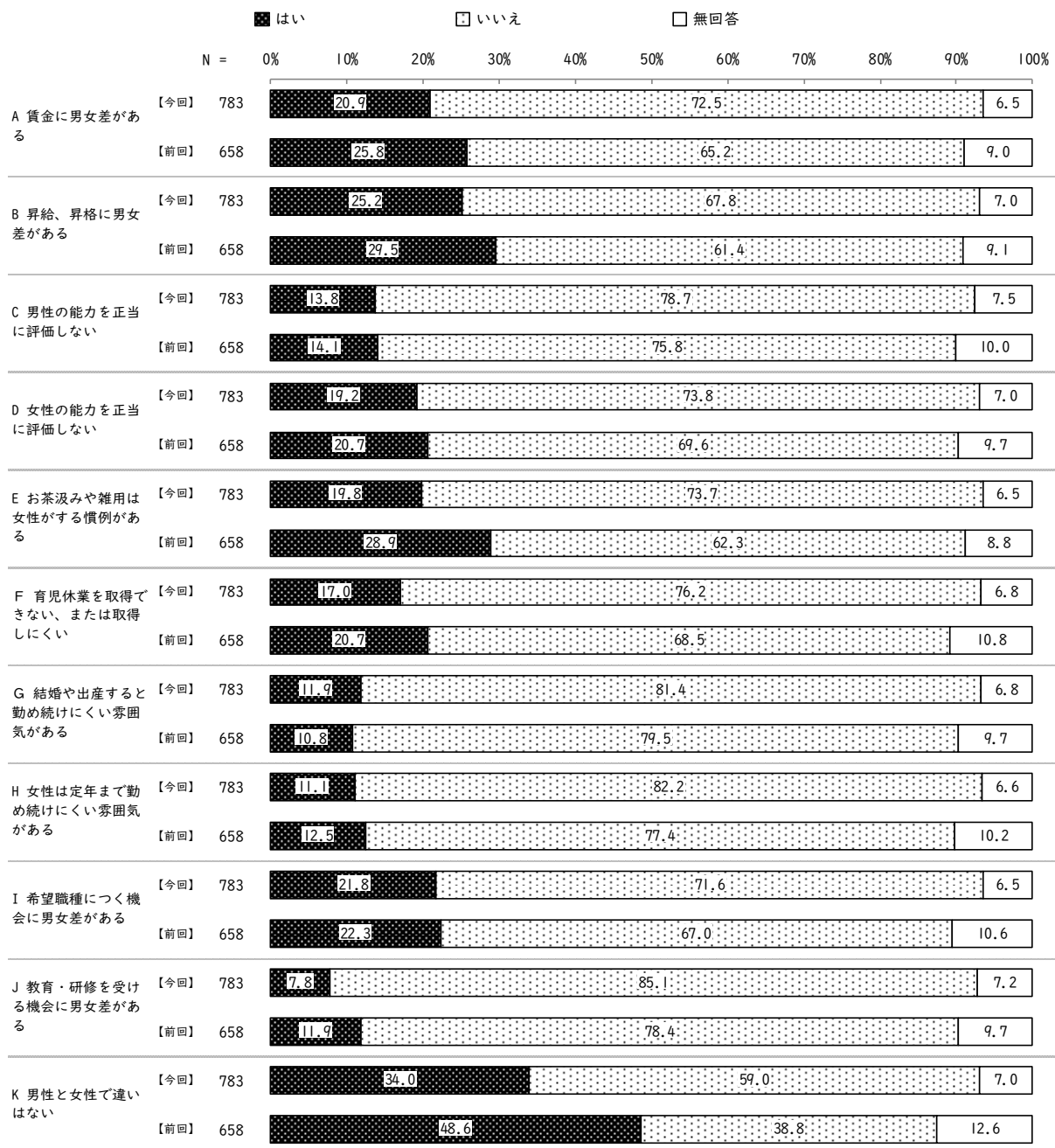
あなたの職場では、次のようなことはありますか。

(A～Lの項目ごとにあてはまる方に○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

「男性と女性で違いはない」は前回に比べて大幅に減少した

前回調査と比較すると、「はい」と答えた人は、「結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある」以外のすべての項目で減少した。しかし「男性と女性で違いはない」は前回調査に比べて14.6ポイント減少した。

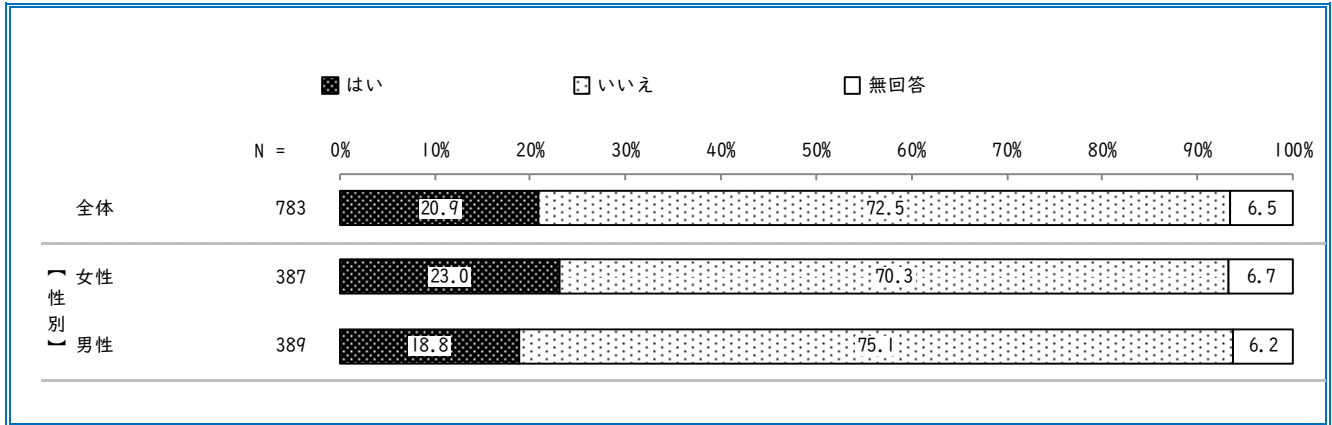


問9-A 賃金に男女差がある

賃金に男女差があると感じている人は約2割

全体では、「はい」が20.9%、「いいえ」が72.5%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では23.0%、男性では18.8%と、女性が男性を4.2ポイント上回っている。

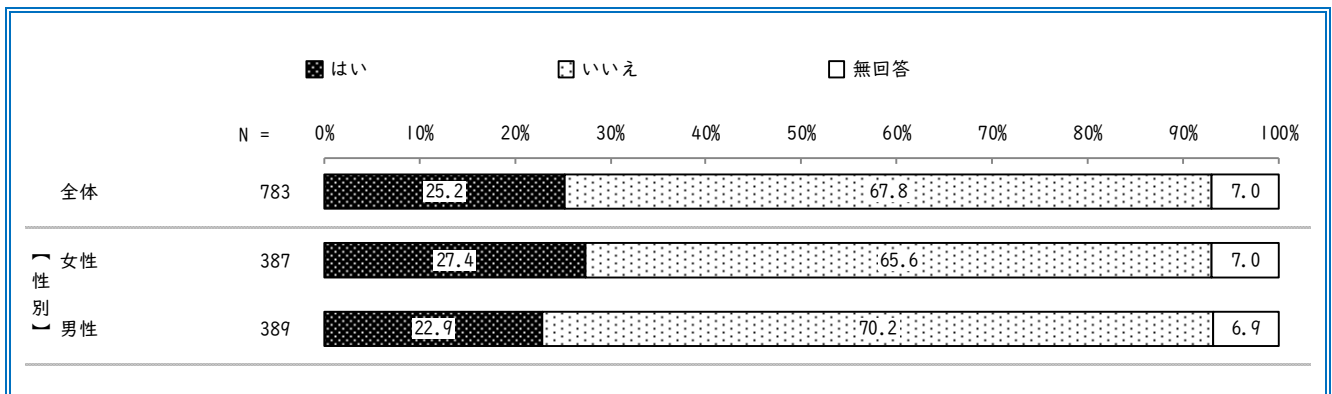


問9-B 昇給、昇格に男女差がある

昇級、昇格に男女差があると感じている人は約4人に1人の割合

全体では、「はい」が25.2%、「いいえ」が67.8%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では27.4%、男性では22.9%と、女性が男性を4.5ポイント上回っている。

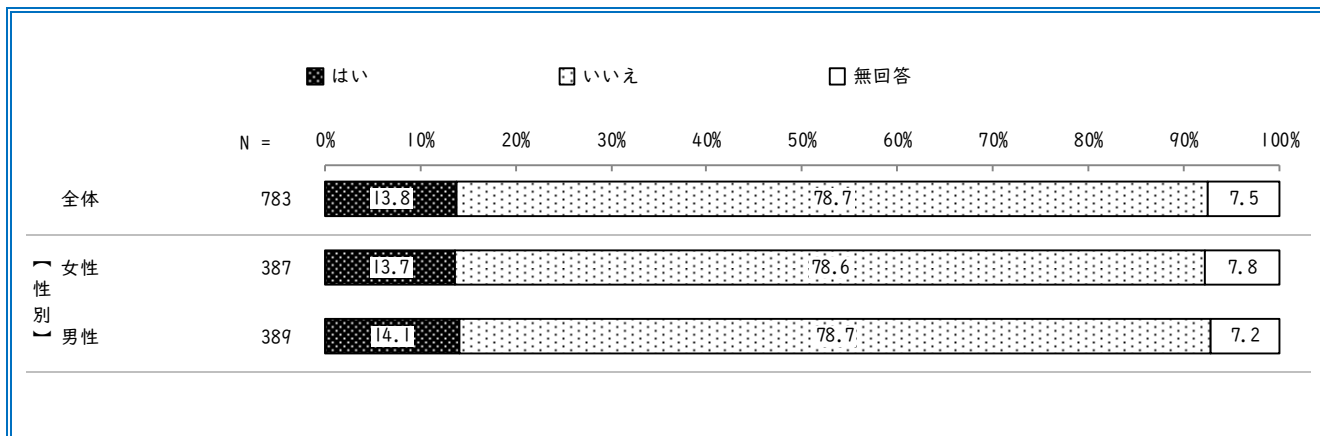


問9-C 男性の能力を正當に評価しない

男性の能力を正當に評価しないと感じている人は13.8%

全体では、「はい」が13.8%、「いいえ」が78.7%となっている。

【性別】で比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

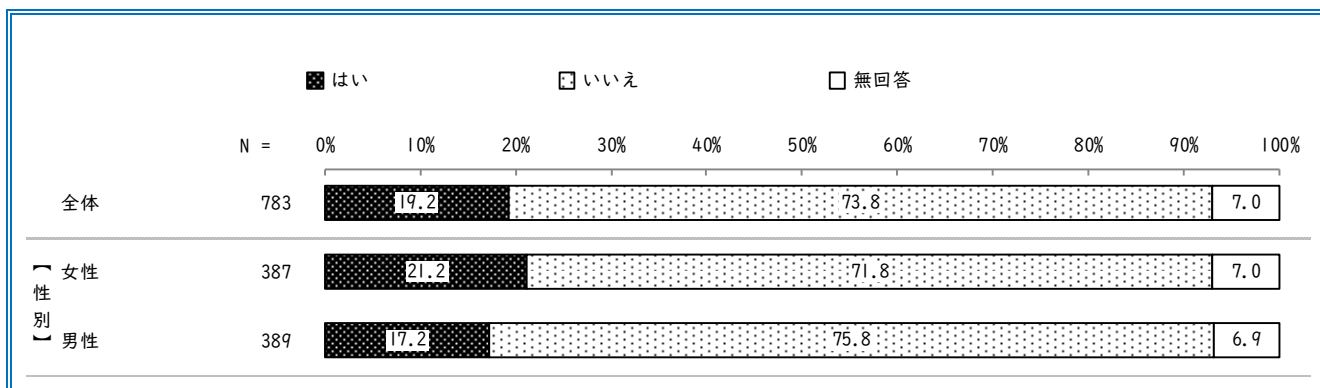


問9-D 女性の能力を正當に評価しない

女性の能力を正當に評価しないと感じている人は19.2%

全体では、「はい」が19.2%、「いいえ」が73.8%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では21.2%、男性では17.2%と、女性が男性を4.0ポイント上回っている。

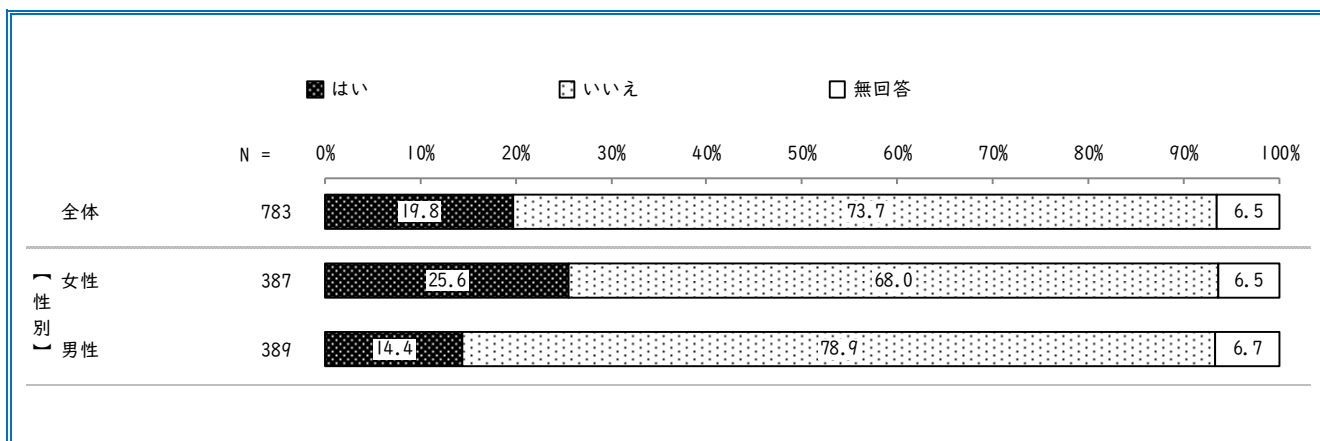


問9-E お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある

お茶汲みや雑用は女性がする慣例があると感じている人は19.8%

全体では、「はい」が19.8%、「いいえ」が73.7%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では25.6%、男性では14.4%と、女性が男性を11.2ポイント上回っており、男女間で意識の差があることがうかがえる。

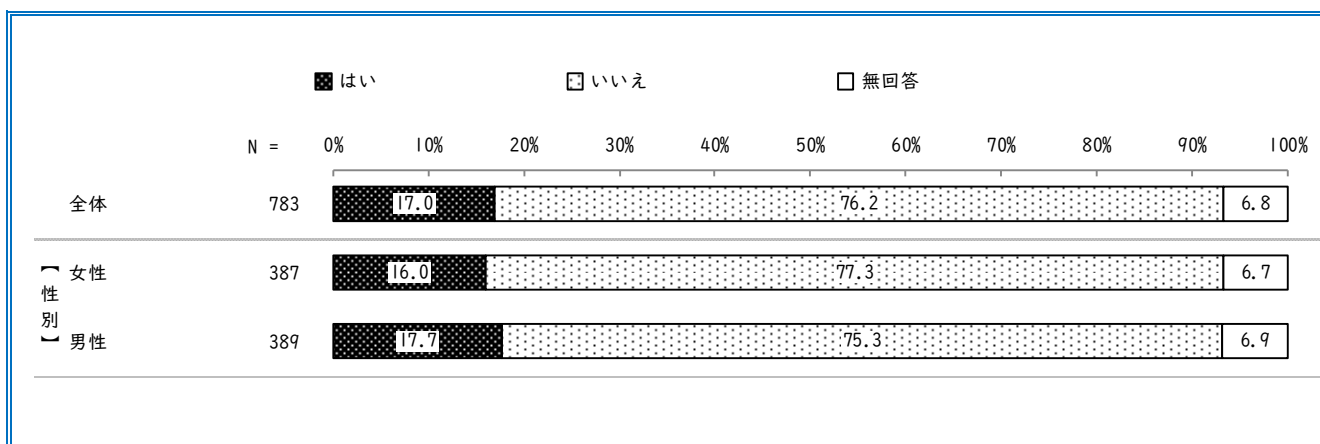


問9-F 育児休業を取得できない、または取得しにくい

育児休業を取得できない、または取得しにくいと感じている人は17.0%

全体では、「はい」が17.0%、「いいえ」が76.2%となっている。

【性別】で比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

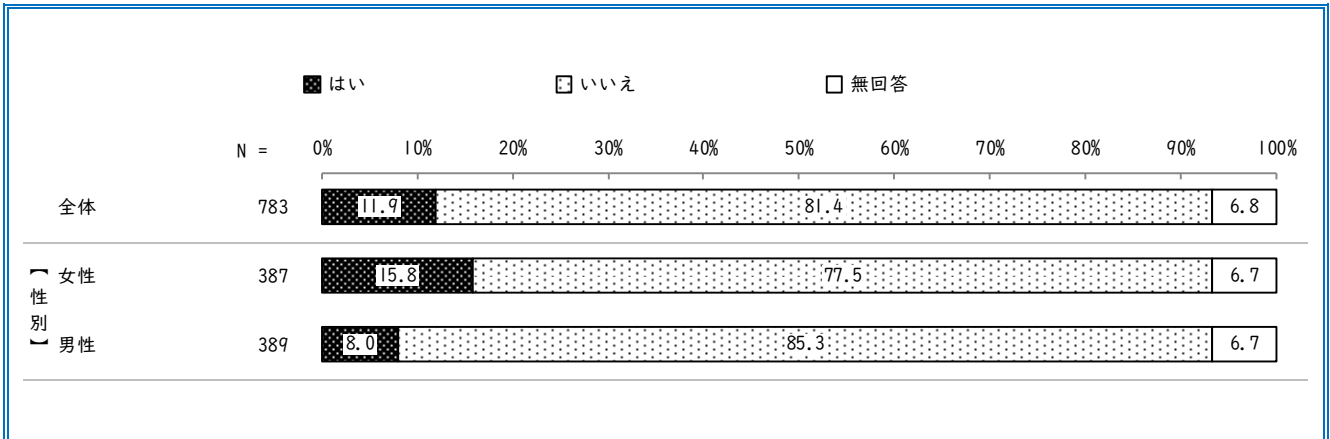


問9-G 結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある

結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気があると感じている人は11.9%

全体では、「はい」が11.9%、「いいえ」が81.4%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では15.8%、男性では8.0%と、女性が男性を7.8ポイント上回っており、男女間で意識の差があることがうかがえる。

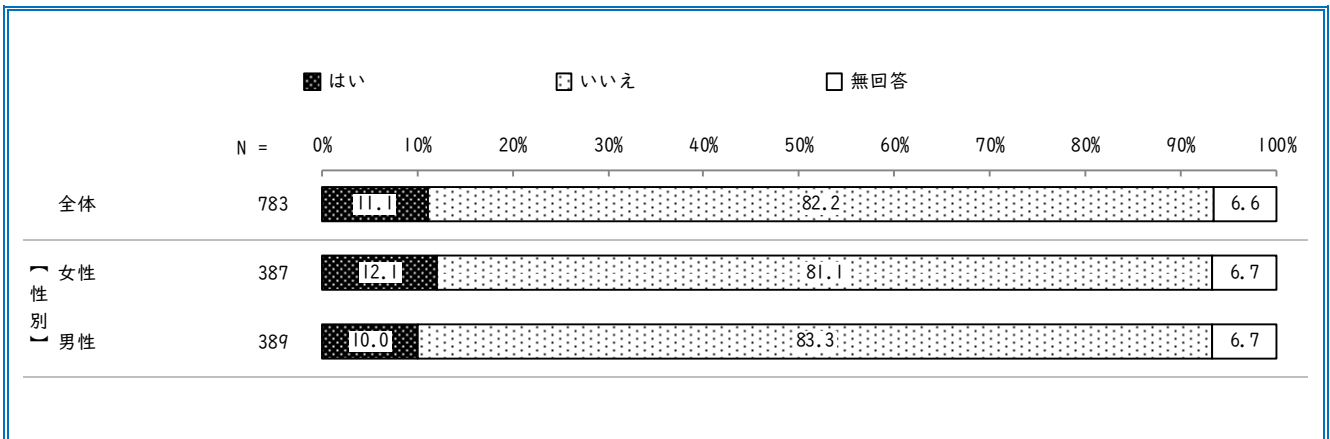


問9-H 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある

女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気があると感じている人は11.1%

全体では、「はい」が11.1%、「いいえ」が82.2%となっている。

【性別】で比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

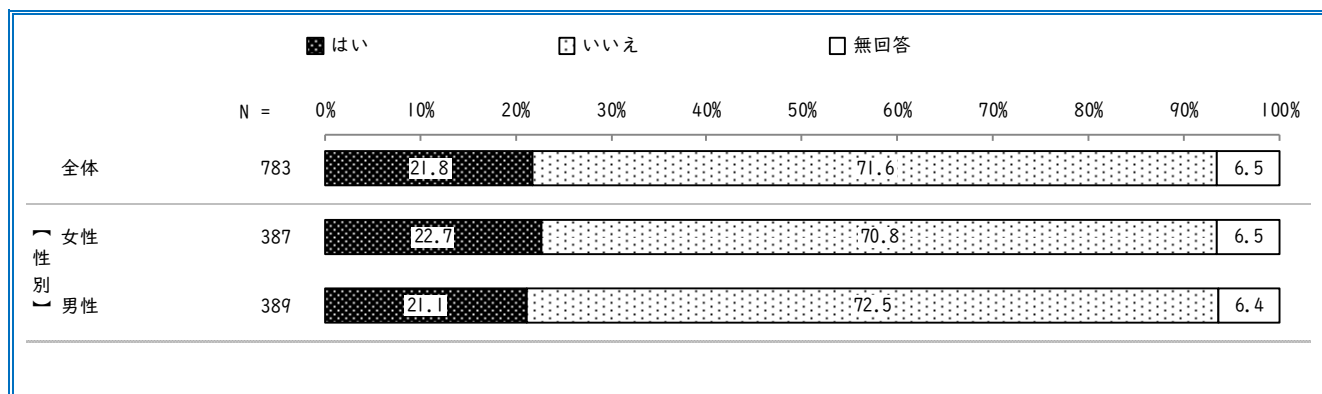


問9-I 希望職種につく機会に男女差がある

希望職種につく機会に男女差があると感じている人は21.8%

全体では、「はい」が21.8%、「いいえ」が71.6%となっている。

【性別】で比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

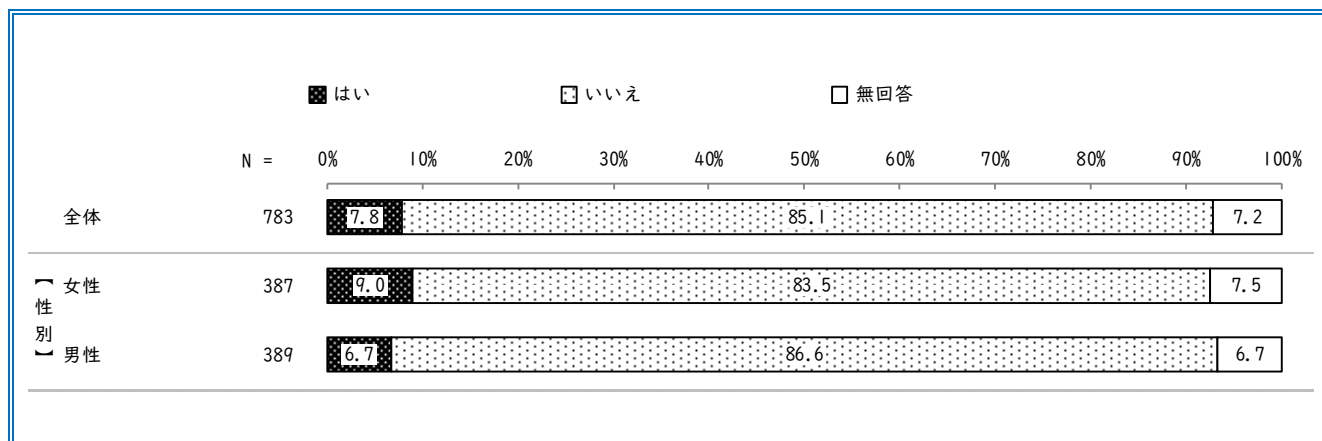


問9-J 教育・研修を受ける機会に男女差がある

教育・研修を受ける機会に男女差があると感じている人は7.8%

全体では、「はい」が7.8%、「いいえ」が85.1%となっている。

【性別】で比較すると、ほぼ同様の結果となっている。

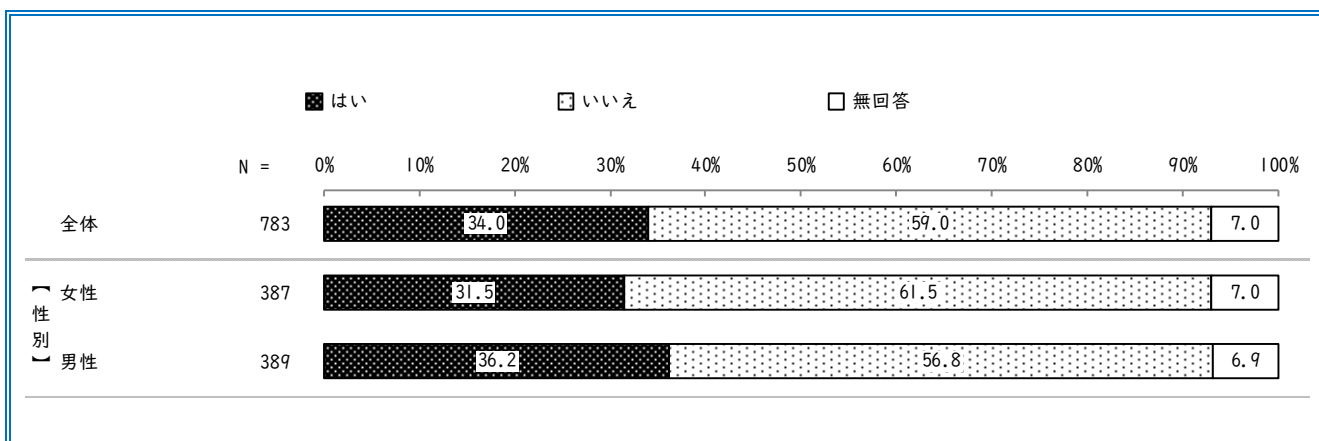


問9-K 男性と女性で違いはない

男性と女性で違いはないと感じている人は 34.0%

全体では、「はい」が 34.0%、「いいえ」が 59.0%となっている。

【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は女性では 31.5%、男性では 36.2%と、男性が女性を 4.7 ポイント上回っている。



【問 10】働くことができなかった経験の有無

あなたは、これまで（現在を含む）働き続けたいけれど、働くことができなかったことがありますか。
（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

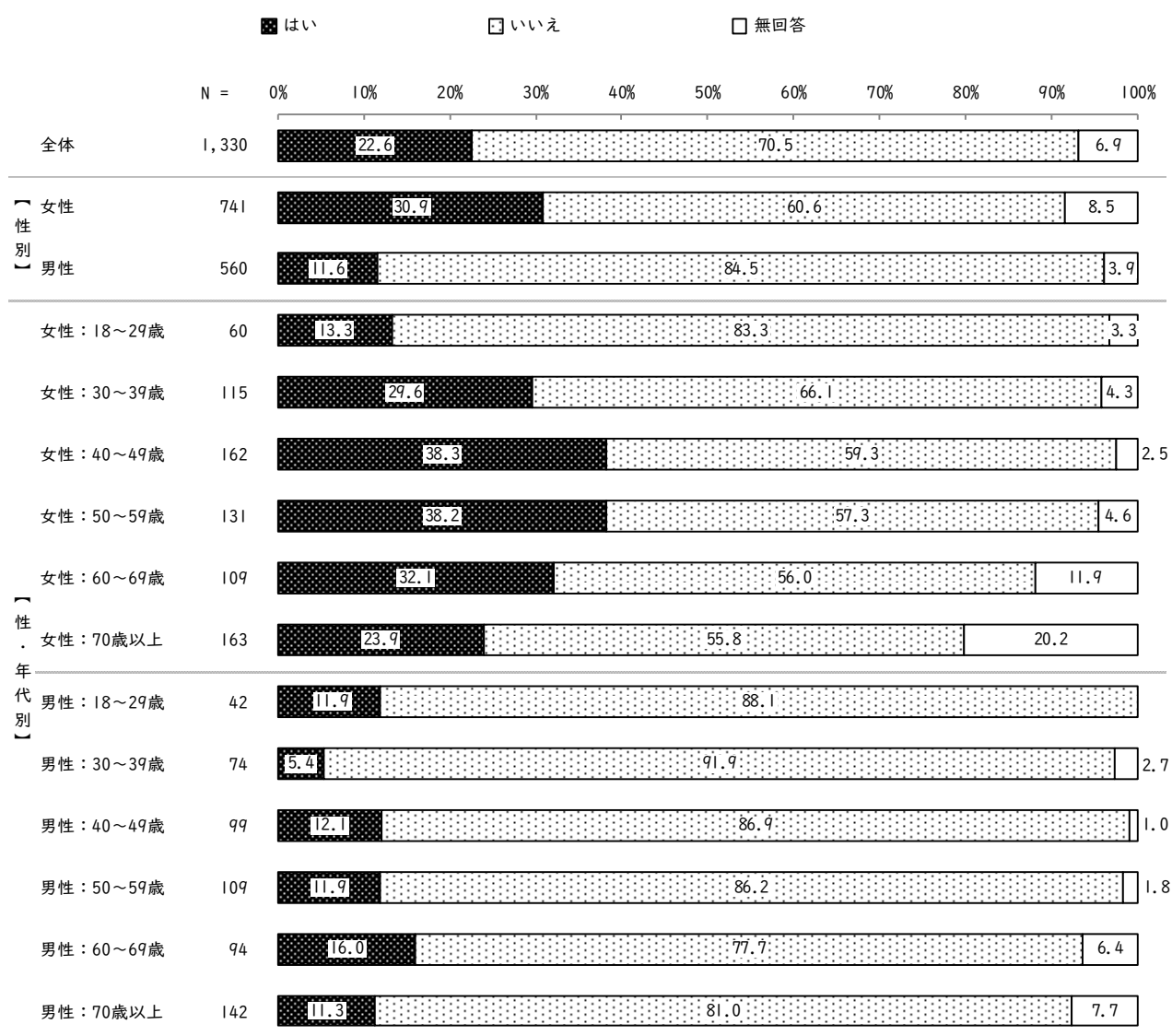
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

「働くことができなかった経験」のある人は女性の約3割

全体では、「はい」が22.6%、「いいえ」が70.5%となっている。

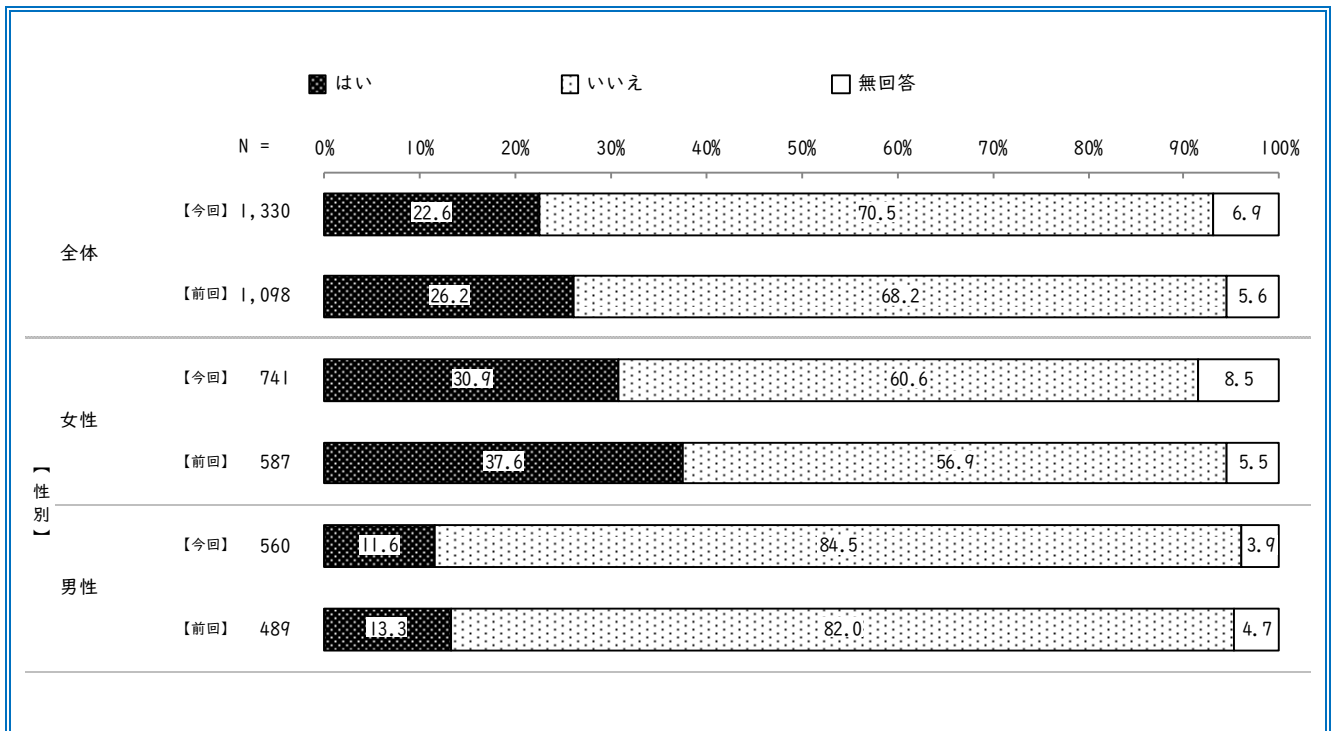
【性別】で比較すると、「はい」と答えた人は、女性で30.9%、男性で11.6%と、女性が男性を19.3ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、「はい」と答えた人が、女性の「40～60歳代」で3割を超えている。
また、30歳代では「はい」と答えた人の男女間の差が最も大きく、女性が男性を24.2ポイント上回っている。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、「はい」と答えた人は全体で 3.6 ポイント、女性で 6.7 ポイント減少している。



※働きたいけれど働くことができなかった方

【問 11】働けない理由

働きたいけれど働くことができなかったのは、なぜですか。

(あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

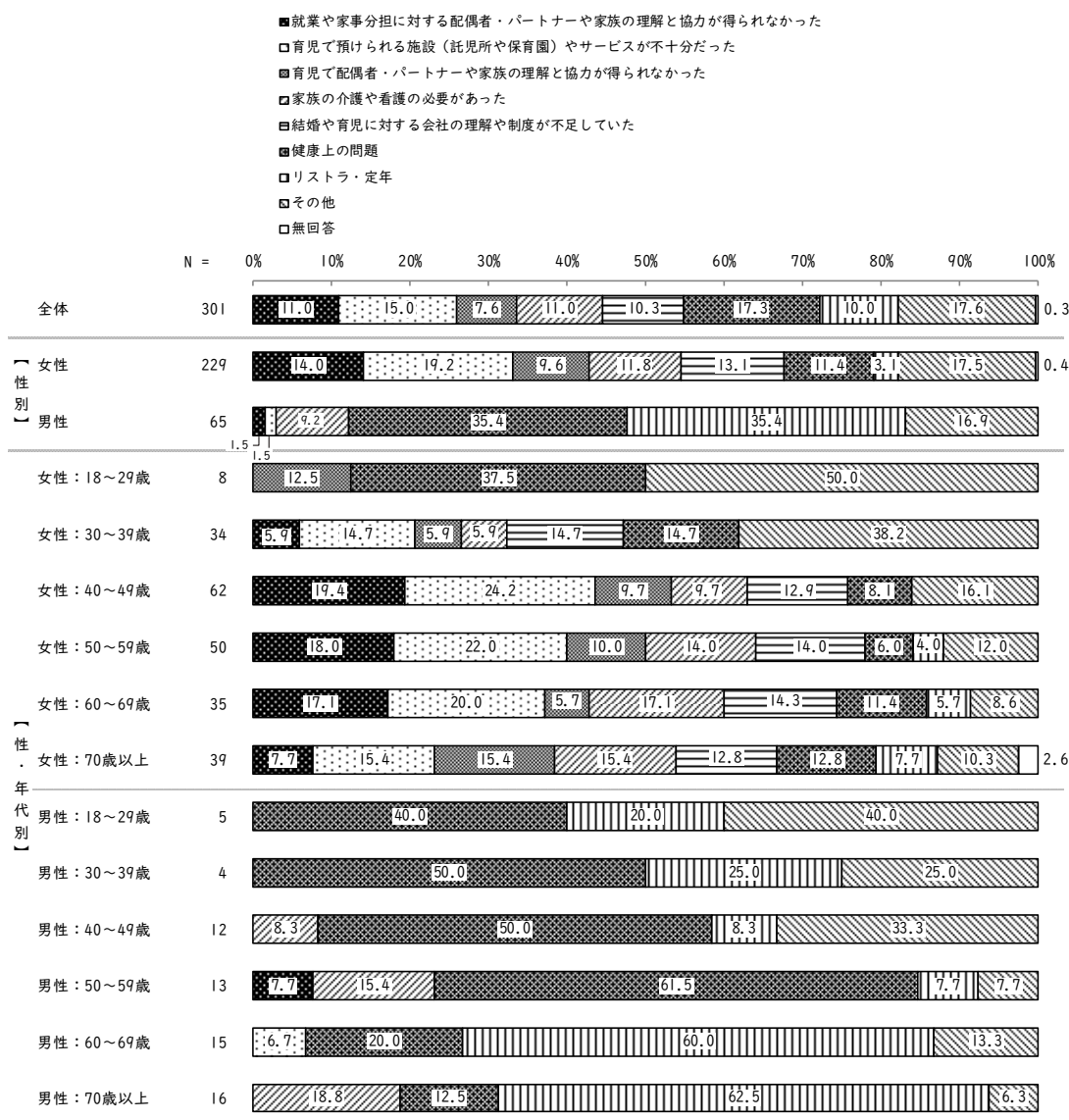
女性の働けない理由はさまざま

男性の理由は「健康上の問題」と「リストラ・定年」がともに 35.4%

全体では、「健康上の問題」が 17.3%と最も高く、次いで「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」（15.0%）、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」（11.0%）の順となっている。

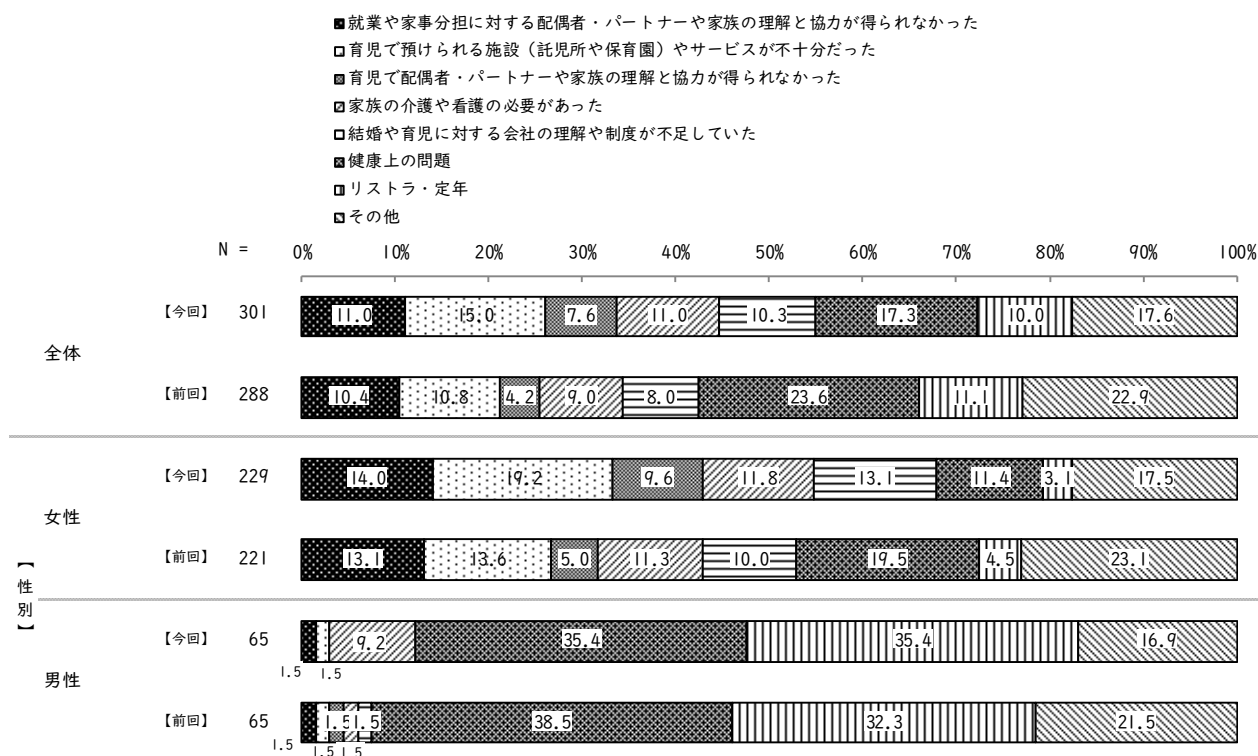
【性別】で比較すると、女性は、「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」が 19.2%、「就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」が 14.0%、「結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた」が 13.1%と続いている。

男性は、「健康上の問題」「リストラ・定年」が 35.4%となっている。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較して、「育児で預けられる施設（託児所や保育園）やサービスが不十分だった」「育児で配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった」などで、それぞれ4.2ポイント、3.4ポイント増加している。一方で、「健康上の問題」は6.3ポイント減少している。



※現在、就業している方及び以前就業していた方

【問 12】育児・介護関連休暇制度の利用状況

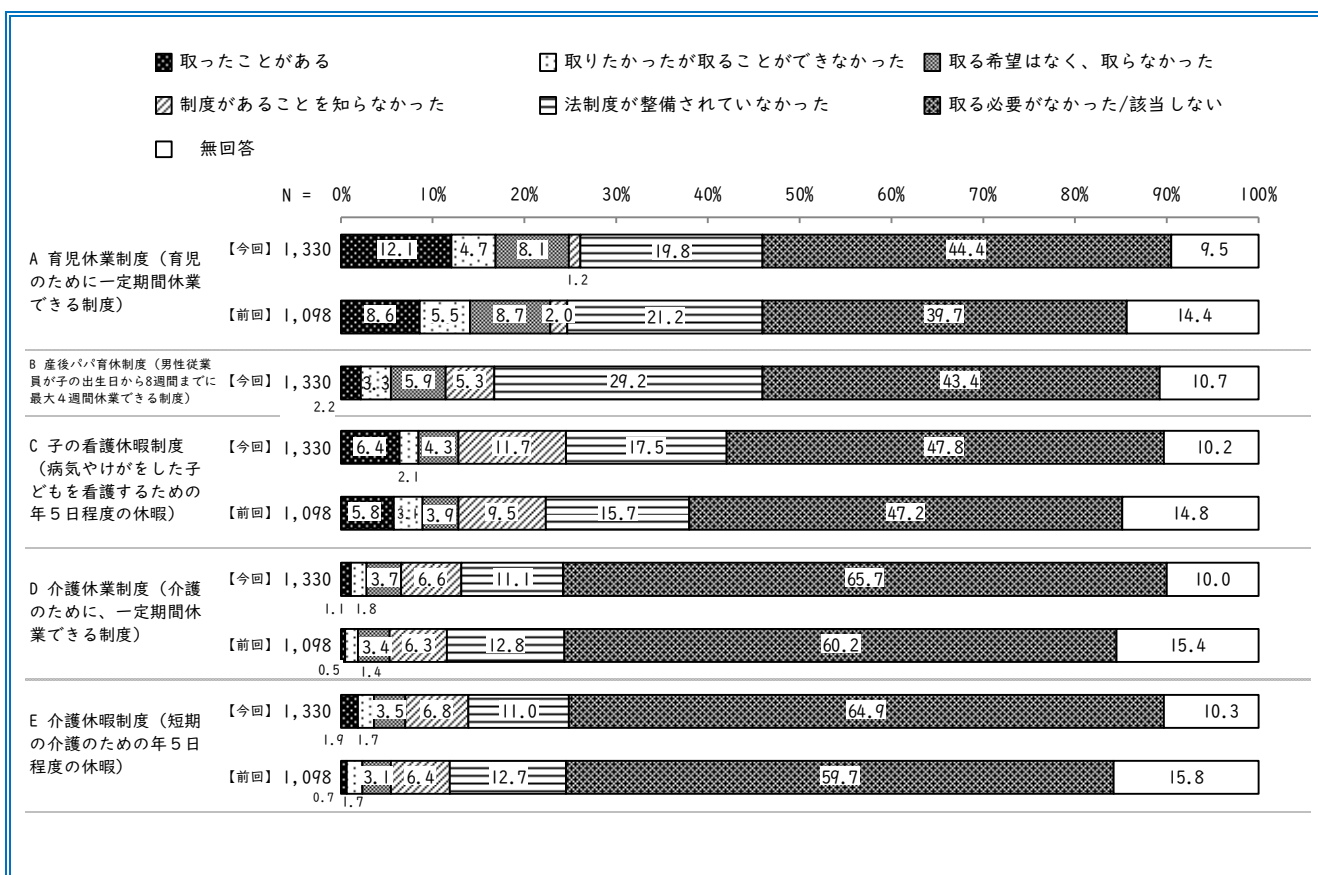
あなたは、職場で以下のような制度を使って休業や休暇を取ったことがありますか。

(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

育児休業制度の取得率は1割程度

前回調査と比較すると、「育児休業制度」の取得率が12.1%とやや増加したものの、全体的に特に大きな変化は見られない。

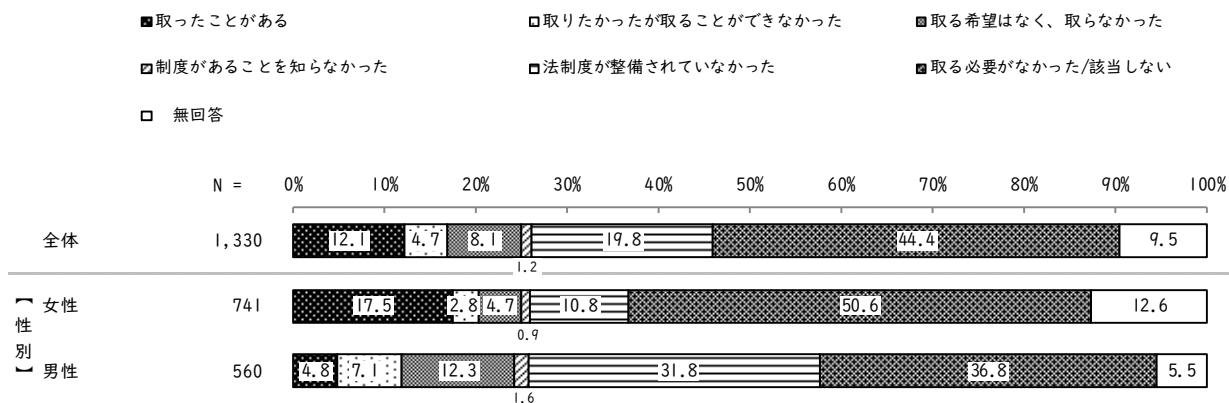


問12-A 育児休業制度

育休休業制度の取得率は女性で17.5%、男性で4.8%

【性別】で比較すると、「取ったことがある」と答えた人の割合は、女性で17.5%、男性で4.8%となっている。また、「取りたかったが取ることができなかった」と答えた人の割合は、女性で2.8%、男性で7.1%となっている。

「法制度が整備されていなかった」と答えた人の割合は、女性で10.8%、男性で31.8%となっている。

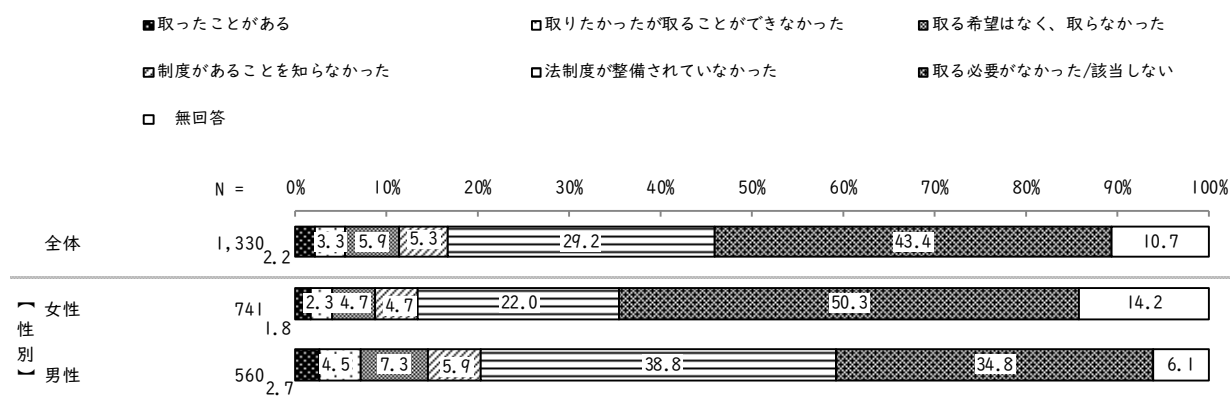


問12-B 産後パパ育休制度

産後パパ育休制度の取得率は女性で1.8%、男性で2.7%

【性別】で比較すると、「取ったことがある」と答えた人の割合は、女性で1.8%、男性で2.7%となっている。

「法制度が整備されていなかった」と答えた人の割合は、女性で22.0%、男性で38.8%となっている。

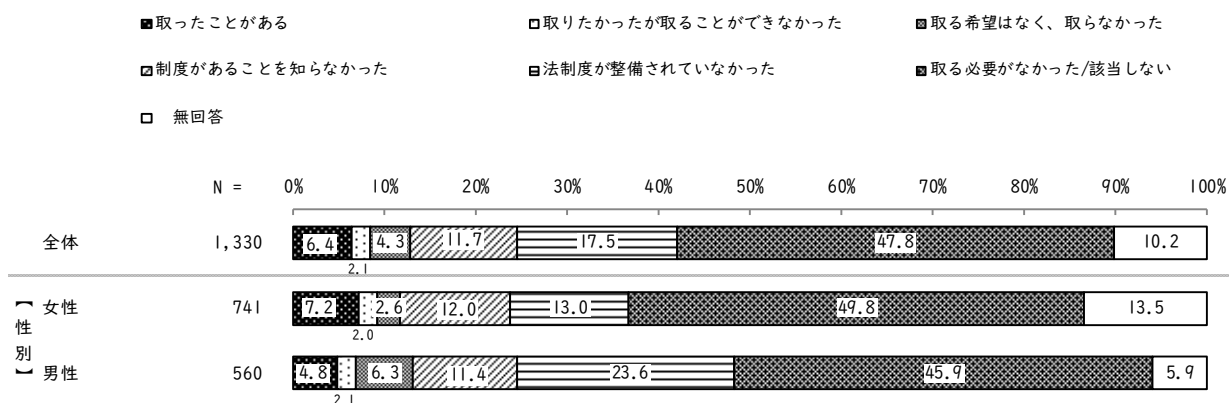


問12-C 子の看護休暇制度

子の看護休暇制度の取得率は女性で7.2%、男性で4.8%

【性別】で比較すると、「取ったことがある」と答えた人の割合は、女性で7.2%、男性で4.8%となっている。

「法制度が整備されていなかった」と答えた人の割合は、女性で13.0%、男性で23.6%となっている。

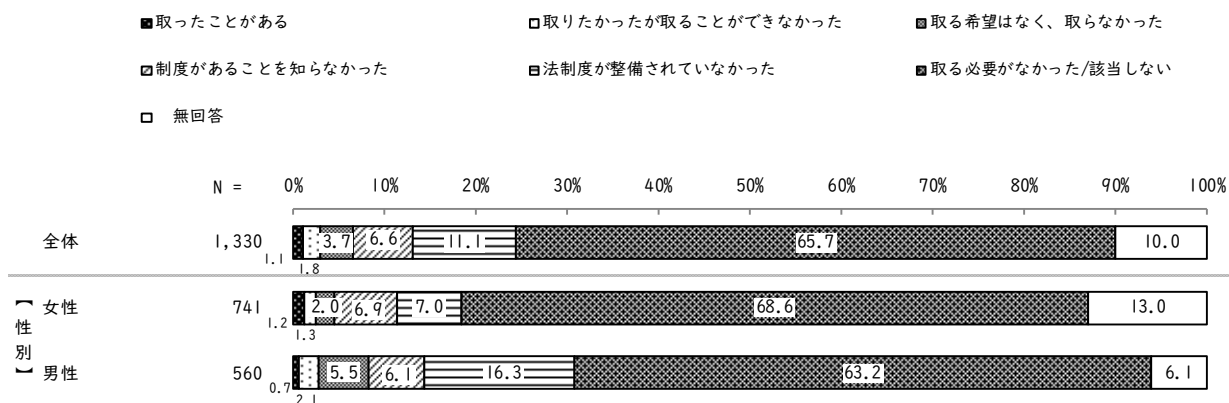


問12-D 介護休業制度

介護休業制度の取得率は女性で1.2%、男性で0.7%

【性別】で比較すると、「取ったことがある」と答えた人の割合は、女性で1.2%、男性で0.7%となっている。

「法制度が整備されていなかった」と答えた人の割合は、女性で7.0%、男性で16.3%となっている。

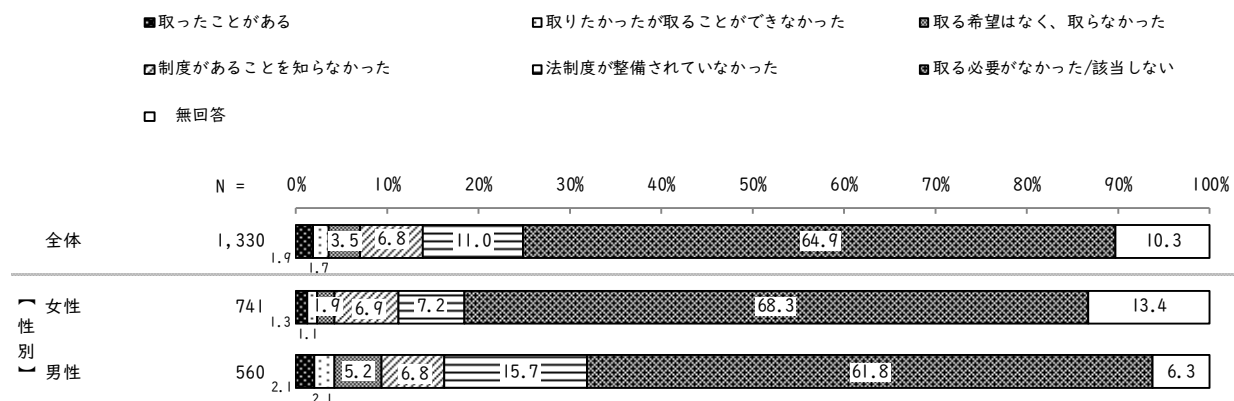


問12-E 介護休暇制度

介護休暇制度の取得率は女性で1.3%、男性で2.1%

【性別】で比較すると、「取ったことがある」と答えた人の割合は、女性で1.3%、男性で2.1%となっている。

「法制度が整備されていなかった」と答えた人の割合は、女性で7.2%、男性で15.7%となっている。



※休業や休暇を取らなかった、または取りたかったが取ることができなかった方

【問 13】休暇制度を利用しなかった理由

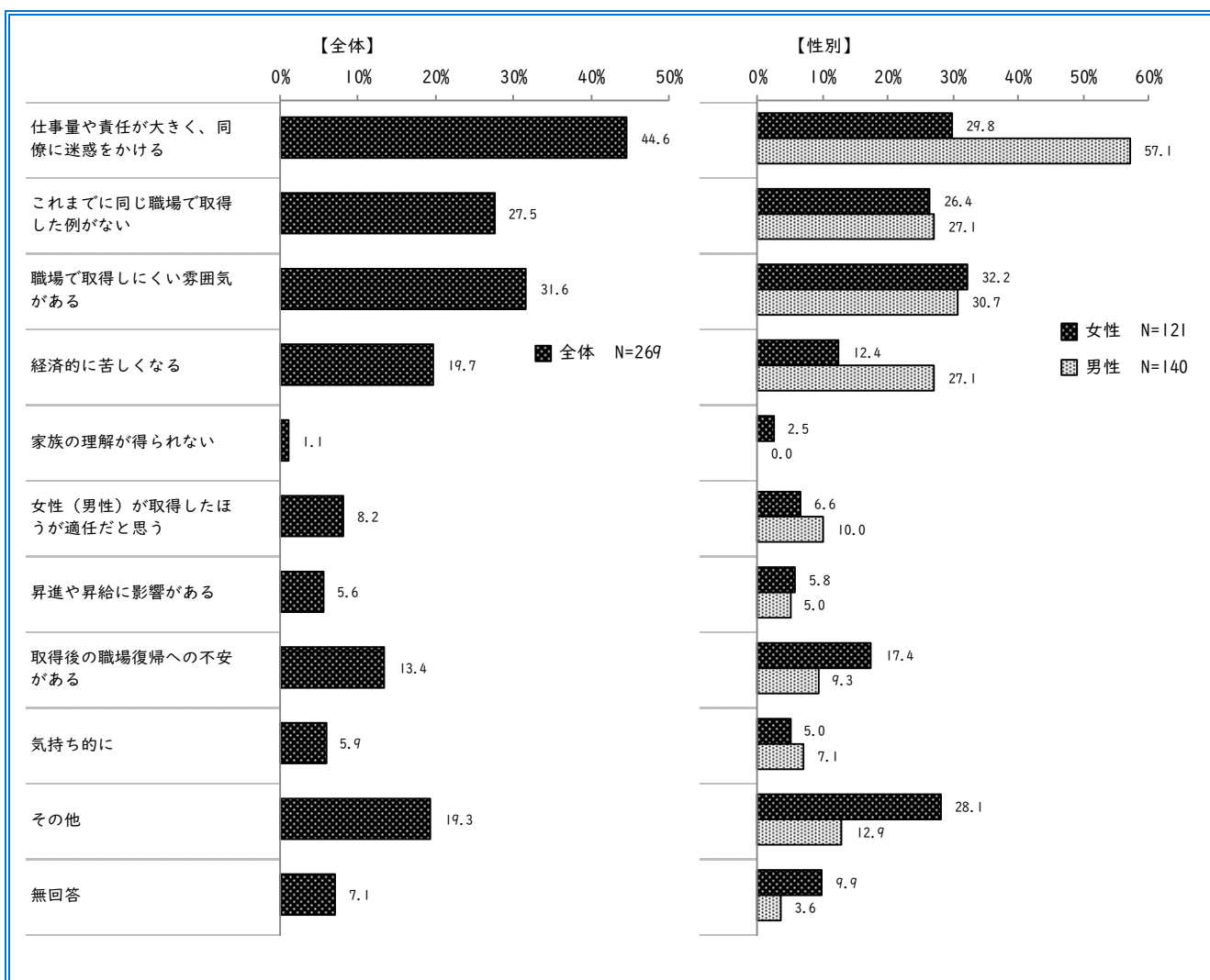
あなたが、育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取らなかったのは、なぜですか。
(あてはまる番号3つまでに○をつけてください。)

●項目比較（特に主たる理由／全体、性別）

「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が最も高い

全体では、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」が44.6%と最も高く、次いで「職場で取得しにくい雰囲気がある」(31.6%)、「これまでに同じ職場で取得した例がない」(27.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける」、「経済的に苦しくなる」では男性が高く、「取得後の職場復帰への不安がある」では女性が高くなっている。



3 子どもの教育について

【問 14】女の子と男の子の育て方について

「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

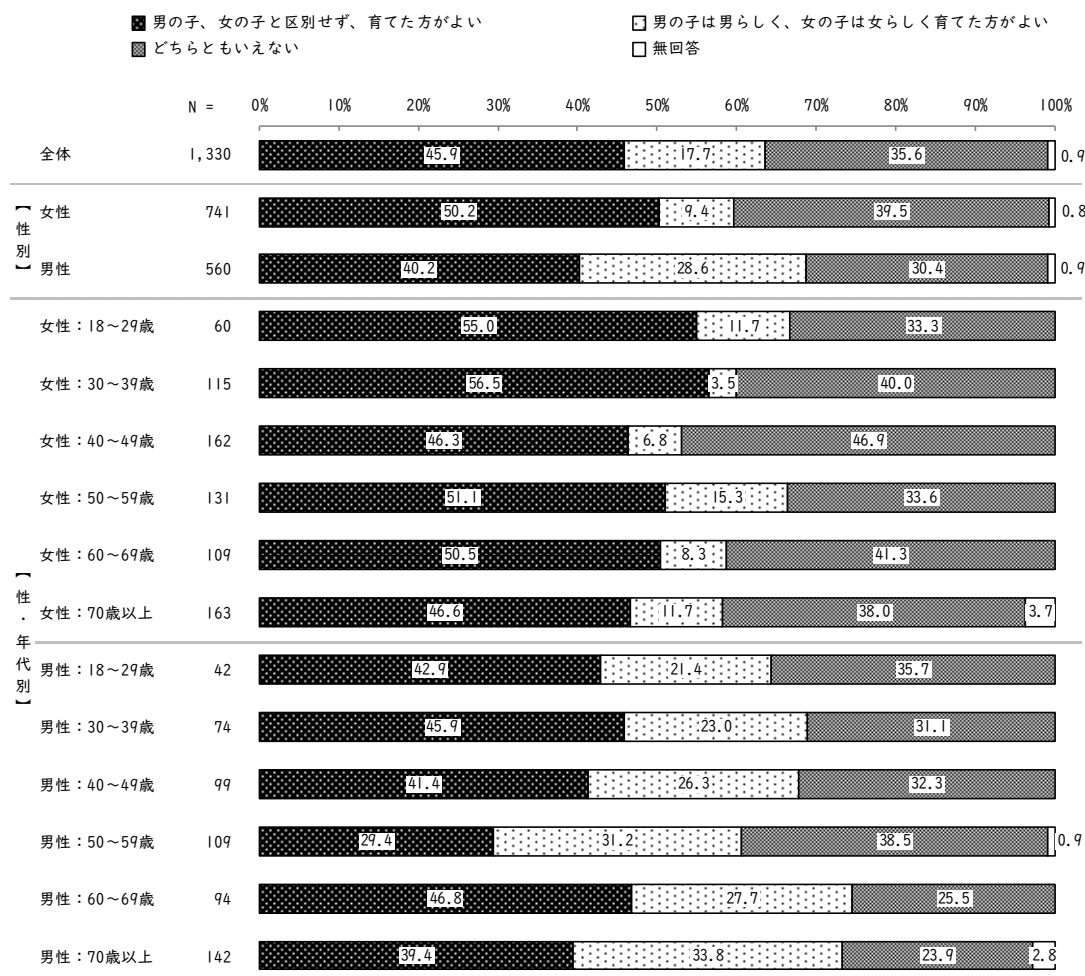
全体、男女ともに「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が最も高いが、
男性では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」が約3割

全体では、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が45.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」(35.6%)、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」(17.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、男女とも「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が最も高くなっているものの、男性は女性に比べて10ポイント低くなっている。また、男性では「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」と答えた人が28.6%と、女性の9.4%を大きく上回っているのが特徴的である。

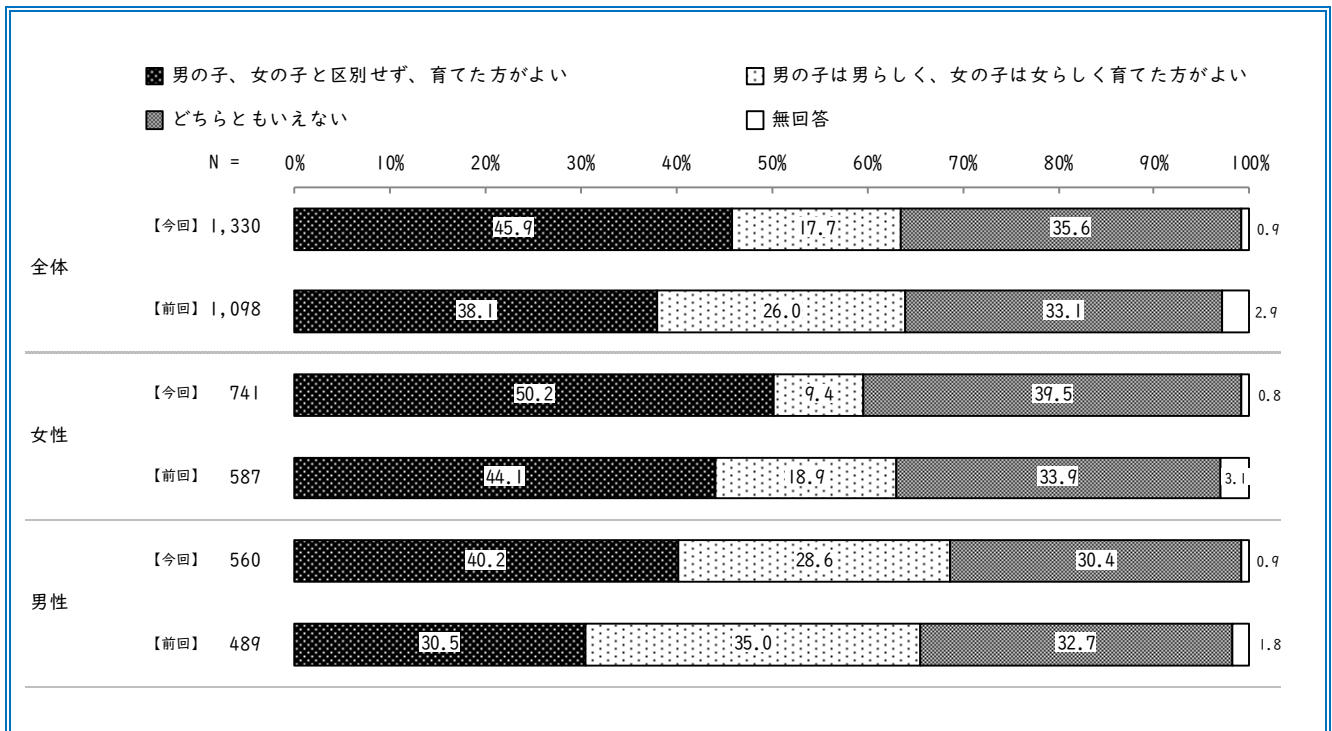
【性・年代別】で比較すると、女性ではいずれの年齢層においても「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が4割を超えている。

男性では、「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と答えた人が「50歳代」で低く29.4%となっている。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、全体・男女ともに「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」が増加している。



【問 15】子どもに身につけてほしいと思うこと

あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。
 (<女の子の場合><男の子の場合>について、
 それぞれあてはまる番号3つまで○をつけてください。男女同じ番号を選んでも構いません。)

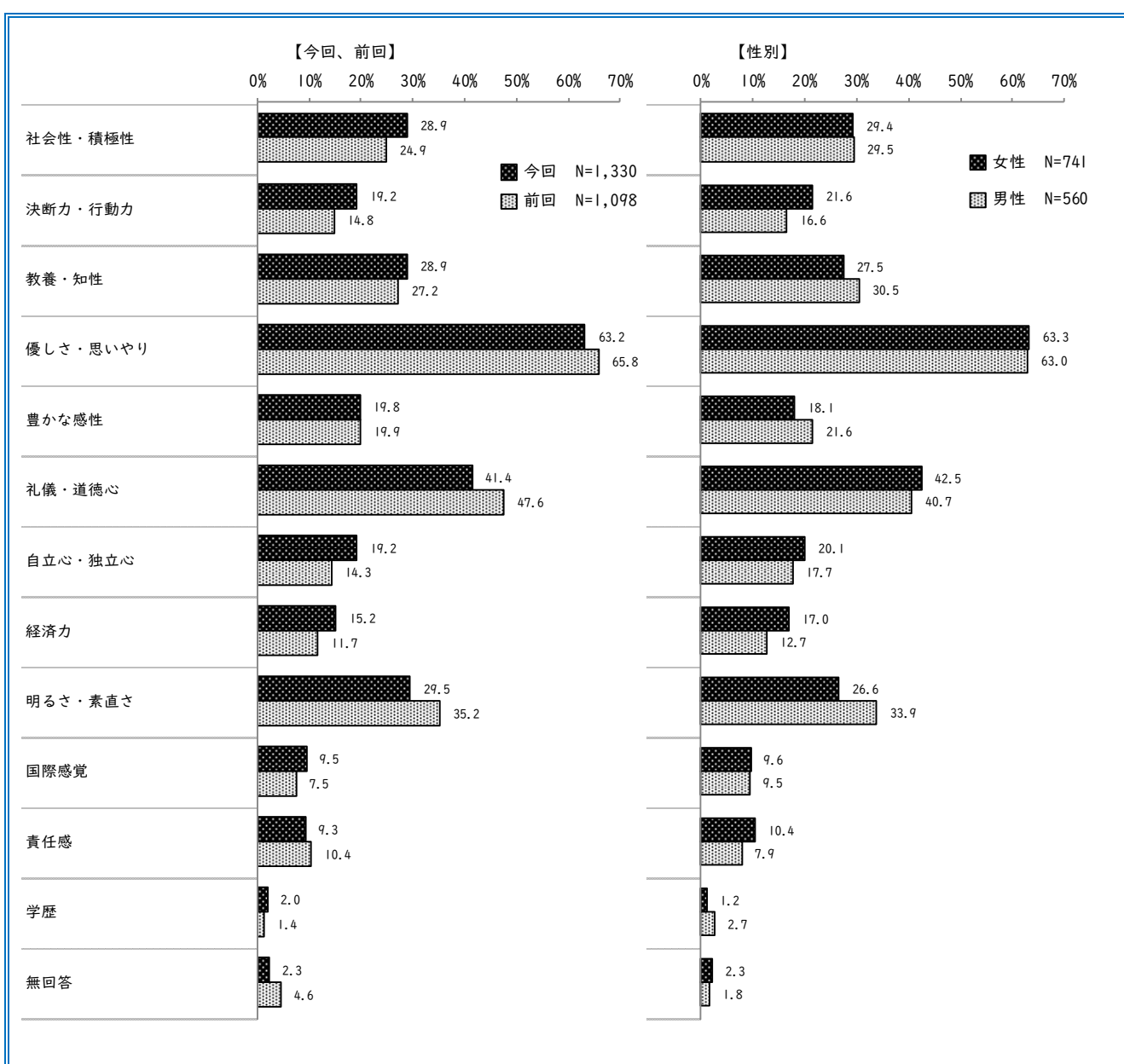
●女の子の場合（全体、前回調査比較、性別）

「優しさ・思いやり」が6割を超えている

全体では、「優しさ・思いやり」が63.2%と最も高く、次いで「礼儀・道徳心」(41.4%)、「明るさ・素直さ」(29.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、女性は女の子に対し「決断力・行動力」、男性は「明るさ・素直さ」について期待している割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「自立心・独立心」「決断力・行動力」「社会性・積極性」が増加しているのに対し、「礼儀・道徳心」「明るさ・素直さ」などが減少している。



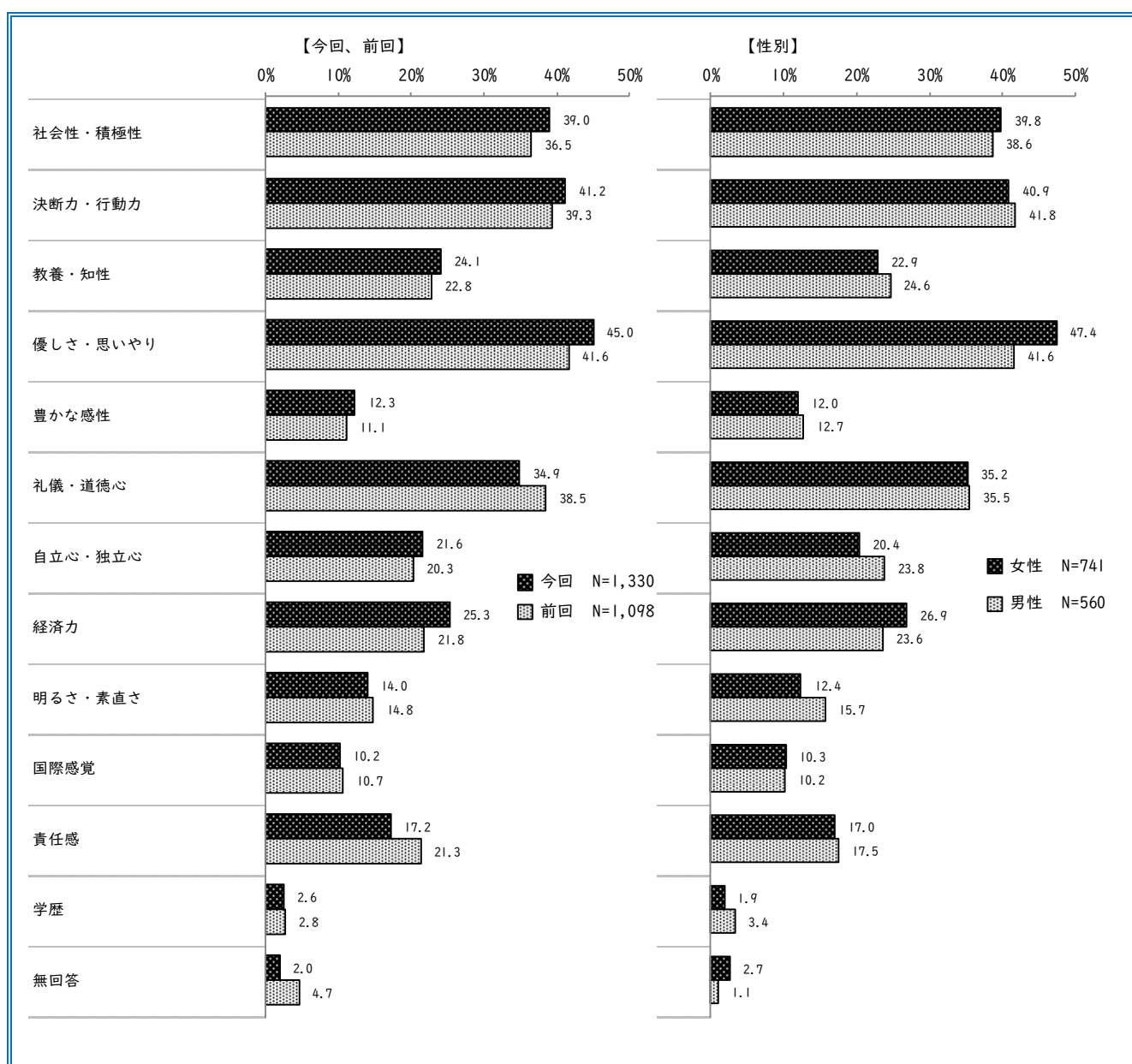
●男の子の場合（全体、前回調査比較、性別）

「優しさ・思いやり」「決断力・行動力」「社会性・積極性」が4割前後
次いで「礼儀・道徳心」が3割台半ば

全体では、「優しさ・思いやり」が45.0%と最も高く、次いで「決断力・行動力」（41.2%）、「社会性・積極性」（39.0%）の順となっている。

【性別】で比較すると、女性の方が男の子に対し「優しさ・思いやり」について期待している割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、概ね増加している項目が多い中、「礼儀・道徳心」「責任感」などが減少している。



※問 14 で「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した方

●項目比較（女の子の場合、男の子の場合）

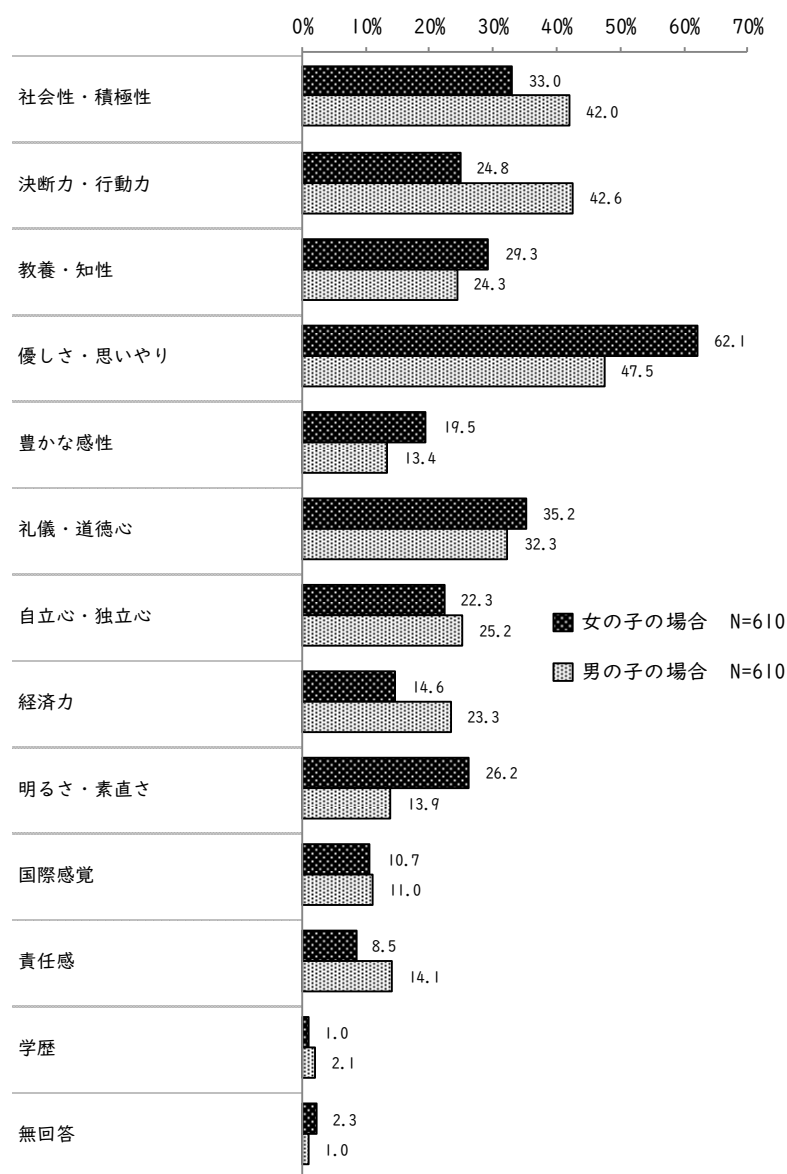
これからの子どもに身につけてほしいと思う項目で女の子と男の子の間で開きが大きいの
 「優しさ・思いやり」「明るさ・素直さ」（女の子への期待が高い）
 「決断力・行動力」（男の子への期待が高い）

男の子、女の子と区別せず、育てた方がよいと回答した方に限定しても、女の子の場合には「優しさ・思いやり」が 14.6 ポイント、「明るさ・素直さ」が 12.3 ポイント高く、「豊かな感性」「教養・知性」なども男の子の場合に比べて高くなっている。

男の子の場合には「決断力・行動力」は 17.8 ポイント、「社会性・積極性」が 9.0 ポイント、「経済力」が 8.7 ポイント、「責任感」「自立心・独立心」なども女の子の場合に比べて高くなっている。

「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した人でも、男の子と女の子により差がみられることから、性別による無意識な思い込み（アンコンシャス・バイアス）が影響している可能性がある。

※問 14 で「男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい」と回答した方



【問 16】学校教育の場で力を入れるべきこと

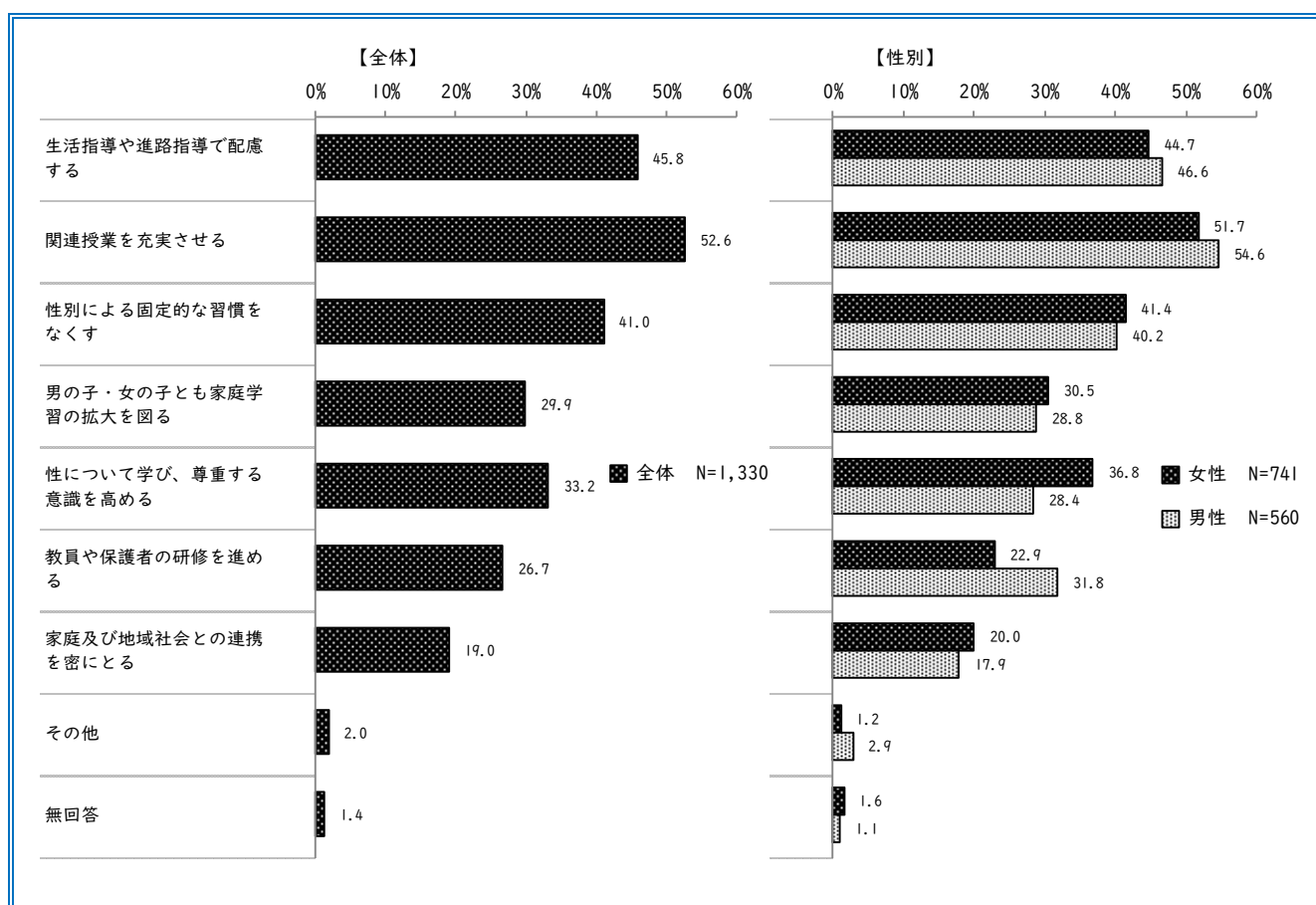
あなたは、男女に関わりなくお互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別）

「関連授業を充実させる」の割合が最も高く、
次いで「生活指導や進路指導で配慮する」の割合が高い

全体では、「関連授業を充実させる」が 52.6%と最も高く、次いで「生活指導や進路指導で配慮する」(45.8%)、「性別による固定的な習慣をなくす」(41.0%)の順になっている。

【性別】で比較すると、男女とも「関連授業を充実させる」「生活指導や進路指導で配慮する」「性別による固定的な習慣をなくす」が上位3項目としてあげられている。また、「性について学び、尊重する意識を高める」は女性が男性を 8.4 ポイント上回っているのに対し、「教員や保護者の研修を進める」は男性が女性を 8.9 ポイント上回っている。



4 男女平等・人権意識について

【問 17】さまざまな場における男女の地位

あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

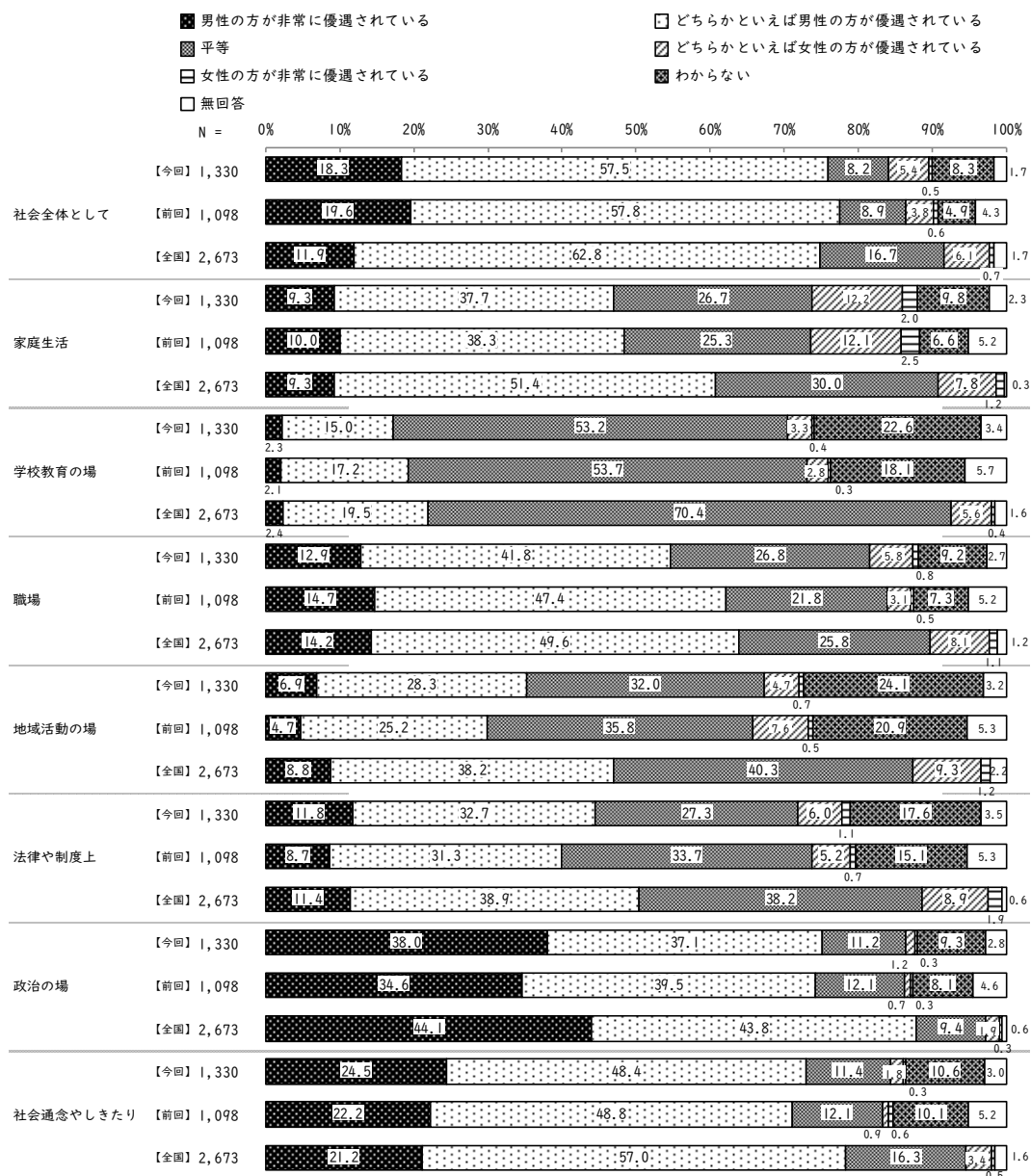
(A～Hの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回・全国調査比較）

「学校教育の場」では「平等」が半数以上だが、全体的に『男性優遇』の割合が高い

前回調査と比較すると、『男性優遇』の割合が「職場」で7.4ポイント改善されている。一方で、「地域活動の場」「法律や制度上」などでは、それぞれ5.3ポイント、4.5ポイント悪化している。

全国調査と比較すると、「平等」と答えた人の割合は、「職場」「政治の場」以外では全国平均より下回っている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人

『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

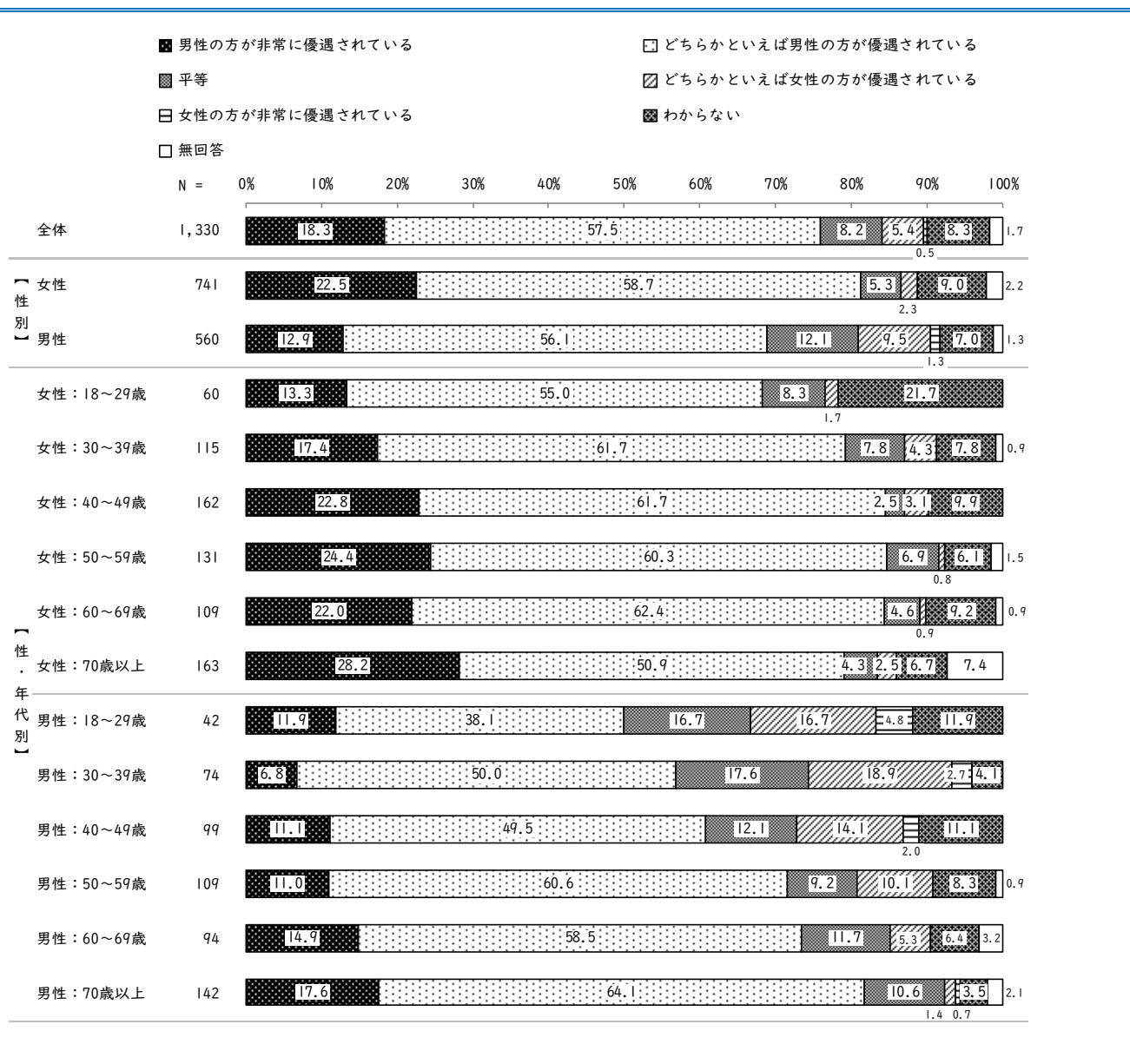
問 17-A 社会全体として

『男性優遇』75.8% > 「平等」8.2% > 『女性優遇』5.9%
「平等」と答えた人の割合 女性 5.3%<男性 12.1% 6.8 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 57.5%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(18.3%)、「平等」(8.2%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 81.2%、男性で 69.0%となっており、女性が 12.2 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「40～60 歳代」で『男性優遇』の割合が高くなっている。また、男性では年齢が上がるとともに『男性優遇』の割合が増加する傾向にある。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

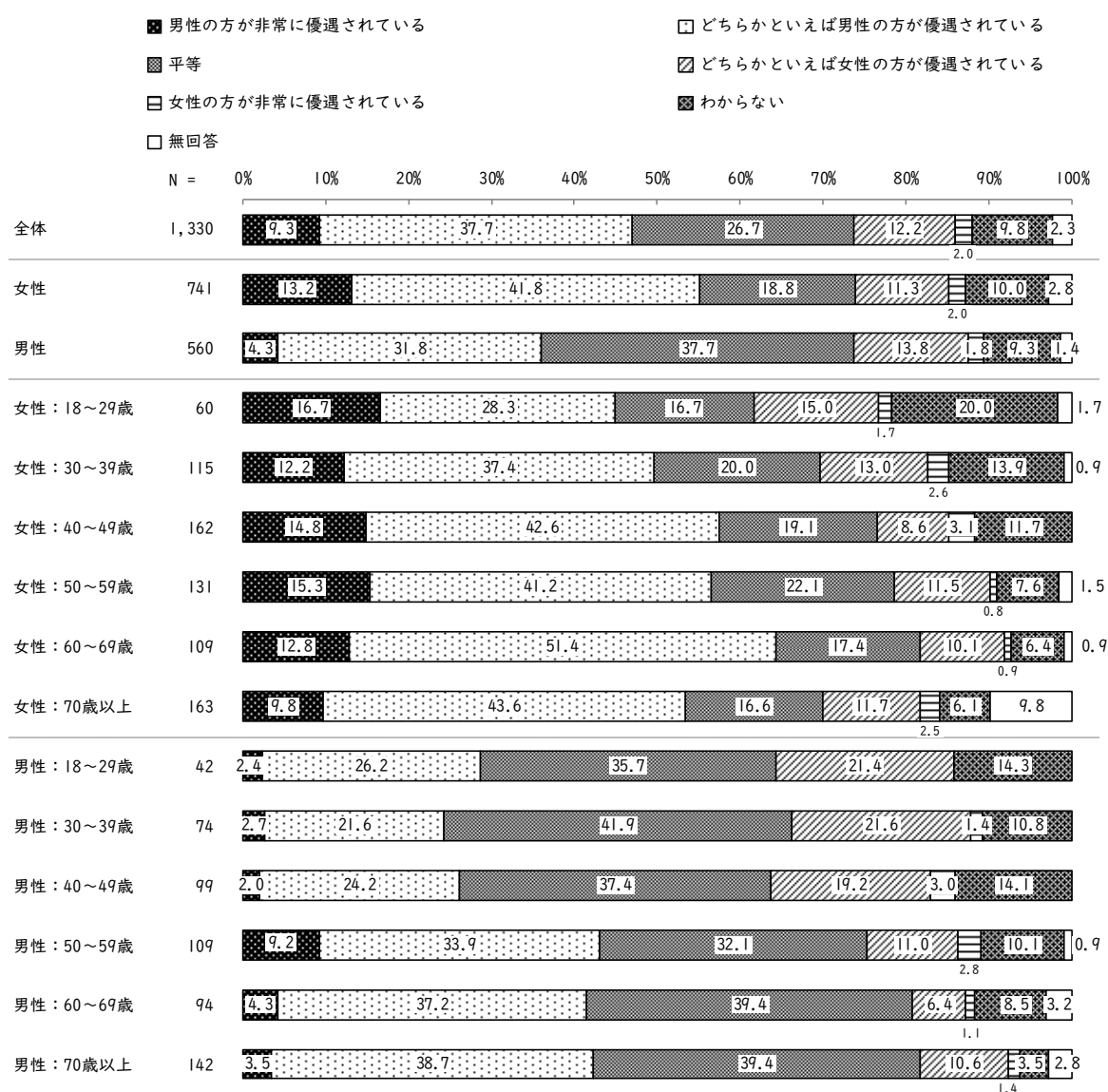
問 17-B 家庭生活

『男性優遇』47.0% > 「平等」26.7% > 『女性優遇』14.2%
「平等」と答えた人の割合 女性 18.8% < 男性 37.7% 18.9 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 37.7% と最も高く、次いで「平等」(26.7%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(12.2%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 55.0%、男性で 36.1% となっており、女性が 18.9 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「40 歳代以上」で『男性優遇』の割合が高く、5 割を超えている。また、男性では「50 歳代以上」で『男性優遇』の割合が高く 4 割を超えている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

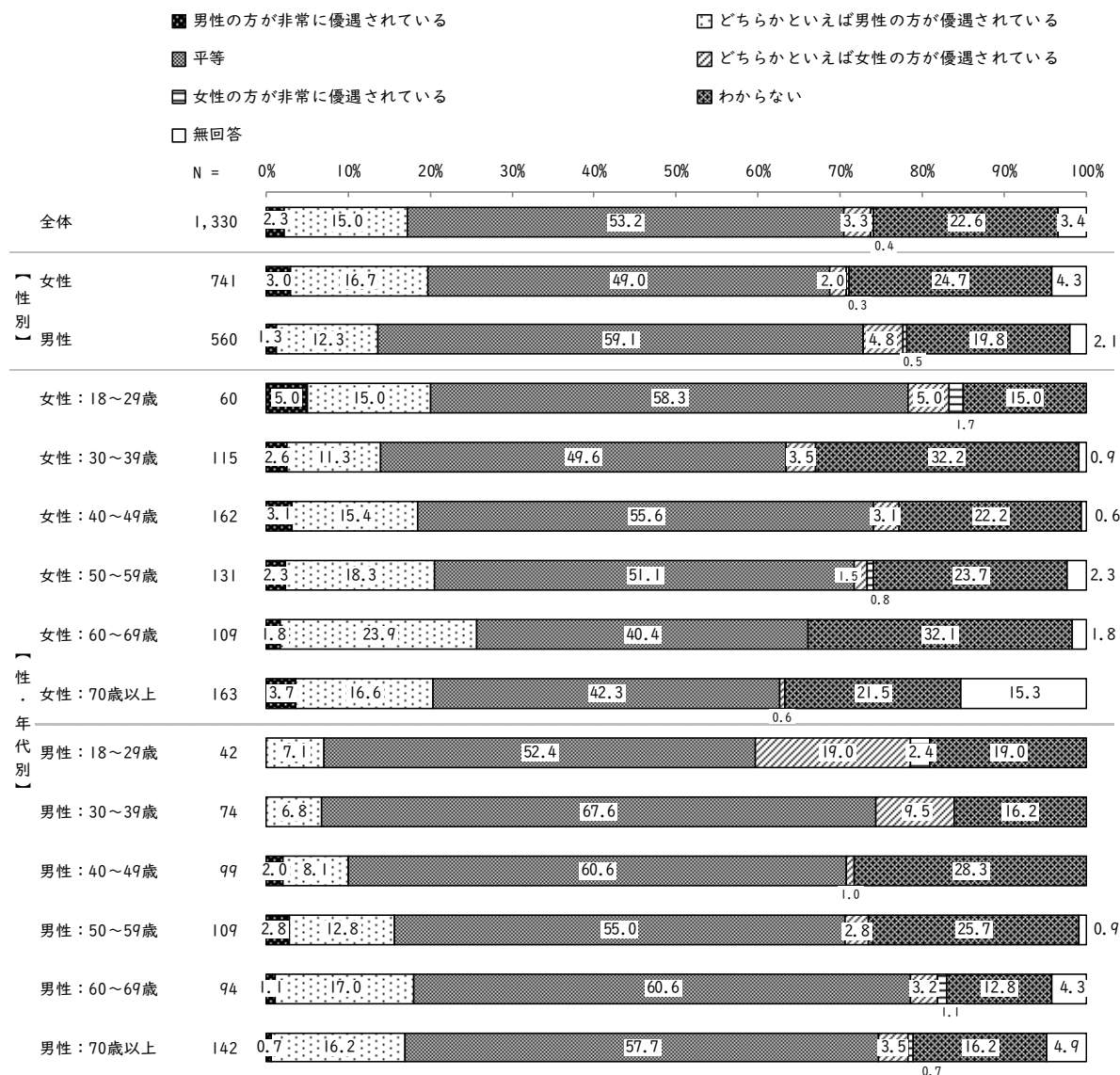
問 17-C 学校教育の場

「平等」53.2% > 『男性優遇』17.3% > 『女性優遇』3.7%
「平等」と答えた人の割合 女性 49.0% < 男性 59.1% 10.1 ポイントの開きあり

全体では、「平等」が53.2%と最も高く、次いで「わからない」(22.6%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(15.0%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「平等」の割合が、女性で49.0%、男性で59.1%となっている。

【性・年代別】で比較すると、男性の「30歳代」「40歳代」「60歳代」で「平等」の割合が高くなっている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

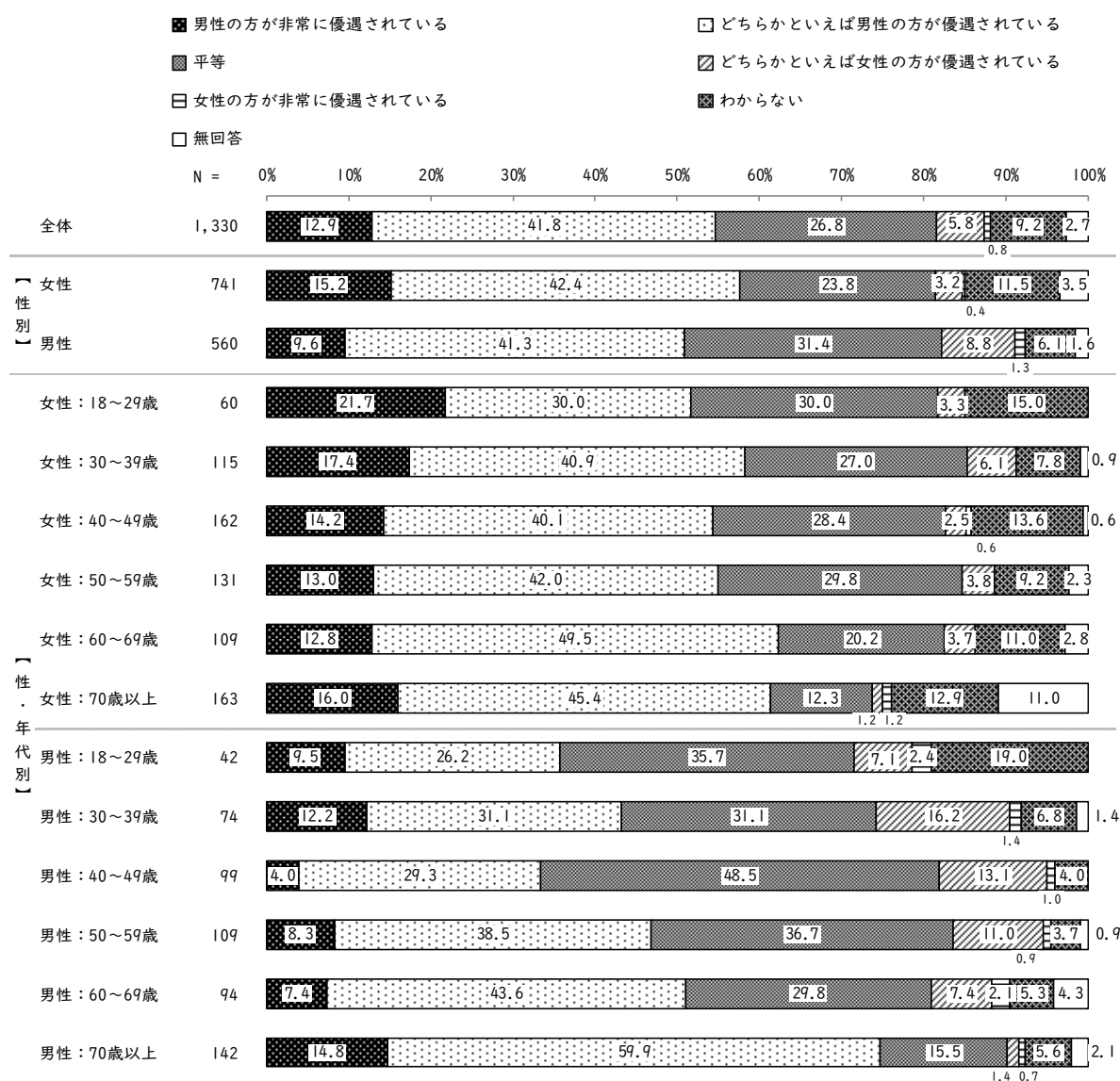
問 17-D 職場

『男性優遇』54.7% > 「平等」26.8% > 『女性優遇』6.6%
「平等」と答えた人の割合 女性 23.8%<男性 31.4% 7.6 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 41.8%と最も高く、次いで「平等」(26.8%)、「男性の方が非常に優遇されている」(12.9%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 57.6%、男性で 50.9%となっており、女性が 6.7 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性ではいずれの年齢層においても『男性優遇』の割合が高く、5割を超えている。また、男性では「50 歳代以上」で『男性優遇』の割合が高くなっている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

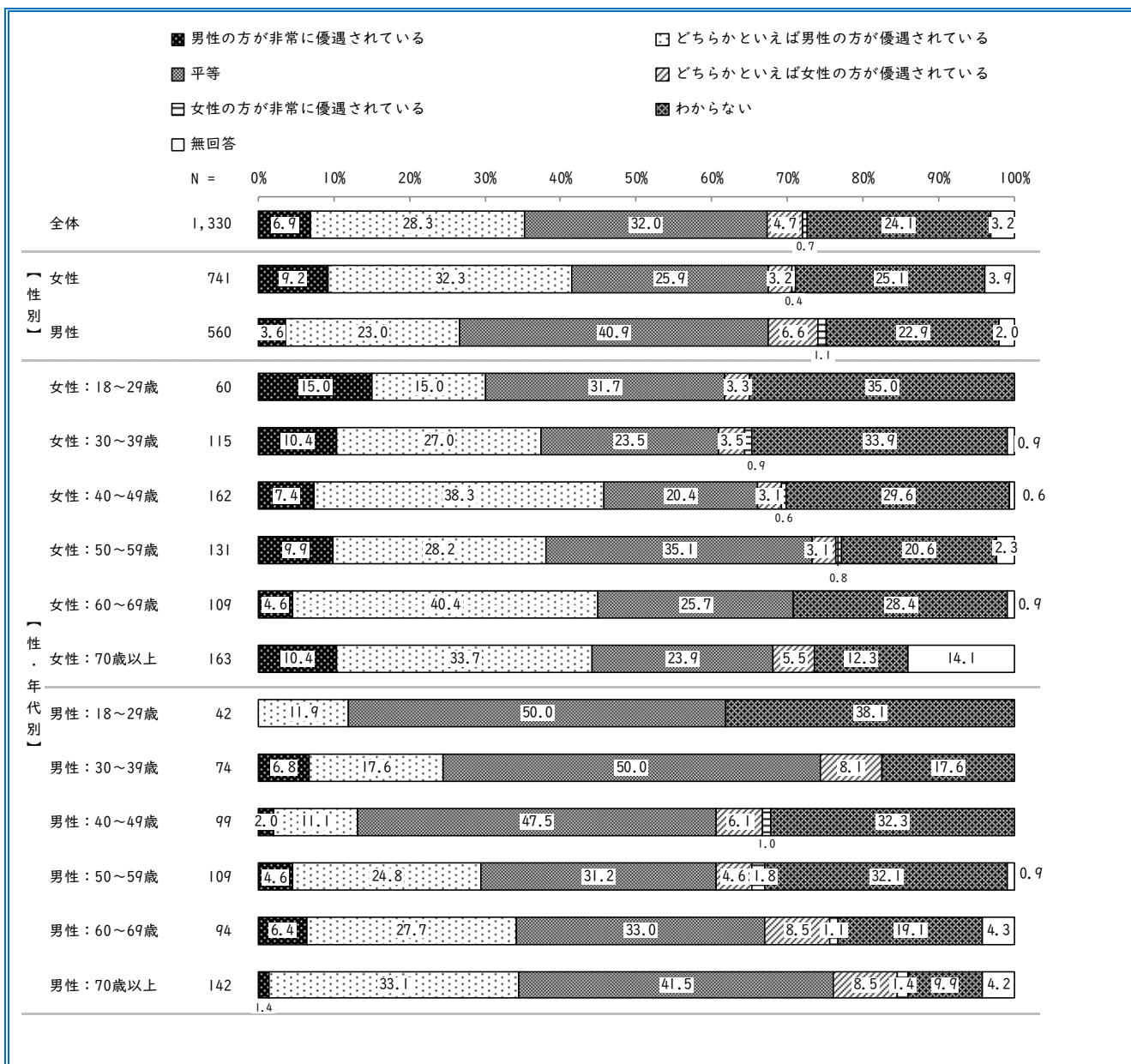
問 17-E 地域活動の場

「平等」32.0% > 『男性優遇』35.2% > 『女性優遇』5.4%
「平等」と答えた人の割合 女性 25.9%<男性 40.9% 15.0 ポイントの開きあり

全体では、「平等」が 32.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(28.3%)、「わからない」(24.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で41.5%、男性で26.6%となっており、女性が14.9ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「40歳代」「60歳代以上」で『男性優遇』の割合が高く、4割を超えている。また、男性では「50歳代以上」で『男性優遇』の割合が高く3割前後を占めている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

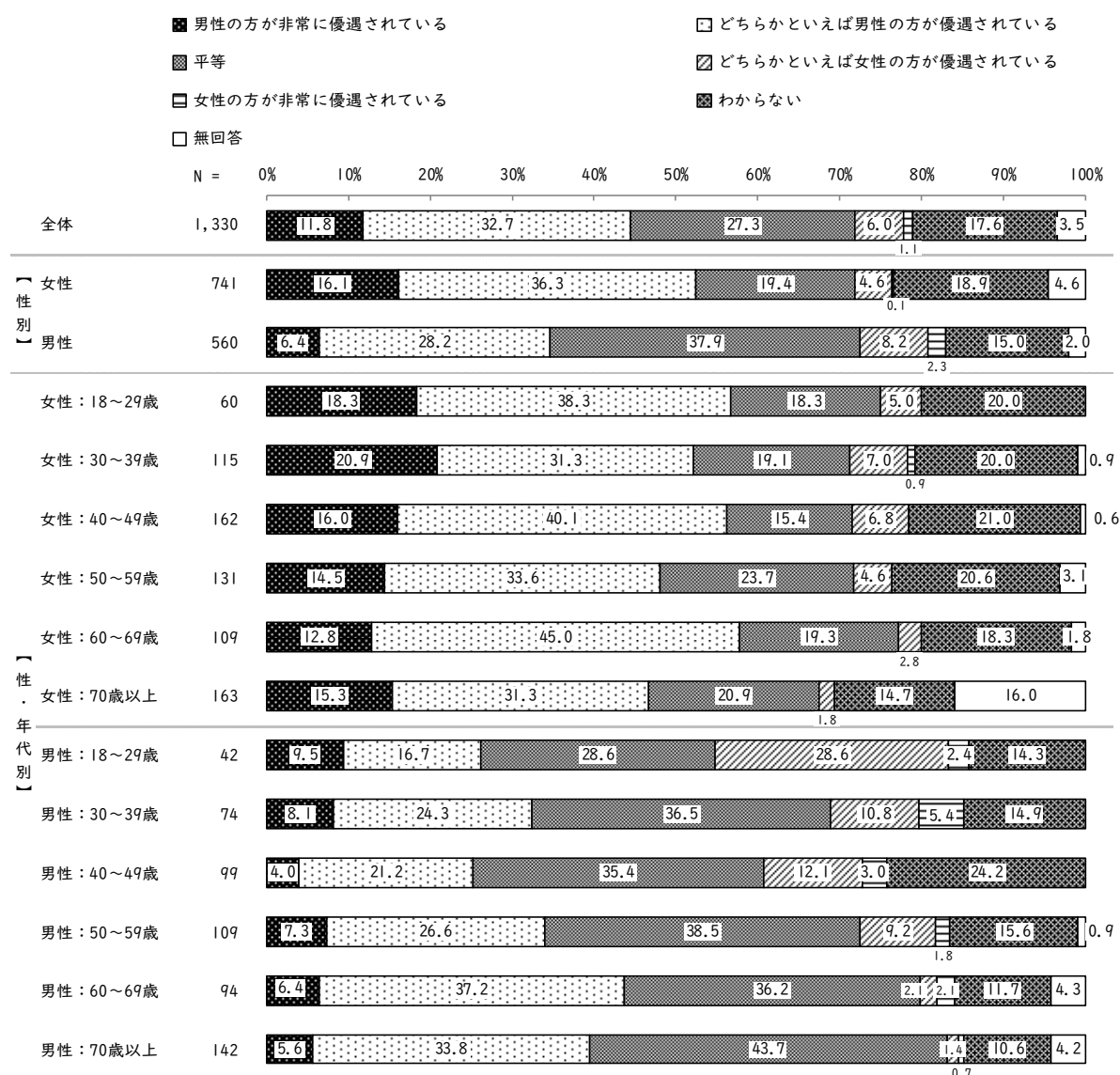
問 17-F 法律や制度上

『男性優遇』44.5% > 「平等」27.3% > 『女性優遇』7.1%
「平等」と答えた人の割合 女性 19.4% < 男性 37.9% 18.5 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 32.7%と最も高く、次いで「平等」(27.3%)、「わからない」(17.6%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 52.4%、男性で 34.6%となっており、女性が 17.8 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「40 歳代以下」「60 歳代」で『男性優遇』の割合が高く、5 割を超えている。また、男性では若い世代ほど『女性優遇』の割合が高くなっている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

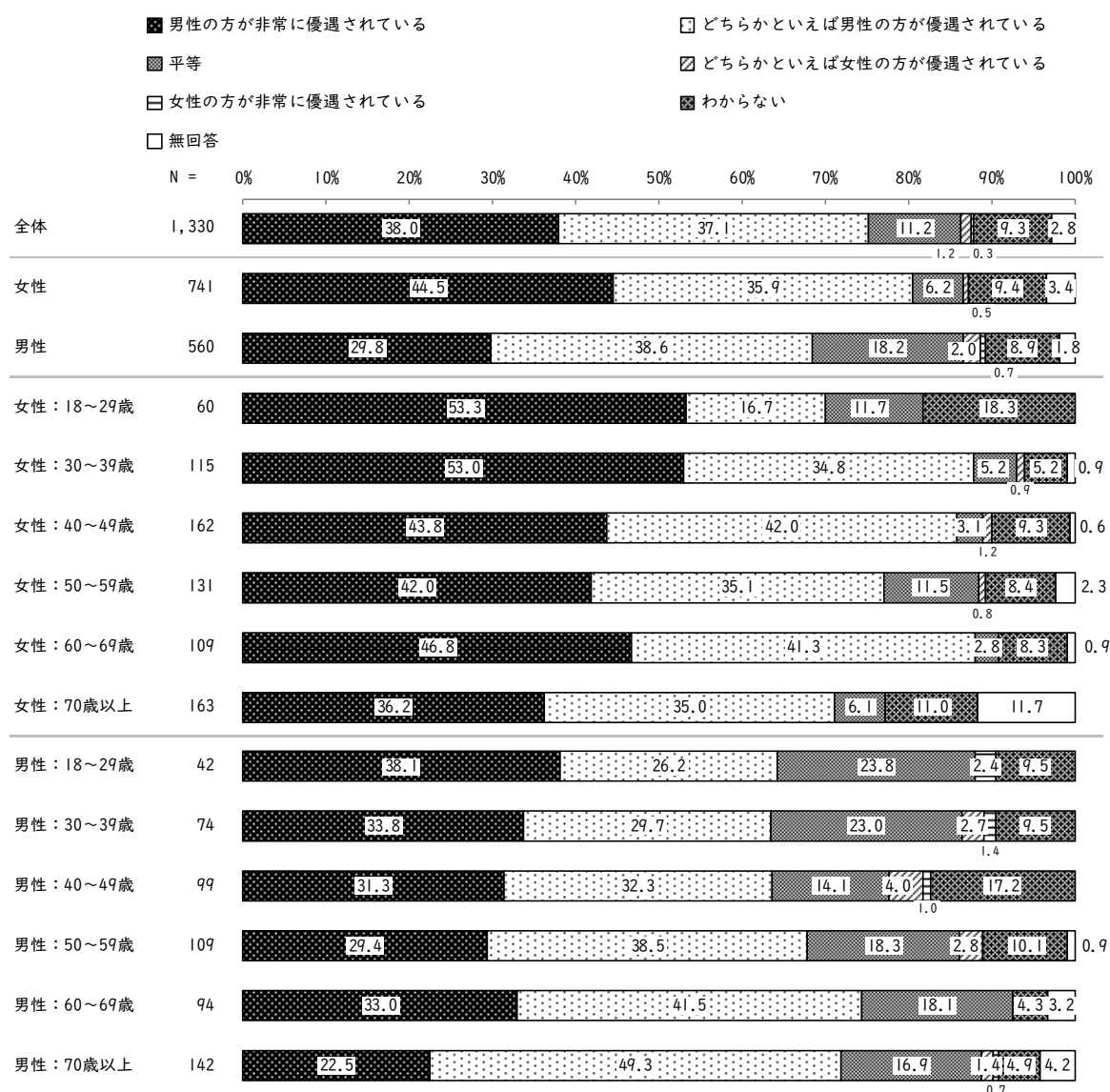
問 17-G 政治の場

『男性優遇』75.1% > 「平等」11.2% > 『女性優遇』1.5%
「平等」と答えた人の割合 女性 6.2%<男性 18.2% 12.0 ポイントの開きあり

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」が 38.0%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.1%)、「平等」(11.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 80.4%、男性で 68.4%となっており、女性が 12.0 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性ではいずれの年齢層においても『男性優遇』の割合が高く、7割を超えている。また、男性においても6割を超えている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

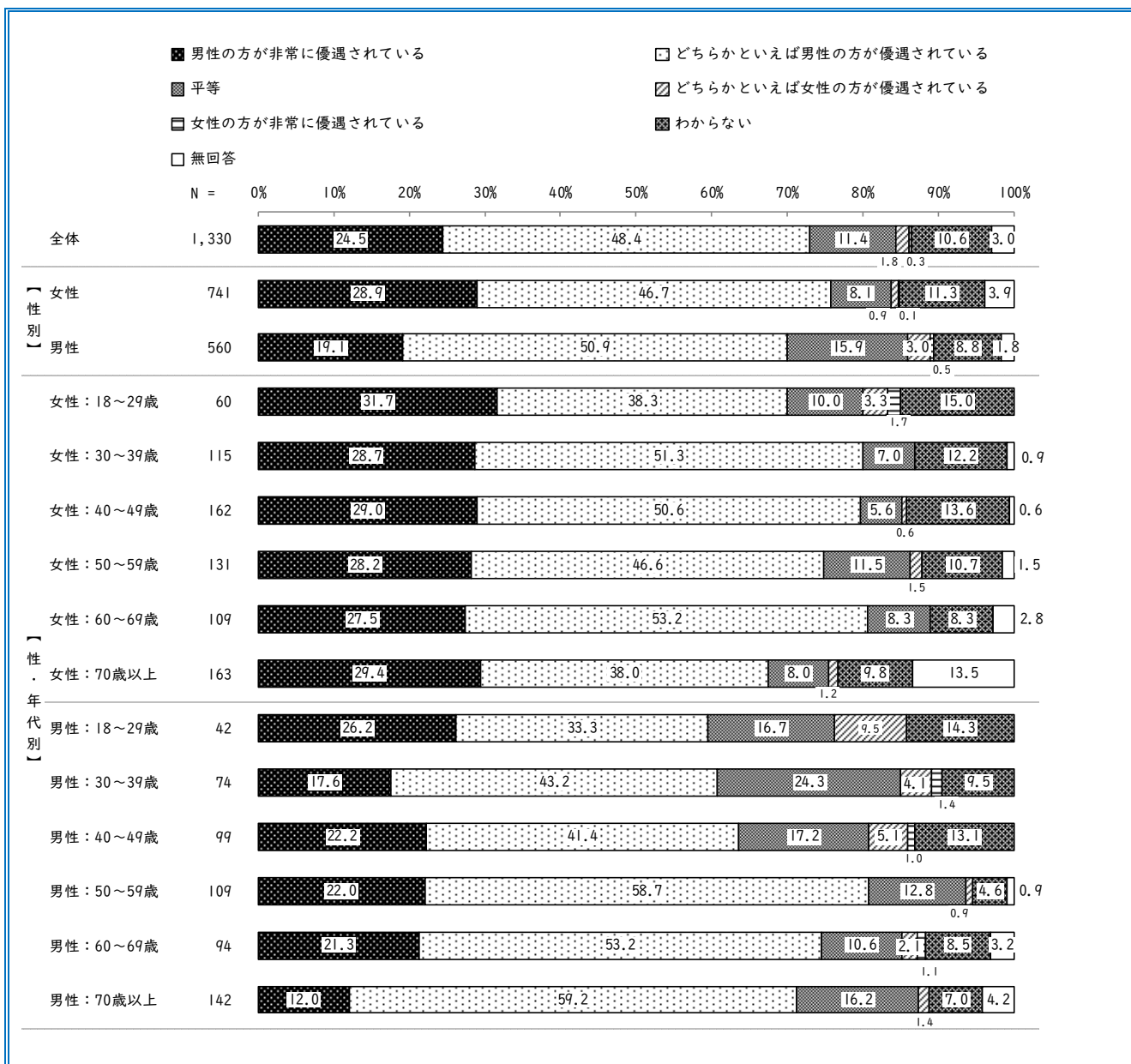
問 17-H 社会習慣やしきたり

『男性優遇』72.9% > 「平等」11.4% > 『女性優遇』2.1%
「平等」と答えた人の割合 女性 8.1% < 男性 15.9% 7.8 ポイントの開きあり

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 48.4% と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(24.5%)、「平等」(11.4%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『男性優遇』の割合が、女性で 75.6%、男性で 70.0% となっており、女性が 5.6 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「30 歳代」「60 歳代」で『男性優遇』の割合が高く、8 割を超えている。また、男性では「50 歳代」で『男性優遇』の割合が高く 8 割を超えている。



『男性優遇』：「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人
『女性優遇』：「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と答えた人

【問 18】セクハラやパワハラを受けた経験

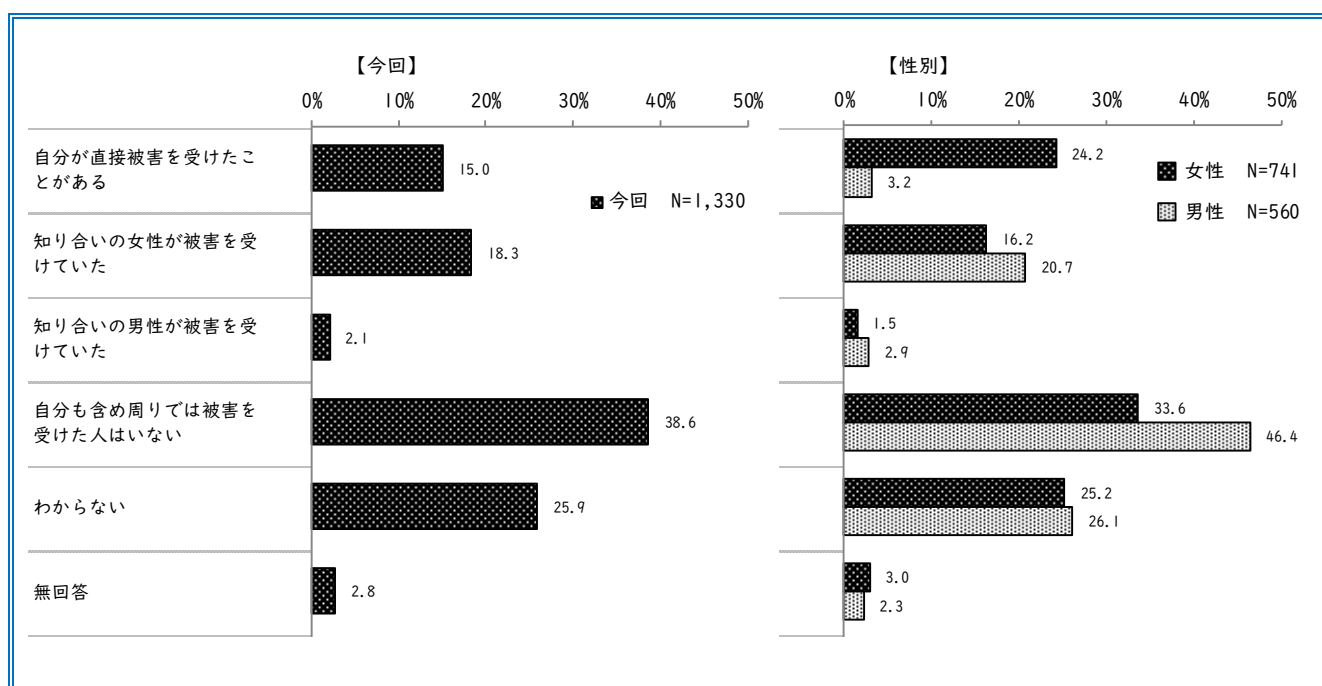
あなたは、セクシャル・ハラスメントやパワー・ハラスメントについて、次のような経験がありますか。
(項目ごとに、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（セクシャル・ハラスメント／全体、性別）

セクハラを受けたと回答した人の割合は女性の約 4 人に 1 人 (24.2%) の割合

全体では、「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」が 38.6%と最も高く、次いで「わからない」(25.9%)、「知り合いの女性が被害を受けていた」(18.3%) の順となっている。

【性別】で比較すると、「自分が直接被害を受けたことがある」と答えた人は 24.2%とそのほとんどが女性となっている。

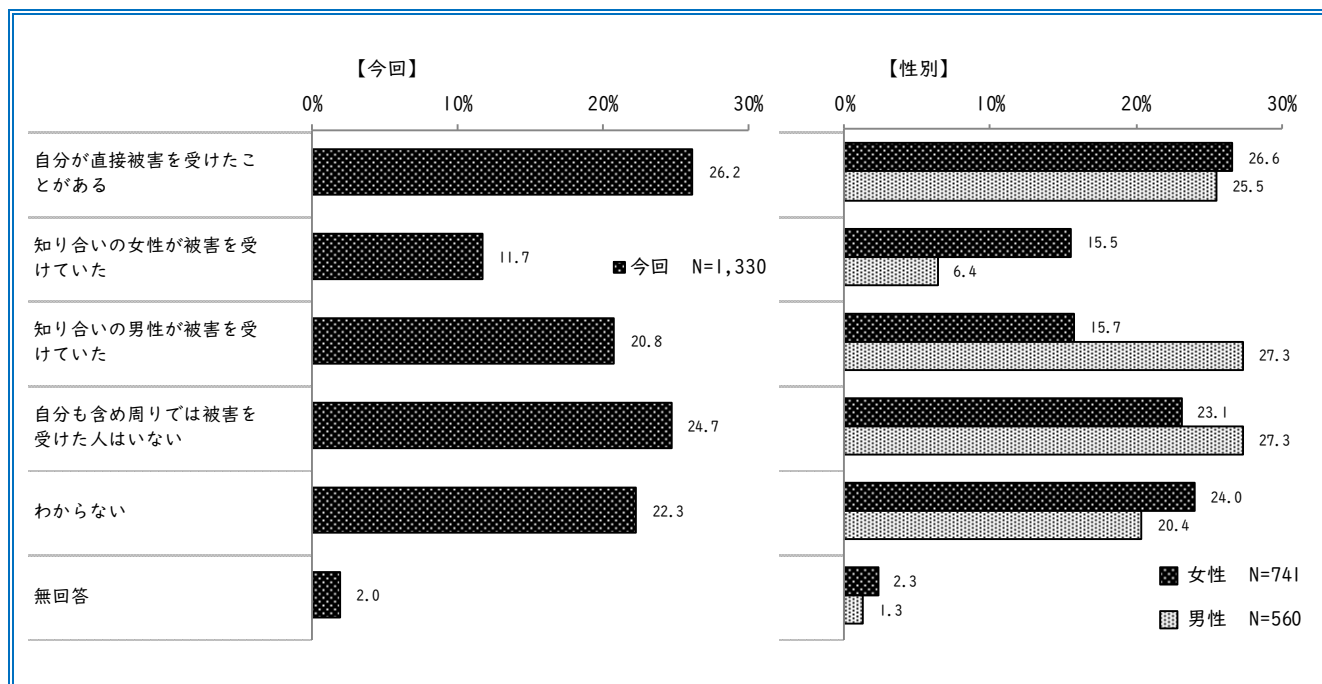


●項目比較（パワー・ハラスメント／全体、性別）

パワハラを受けたと回答した人の割合は男女とも約 4 人に 1 人の割合

全体では、「自分が直接被害を受けたことがある」が 26.2%と最も高く、次いで「自分も含め周りでは被害を受けた人はいない」（24.7%）、「わからない」（22.3%）、の順となっている。

【性別】で比較すると、女性では「知り合いの女性が被害を受けていた」、男性では「知り合いの男性が被害を受けていた」が高くなっている。



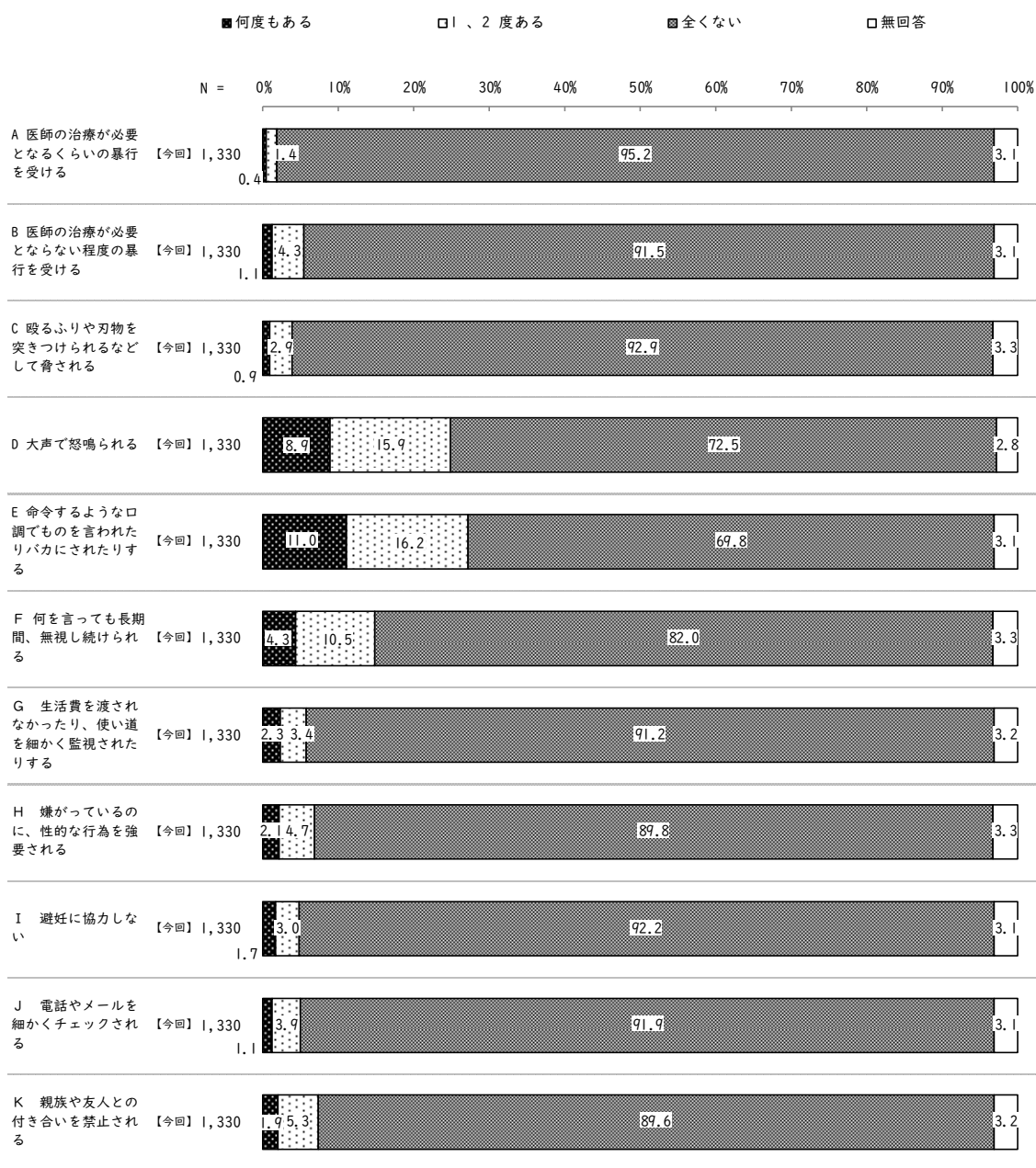
【問 19】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害状況

あなたは配偶者や恋人にA～Lの行為をされたことがありますか。
(それぞれA～Lの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較 (全体)

配偶者や恋人からは、身体的な暴力より、精神的な暴力の占める割合が高い

全体でみると『一度以上ある』人の割合は、「命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする」が27.2%と最も高く、次いで「大声で怒鳴られる」(24.8%)、「何を言っても長期間、無視し続けられる」(14.8%)の順となっており、殴る、蹴るなどの身体的な暴力よりは、精神的な暴力の占める割合が高くなっている。



『一度以上ある』: 「何度もある」と「1、2度ある」と答えた人の合計

問 19-A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける

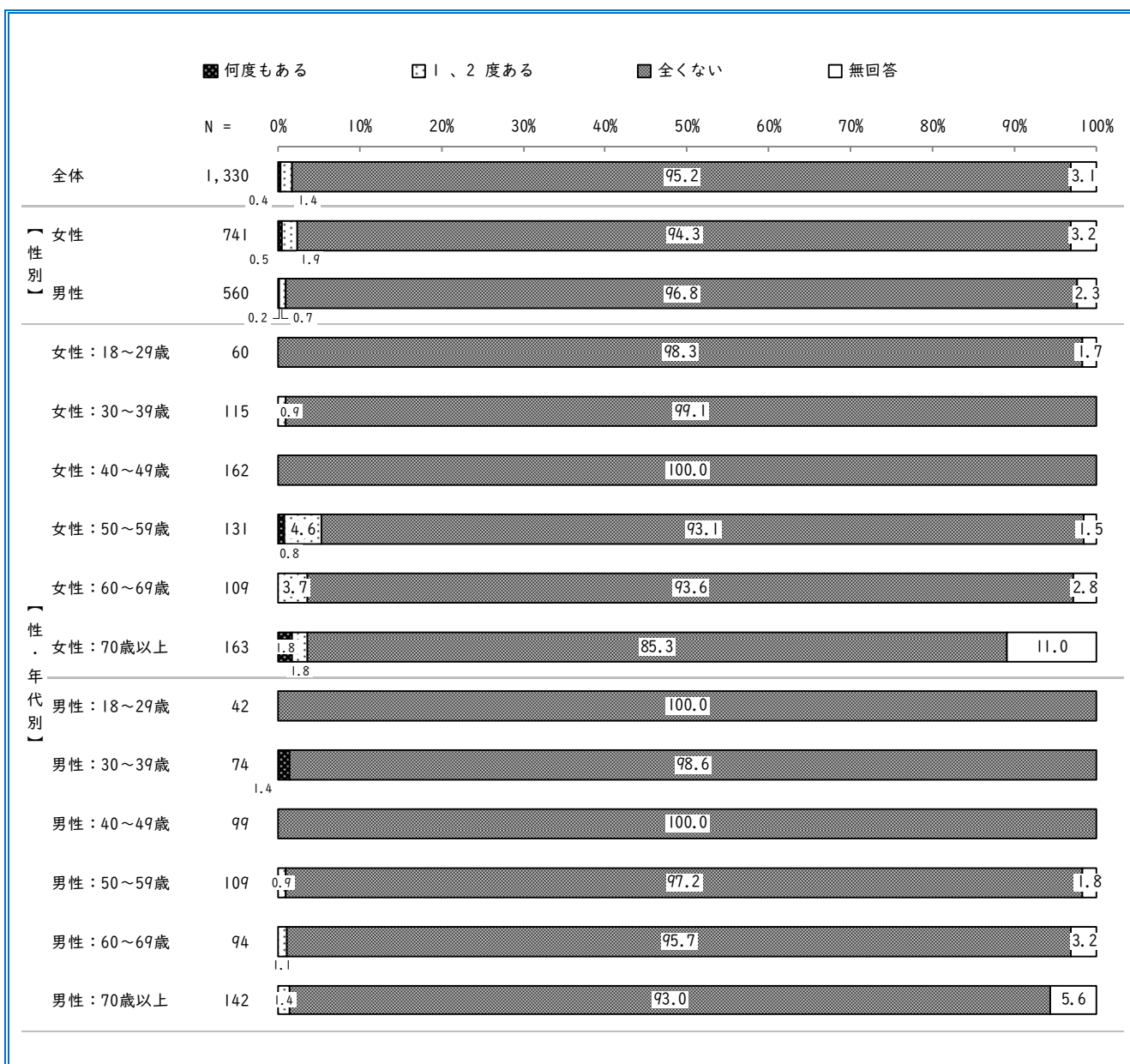
女性 「1、2 度ある」は 1.9%、「何度もある」は 0.5%

男性 「1、2 度ある」は 0.7%、「何度もある」は 0.2%

全体では、「全くない」が 95.2%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(1.4%)、「何度もある」(0.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 2.4%、男性で 0.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「50 歳代」で 5.4%となっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-B 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける

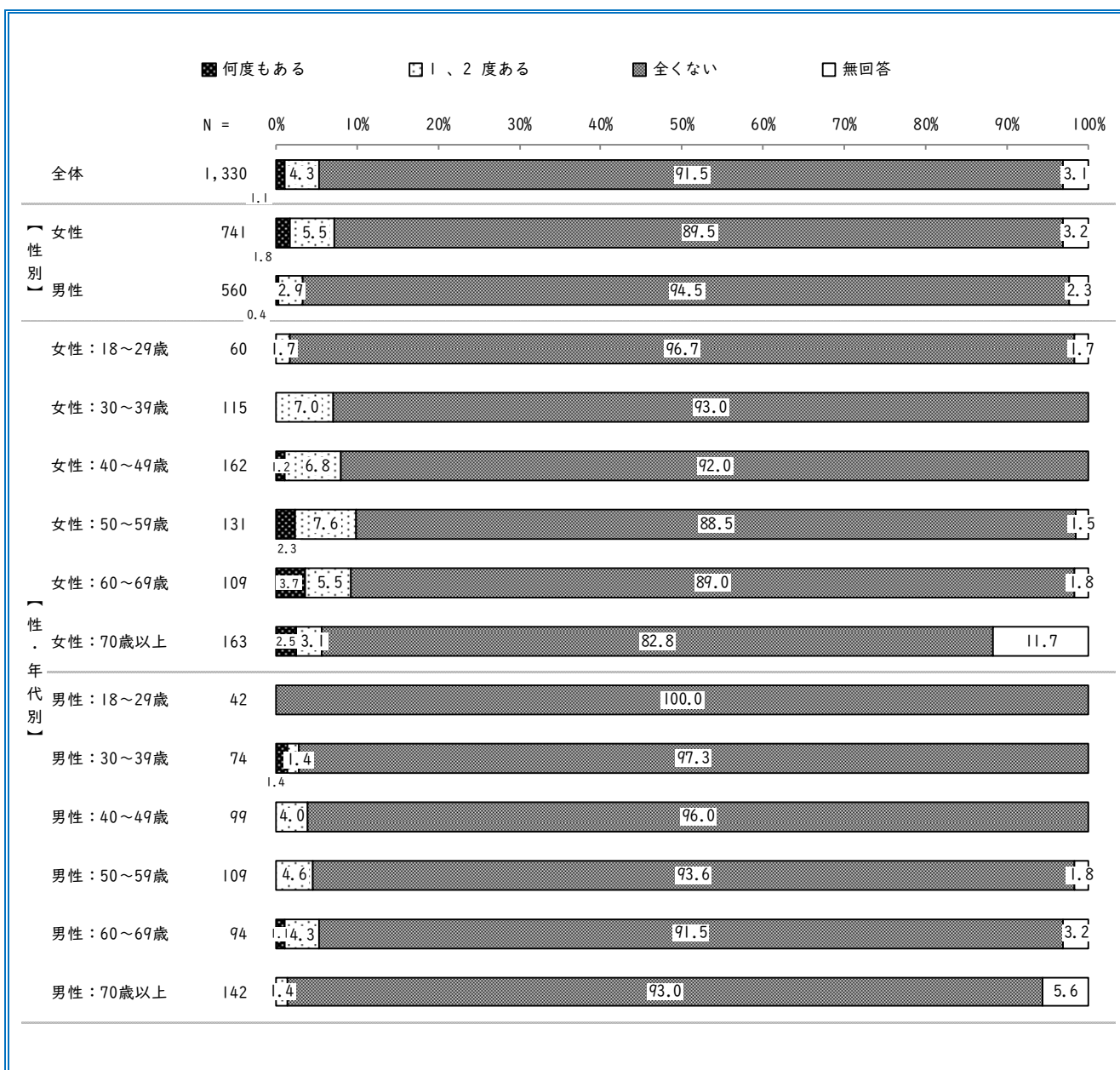
女性 「1、2 度ある」は 5.5%、「何度もある」は 1.8%

男性 「1、2 度ある」は 2.9%、「何度もある」は 0.4%

全体では、「全くない」が 91.5%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(4.3%)、「何度もある」(1.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 7.3%、男性で 3.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「30～60 歳代」、男性では「40～60 歳代」で高くなっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-C 殴るふりや刃物を突きつけられるなどして脅される

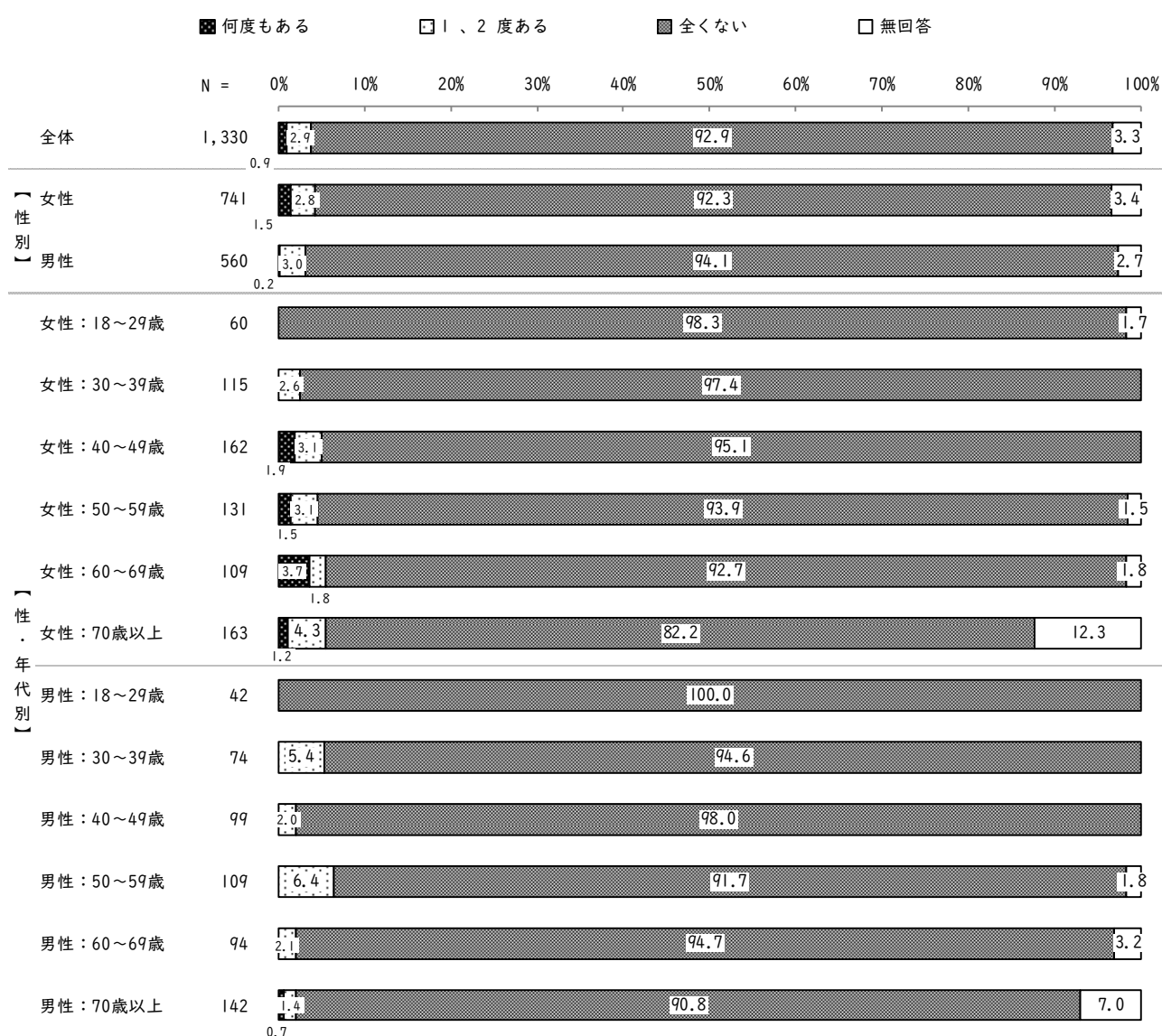
女性 「1、2 度ある」は 2.8%、「何度もある」は 1.5%

男性 「1、2 度ある」は 3.0%、「何度もある」は 0.2%

全体では、「全くない」が 92.9%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(2.9%)、「何度もある」(0.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 4.3%、男性で 3.2%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40 歳代以上」、男性では「30 歳代」「50 歳代」が高くなっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-D 大声で怒鳴られる

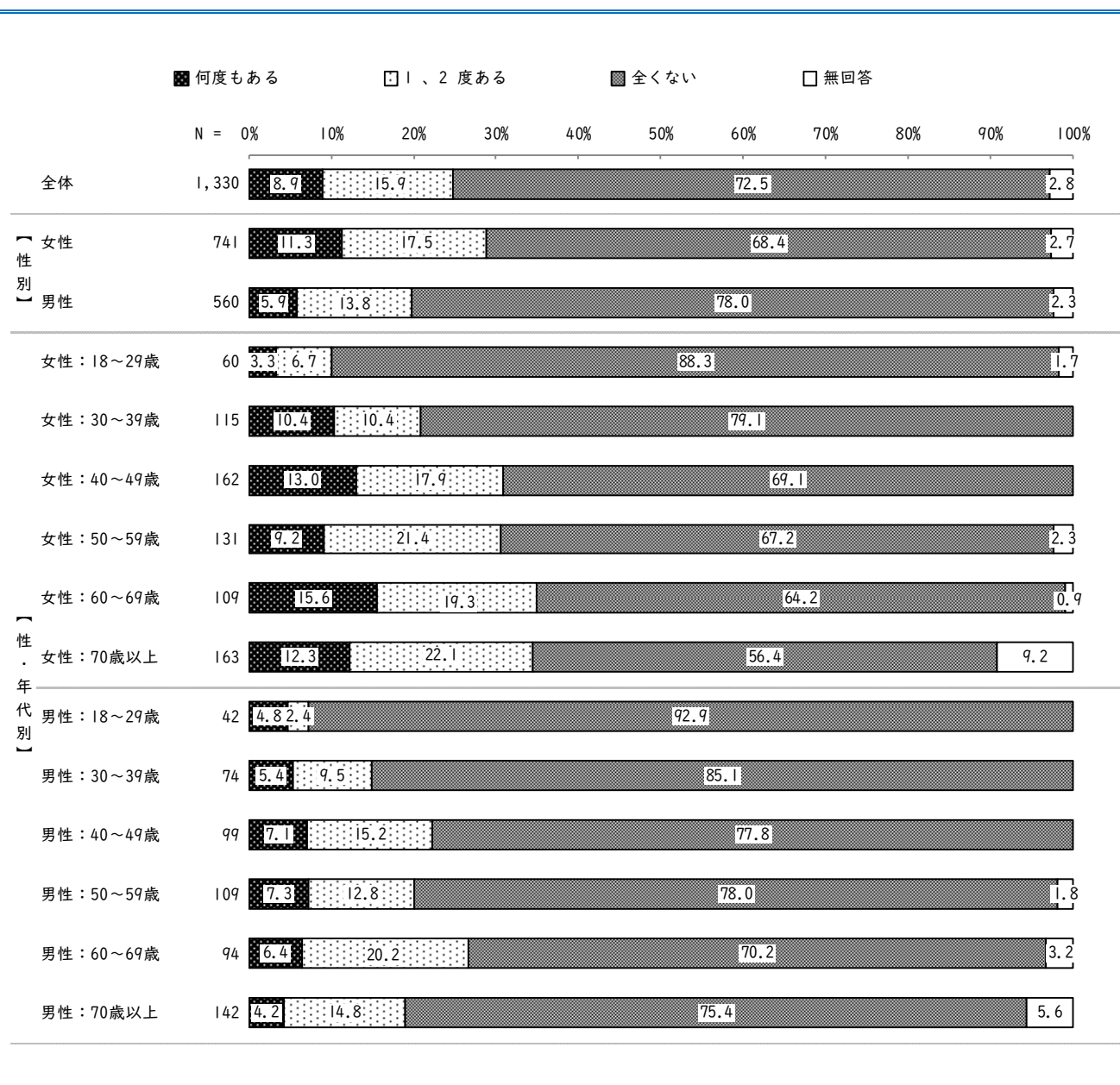
女性 「1、2 度ある」は 17.5%、「何度もある」は 11.3%

男性 「1、2 度ある」は 13.8%、「何度もある」は 5.9%

全体では、「全くない」が 72.5%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(15.9%)、「何度もある」(8.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 28.8%、男性で 19.7%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40 歳代以上」で 3 割を超え、男性も「40～60 歳代」で 2 割を超えている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-E 命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする

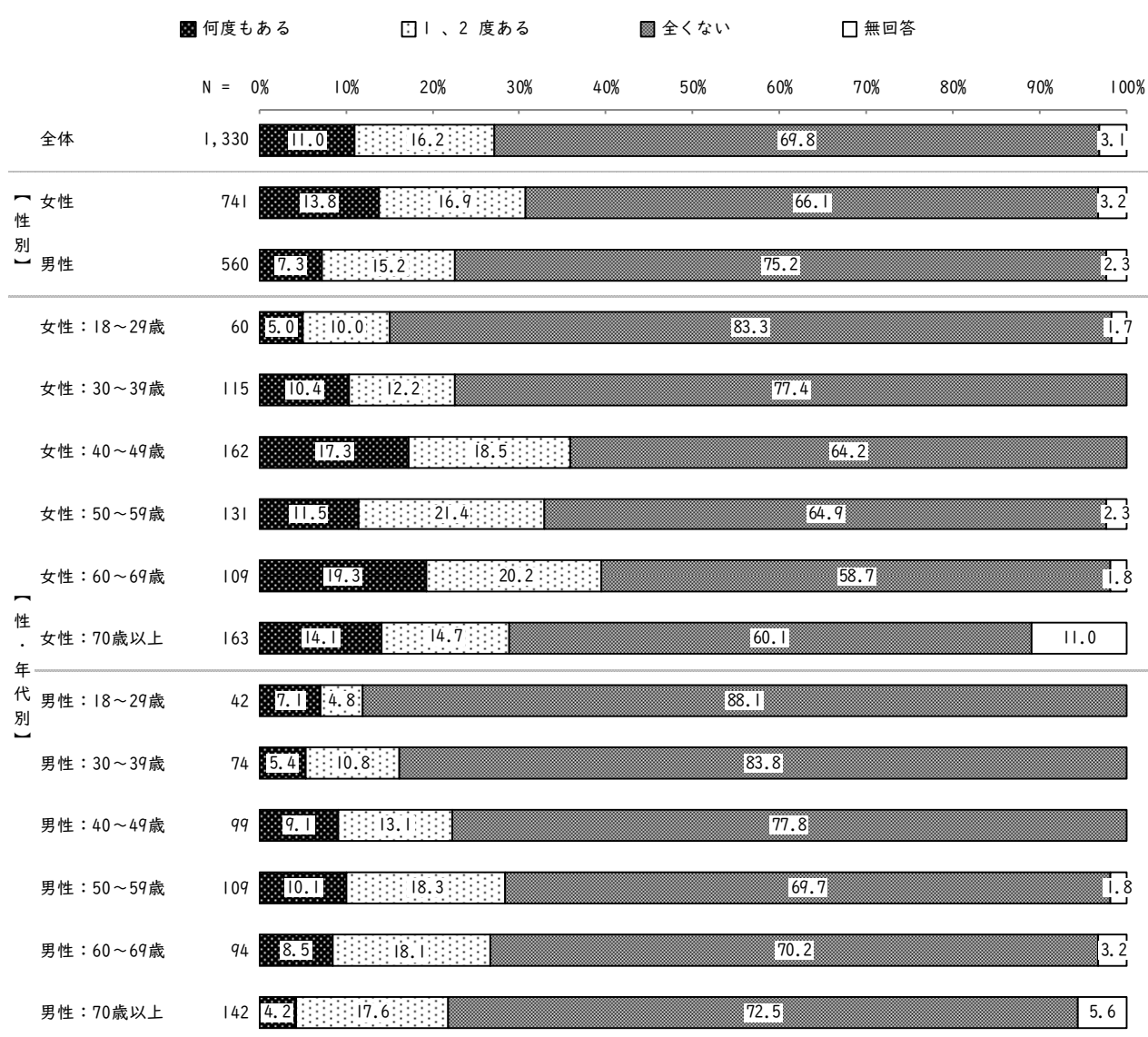
女性 「1、2 度ある」は 16.9%、「何度もある」は 13.8%

男性 「1、2 度ある」は 15.2%、「何度もある」は 7.3%

全体では、「全くない」が 69.8%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(16.2%)、「何度もある」(11.0%) の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 30.7%、男性で 22.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40～60 歳代」、男性では「50～60 歳代」で高くなっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-F 何を言っても長期間、無視し続けられる

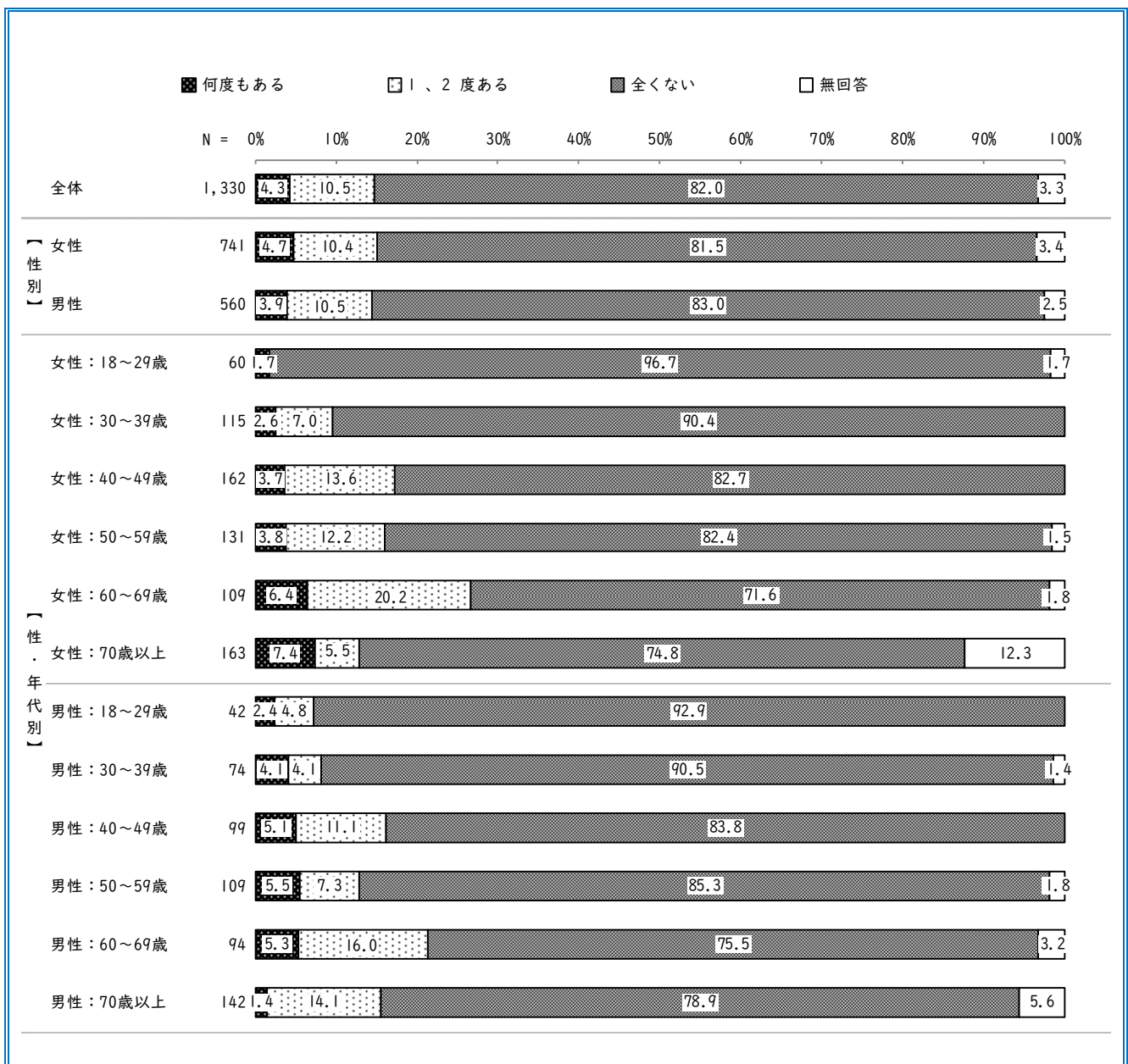
女性 「1、2 度ある」は 10.4%、「何でもある」は 4.7%

男性 「1、2 度ある」は 10.5%、「何でもある」は 3.9%

全体では、「全くない」が 82.0%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(10.5%)、「何でもある」(4.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 15.1%、男性で 14.4%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、男女とも「60 歳代」で高くなっている。



『一度以上ある』：「何でもある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-G 生活費を渡されなかったり、使い道を細かく監視されたりする

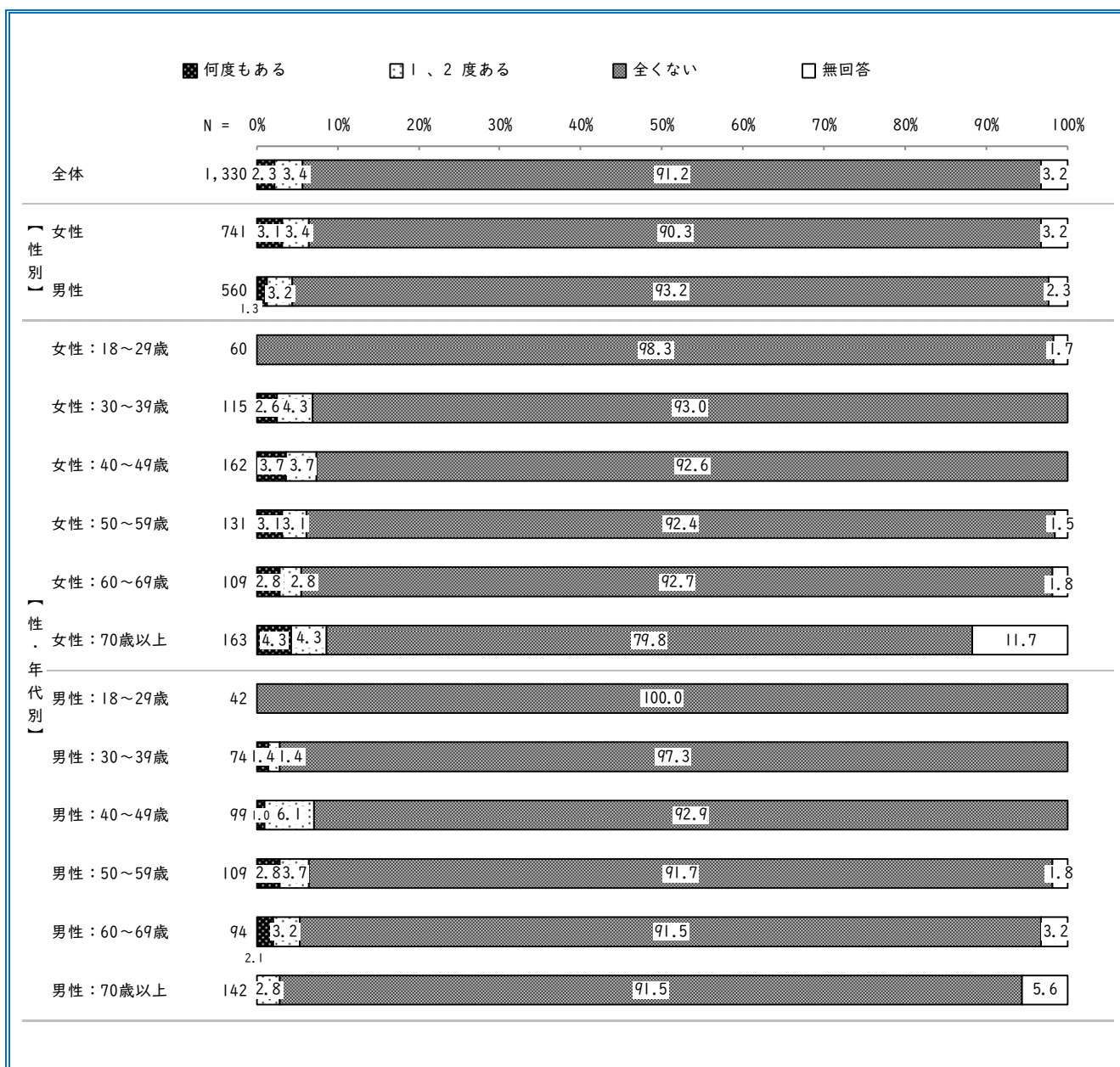
女性 「1、2 度ある」は 3.4%、「何度もある」は 3.1%

男性 「1、2 度ある」は 3.2%、「何度もある」は 1.3%

全体では、「全くない」が 91.2%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(3.4%)、「何度もある」(2.3%)、の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 6.5%、男性で 4.5%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、男女ともいずれの年齢層においても 1 割に満たない状況となっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-H 嫌がっているのに、性的な行為を強要される

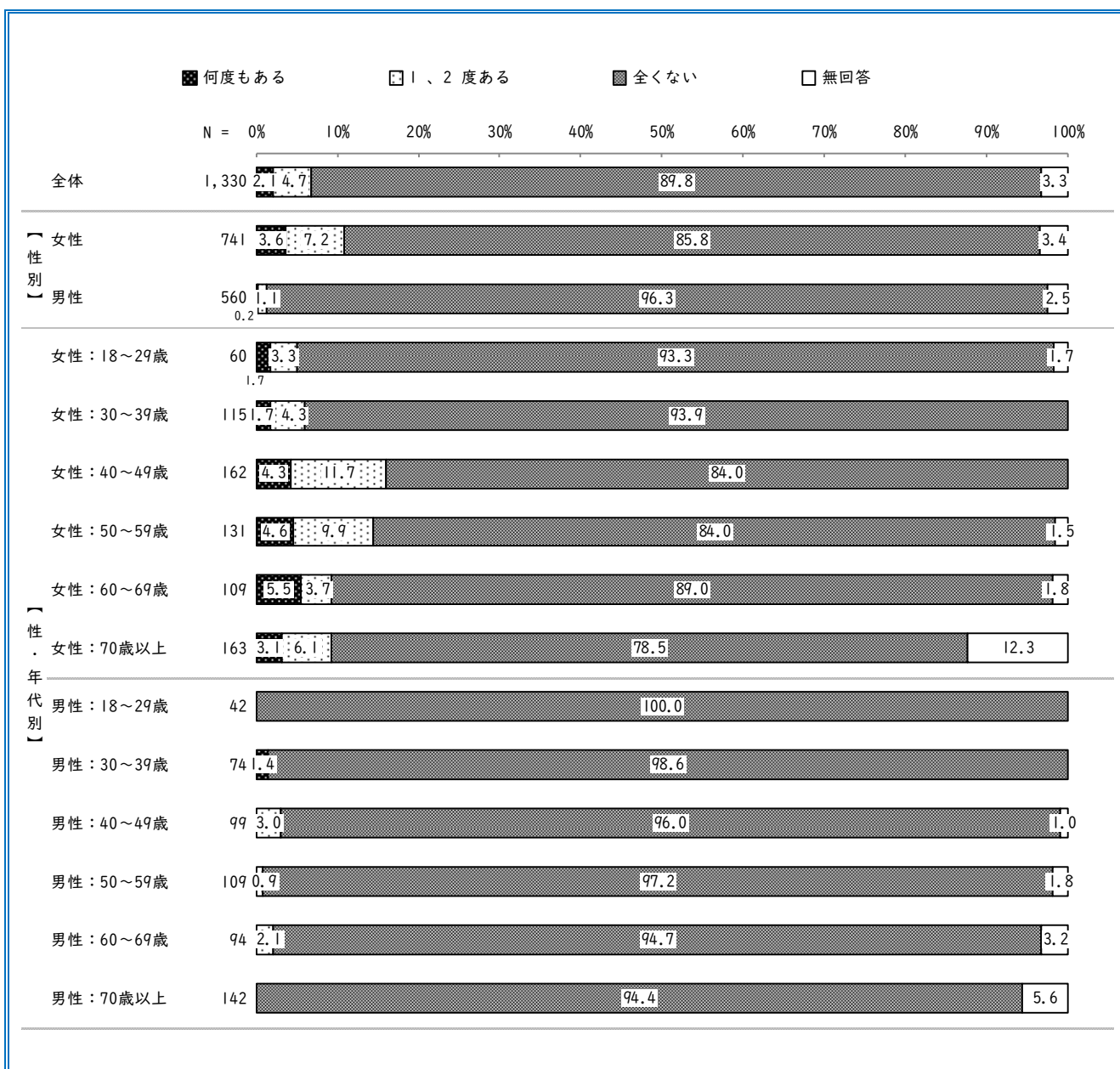
女性 「1、2 度ある」は 7.2%、「何度もある」は 3.6%

男性 「1、2 度ある」は 1.1%、「何度もある」は 0.2%

全体では、「全くない」が 89.8%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(4.7%)、「何度もある」(2.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 10.8%、男性で 1.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「40～50 歳代」で高くなっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-I 避妊に協力しない

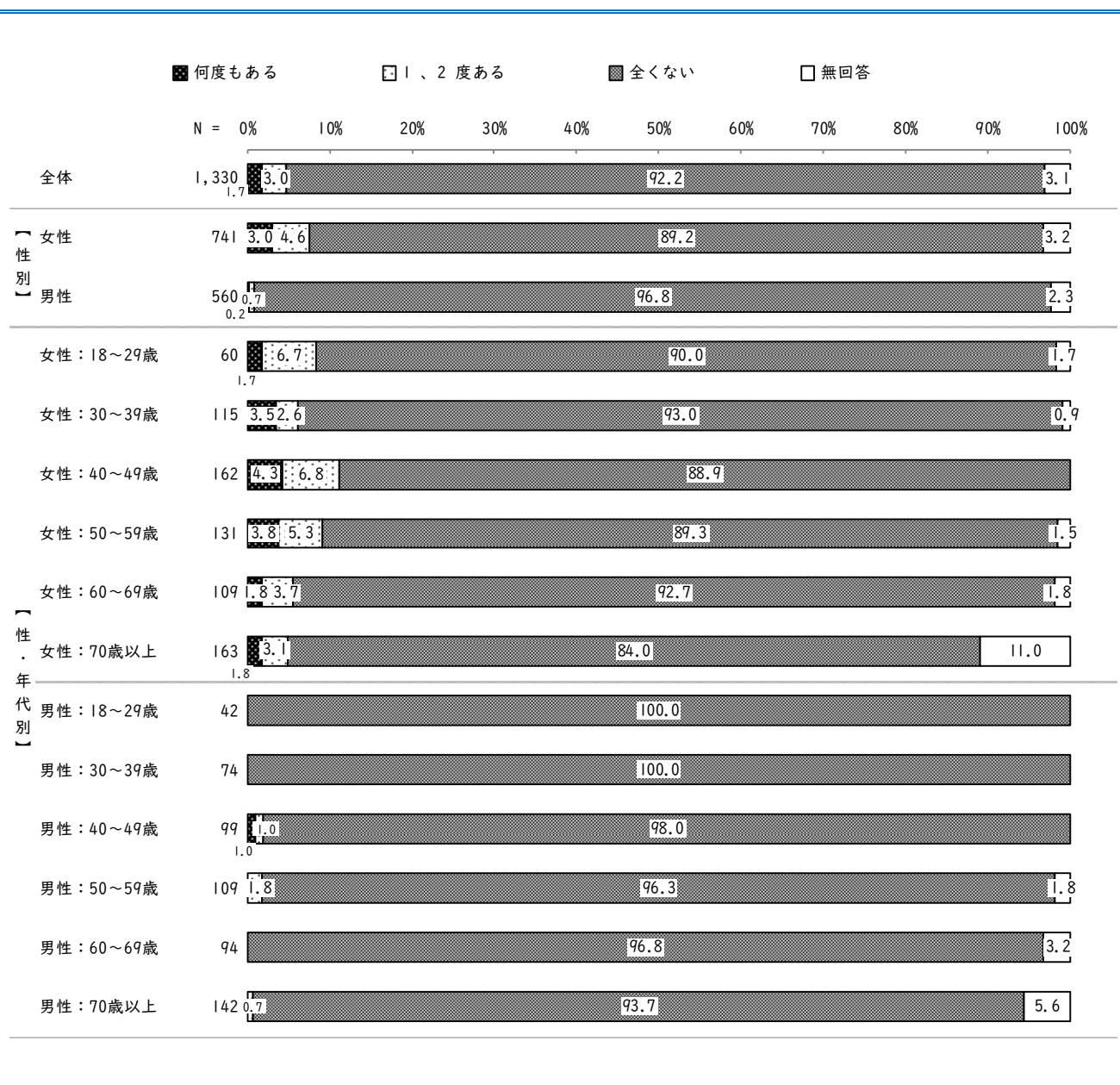
女性 「1、2 度ある」は 4.6%、「何度もある」は 3.0%

男性 「1、2 度ある」は 0.7%、「何度もある」は 0.2%

全体では、「全くない」が 92.2%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(3.0%)、「何度もある」(1.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 7.6%、男性で 0.9%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では世代による割合の差が多少みられるが、どの世代においても一定の割合がある。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-J 電話やメールを細かくチェックされる

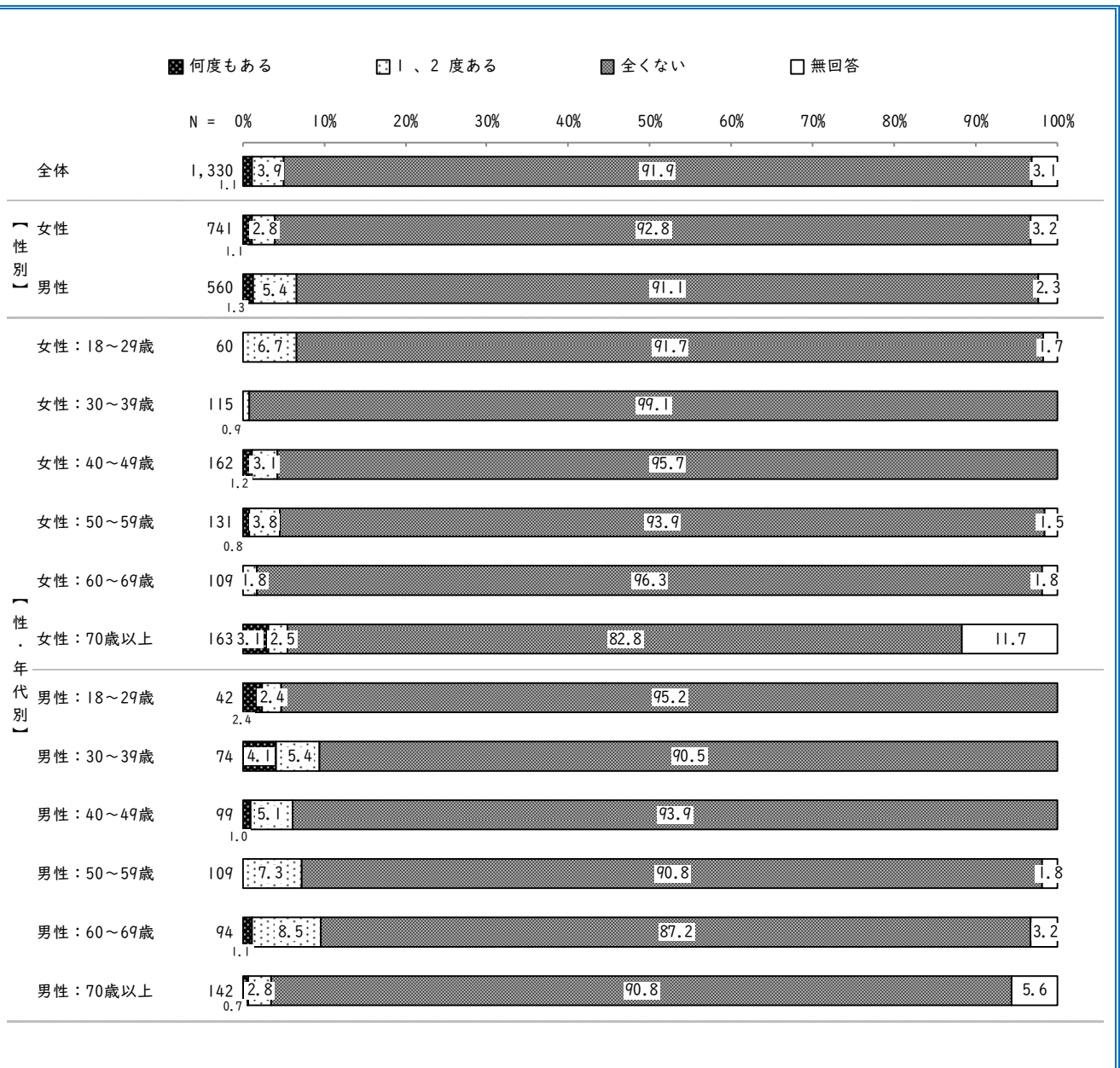
女性 「1、2 度ある」は 2.8%、「何度もある」は 1.1%

男性 「1、2 度ある」は 5.4%、「何度もある」は 1.3%

全体では、「全くない」が 91.9%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(3.9%)、「何度もある」(1.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 3.9%、男性で 6.7%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、男女ともいずれの年齢層においても 1 割に満たない状況となっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

問 19-K 親族や友人との付き合いを禁止される

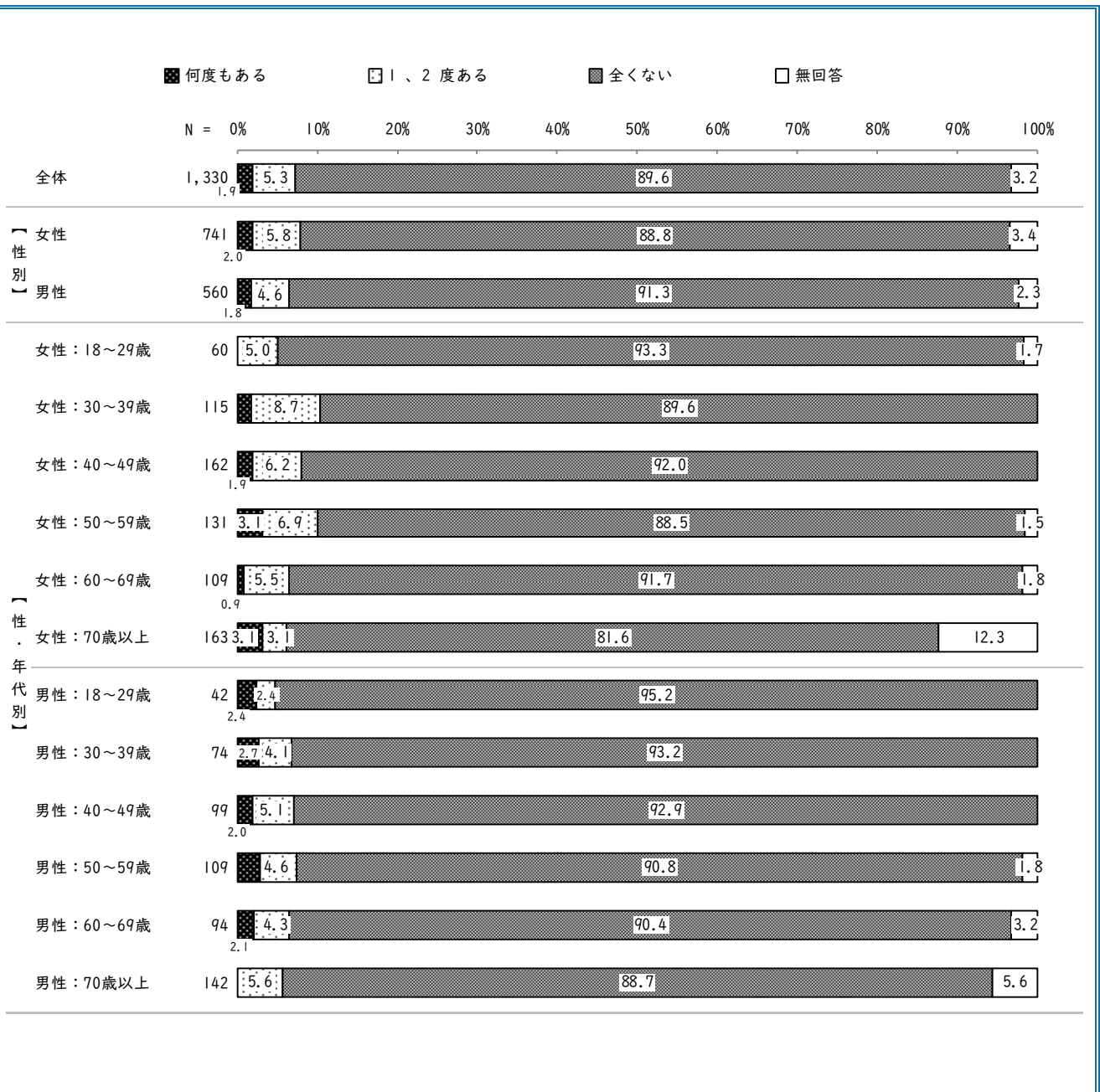
女性 「1、2 度ある」は 5.8%、「何度もある」は 2.0%

男性 「1、2 度ある」は 4.6%、「何度もある」は 1.8%

全体では、「全くない」が 89.6%と最も高く、次いで「1、2 度ある」(5.3%)、「何度もある」(1.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性で 7.8%、男性で 6.4%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『一度以上ある』と答えた人は、女性では「30 歳代」「50 歳代」で高くなっている。



『一度以上ある』：「何度もある」と「1、2 度ある」と答えた人の合計

※ドメスティック・バイオレンス（DV）被害経験のある方

【問 20】ドメスティック・バイオレンス（DV）についての相談実態

配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

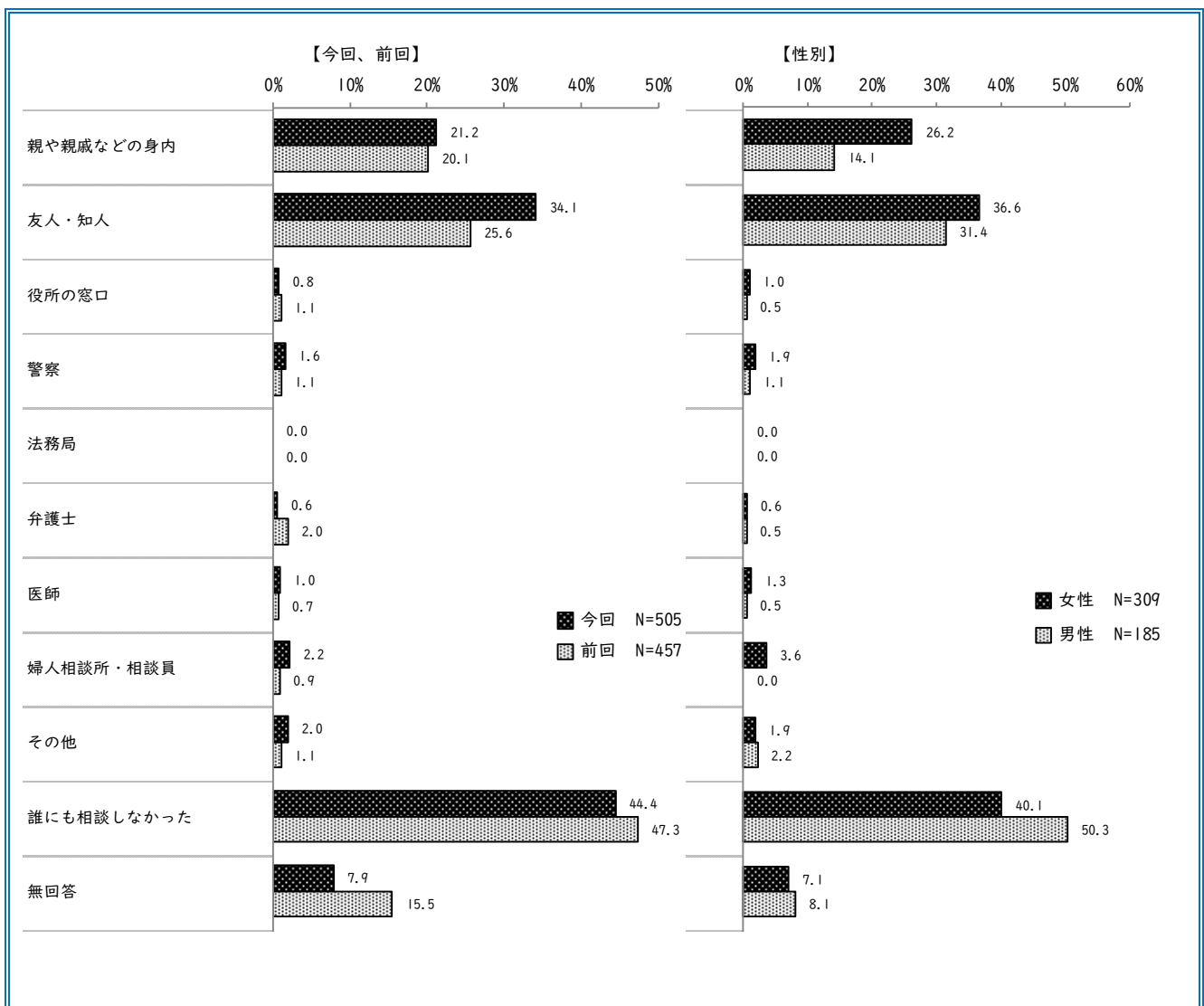
●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

「誰かに相談した」人は47.7%、「誰にも相談しなかった」人が44.4%

全体では、『誰かに相談した』人が47.7%、「誰にも相談しなかった」人が44.4%となっている。相談した人の内訳は、「友人・知人」と答えた人34.1%と最も高く、次いで「親や親戚などの身内」（21.2%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「誰にも相談しなかった」と答えた人は、女性で40.1%、男性で50.3%となっている。また、「親や親戚などの身内」、「友人・知人」と回答した人は女性が多かった。

前回調査と比較すると、前回同様今回も、「誰にも相談しなかった」割合が最も高く、公的相談窓口や専門機関等に相談した人が少なかった。



『誰かに相談した』：全体から「誰にも相談しなかった」と「無回答」と答えた人の合計を除いた割合

※ドメスティック・バイオレンス（DV）被害について誰にも相談しなかった方

【問 21】誰にも相談しなかった理由

誰にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

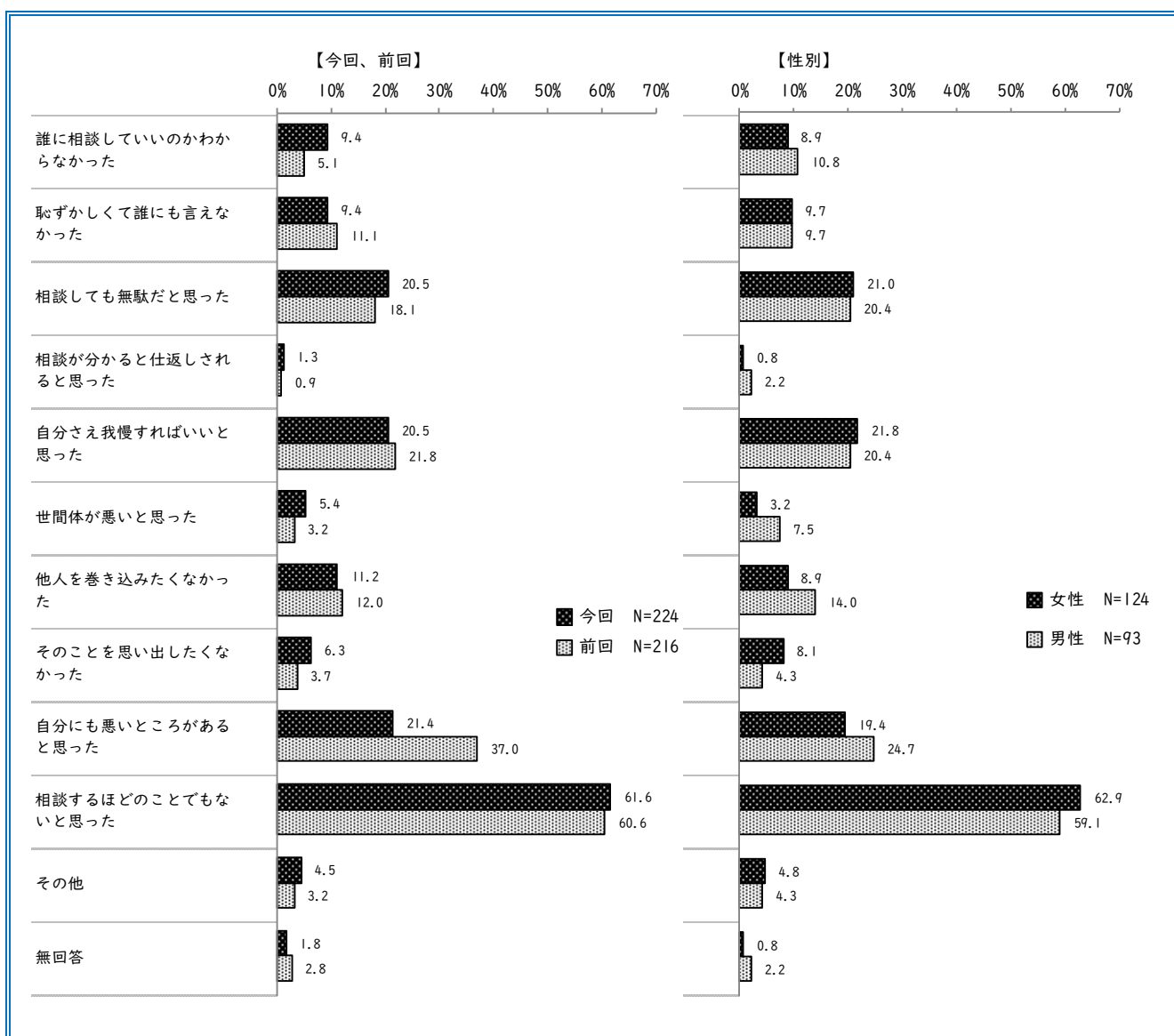
●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

誰にも相談しなかった理由は「相談するほどのことでもないと思った」が最も高い

全体では、「相談するほどのことでもないと思った」が 61.6%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」（21.4%）、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すればいいと思った」（20.5%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「相談するほどのことでもないと思った」「そのことを思い出したくなかった」と答えた人は、女性が男性を 3.8 ポイント上回っている。男性では「自分にも悪いところがあると思った」「他人を巻き込みたくなかった」と回答した人が女性に比べ 5 ポイント程度上回っている。

前回調査と比較すると、「自分にも悪いところがあると思った」と答えた人は、15.6 ポイント減少している。



【問 22】ドメスティック・バイオレンス (DV) の被害に関する相談窓口の認知

あなたは配偶者や恋人からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

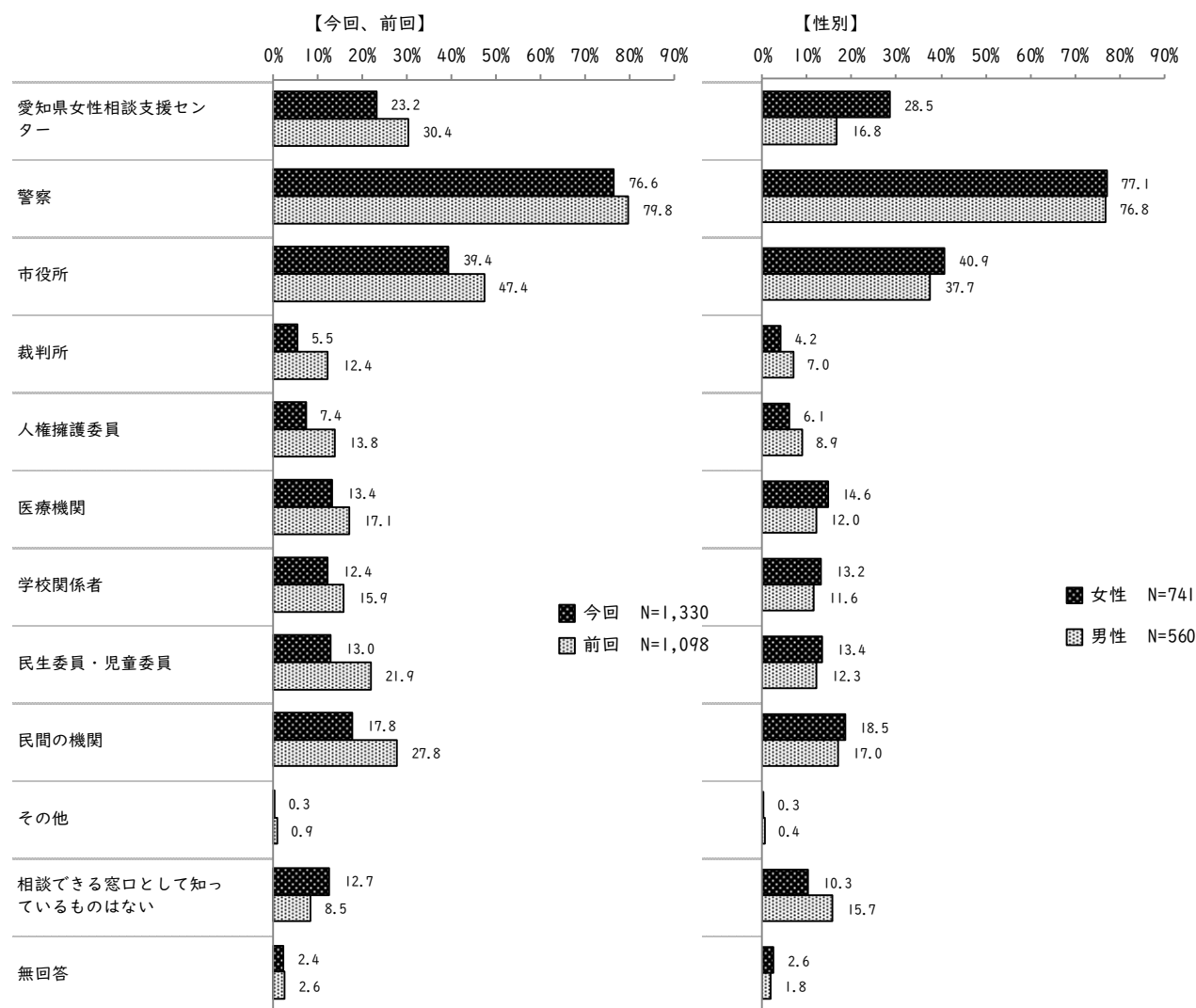
「警察」が 76.6% と最も高く、

次いで「市役所」が 39.4%、「愛知県女性相談支援センター」が 23.2%と公共機関が続く

全体では、「警察」が 76.6% と最も高く、次いで「市役所」(39.4%)、「愛知県女性相談支援センター」(23.2%) の順となっている。一方で、「相談できる窓口として知っているものはない」と答えた人も 12.7% となっている。

【性別】で比較すると、「愛知県女性相談支援センター」では、女性が男性を 11.7 ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、すべての項目で下回っており、特に「民間の機関」「民生委員・児童委員」「市役所」などが減少している。



【問 23】女性が抱える困難な問題について相談できる窓口の認知

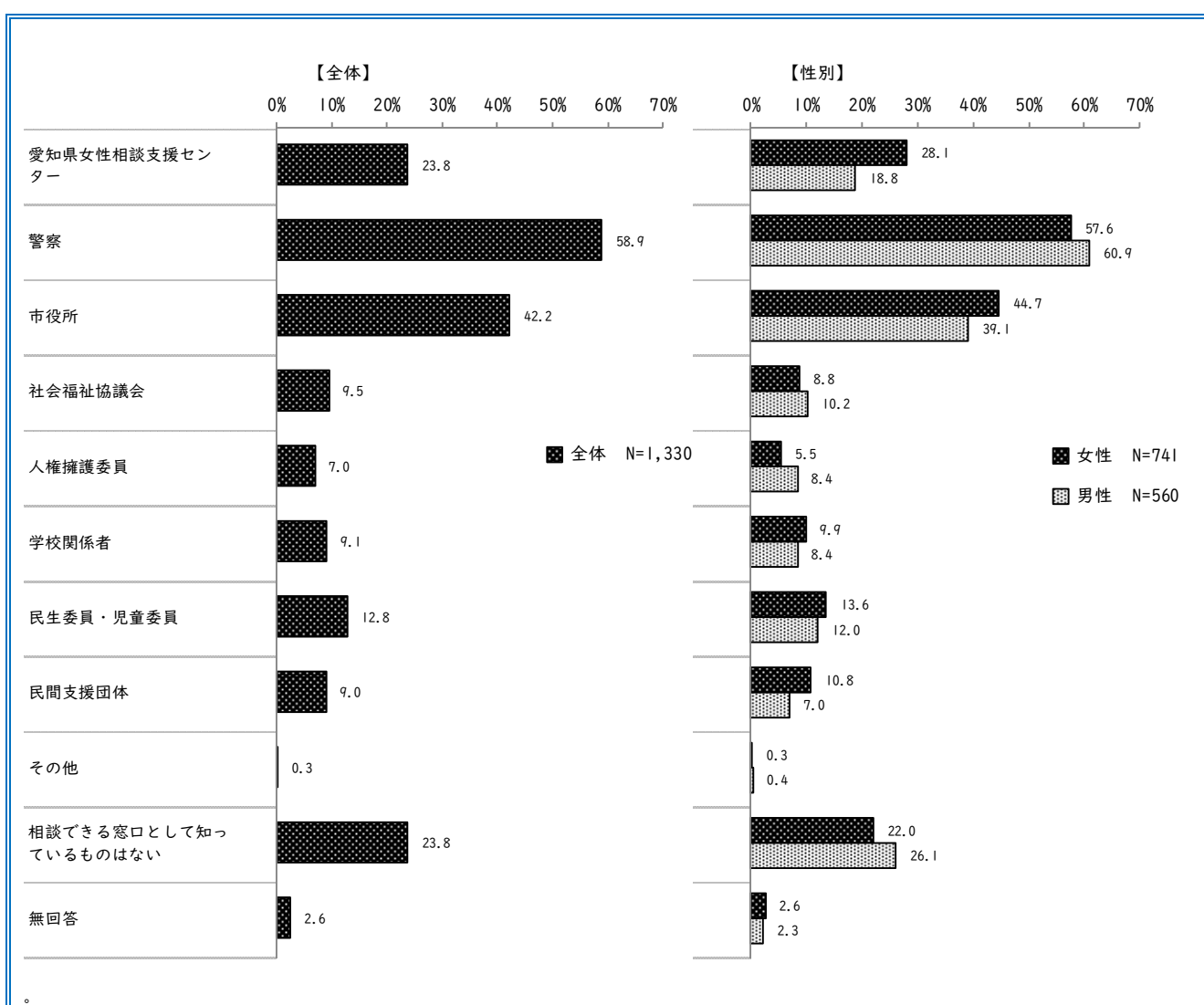
令和6年4月に、貧困や性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくものとして「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。
この法律と関連して、あなたは生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻などの女性が抱える困難な問題について、相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別）

「警察」が58.9%と最も高く、次いで「市役所」が42.2%

全体では、「警察」が58.9%と最も高く、次いで「市役所」（42.2%）、「愛知県女性相談支援センター」（23.8%）の順となっている。一方で、「相談できる窓口として知っているものはない」と答えた人も23.8%と約4人に1人の割合となっている。

【性別】で比較すると、「愛知県女性相談支援センター」「市役所」では、女性が男性を5.0ポイント以上高くなっている。



【問 24】貧困やDV等に直面する人が自立するために必要な支援

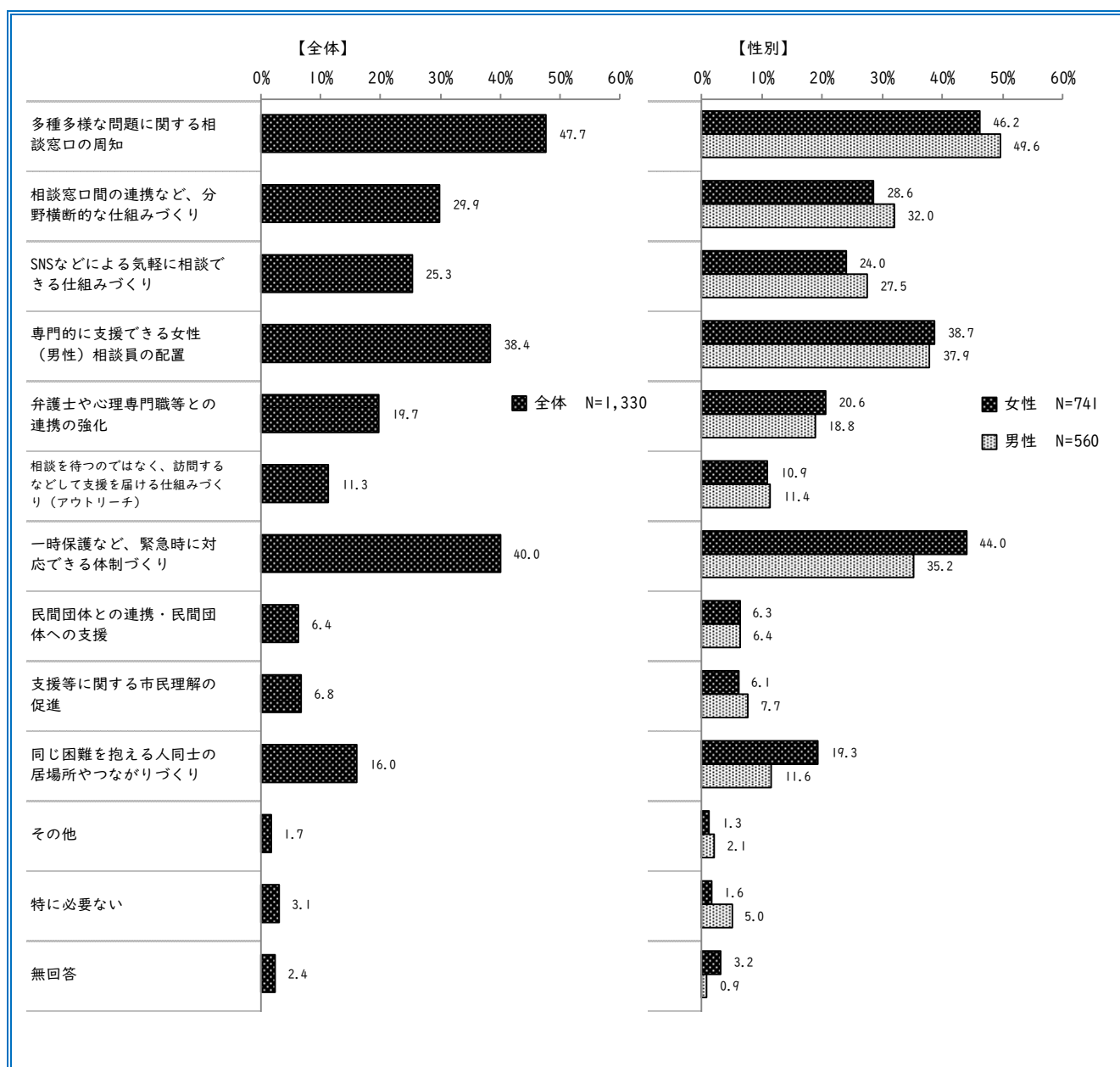
貧困や DV、性暴力などに直面する人の自立に向けた公的支援について、あなたが特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別）

「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が47.7% と最も高く、
次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」が40.0%

全体では、「多種多様な問題に関する相談窓口の周知」が47.7%と最も高く、次いで「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」（40.0%）、「専門的に支援できる女性（男性）相談員の配置」（38.4%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり」「同じ困難を抱える人同士の居場所やつながりづくり」と答えた人は、女性が男性をそれぞれ8.8ポイント、7.7ポイント上回っている。



【問 25】性的マイノリティの人たちにとって生活しやすい社会

現在、性的マイノリティ（性的少数者）の人たちにとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別、性・年代別）

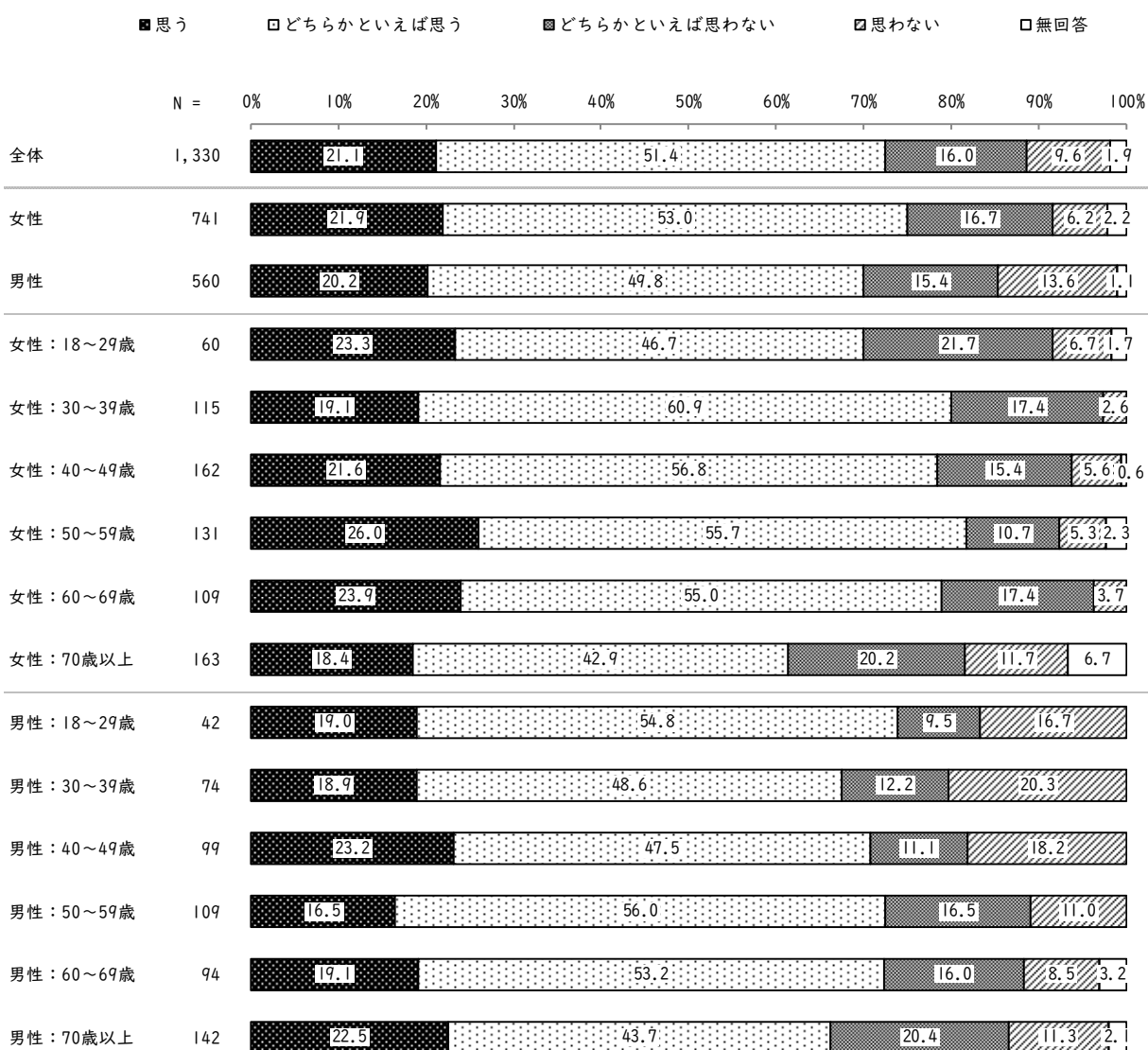
性的マイノリティ（性的少数者）の人たちにとって『生活しづらい社会』と感じている人が72.5%

全体では、『生活しづらい社会だと思う』と答えた人は72.5%となっている。一方で、『生活しづらい社会だと思わない』と答えた人は25.6%となっている。

【性別】で比較すると、女性では『生活しづらい社会』と答えた人は74.9%となっているのに対し、男性では70.0%となっている。

【性・年代別】で比較すると、『生活しづらい社会』と答えた人は男女とも「70歳以上」、男性の「30歳代」を除いた年齢層で7割以上を占めている。

男性は『生活しづらい社会だと思わない』と答えた18～29歳が、全世代で最も少ないのに対して、女性は『生活しづらい社会だと思わない』と答えた18～29歳が、70歳以上に次いで多くなっている。



『生活しづらい社会だと思う』は「思う」と「どちらかといえば思う」の合計。

『生活しづらい社会だと思わない』は「思わない」と「どちらかといえば思わない」の合計。

【問 26】性的マイノリティの人たちが生活しやすい社会にするために市が取り組むべきこと

性的マイノリティ（性的少数者）の人たちの困難を解決して暮らしやすい社会にするために、あなたが特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。

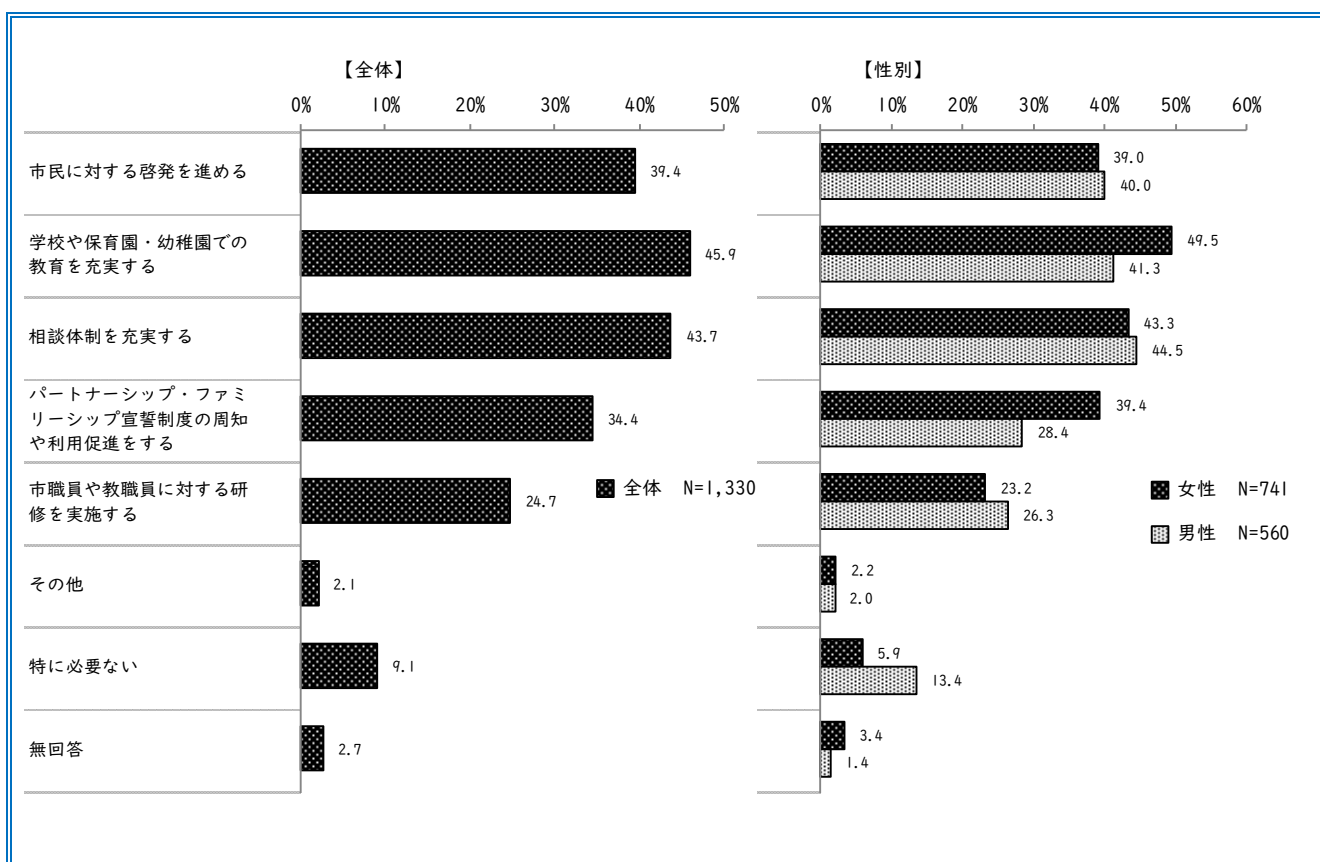
（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別）

「学校や保育園・幼稚園での教育を充実する」が最も高く、次いで「相談体制を充実する」

全体では、「学校や保育園・幼稚園での教育を充実する」が45.9%と最も高く、次いで「相談体制を充実する」（43.7%）、「市民に対する啓発を進める」（39.4%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の周知や利用促進をする」「学校や保育園・幼稚園での教育を充実する」と答えた人は、女性が男性をそれぞれ11.0ポイント、8.2ポイント上回っている。一方で、「特に必要ない」と答えた人は、男性が女性を7.5ポイント上回っている。



5 男女共同参画等に関する用語について

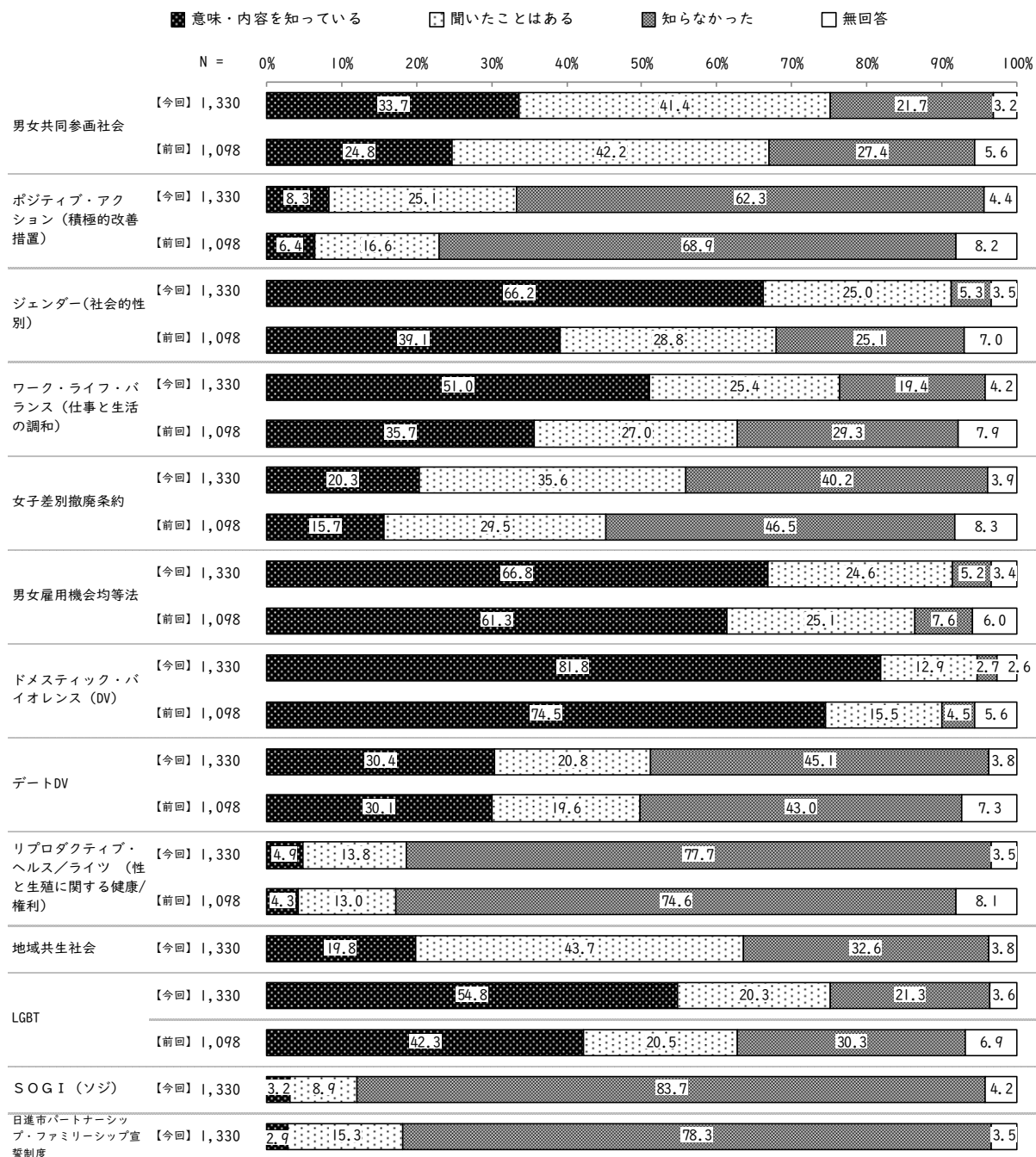
【問 27】男女共同参画に関する言葉の認知度

あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

(A～Mの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、前回調査比較）

前回調査と比較すると、「意味・内容を知っている」人の割合が、「ジェンダー(社会的性別)」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」「LGBT」などで10ポイント以上増加している。

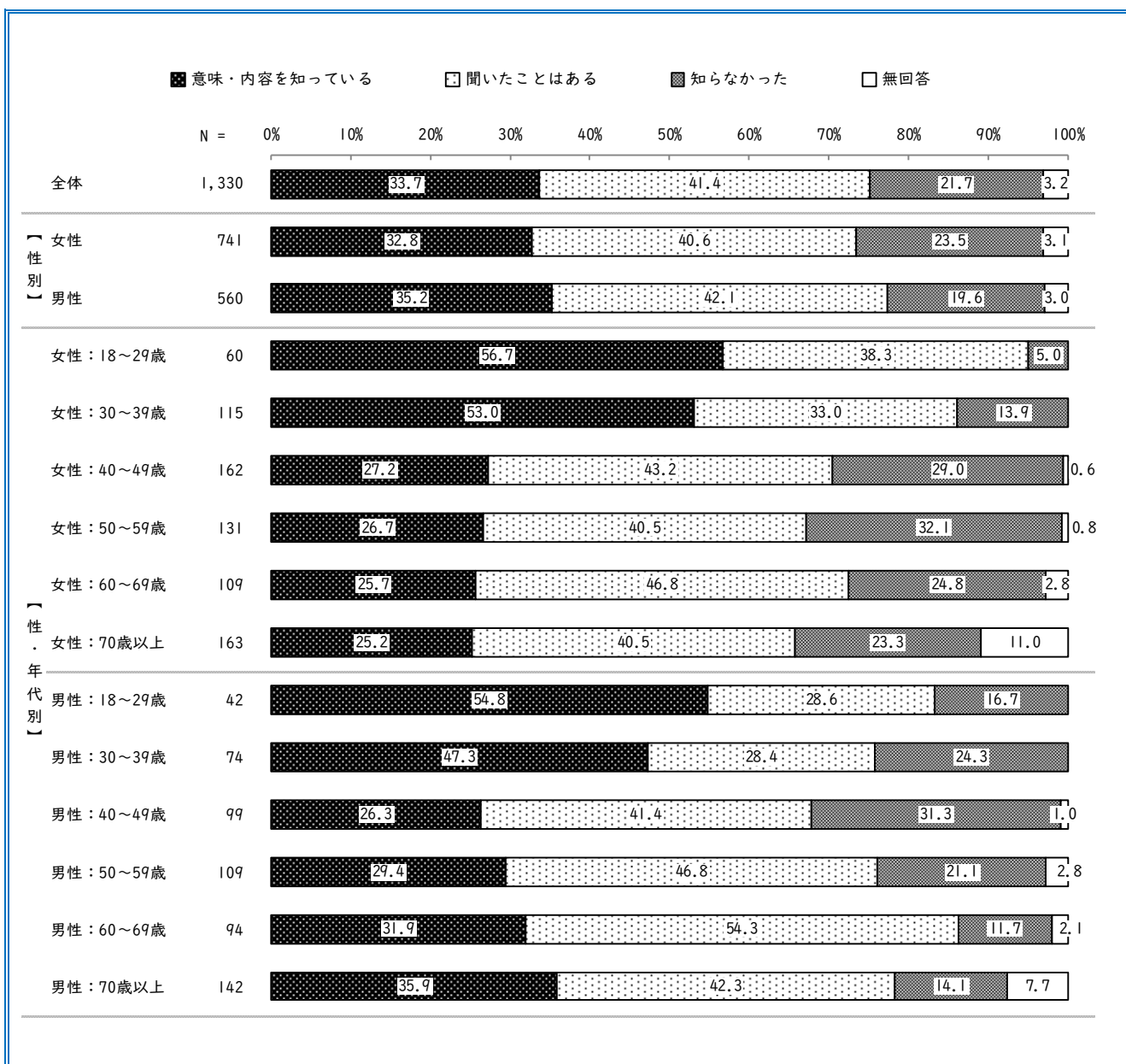


問 27 - A 男女共同参画社会

「意味・内容を知っている」割合が 33.7%

全体では、「聞いたことはある」が41.4%と最も高く、次いで「意味・内容を知っている」(33.7%)、「知らなかった」(21.7%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「18～30歳代」で高くなっている。

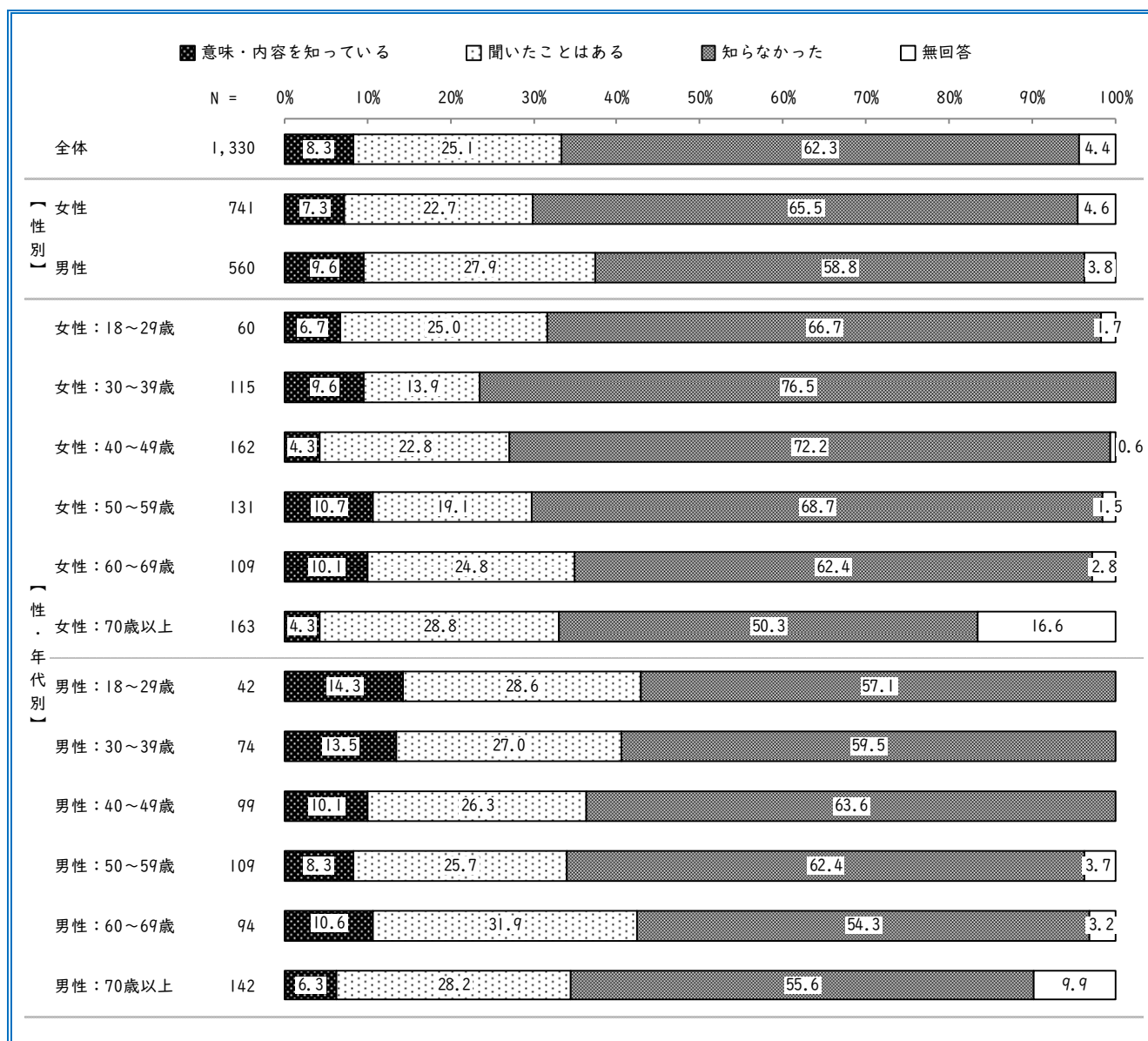


問 27 - B ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「意味・内容を知っている」割合が 8.3%

全体では、「知らなかった」が62.3%と最も高く、次いで「聞いたことはある」（25.1%）、「意味・内容を知っている」（8.3%）の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性の「50～60 歳代」、男性の「18～40 歳代」「60 歳代」で高くなっている。



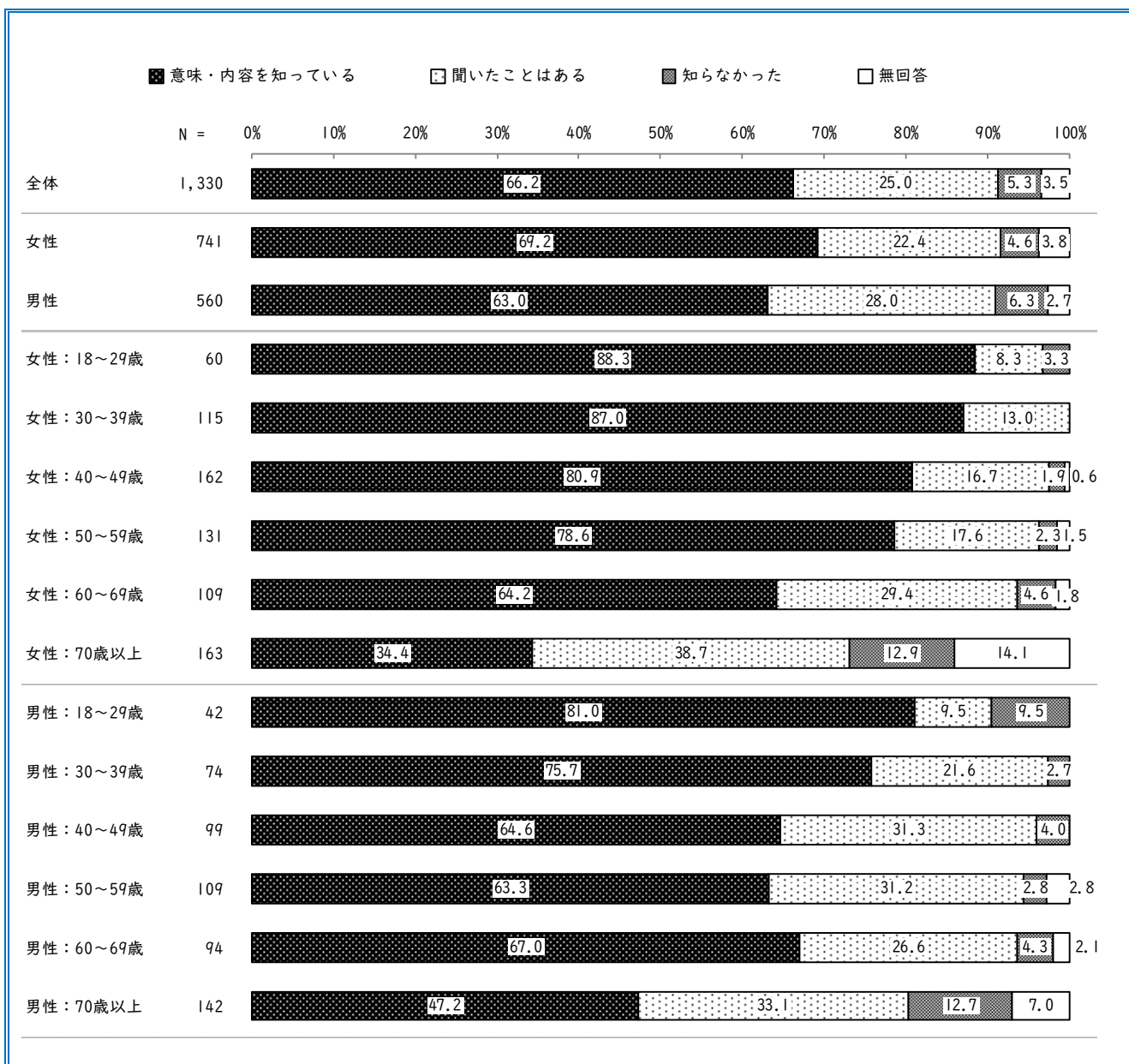
問 27 - C ジェンダー(社会的性別)

「意味・内容を知っている」割合が 66.2%

全体では、「意味・内容を知っている」が 66.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.0%)、「知らなかった」(5.3%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 69.2%、男性で 63.0%と、女性が男性を 6.2 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性の「18～40 歳代」、男性の「18～20 歳代」で 8 割を超え高くなっている。



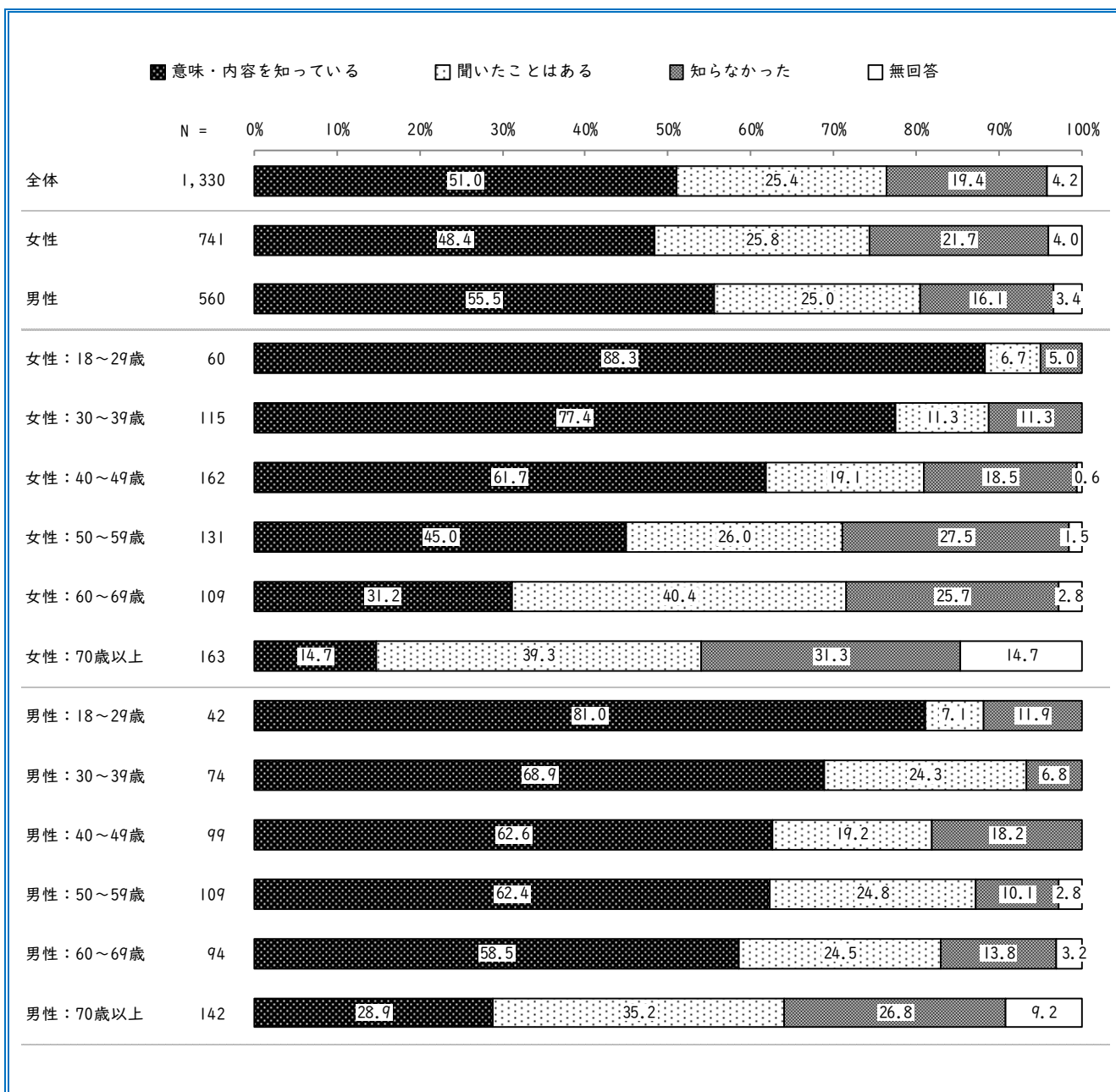
問 27-D ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

「意味・内容を知っている」割合が 51.0%

全体では、「意味・内容を知っている」が 51.0%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(25.4%)、「知らなかった」(19.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 48.4%、男性で 55.5%と、男性が女性を 7.1 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「18～20 歳代」が最も高く、年齢とともに減少する傾向がみられる。

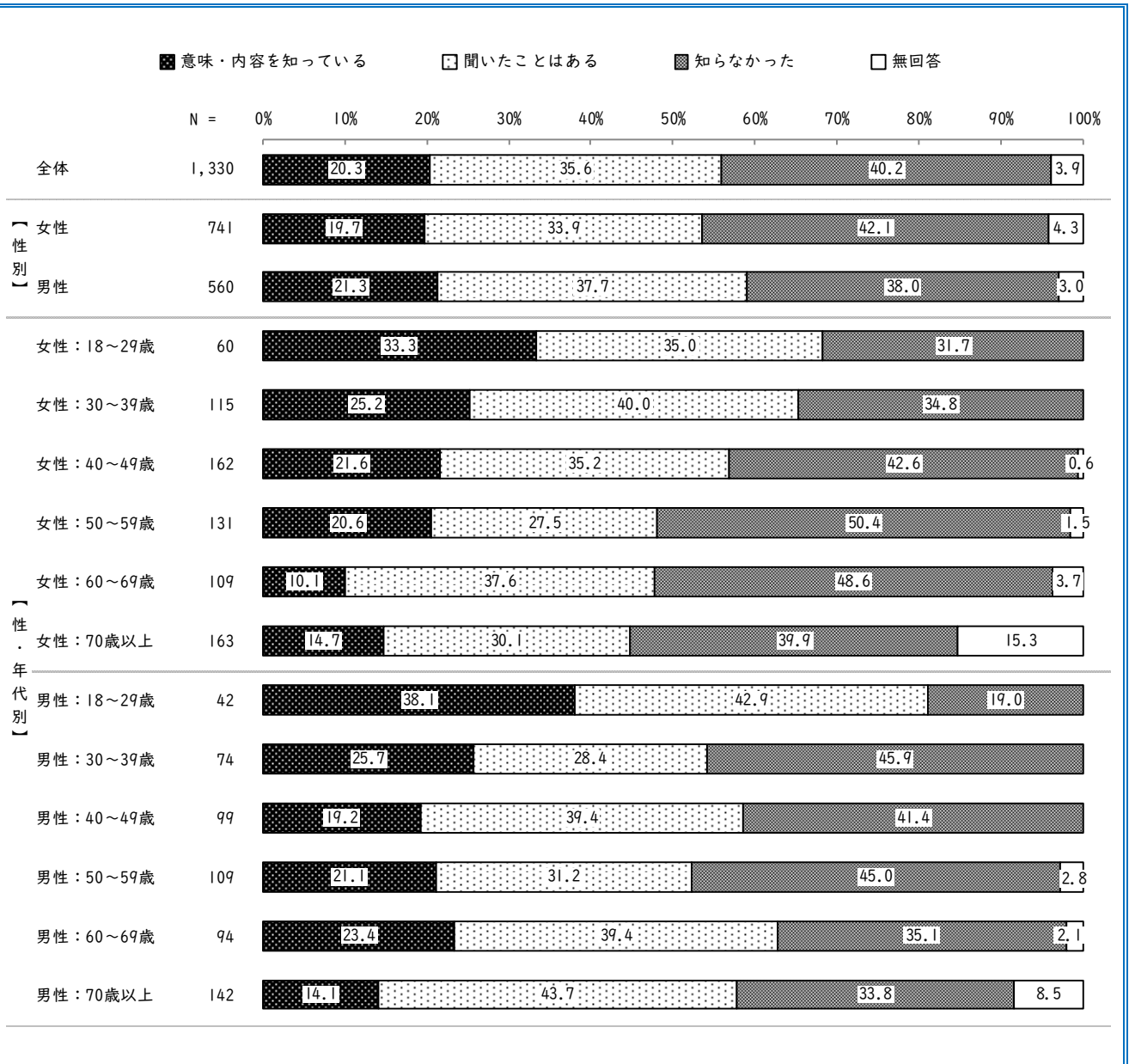


問 27 - E 女子差別撤廃条約

「意味・内容を知っている」割合が 20.3%

全体では、「知らなかった」が40.2%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(35.6%)、「意味・内容を知っている」(20.3%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「18～20 歳代」で3割を超え認知度は高くなっている。



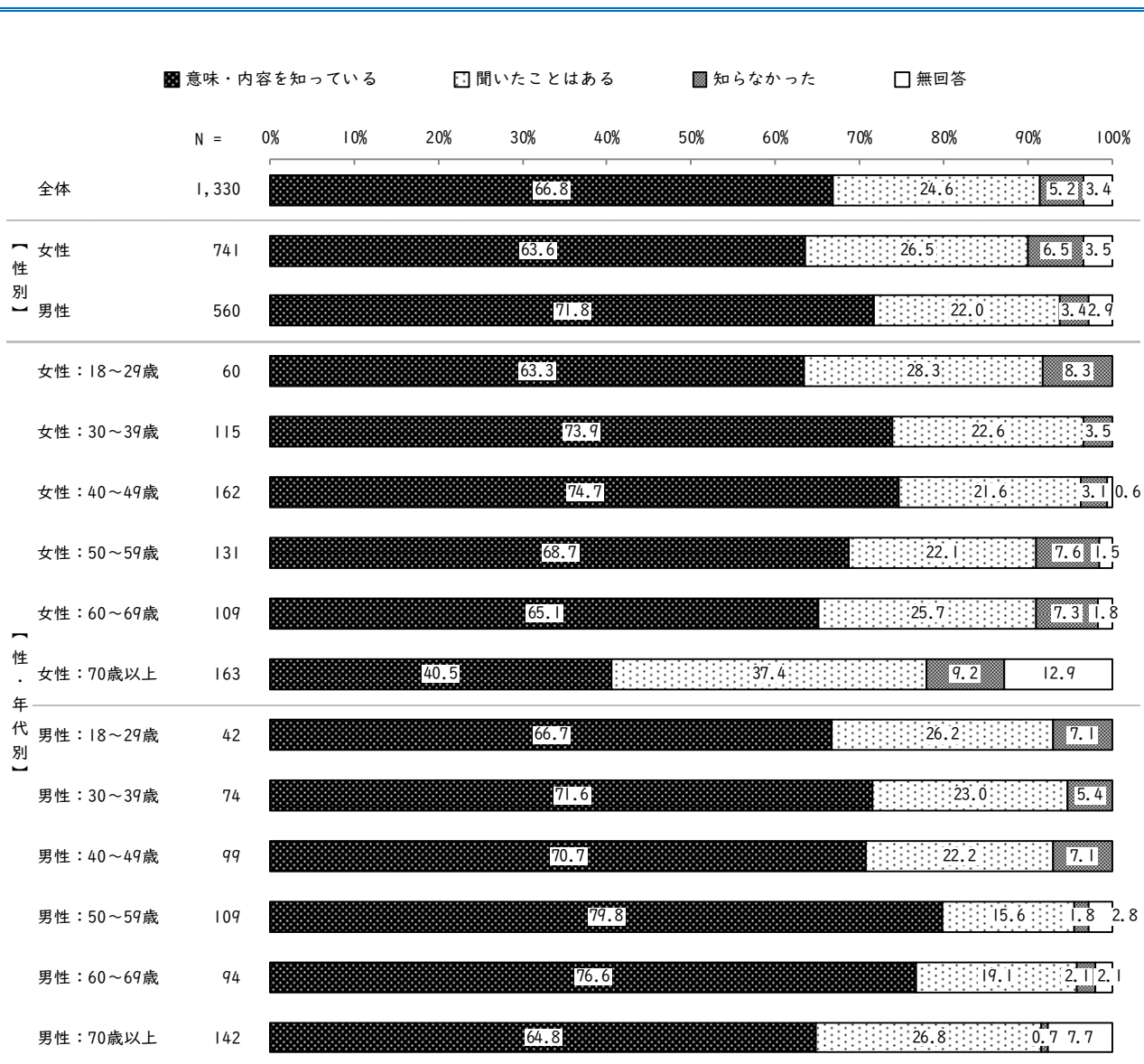
問 27 - F 男女雇用機会均等法

「意味・内容を知っている」割合が 66.8%

全体では、「意味・内容を知っている」が 66.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(24.6%)、「知らなかった」(5.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 63.6%、男性で 71.8%と、男性が女性を 8.2 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性は「30～40 歳代」、男性は「30～60 歳代」で高くなっている。

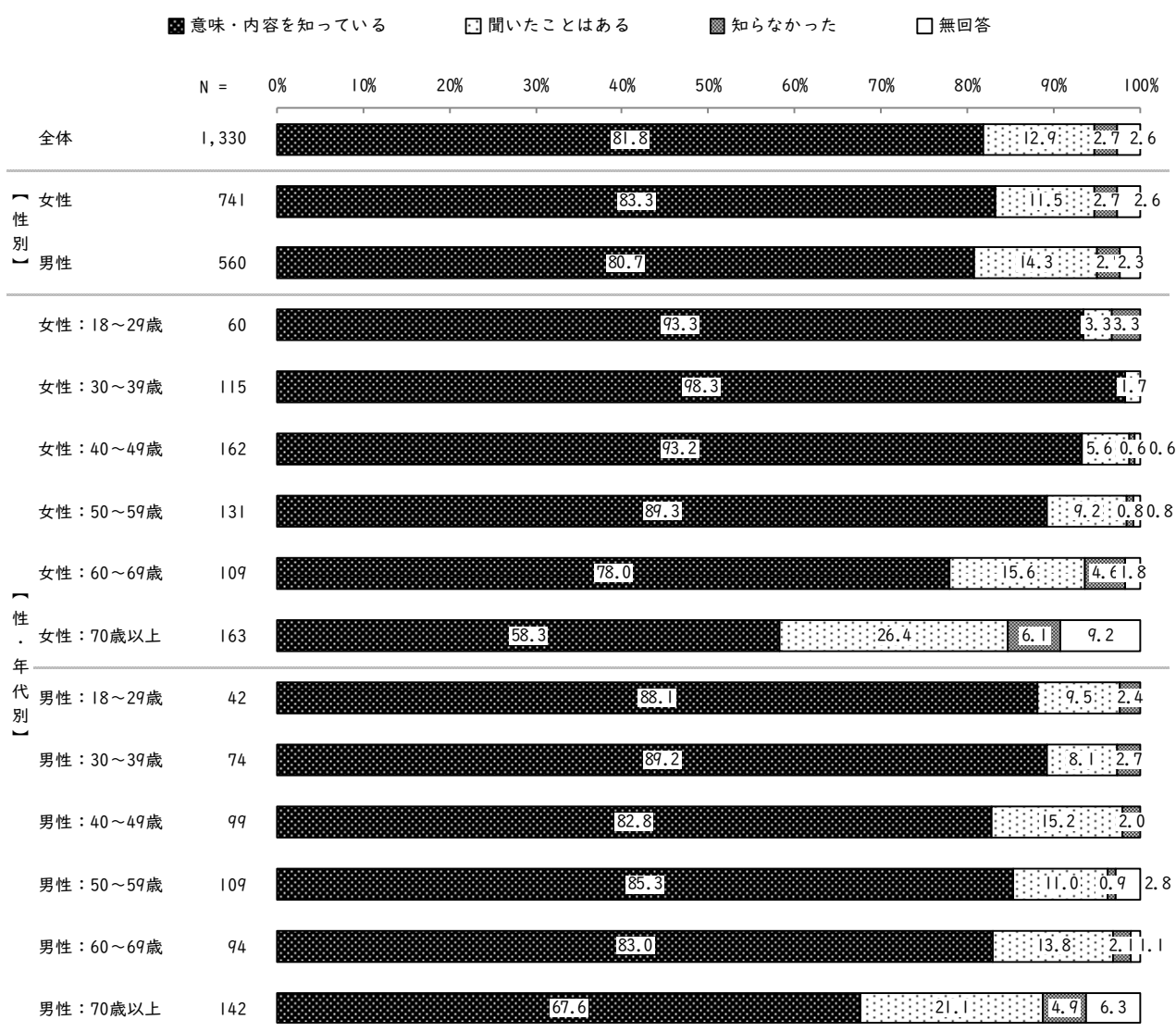


問 27-G ドメスティック・バイオレンス (DV)

「意味・内容を知っている」割合が 81.8%

全体では、「意味・内容を知っている」が 81.8%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(12.9%)、「知らなかった」(2.7%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、「女性の 18～40 歳代」で 90%以上、女性の「50 歳代」、男性の「18～60 歳代」で高く 8 割を超えている。



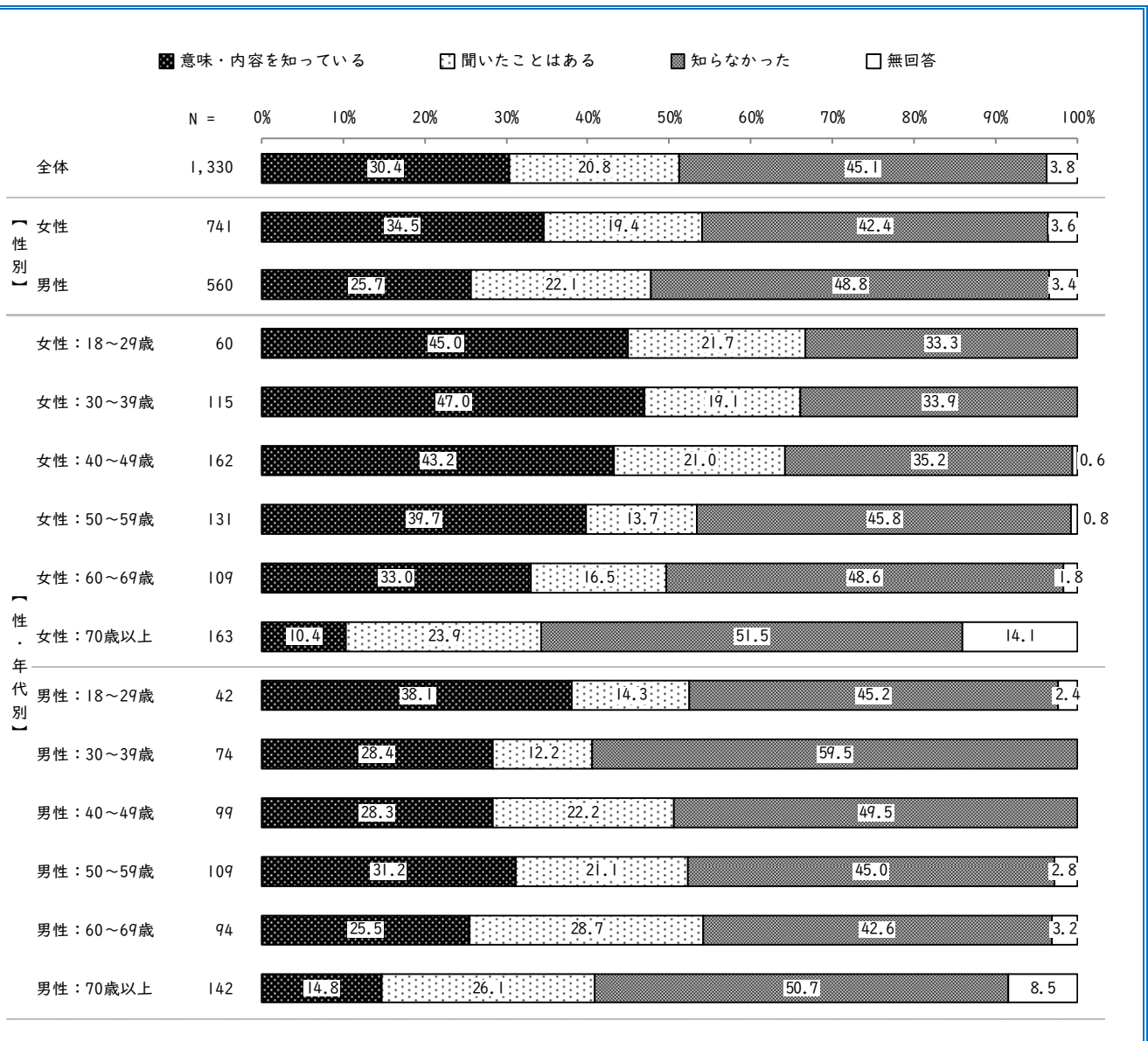
問 27 - H デートDV

「意味・内容を知っている」割合が 30.4%

全体では、「知らなかった」が 45.1%と最も高く、次いで「意味・内容を知っている」(30.4%)、「聞いたことはある」(20.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 34.5%、男性で 25.7%と、女性が男性を 8.8 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも「18～50 歳代」の認知度が高くなっており、特に男性に比べ女性の認知度が高くなっている。

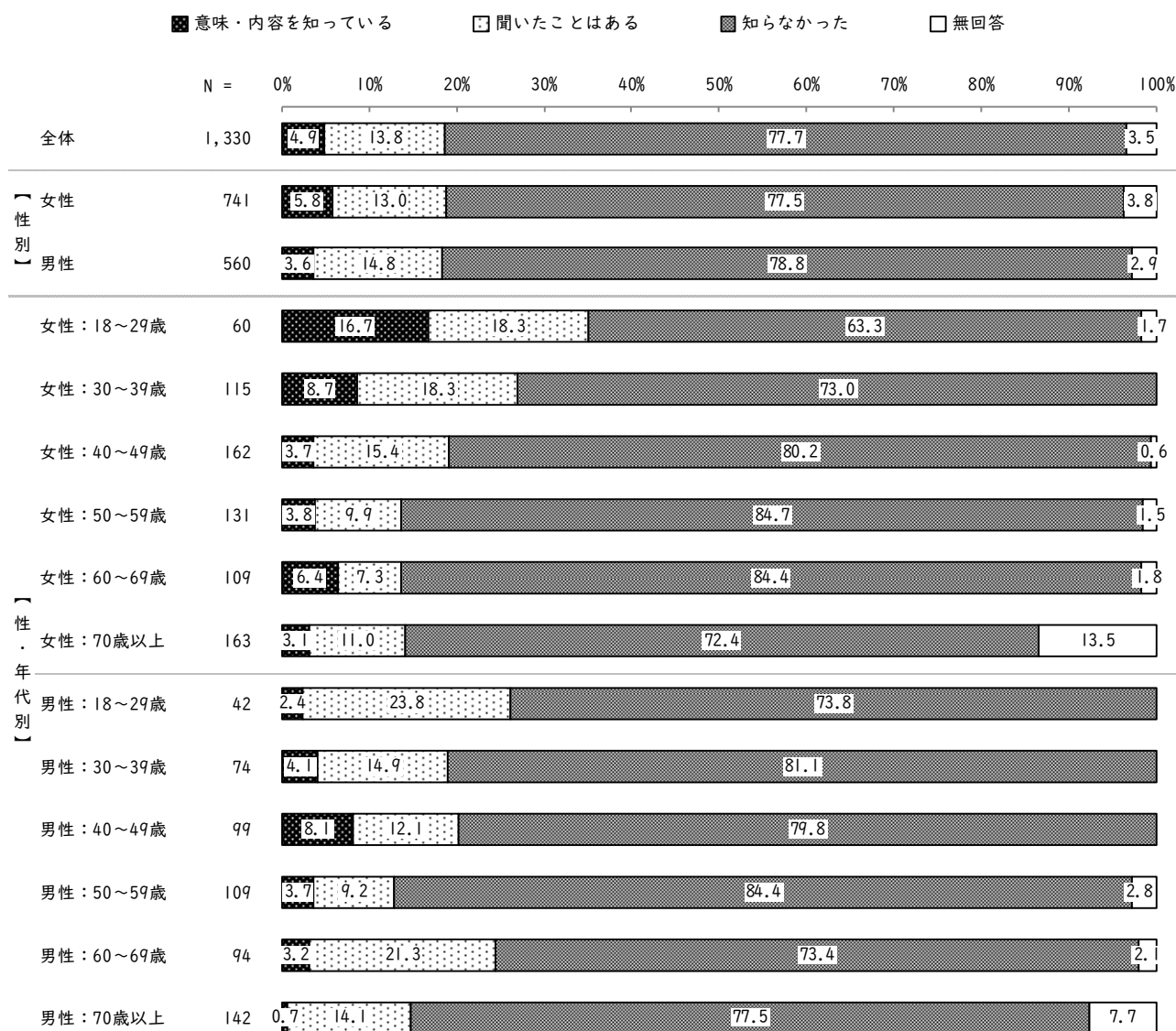


問 27 - I リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康／権利）

「意味・内容を知っている」割合が 4.9%

全体では、「知らなかった」が77.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」（13.8%）、「意味・内容を知っている」（4.9%）の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性の「18～20 歳代」で16.7%と最も高くなっており、その他の年齢層では1割に満たない。



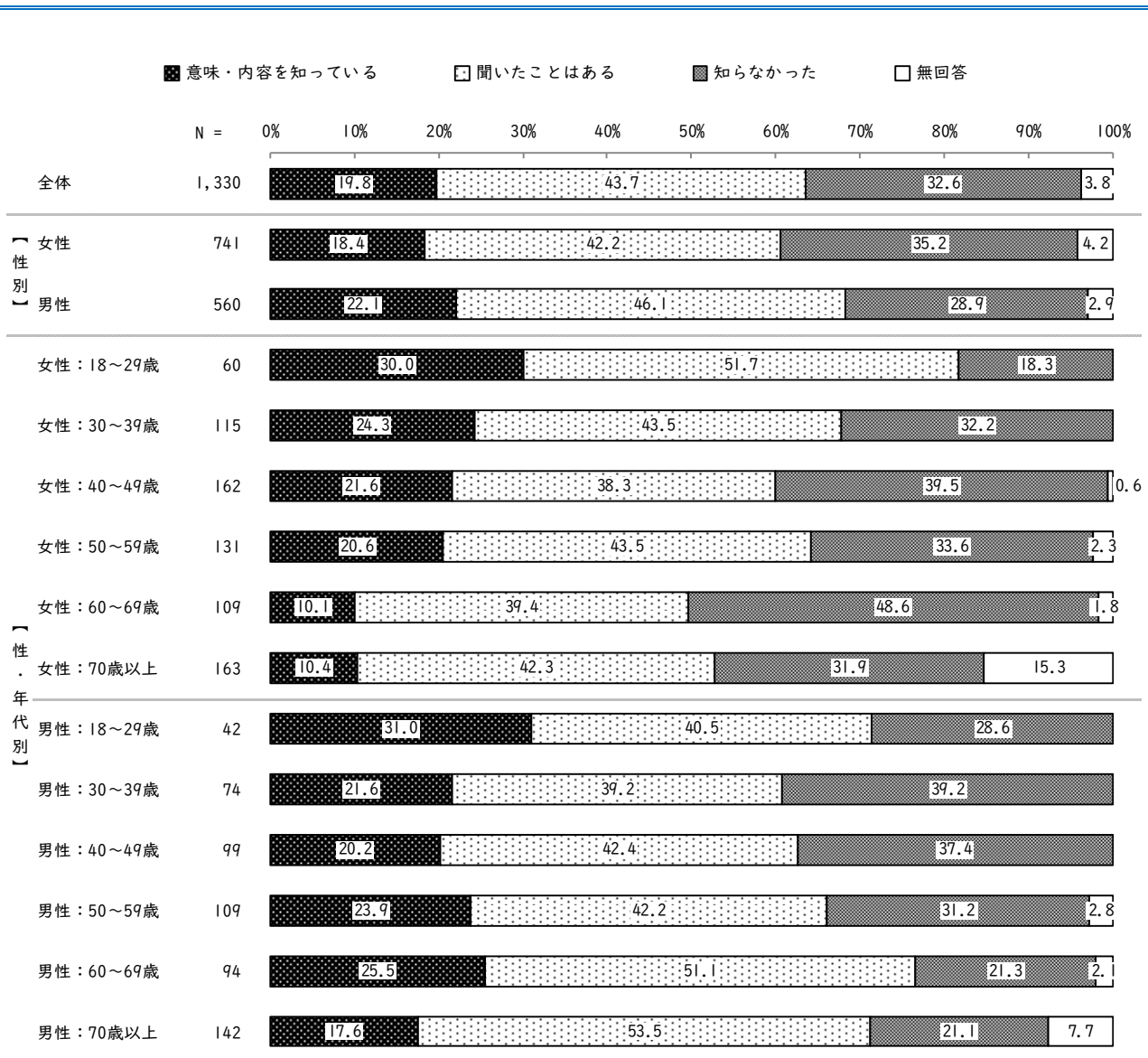
問 27 - J 地域共生社会

「意味・内容を知っている」割合が 19.8%

全体では、「聞いたことはある」が 43.7%と最も高く、次いで「知らなかった」(32.6%)、「意味・内容を知っている」(19.8%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 18.4%、男性で 22.1%となっている。「聞いたことがある」と答えた人は、女性で 42.2%、男性で 46.1%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性の「50 歳代以下」、男性の「60 歳代以下」でやや高くなっている。

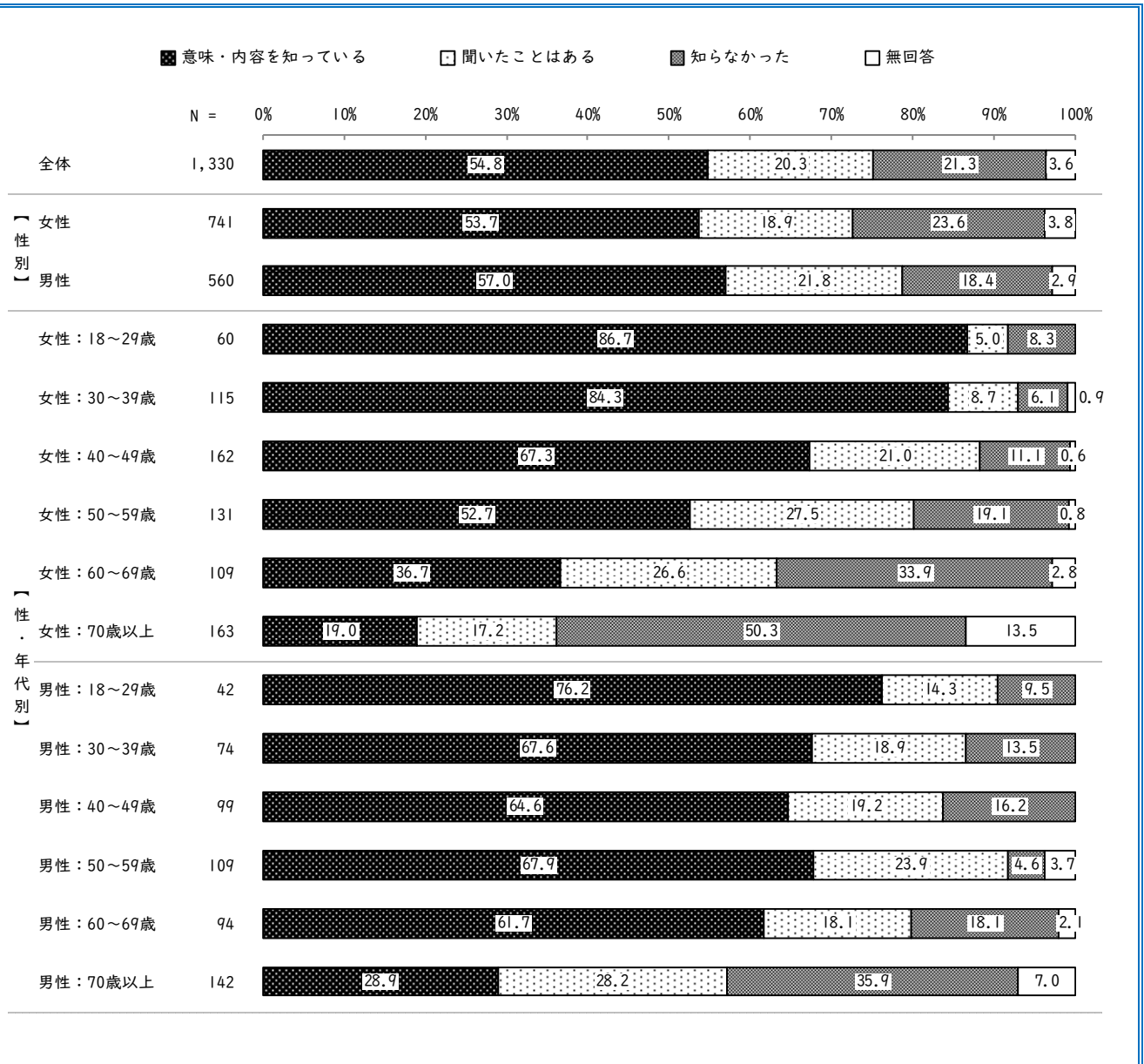


問 27 - K L G B T

「意味・内容を知っている」割合が 54.8%

全体では、「意味・内容を知っている」が 54.8%と最も高く、次いで「知らなかった」(21.3%)、「聞いたことはある」(20.3%)の順となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも比較的若年層で高くなっている。



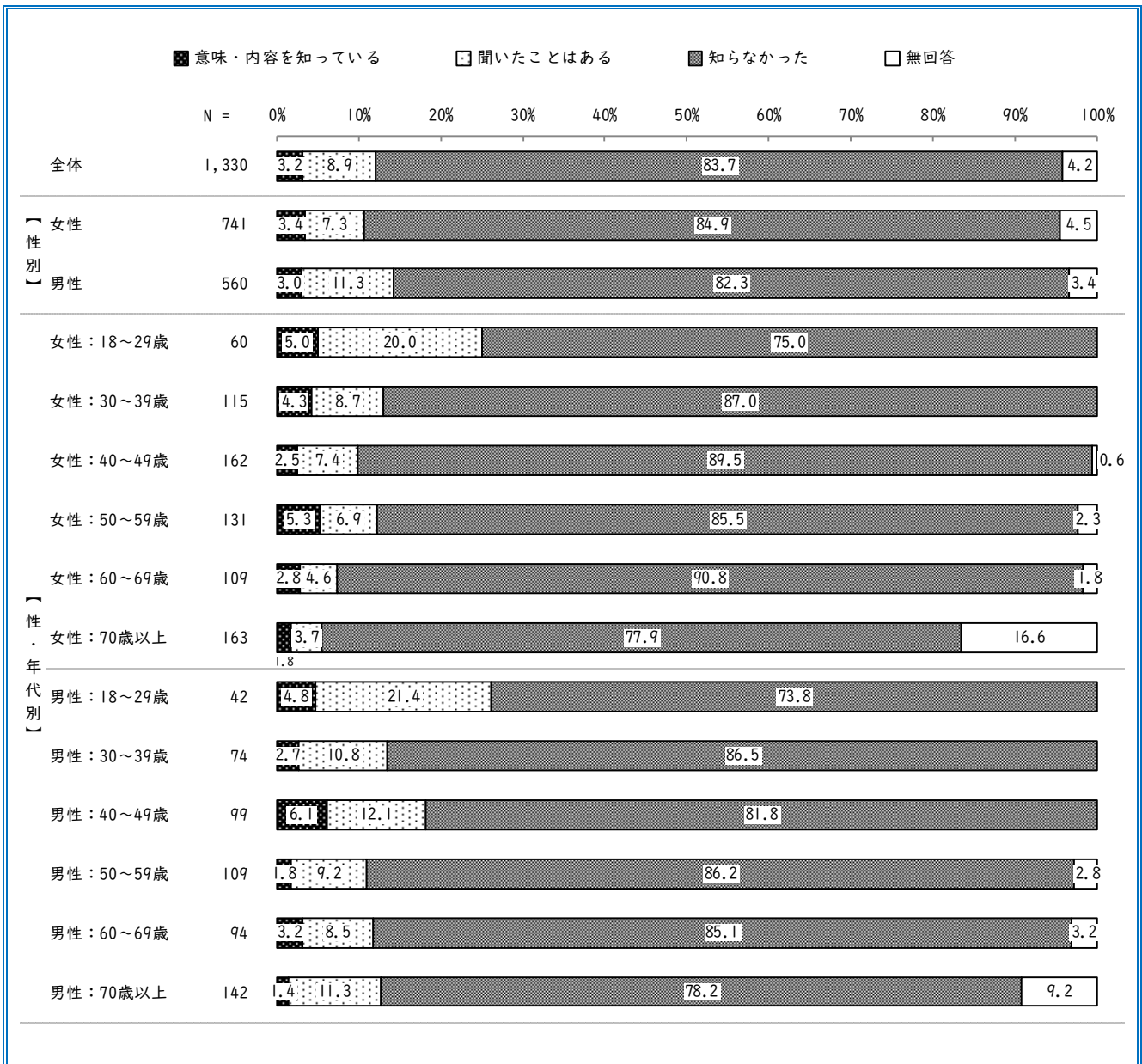
問 27 - L SOGI (ソジ)

「意味・内容を知っている」割合が 3.2%

全体では、「知らなかった」が 83.7%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(8.9%)、「意味・内容を知っている」(3.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で 3.4%、男性で 3.0%となっている。「聞いたことがある」と答えた人は、女性で 7.3%、男性で 11.3%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも 1 割に満たないものの、「聞いたことはある」と答えた人は、男女とも 18～29 歳で高く 2 割を超えている。



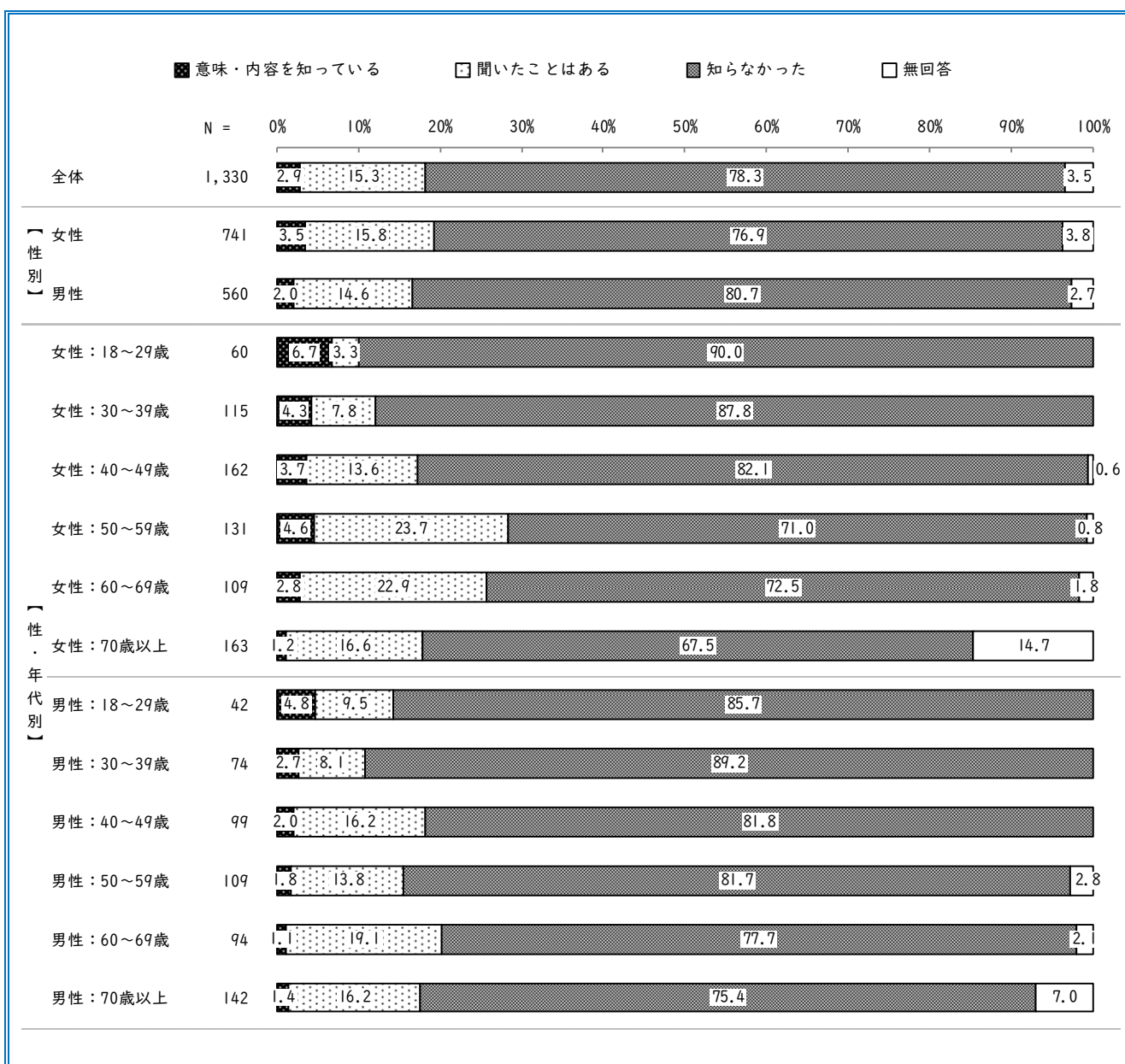
問 27 - M 日進市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

「意味・内容を知っている」割合が 2.9%

全体では、「知らなかった」が78.3%と最も高く、次いで「聞いたことはある」(15.3%)、「意味・内容を知っている」(2.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性で3.5%、男性で2.0%となっている。「聞いたことがある」と答えた人は、女性で15.8%、男性で14.6%となっている。

【性・年代別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、男女とも1割に満たない状況となっている。



【問 28】「性」に関する言葉について

あなたは、「性」に関する以下の言葉の内容について知っていますか。

(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

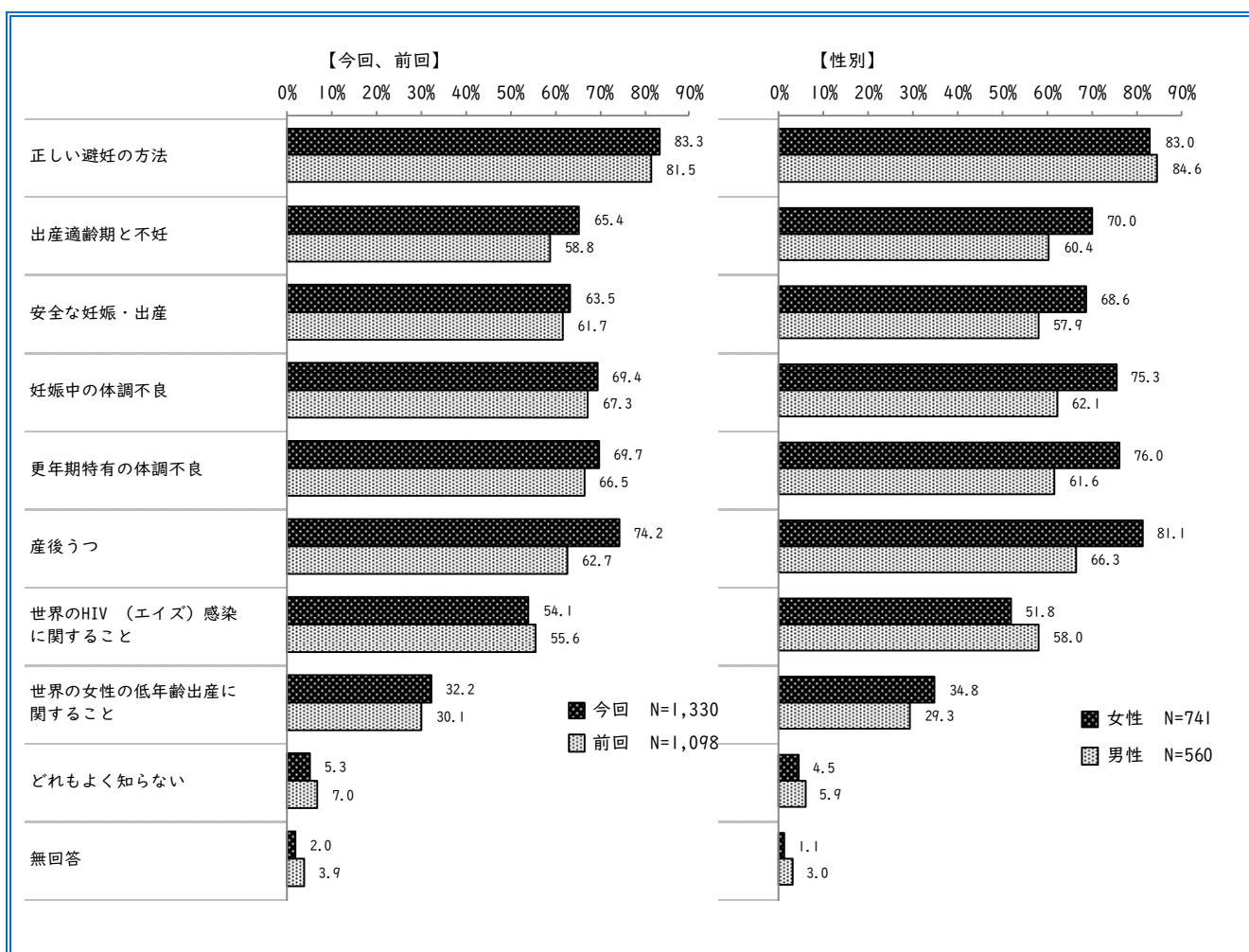
●項目比較（全体、前回調査比較、性別）

「産後うつ」の言葉の認知度が高くなっている

全体では、「正しい避妊の方法」が83.3%と最も高く、次いで「産後うつ」(74.2%)、「更年期特有の体調不良」(69.7%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「正しい避妊の方法」、「世界の HIV（エイズ）感染に関すること」、「どれもよく知らない」以外の項目で女性の方が高くなっている。

前回調査と比較すると、「産後うつ」の認知度が11.5ポイント増加している。



6 行政の取り組みについて

【問 29】女性の意見の市政反映について

あなたは、女性の意見が、市政に反映されていると思いますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

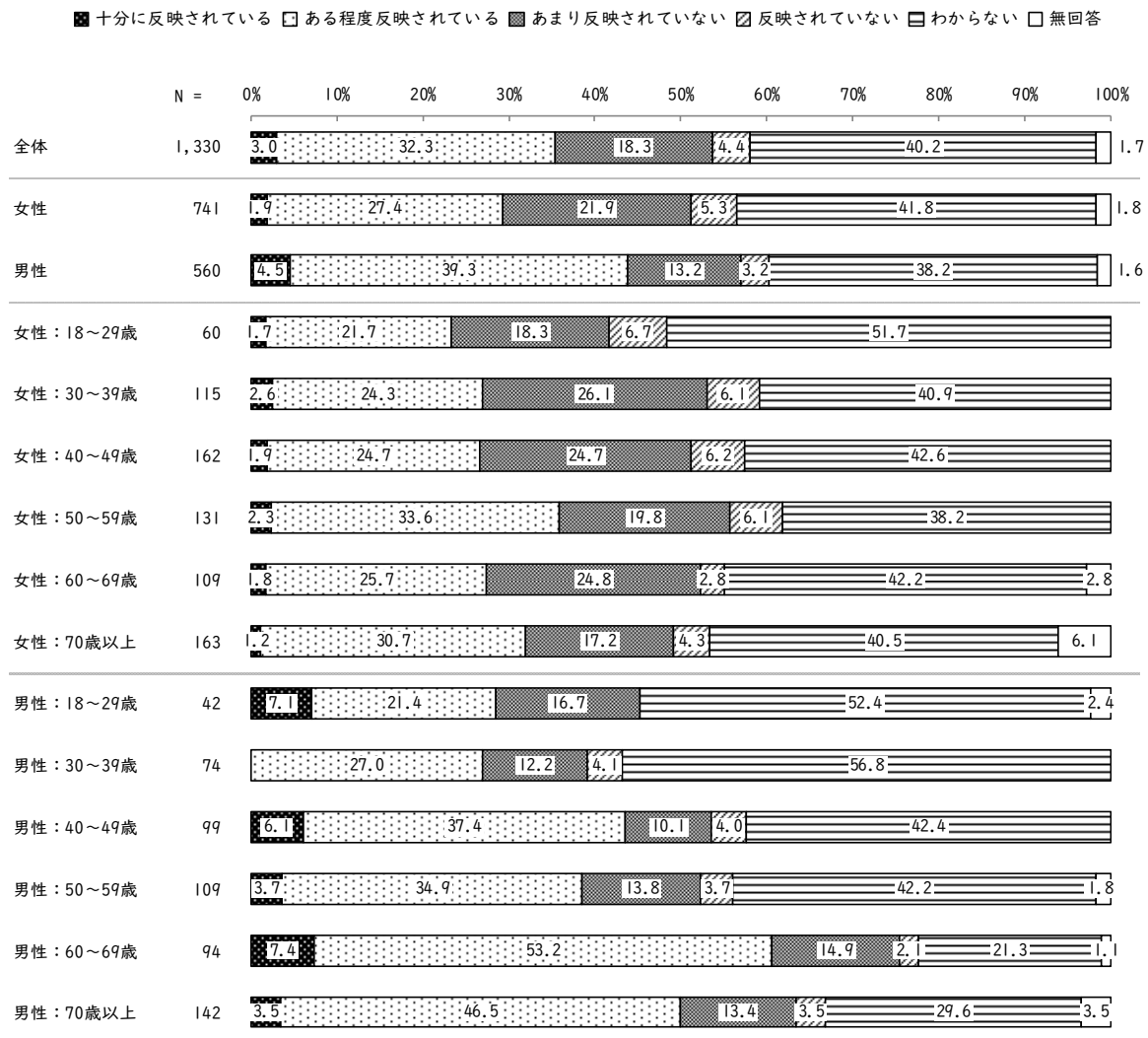
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

『反映されている』と感じている人は 35.5%

全体では、『反映されている』と答えた人は 35.3% となっている。一方で、『反映されていない』と答えた人は 22.7% となっている。

【性別】で比較すると、女性では『反映されている』と答えた人は 29.3% となっているのに対し、男性では 43.8% と、男女間で大きく意識が違っている傾向がみられる。

【性・年代別】で比較すると、『反映されている』と答えた人は男性の「40 歳代以上」で高くなっている。

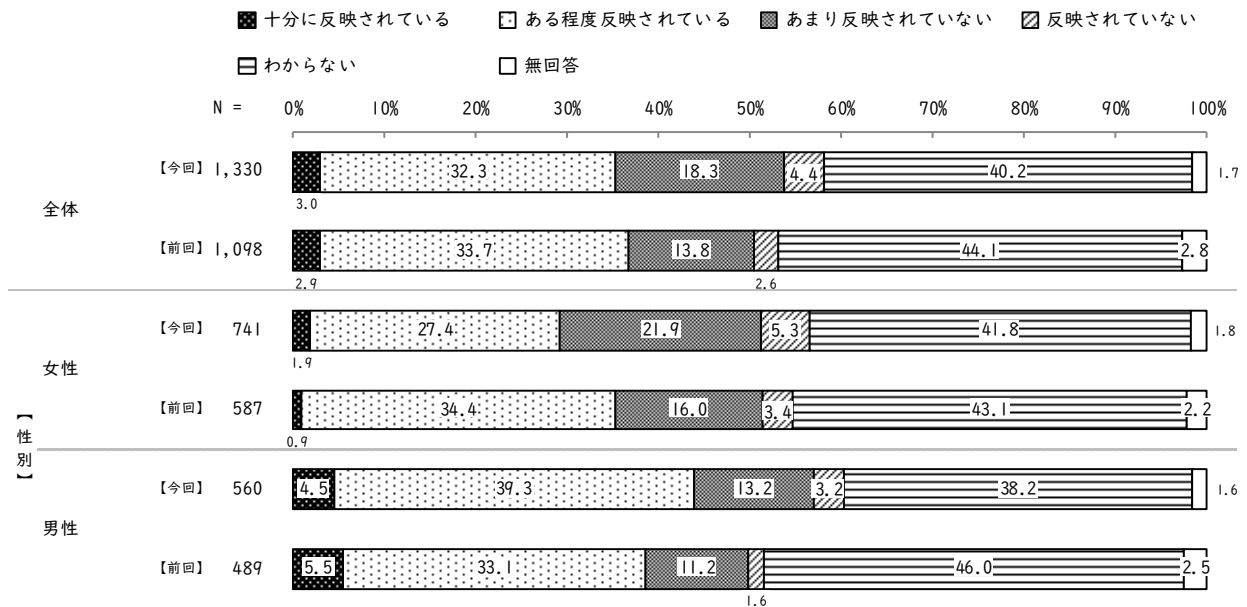


『反映されている』は「十分に反映されている」と「ある程度反映されている」の合計。

『反映されていない』は「反映されていない」と「あまり反映されていない」の合計。

●項目比較（前回調査比較）

前回調査と比較すると、男性では『反映されていない』と答えた人の割合が **3.6 ポイント** 減少した一方、女性では 7.8 ポイント増加している。



※女性の意見が市政に反映されていないと回答した方

【問 30】意見が反映されていないと思う理由

反映されていないと思うのは、なぜですか。（あてはまる番号１つに○をつけてください。）

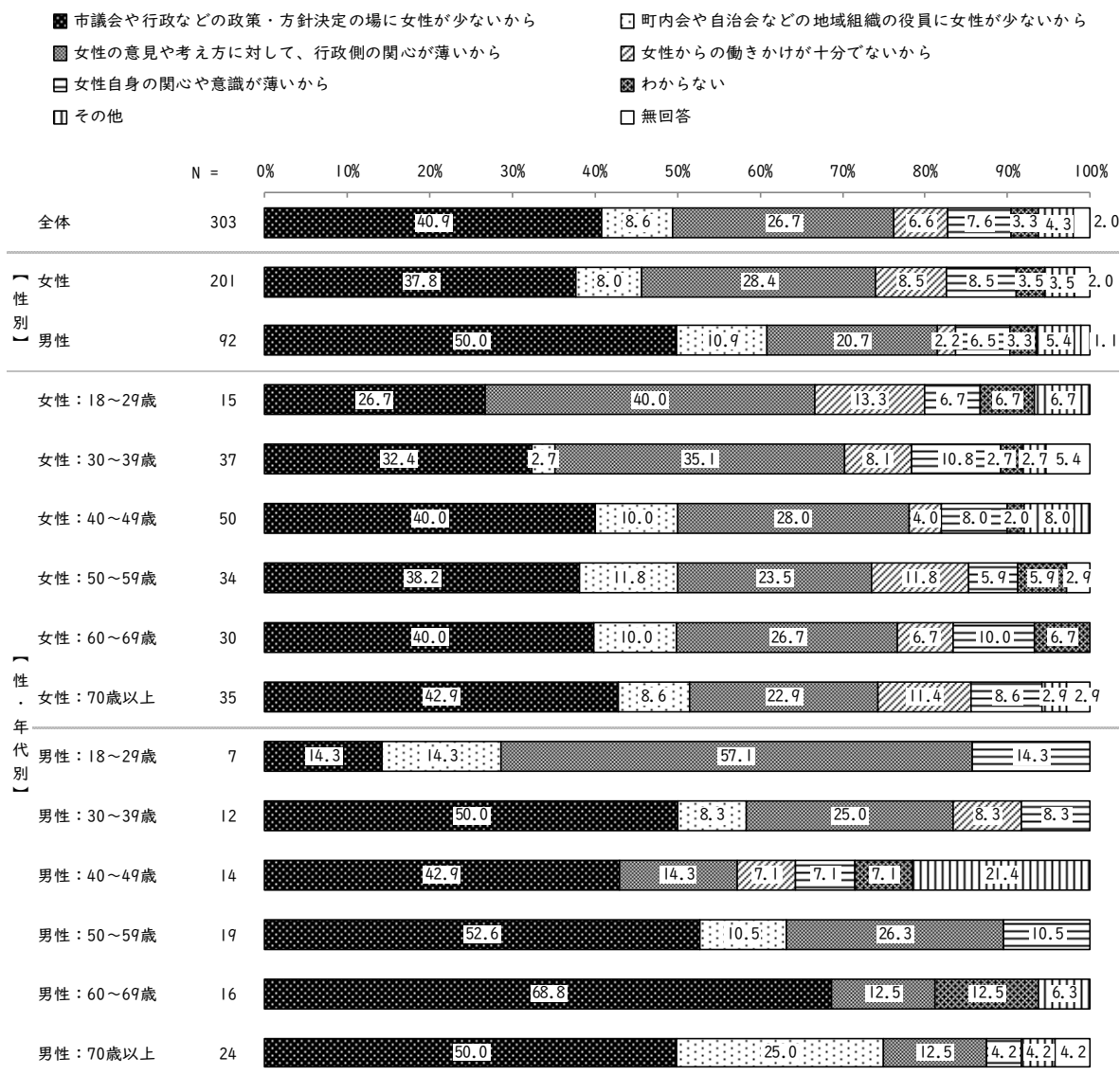
●項目比較（全体、性別、性・年代別）

男女ともに「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が最も高い

全体では、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」が 40.9%と最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」（26.7%）の順となっている。

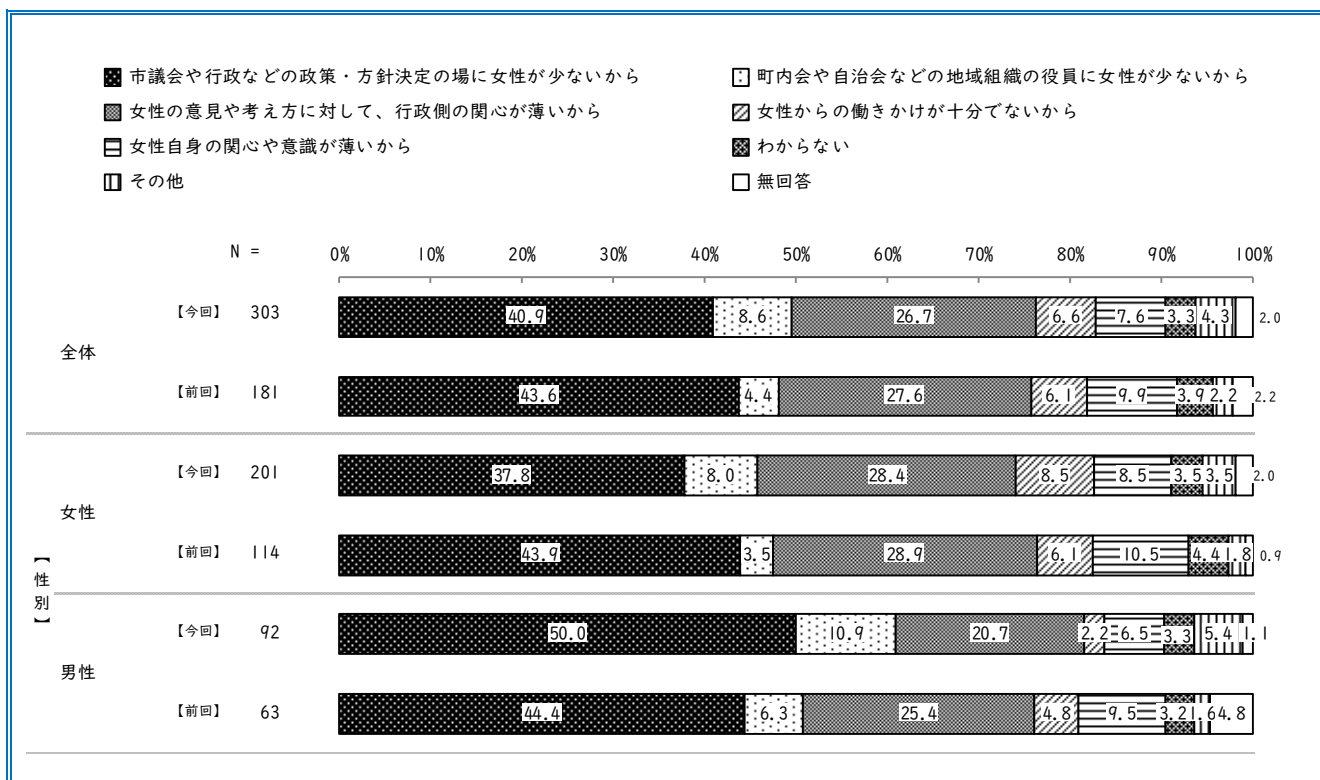
【性別】で比較すると、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」は、男性が女性を 12.2 ポイント上回っている。

【性・年代別】で比較すると、女性の「40 歳代以上」、男性の「30 歳代以上」で「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」の割合が高くなっている。また、女性の「30 歳代以下」や男性の「20 歳代以下」などの比較的若年層で「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」の割合が高くなっている。



●項目比較（前回調査比較）

前回調査と同様に、「市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」「女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから」が上位2項目としてあげられている。一方で、全体的な割合としては少ないものの「町内会や自治会などの地域組織の役員に女性が少ないから」は前回に比べて倍近く増加している。



【問 31】男女平等な社会を実現するために行政が力を入れるべきこと

あなたは、男女平等な社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

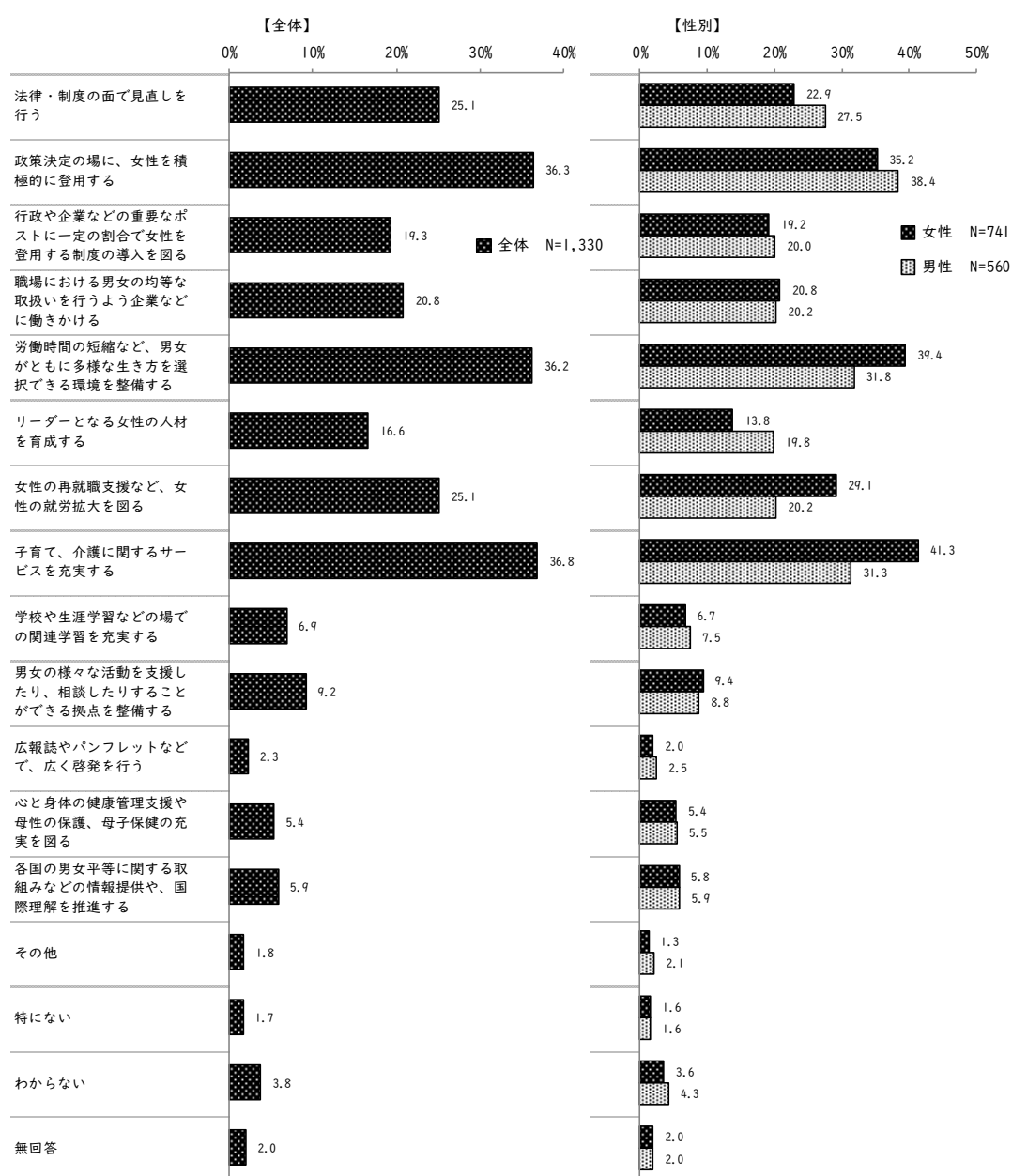
●項目比較（全体、性別）

女性では「子育て、介護に関するサービスを充実する」

男性では「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」が最も高い

全体では、「子育て、介護に関するサービスを充実する」が36.8%と最も高く、次いで「政策決定の場に、女性を積極的に登用する」(36.3%)、「労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する」(36.2%)の順となっている。

【性別】で比較すると、全体で第1位だった「子育て、介護に関するサービスを充実する」は女性が男性を10ポイント上回っている。女性の上位項目をみると、働き続けられる環境づくりが求められている傾向がうかがえる。



Ⅲ 調査結果（こども調査）

I 調査結果

【問1】男子と女子の係の役割について

クラスで、係の役割が女子の係・男子の係と決まっているものがありますか。

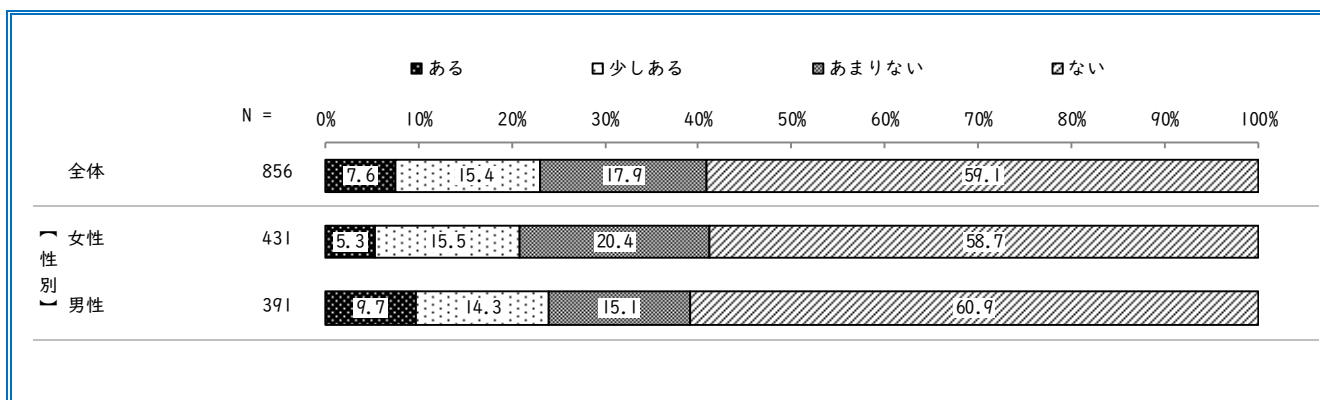
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別）

児童や生徒の23%が「性別で係の役割が決まっている」と認識している

全体では、「ない」が59.1%と最も高く、次いで「あまりない」(17.9%)、「少しある」(15.4%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『ある』(「ある」+「少しある」)を合わせた割合は、女性で20.8%、男性で24.0%となっています。



【問2-1】学校や家での男女の役割について

学校や家で「女（男）の子だから〇〇しなさい」などと言われることがありますか。

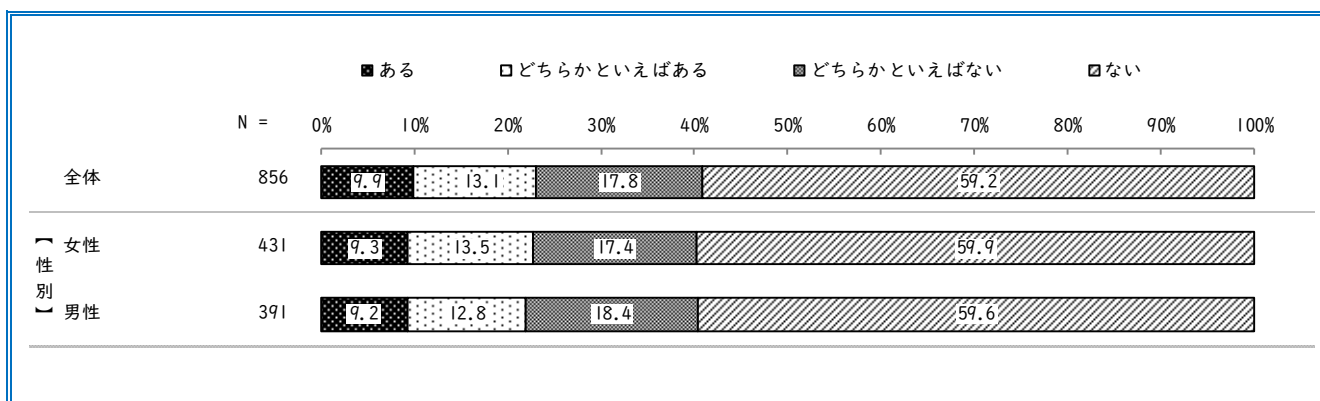
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

●項目比較（全体、性別）

児童や生徒の約2割が「女の子だから、男の子だから〇〇しなさい」と言われたことがある

全体では、「ない」が59.2%と最も高く、次いで「あまりない」(17.8%)、「少しある」(13.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『ある』(「ある」+「どちらかといえばある」)を合わせた割合は、女性で22.8%、男性で22.0%となっています。



※言われたことがある（「ある」＋「どちらかといえばある」）と回答した方

【問2-2】言われた人について

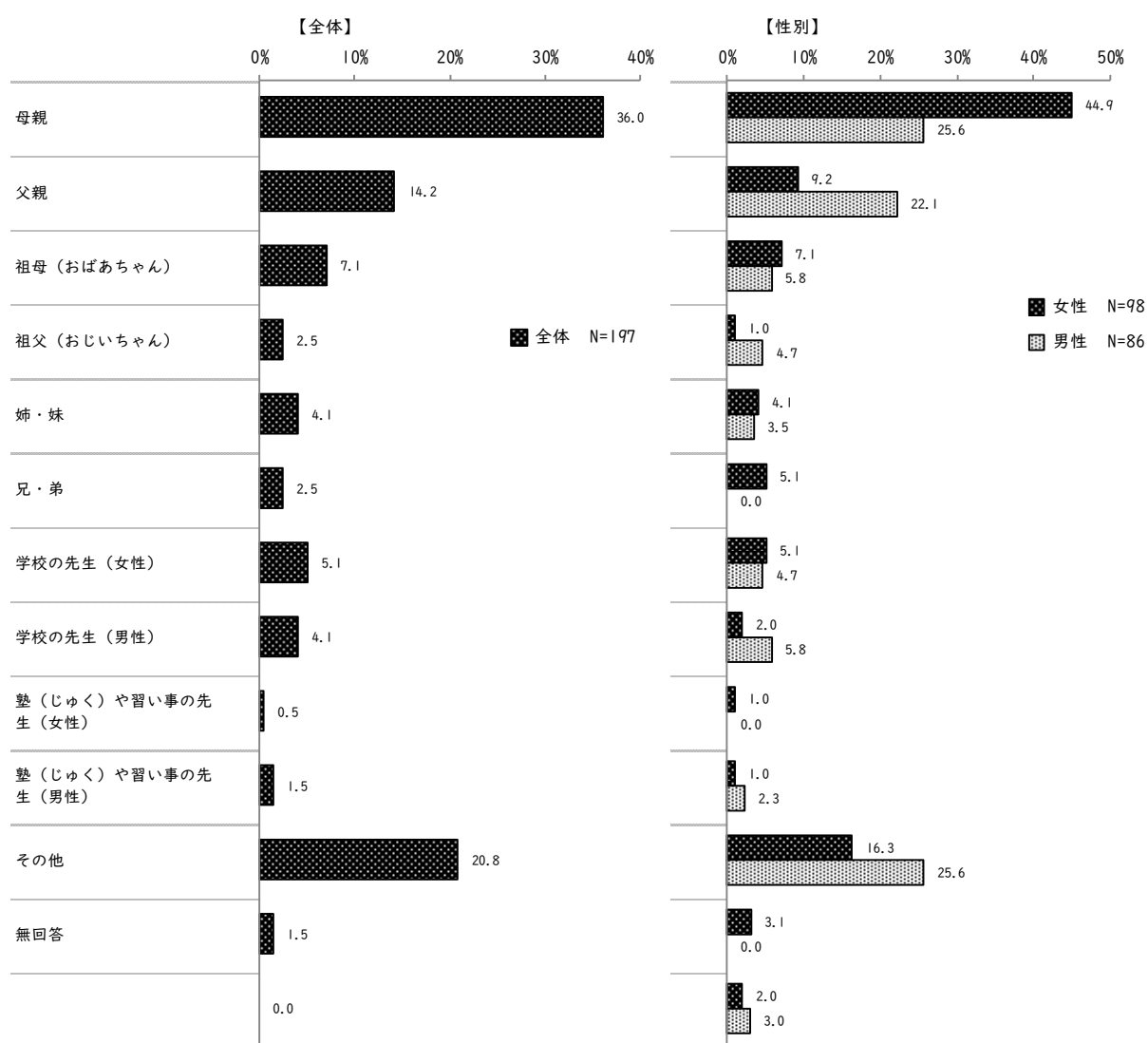
言われた人について。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

●項目比較（全体、性別）

女性 は 母親 に、男性 は 父親 に 言われる ことが 多い

全体では、「母親」が36.0%と最も高く、次いで「父親」（14.2%）、「祖母（おばあちゃん）」（7.1%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「母親」と答えた人は、女性が男性を19.3ポイント上回っている。一方で、「父親」と答えた人は、男性が女性を12.9ポイント上回っている。



【問3】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

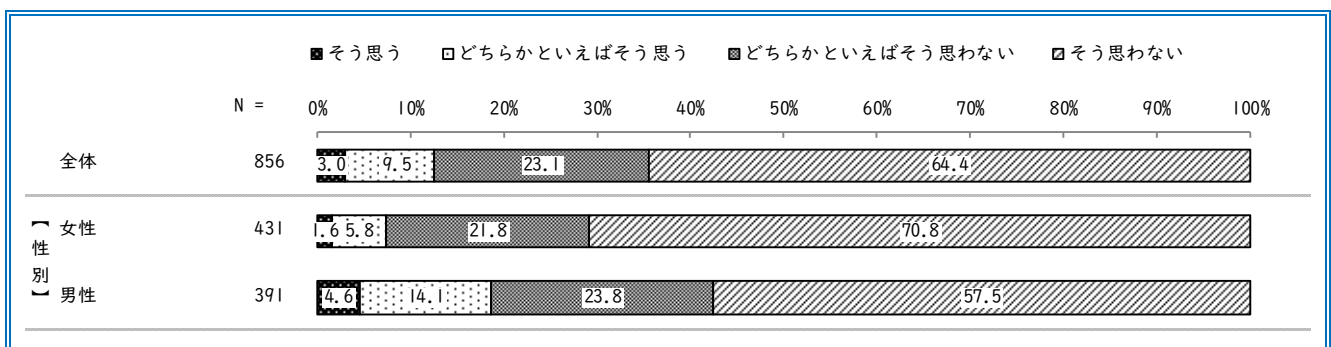
●項目比較（全体、性別）

『肯定的』（12.5%）＜『否定的』（87.5%）

男性の方が『肯定的』な割合が高い

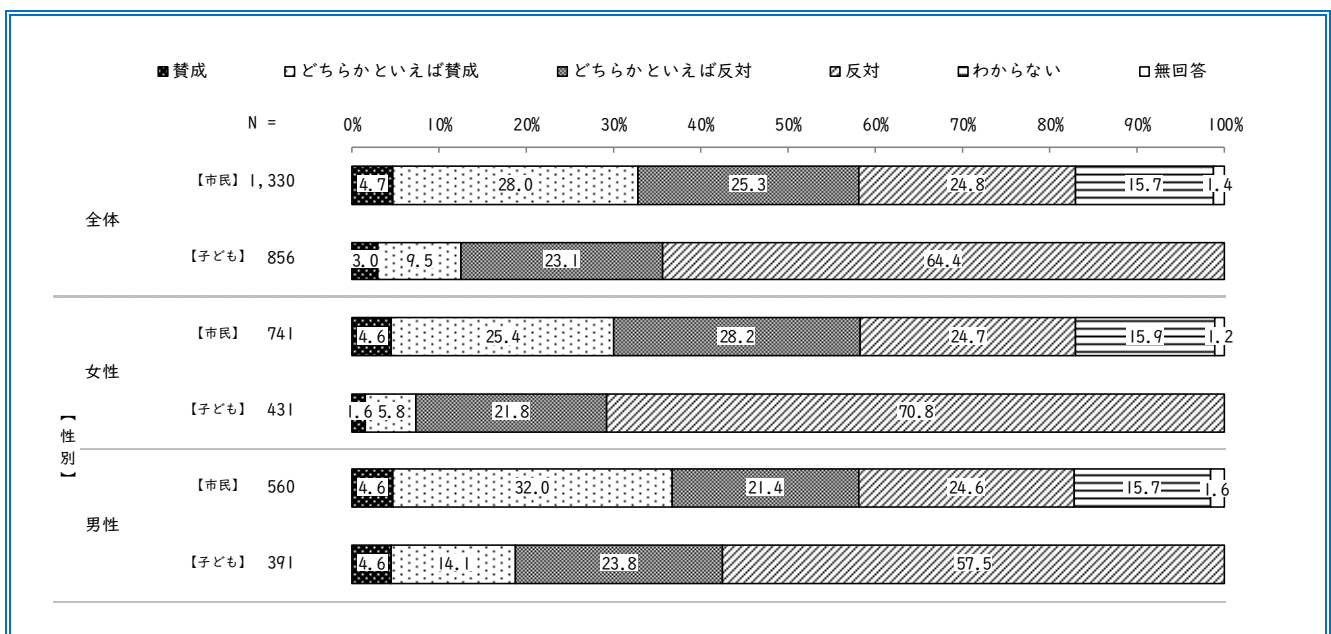
全体では、「そう思わない」が64.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」(23.1%)、「どちらかといえばそう思う」(9.5%)の順となっている。

【性別】で比較すると、『肯定的』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）を合わせた割合は、女性で7.4%、男性で18.7%となっています。



●項目比較（市民調査との比較）

【性別】で比較すると、『肯定的』な割合は、子どもの女性で7.4%、男性で18.7%となっている。市民調査と同様に「男は仕事、女は家庭」といった性別による役割分担意識は女性に比べ男性に強く見られる。



『肯定的』：「賛成」・「どちらかといえば賛成」と答えた人、『否定的』：「反対」・「どちらかといえば反対」と答えた人

※子どもアンケートでは「わからない」の選択肢はなし

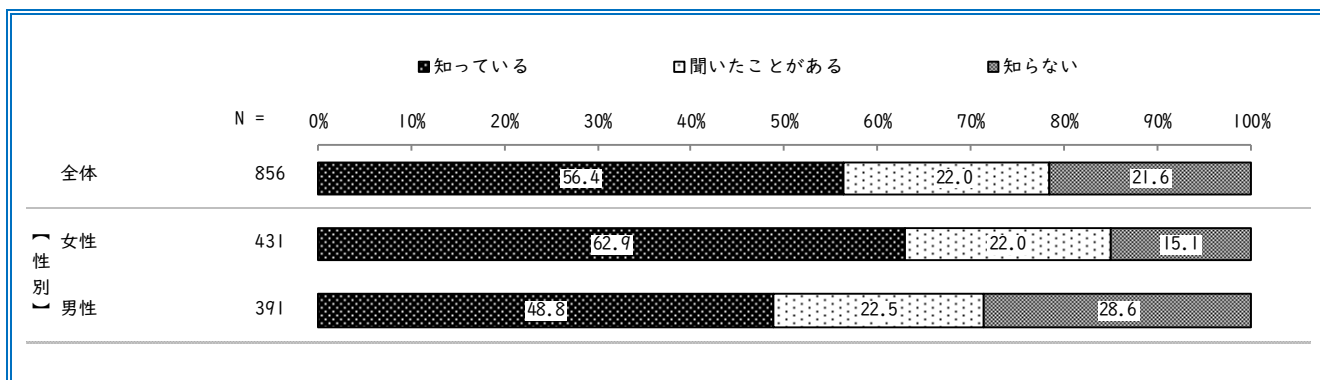
【問4】男女共同参画に関する言葉の認知度

問4-1 ①ジェンダー

「知っている」割合が56.4%

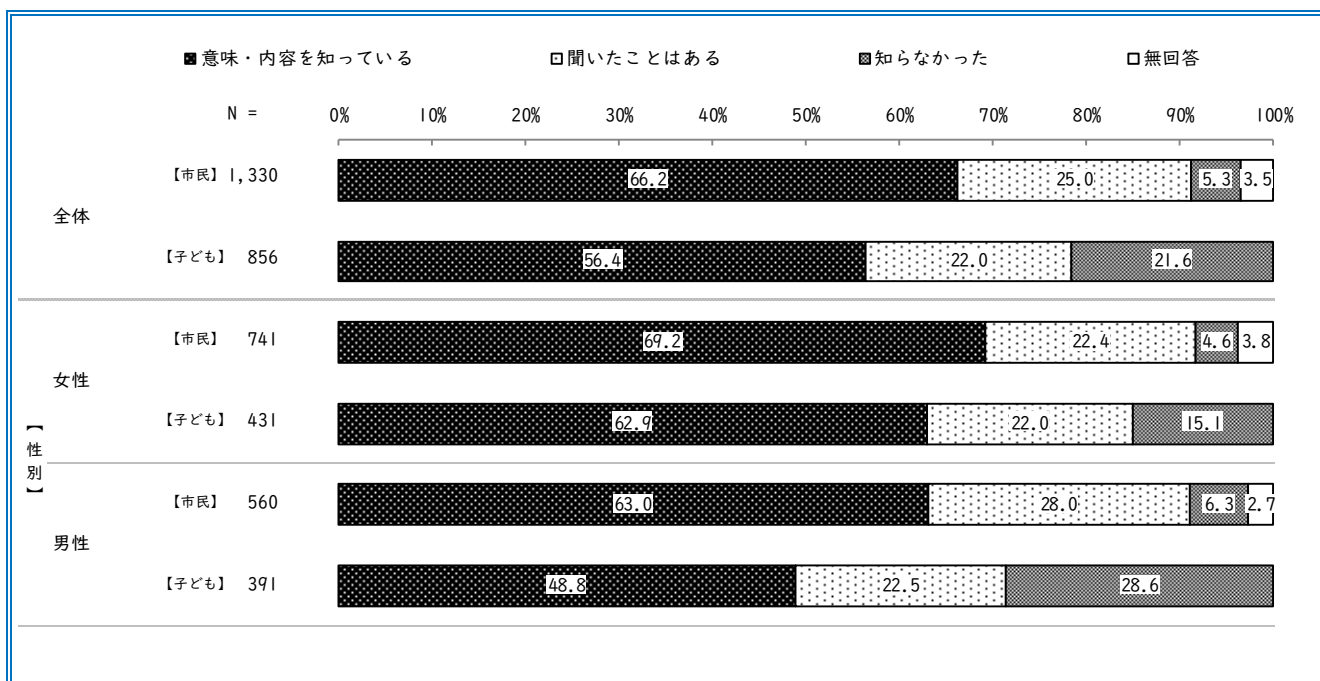
全体では、「知っている」が56.4%と最も高く、次いで「聞いたことがある」(22.0%)、「知らない」(21.6%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「知っている」と答えた人は、女性で62.9%、男性で45.8%となっている。



●項目比較（市民調査との比較）

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、子どもの女性では62.9%と市民調査(69.2%)と同様に6割を超えている。一方で、子どもの男性では48.8%と5割に達していない。

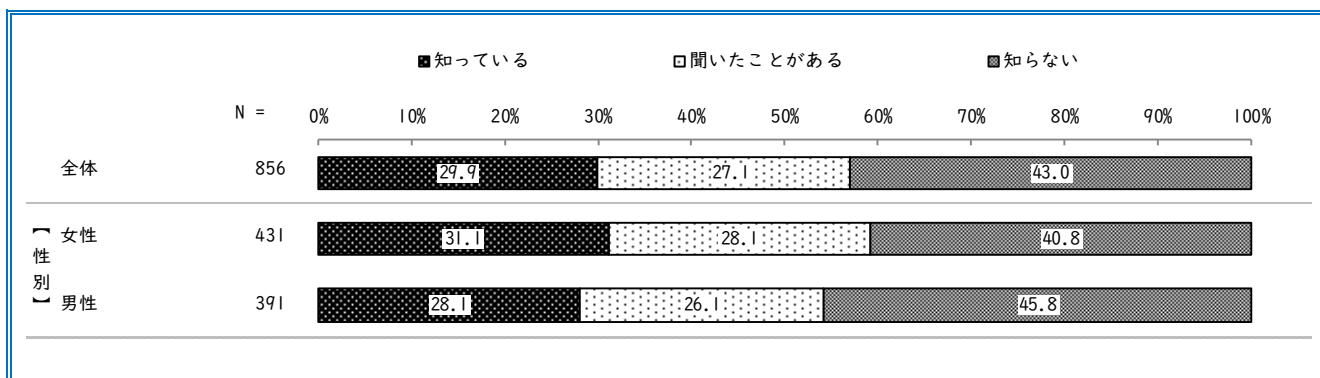


問4-2 ②男女共同参画社会

「知っている」割合が29.9%

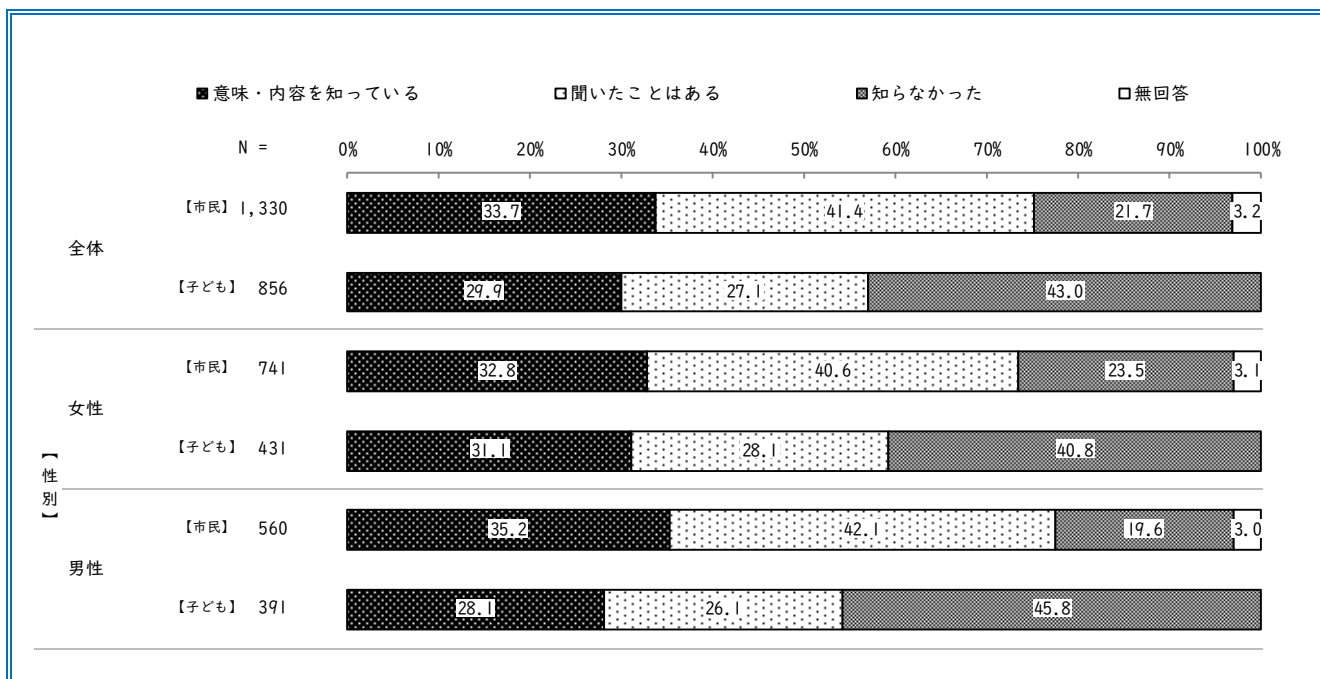
全体では、「知らない」が43.0%と最も高く、次いで「知っている」(29.9%)、「聞いたことがある」(27.1%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「知っている」と答えた人は、女性で31.1%、男性で28.1%となっている。



●項目比較（市民調査との比較）

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、女性では31.1%と市民調査(32.8%)と同程度となっている。一方で、子どもの男性では28.1%と子どもの女性や市民調査(35.2%)と比べて認知度は低くなっている。

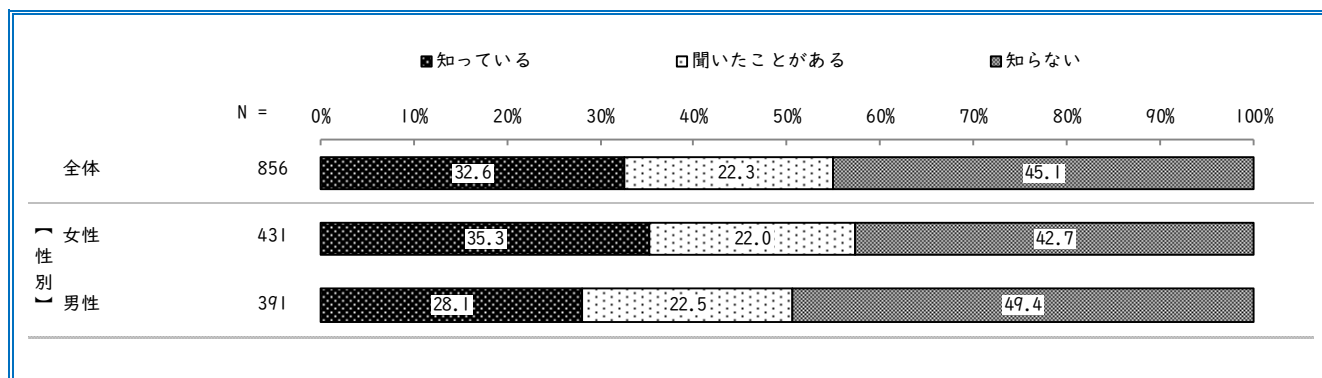


問4-3 ③DV（ドメスティック・バイオレンス）

「知っている」割合が32.6%

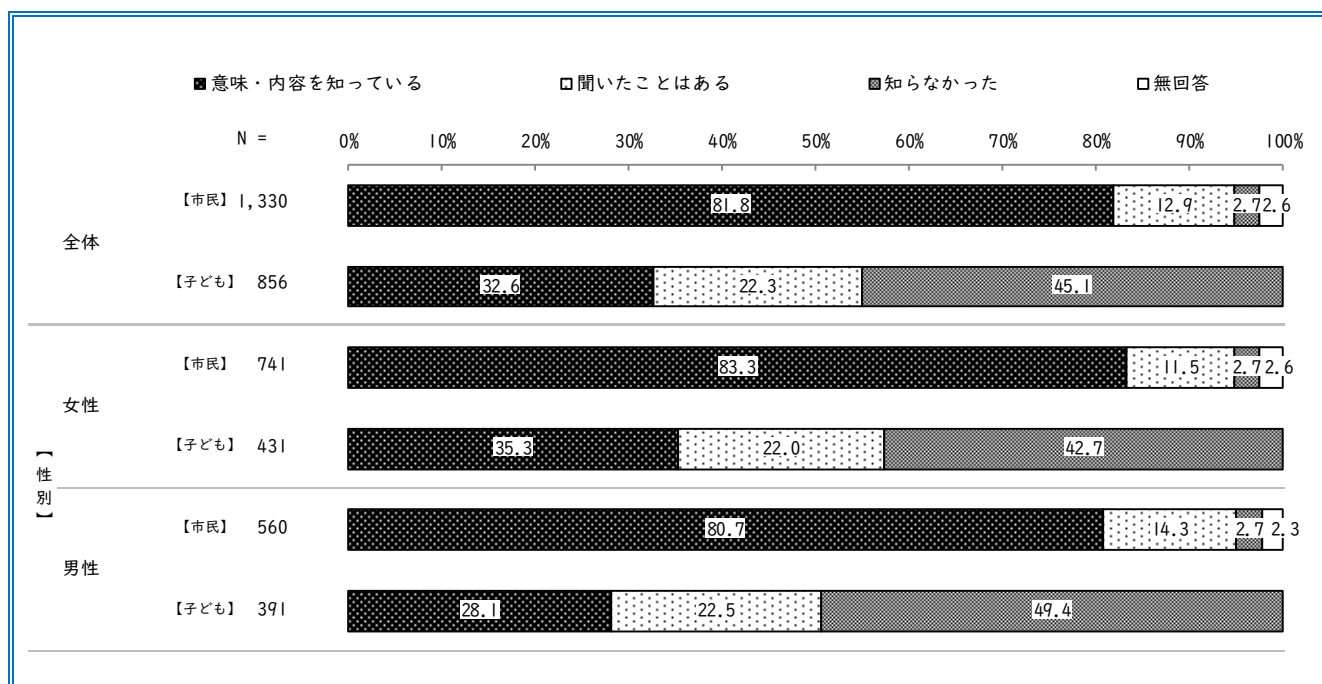
全体では、「知らない」が45.1%と最も高く、次いで「知っている」（32.6%）、「聞いたことがある」（22.3%）の順となっている。

【性別】で比較すると、「知っている」と答えた人は、女性で35.3%、男性で28.1%となっている。



●項目比較（市民調査との比較）

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、**子どもの女性で35.3%、子どもの男性で28.1%**と**市民調査**の認知度に比べて低くなっている。

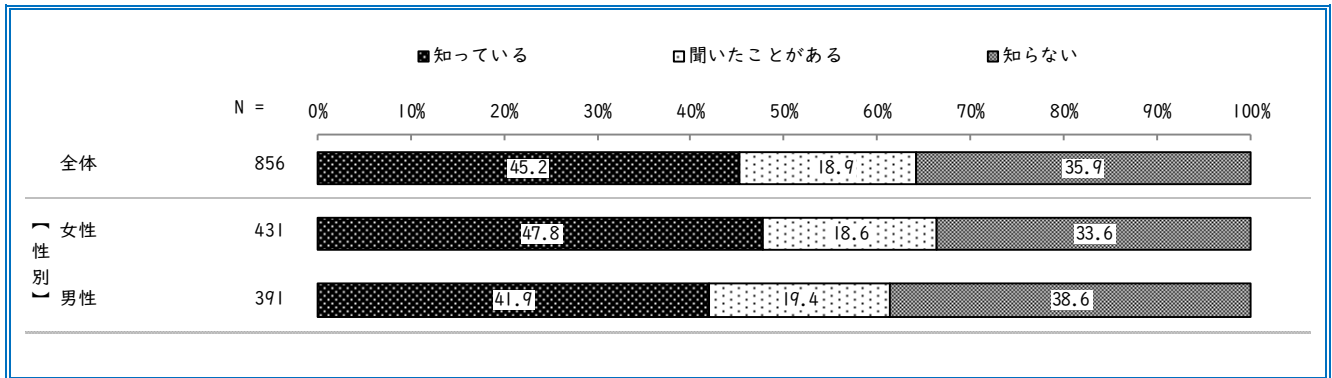


問4-4 ④LGBT

「知っている」割合が45.2%

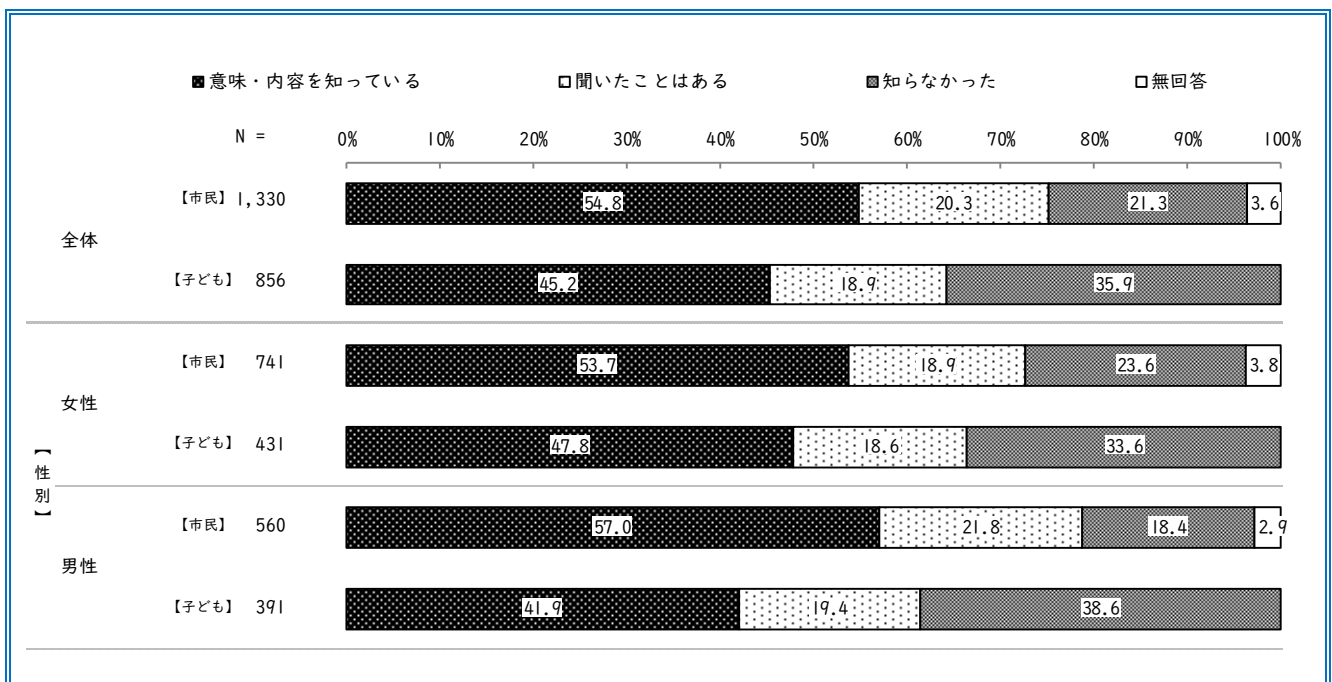
全体では、「知っている」が45.2%と最も高く、次いで「知らない」(35.9%)、「聞いたことがある」(18.9%)の順となっている。

【性別】で比較すると、「知っている」と答えた人は、女性で47.8%、男性で41.9%となっている。



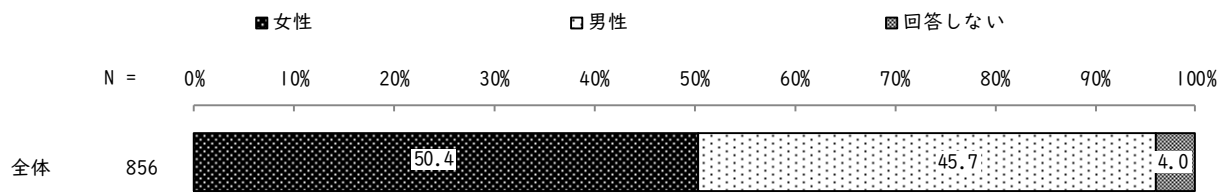
●項目比較（市民調査との比較）

【性別】で比較すると、「意味・内容を知っている」と答えた人は、**子どもの女性**で47.8%、**子どもの男性**で41.9%と**市民調査**の認知度に比べてやや低くなっている。



2 回答者の属性

◆ 性別



(資料) アンケート調査票

男女平等に関する市民意識調査にご協力ください

この調査は、男女平等の推進に関して、市内にお住まいの皆様の意識や実態を把握し、第3次日進市男女平等推進プラン中間見直しの基礎資料とするために実施いたします。

調査対象者は本市在住の満18歳以上の方の中から無作為に抽出した男女各1,500人とさせていただきます。

本市の男女平等を推進するため、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和6年11月 日進市長 近藤裕貴

回答にあたってのお願い

- 回答は無記名です。ご回答いただいた内容については、統計的集計・分析を行い、調査目的以外には一切使用しません。また、ご回答内容や個人情報を個別に公表するようなことは一切行いません。
- 調査票の宛名のご本人のお考えでお答えください。
ご本人の記入・入力が難しい場合は、ご本人と相談の上、代理の方がご記入・入力ください。
- 回答にあたっては、自分の考えに最も近い番号に○をつけてお答えください。
- 選択肢「その他」を選ばれた場合は（ ）内に具体的な内容をご回答ください。

回答期限 令和6年12月18日（水）

回答方法①、②のいずれかでご回答ください。

〈回答方法① 郵送での回答の場合〉

- ・ 回答後の調査票を同封の返信用封筒に入れて、

回答期限までに郵便ポストに投函してください（切手不要）。

〈回答方法② Webでの回答の場合〉

- ・ この調査はパソコンやスマートフォンでも回答することができます。
- ・ URLまたは二次元コードからWebページにアクセスしてください。
- ・ 下記IDとパスワードを入力し、回答期限までにご回答ください。

URL: <https://sicwebcasnet/fom/pub/sic/23230d>

ID		パスワード	
----	--	-------	--

※IDとパスワードは、Webページにログインするために必要なものであり、個人を特定するものではありません。

※郵送とWebで重複回答があった場合は、Web回答を優先させていただきます。



本調査について、ご不明な点がございましたら、以下へお問い合わせください。

日進市 生活安全部 市民協働課 共生共同係

〒470-0192 日進市蟹甲町池下 268 番地

電話：0561-75-1682（ダイヤルイン）

FAX：0561-72-4603 Eメール：kyoudou@city.nisshin.lg.jp



結婚、家庭・地域生活に関する意識についておたずねします

問1 あなたの家庭では、次にあげる家事は主に女性、男性どちらが分担していますか。
(A～Gの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 いつも女性が担当	2 主に女性が担当し、 男性は手伝う程度	3 男女同じ程度に 担当し、協力しあう	4 主に男性が担当し、 女性は手伝う程度	5 いつも男性が担当	6 該当する人がいない
A 食事の支度	1	2	3	4	5	—
B 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	—
C 家計の管理	1	2	3	4	5	—
D 重要事項の方針決定	1	2	3	4	5	—
E 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
F 子どもの教育	1	2	3	4	5	6
G 介護（介護の必要な親の世話、 病人の介護など）	1	2	3	4	5	6

問2 あなたは、次にあげる結婚、夫婦などに関する考え方について、どう思いますか。
(A～Dの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 賛成	2 いどちらか えば賛成と	3 いどちらか えば反対と	4 反対	5 わからない
A 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5
B 結婚は個人の自由であるから、結婚しても しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
C 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
D 夫婦別姓が選択できる方がよい	1	2	3	4	5

問3 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。
 (＜①希望として＞＜②現実として＞について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。)

- ・仕事とは・・・・・・内職、雇用、自営業、農業などを示します。
- ・家庭生活とは・・・・家事、育児、介護などを示します。
- ・地域・個人の生活とは・・自治会、ボランティア活動、PTA、教養・趣味サークルなどを示します。

	1 「仕事」を優先	2 「家庭生活」を優先	3 「地域・個人の生活」を優先	4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先	5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	8 その他	9 わからない
①希望として	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②現実として	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問4 あなたは、男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を進めるためには、どのようにしていけばいいと思いますか。(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

- 1 男性による家事、子育て、介護、地域活動に対する抵抗感をなくす
- 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る
- 3 夫婦の役割分担などについての当事者の考え方をまわりが尊重する
- 4 男性による家事、子育て、介護、地域活動への社会的評価を高める
- 5 働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 6 男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考え方を改める
- 7 家事・子育て・介護に関する講座や情報提供、ネットワークづくりなどの支援を行う
- 8 子どもの頃から、男女の区別なく家庭生活や地域活動を行う必要性を教える
- 9 その他(具体的に：)

問5 あなたが、平日に家事・育児・介護などにかかわる平均的な時間はどのくらいですか。
 (あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 30分未満	2 30分～1時間未満
3 1時間～3時間未満	4 3時間～5時間未満
5 5時間以上	6 まったくかかわっていない

問6 地域において、男女双方にとって安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが重要だと思いますか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

- 1 男女双方の視点を活かした防災マニュアルの作成
- 2 市の防災会議、災害対策本部など、方針決定の場での女性の積極的な登用
- 3 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
- 4 避難所の運営組織など、防災の現場への女性の参画
- 5 防災や災害現場で活動する女性の育成
- 6 自治会等で責任ある立場に就くなど、地域活動における意思決定の場への女性の参画
- 7 その他（具体的に： ）
- 8 必要な取り組みは特にない

社会参加・参画についておたずねします

問7 女性が就業することについて、あなたの考え方は次のどれに近いですか。
(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- 1 結婚・出産にかかわらず、ずっと就業するのがよい
- 2 結婚するまでは就業するのがよい
- 3 子どもができるまでは、就業するのがよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び就業するのがよい
- 5 就業しない方がよい
- 6 その他（具体的に： ）

現在、就業している方にお聞きします。 現在、就業していない方は問10へ

問8 あなたが就業するのは、なぜですか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

- 1 生計の維持のため
- 2 経済的なゆとりを得るため
- 3 自分の能力を生かすため
- 4 社会に貢献するため
- 5 社会や人とのかかわりを持つため
- 6 働くことが生きがいであるため
- 7 自由時間の活用のため
- 8 家業のため
- 9 経済的な自立のため
- 10 その他（具体的に：

現在、就業している方にお聞きます。

問 9 あなたの職場では、次のようなことはありますか。

(A～Lの項目ごとにあてはまる方に○をつけてください。)

A 賃金に男女差がある	1 はい	2 いいえ
B 昇給、昇格に男女差がある	1 はい	2 いいえ
C 男性の能力を正當に評価しない	1 はい	2 いいえ
D 女性の能力を正當に評価しない	1 はい	2 いいえ
E お茶汲みや雑用は女性がする慣例がある	1 はい	2 いいえ
F 育児休業を取得できない、または取得しにくい	1 はい	2 いいえ
G 結婚や出産すると勤め続けにくい雰囲気がある	1 はい	2 いいえ
H 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	1 はい	2 いいえ
I 希望職種につく機会に男女差がある	1 はい	2 いいえ
J 教育・研修を受ける機会に男女差がある	1 はい	2 いいえ
K 男性と女性で違いはない	1 はい	2 いいえ
L その他 (具体的に：)		

すべての方にお聞きます。

問 10 あなたは、これまで(現在を含む)働きたかったけれど、働くことができなかったことがありますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 はい	→ 問 11へ	2 いいえ	→ 問 12へ
---	---------	-------	---------

問 10で「1 はい」を選んだ方にお聞きます。

問 11 働きたかったけれど働くことができなかったのは、なぜですか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 就業や家事分担に対する配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった
2 育児で預けられる施設(託児所や保育園)やサービスが不十分だった
3 育児で配偶者・パートナーや家族の理解と協力が得られなかった
4 家族の介護や看護の必要があった
5 結婚や育児に対する会社の理解や制度が不足していた
6 健康上の問題
7 リストラ・定年
8 その他(具体的に：)

現在、就業している方及び以前就業していた方にお聞きします。

(今まで就業経験のない方は問14へ)

問12 あなたは、職場で以下のような制度を使って休業や休暇を取ったことがありますか。

(A～Eの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 取 っ た こ と が あ る	2 取 り た か っ た が 取 る こ と が で き な か っ た	3 取 る 希 望 は な く、 取 ら な か っ た	4 制 度 が あ る こ と を 知 ら な か っ た	5 法 制 度 が 整 備 さ れ て い な か っ た	6 取 る 必 要 が な か っ た ／ 該 当 し な い
A 育児休業制度 (育児のために一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	6
B 産後パパ育休制度 (男性従業員が子の出生日から8週間 までに最大4週間休業できる制度)	1	2	3	4	5	6
C 子の看護休暇制度 (病気やけがをした子どもを看護 するための年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5	6
D 介護休業制度 (介護のために、一定期間休業できる制度)	1	2	3	4	5	6
E 介護休暇制度 (短期の介護のための年5日程度の休暇)	1	2	3	4	5	6

※産後パパ育休制度は、男性の育児参加を促すことを主な目的として創設されました。従来の育児休業制度とは別の制度であり、産後パパ育休制度が子の出生後8週間以内(2回に分割可能)の取得であるのに対して、育児休業制度は原則として子が1歳(最長2歳)になるまで取得できます。

問12のA～Eのいずれかの項目で、「2 取りたかったが取ることができなかった」又は「3 取る希望はなく、取らなかった」を選んだ方にお聞きします。

それ以外の選択肢を選んだ方は問14へ

問13 あなたが、育児・介護休業などの制度を使って休業や休暇を取らなかったのは、
なぜですか。(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

1 仕事量や責任が大きく、同僚に迷惑をかける	
2 これまでに同じ職場で取得した例がない	
3 職場で取得しにくい雰囲気がある	
4 経済的に苦しくなる	
5 家族の理解が得られない	
6 女性(男性)が取得したほうが適任だと思う	
7 昇進や昇給に影響がある	
8 取得後の職場復帰への不安がある	
9 気持ち的に(恥ずかしい、プライドが邪魔するなど)	
10 その他(具体的に：)	

子どもの教育についておたずねします

問14 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という子どもの育て方について、あなたはどのように考えますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

- | |
|----------------------------|
| 1 男の子、女の子と区別せず、育てた方がよい |
| 2 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい |
| 3 どちらともいえない |

問15 あなたは、これからの子どもに対し、どのようなことを身につけてほしいと思いますか。（＜女の子の場合＞＜男の子の場合＞について、それぞれあてはまる番号3つまで○をつけてください。男女同じ番号を選んでも構いません。）

＜女の子の場合＞

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1 社会性・積極性 | 2 決断力・行動力 | 3 教養・知性 |
| 4 優しさ・思いやり | 5 豊かな感性 | 6 礼儀・道徳心 |
| 7 自立心・独立心 | 8 経済力 | 9 明るさ・素直さ |
| 10 国際感覚 | 11 責任感 | 12 学歴 |

＜男の子の場合＞

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1 社会性・積極性 | 2 決断力・行動力 | 3 教養・知性 |
| 4 優しさ・思いやり | 5 豊かな感性 | 6 礼儀・道徳心 |
| 7 自立心・独立心 | 8 経済力 | 9 明るさ・素直さ |
| 10 国際感覚 | 11 責任感 | 12 学歴 |

問16 あなたは、男女に関わりなくお互いを尊重しあえる子どもを育てるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。（あてはまる番号3つまで○をつけてください。）

- | |
|---|
| 1 生活指導や進路指導で配慮する（男女の区別なく、個性や能力重視の指導） |
| 2 関連授業を充実させる（人権尊重、自尊意識、男女のコミュニケーションなどの授業） |
| 3 性別による固定的な習慣をなくす（出席簿の順番、持ち物の色、役職の長と副など） |
| 4 男の子・女の子とも家庭学習の拡大を図る（家事、子育て、介護などの学習） |
| 5 性について学び、尊重する意識を高める |
| 6 教員や保護者の研修を進める（男女平等、人権などの研修） |
| 7 家庭及び地域社会との連携を密にとる |
| 8 その他（具体的に： _____） |

男女平等・人権意識についておたずねします

問17 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(A～Hの項目ごとに、あてはまる番号1つに○をつけてください。)

	1 男性の方が 非常に優遇されている	2 どちらかといえば男性の 方が優遇されている	3 平等	4 どちらかといえば女性の 方が優遇されている	5 女性の方が 非常に優遇されている	6 わからない
A 社会全体として	1	2	3	4	5	6
B 家庭生活	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 職場	1	2	3	4	5	6
E 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
G 政治の場	1	2	3	4	5	6
H 社会慣習やしきたり	1	2	3	4	5	6

問18 あなたは、セクシュアル・ハラスメント^{*1}やパワー・ハラスメント^{*2}について、次のような経験はありますか。(項目ごとに、あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

	自分が直接被害を 受けたことがある	知り合いの女性が 被害を受けていた	知り合いの男性が 被害を受けていた	自分も含め、周りでは 被害を受けた人はいない	わからない
セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4	5
パワー・ハラスメント	1	2	3	4	5

*1 セクシュアル・ハラスメントとは
意に反した性的言動(いやがらせ)を行い、相手を不快にすることをいいます。

*2 パワー・ハラスメントとは
上下関係や権利関係を不当に利用することによる人権侵害にあたるような執拗ないじめや嫌がらせをいいます。

問 19 あなたは配偶者や恋人に A～L の行為をされたことがありますか。
(それぞれ A～L の項目ごとに、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

	1 何 度 も あ る	2 1、 2 度 あ る	3 全 く な い
A 医師の治療が必要となるくらいの暴行を受ける	1	2	3
B 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受ける	1	2	3
C 殴るふりや刃物を突きつけられるなどして脅される	1	2	3
D 大声で怒鳴られる	1	2	3
E 命令するような口調でものを言われたりバカにされたりする	1	2	3
F 何を言っても長期間、無視し続けられる	1	2	3
G 生活費を渡されなかったり、使い道を細かく監視されたりする	1	2	3
H 嫌がっているのに、性的な行為を強要される	1	2	3
I 避妊に協力しない	1	2	3
J 電話やメールを細かくチェックされる	1	2	3
K 親族や友人との付き合いを禁止される	1	2	3
L その他（具体的に： ）	1	2	—

問 19 の A～L のいずれかの項目で、「1 何度もある」又は「2 1、2 度ある」を選んだ方にお聞きします。すべての選択肢について「3 全くない」を選んだ方は問 22 へ

問 20 配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

1 親や親戚などの身内	2 友人・知人	3 役所の窓口
4 警察	5 法務局	6 弁護士
7 医師	8 女性相談支援センター（旧：婦人相談所）・相談員	
9 その他（具体的に： ）		
10 誰にも相談しなかった	→ 問 21 へ	

問 20 で「10 誰にも相談しなかった」を選んだ方にお聞きします。

その他の選択肢（1～9）を選んだ方は問 22 へ

問 21 誰にも相談しなかったのは、なぜですか。
(あてはまる番号すべてに○をつけてください。)

1 誰に相談していいのかわからなかった	2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3 相談しても無駄だと思った	4 相談が分かったと仕返しされると思った
5 自分さえ我慢すればいいと思った	6 世間体が悪いと思った
7 他人を巻き込みたくなかった	8 そのことを思い出したくなかった
9 自分にも悪いところがあると思った	10 相談するほどのことでもないと思った
11 その他（具体的に： ）	

すべての方にお聞きします。

問 2 2 あなたは配偶者や恋人からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 1 | 愛知県女性相談支援センター（愛知県配偶者暴力相談支援センター） | |
| 2 | 警察（生活安全課など） | |
| 3 | 市役所（市民協働課、家庭児童相談室、地域福祉課など） | |
| 4 | 裁判所 | |
| 5 | 人権擁護委員（法務局） | |
| 6 | 医療機関（医師、看護師） | |
| 7 | 学校関係者（教員・養護教諭・スクールカウンセラー） | |
| 8 | 民生委員・児童委員 | |
| 9 | 民間の機関（弁護士会、民間シェルター） | |
| 10 | その他（具体的に： | ） |
| 11 | 相談できる窓口として知っているものはない | |

問 2 3 令和6年4月に、貧困や性暴力などに直面する女性の自立に向けて公的支援を強化していくものとして「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されました。この法律と関連して、あなたは生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻などの女性が抱える困難な問題について、相談できる窓口として、どのようなものを知っていますか。（あてはまる番号すべてに○をつけてください。）

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 1 | 愛知県女性相談支援センター（愛知県配偶者暴力相談支援センター） | |
| 2 | 警察（生活安全課など） | |
| 3 | 市役所（市民協働課、家庭児童相談室、地域福祉課など） | |
| 4 | 社会福祉協議会 | |
| 5 | 人権擁護委員（法務局） | |
| 6 | 学校関係者（学生相談窓口・教員・養護教諭・スクールカウンセラー） | |
| 7 | 民生委員・児童委員 | |
| 8 | 民間支援団体 | |
| 9 | その他（具体的に： | ） |
| 10 | 相談できる窓口として知っているものはない | |

問24 貧困やDV、性暴力などに直面する人の自立に向けた公的支援について、あなたが特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。
(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

- 1 多種多様な問題に関する相談窓口の周知
- 2 相談窓口間の連携など、分野横断的な仕組みづくり
- 3 SNS などによる気軽に相談できる仕組みづくり
- 4 専門的に支援できる女性(男性)相談員の配置
- 5 弁護士や心理専門職等との連携の強化
- 6 相談を待つのではなく、訪問するなどして支援を届ける仕組みづくり(アウトリーチ)
- 7 一時保護など、緊急時に対応できる体制づくり
- 8 民間団体との連携・民間団体への支援
- 9 支援等に関する市民理解の促進
- 10 同じ困難を抱える人同士の居場所やつながりづくり
- 11 その他(具体的に:)
- 12 特に必要ない

問25 現在、性的マイノリティ(性的少数者)の人たちにとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

- 1 思う
- 2 どちらかといえば思う
- 3 どちらかといえば思わない
- 4 思わない

問26 性的マイノリティ(性的少数者)の人たちの困難を解決して暮らしやすい社会にするために、あなたが特に市で取り組む必要があると思うものを教えてください。
(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

- 1 市民に対する啓発を進める
- 2 学校や保育園・幼稚園での教育を充実する
- 3 相談体制を充実する
- 4 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の周知や利用促進をする
- 5 市職員や教職員に対する研修を実施する
- 6 その他(具体的に:)
- 7 特に必要ない

男女共同参画等に関する用語についておたずねします

問 27 あなたは、次にあげる言葉を知っていますか。

(A～Mの項目ごとに、あてはまる番号 1 つに○をつけてください。)

	1 意味・内容を 知っている	2 聞いたこと はある	3 知らなかった
A 男女共同参画社会	1	2	3
B ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3
C ジェンダー (社会的性別)	1	2	3
D ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3
E 女子差別撤廃条約	1	2	3
F 男女雇用機会均等法	1	2	3
G ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3
H デートDV	1	2	3
I リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3
J 地域共生社会	1	2	3
K L G B T	1	2	3
L S O G I (ソジ)	1	2	3
M 日進市パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度	1	2	3

問 28 あなたは、「性」に関する以下の言葉の内容について知っていますか。

(あてはまる番号 すべて に○をつけてください。)

1 正しい避妊の方法
2 出産適齢期と不妊
3 安全な妊娠・出産
4 妊娠中の体調不良
5 更年期特有の体調不良
6 産後うつ
7 世界のH I V (エイズ) 感染に関すること
8 世界の女性の低年齢出産に関すること
9 どれもよく知らない

行政の取り組みについておたずねします

問 29 あなたは、女性の意見が、市政に反映されていると思いますか。

(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 十分に反映されている	2 ある程度反映されている
3 あまり反映されていない	4 反映されていない → 問30へ
5 わからない	

問 29で「3 あまり反映されていない」又は「4 反映されていない」を選んだ方にお聞きします。

その他の選択肢(1、2、5)を選んだ方は問31へ

問 30 反映されていないと思うのは、なぜですか。(あてはまる番号1つに○をつけてください。)

1 市議会や行政などの政策・方針決定の場に女性が少ないから
2 町内会や自治会などの地域組織の役員に女性が少ないから
3 女性の意見や考え方に対して、行政側の関心が薄いから
4 女性からの働きかけが十分でないから
5 女性自身の関心や意識が薄いから
6 わからない
7 その他(具体的に:)

すべての方にお聞きします。

問 31 あなたは、男女平等な社会を推進していくために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまる番号3つまで○をつけてください。)

1 法律・制度の面で見直しを行う
2 政策決定の場に、女性を積極的に登用する
3 行政や企業などの重要なポストに一定の割合で女性を登用する制度の導入を図る
4 職場における男女の均等な取扱いを行うよう企業などに働きかける
5 労働時間の短縮など、男女がともに多様な生き方を選択できる環境を整備する
6 リーダーとなる女性の人材を育成する
7 女性の再就職支援など、女性の就労拡大を図る
8 子育て、介護に関するサービスを充実する
9 学校や生涯学習などの場での関連学習を充実する
10 男女の様々な活動を支援したり、相談したりすることができる拠点を整備する
11 広報誌やパンフレットなどで、広く啓発を行う
12 心と体の健康管理支援や母性の保護、母子保健の充実を図る
13 各国の男女平等に関する取り組みなどの情報提供や、国際理解を推進する
14 その他(具体的に:)
15 特にない
16 わからない

あなた自身のことについておたずねします

F 1 【性別】（あなたご自身の認識に最も近い番号 1 つに○をつけてください。）

1 女性	2 男性	3 その他
------	------	-------

※戸籍上区分とは別に、ご自身の主観でご記入ください。

F 2 【年齢】（令和6年4月1日現在）（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

1 18～19歳	2 20～29歳	3 30～39歳	4 40～49歳	5 50～59歳	6 60～69歳	7 70歳以上
----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------

F 3 【職業】（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

（出産休暇・育児休業中の方も働いているものとみなしてください。）

（2つ以上仕事をお持ちの方は、主なものをご記入ください。）

自営業主	1 農林漁業 2 商工サービス業 3 自由業
自営業の 家族従業者	4 農林漁業 5 商工サービス業 6 自由業
雇用者	7 管理職・会社役員 8 専門技術職 9 事務職 10 労務職
無職	11 主婦・主夫 12 学生 13 その他

※雇用者の方は、
雇用形態もご記入ください。

- 1 常勤（フルタイム）
2 非常勤（パート、アルバイトなど）

F 4 あなたは、現在、配偶者（パートナー）がいますか。

（あてはまる番号 1 つに○をつけてください。）

1 いる → F 5 へ	
2 いない → F 6 へ	

F5 あなたと配偶者（パートナー）の一週間における就労時間をご回答ください。
（あてはまる番号1つにそれぞれ○をつけてください。）

＜配偶者（パートナー）＞

1 週35時間以上	1 週35時間以上
2 週20時間以上35時間未満	2 週20時間以上35時間未満
3 週4時間以上20時間未満	3 週4時間以上20時間未満
4 週4時間未満（就労していない人を含む）	4 週4時間未満（就労していない人を含む）
5 その他（ ）	5 その他（ ）

F 6 あなたのご家庭は、次のどれにあたりますか。（あてはまる番号1つに○をつけてください。）

1	単身世帯（1人）
2	一世代世帯（夫婦のみ）
3	二世帯世帯（親と子ども）
4	三世帯世帯（親と子どもと孫）
5	その他（ ）

男女平等・共同参画に関して、日頃感じていること、思っていることなど何でもご記入ください。

[illegible]

設問は以上です。数多くの設問へのご回答にご協力いただき、ありがとうございました。
よろしければ、市ホームページに掲載しております用語解説もご一読ください。⇒ [回答](#)



記入済みの調査票を同封の返信用封筒にて、12月18日（水）までに
郵便ポストへ投函してください。

こども男女アンケート

- 質問1** あなたの学校・クラスでは、係の仕事の担当が、女子の係・男子の係と決まっているものはありますか。
- 質問2** あなたは学校や家などで、「女の子だから〇〇しなさい」「女の子のくせに」「男の子だから〇〇しなさい」「男の子のくせに」と言われることはありますか。
そのような内容は、だれから言われましたか。
- 質問3** 「夫は外で働き、妻（つま）は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。
- 質問4** あなたは次の言葉について、知っていますか。
ジェンダー・男女共同参画社会・DV（ドメスティック・バイオレンス）・LGBT
- 質問5** あなたは将来（しょうらい）、どんな仕事につきたいですか。

アンケートの回答は2次元コードから



